

7. 財政金融

25

⑨

国立公文書館	
分類	内閣府 平成17年度
排架番号	4E
	34
	425



裏面白紙

財政金融

昭和25年

④3

見返資金
産業金融

(2)

裏面白紙

2

昭和25年度 第一回半期
 採助資金運営計画(第一次分) (表)

(単位:億円)

(経営安定本部)

事項	第一回半期	第二回至第四回半期	年間合計
収入	482.0	1099.3	1581.3
支出			
I 公共事業			
。電気通信事業	40.0	50.0	120.0
日本国有鉄道	12.0	28.0	40.0
国営林野事業	2.0	23.0	30.0
※ 任意基金拠出	16.0	85.0	100.0
	52.0	131.0	183.0
	74.0	216.0	290.0
II 私企業及経済再建			
電力	40.0	117.9	157.9
運送	19.0	54.0	73.0
水産	13.0	23.0	36.0
鉄鋼	1.2	10.8	12.0
化学肥料	0.1	0	0.1
化学薬品	0.5	1.5	2.0
中小企業	3.0	9.0	12.0
小計	82.0	214.2	296.2
総合計	26.5	26.1	52.6
繰上	0.0	0.0	0.0
繰下	26.5	26.1	52.6
小計	26.5	26.1	52.6
合計	482.0	1099.3	1581.3

備考

- 二の財源は昭和25年度第一回半期の第一次分として作成したものであり、年商財源の繰戻は伴い、順次財源を通知するものがある。
- 二の財源は公益事業に計上されたもので、私企業はついでに前年度からの繰戻分を計上した。
- 二の財源中繰戻は年商財源の繰戻に伴い、公益事業、金融機関、その他公益事業指図書、債務償還基金に充当されたものがある。
- 昭和24年度申請分は、25年度に支出予定として計上したが、二の財源の繰戻中から支出予定のものを、
- 余裕金は必要に応じて大蔵省証券又は食糧証券をもつて一時戻有するものと見られる。

3/24 岡田 宗一

裏面白紙

産業設備資金調達状況

(昭和二十四年度)

昭和25年3月31日現在

資金局

裏面白紙

目 次

- 1 調達方法別、月別調達状況
- 2 業種別調達方法別調達状況
- 3 全金融機関設備資金貸出業種別内訳表
- 4 日本興業銀行設備資金貸出業種別内訳表
- 5 設備資金融資状況
- 6 社債発行状況
 - (1) 月別、便途別
 - (2) 業種別
- 7 株式発行状況
 - (1) 月別、便途別
 - (2) 業種別

(参考)

- 1 戦後工業生産総合指数の推移
昭和24年生産状況
昭和24年度主要物生産並びに滞貨状況

裏
面
白
紙

1 調査方法別、月別調査状況

(単位 百万円)

	貸 出 計			援助資金	社 債	株 式	合 計	調査総額に 対する比率
	一般金融機関	優 会						
4 月	846	(-) 177	669	-	306	3,151	4,126	
5 月	1,500	(-) 286	1,214	-	213	4,750	6,177	
6 月	2,805	(-) 159	2,646	-	203	2,877	6,226	
第一四半期	5,151	(-) 622	4,529	-	1,222	10,778	16,529	14.7%
7 月	2,208	(-) 438	1,770	-	1,086	2,368	5,224	
8 月	1,107	(-) 228	879	-	1,926	5,076	7,881	
9 月	3,082	(-) 18	3,064	170	1,538	4,904	9,676	
第二四半期	6,397	(-) 684	5,713	170	4,550	12,348	22,781	20.2%
10 月	2,069	(-) 519	1,550	0	2,292	7,384	11,226	
11 月	3,008	(-) 354	2,654	219	2,233	5,931	11,037	
12 月	5,167	(-) 933	4,234	5,019	1,246	1,613	12,117	
第三四半期	10,244	(-) 1,806	8,438	5,238	5,771	14,933	34,380	30.6%
1 月	1,467	(-) 430	1,037	1,837	3,671	3,087	9,633	
2 月	* 2,400	(-) 456	* 1,944	725	2,268	982	* 12,450	
3 月	* 3,000	* (-) 600	* 2,500	10,100	2,245	* 1,770	* 16,615	
第四四半期	* 6,867	(-) 1,386	5,481	19,103	8,184	5,839	38,697	34.4%
年間合計	28,659	(-) 4,498	24,161	24,003	19,727	43,898	112,389	100%
調査総額に 対する比率			21.5%	21.8%	17.7%	39.0%	100%	

備考 ① *印は推定である。

② 一般金融機関は銀行信託、金庫券であり貸出は附属又は証券を示す。

③ 社債には金融債を含んでいない。

④ 株式は証券取引委員会に対する届出金額によつた。

⑤ 社債株式は発行者の中経規に設備資金として投入された分と設備資金の旧償還済分を計上した。

(1)

裏面白紙

2 業種別調達方式別調達状況

(単位 百万円)

	貸出	援助資金	社債	株式	計	百分比	券
鉱業	2794	3258	1305	4935	12892	11.5%	
石油	1773	3258	10732				資本策定による昭和24年度整備計画
その他	1024						石油 炭 14,800
工業	11,362	2009	10,732	25,687	49,790	44.3%	石油 油 1,966
金属工業	1,975	1,417	1,299	1,241	5,932		石油 山銅 2,171
鉄鋼	1,723	1,417					鉄鋼 鋼 6,491
機械器具	1,747	0	2,998	7,425	12,170		非鉄金属 40
造船	376	0					機械 2,158
化学工業	1,485	0	270	620	2,395		繊維 1,291
肥料	481	592	3,779	8,496	17,718		染料 1,298
繊維工業	445	284					肥料 4,215
化学工業	613	0	2,386	5,011	8,010		化学工業 3,962
その他	25	0					化学工業 3,332
木材工業	236	0	0	226	462		織物 1,576
食品工業	529	0	0	2,154	2,683		電気 35,659
その他工業	27	0	0	493	520		電気 12,806
土木建築業	90	0	0	372	462	0.4%	海運 13,800
農林水産業	1,331	0	511	503	2,345	2.1%	海運 2,150
電気瓦斯業	1,729	10,093	5,229	1,319	18,370	16.3%	水 1,567
電気	806						計 109,142
交通業	5,060	8,342	1,943	3,880	19,225	17.1%	
海運	400	8,342					
陸	251	0	0	410.6	4857	4.3%	
その他	1,044	300	5	3,096	4,445	3.9%	
計	24,181	24,603	19,727	43,898	112,399	100.0%	

備考 ① 援助資金及び社債による調達は実数

② 貸出の第四四半期分は推定

裏面白紙

3 全金融機内設備資金貸出業種別内訳表

		第1.四半期	第2.四半期	第3.四半期	第4.四半期 (推定)	年間合計
鐵	業	103	1806	255	630	2794
石	炭	(-) 122	1,574	(-) 79	400	1,773
才	他	225	232	33.7	230	1,024
工	業	3,177	2,179	424.7	1,759	11,362
金	業	610	297	546	422	1,875
鐵	業	623	249	412	389	1,723
機	業	218	377	758	394	1,747
造	業	21	117	228	10	376
炭	業	52	279	820	334	1,485
化	業	899	1,301	2,051	600	4,851
肥	業	209	72	66	98	445
織	業	1,280	(-) 41.6	(-) 151	(-) 100	613
紡	業	710	(-) 35	(-) 700	0	25
製	業	97	75	10	54	236
食	業	36	284	158	50	529
才	業	(-) 15	(-) 18	55	5	27
土	業	(-) 1	7	63	21	90
農	業	(-) 155	624	561	301	1,331
電	業	789	223	228	389	1,729
電	業	684	(-) 149	91	180	806
交	業	766	(-) 26	2,220	2,180	5,060
運	業	369	(-) 432	761	100	900
海	業	380	418	1,465	2,000	4,253
商	業	205	(-) 40	317	109	751
才	業	(-) 455	840	547	112	1,044
合	計	4,529	5,713	8,438	5,481	24,161

備考 (1) 第四四半期は推計。

(3)

裏面白紙

日本興業銀行設備資金貸出業種別内訳表

	第1.四半期	第2.四半期	第3.四半期	第4.四半期	計	備 考
鉱 業	169	369	472			
金 属 工 業	191	216	133			
機 械 工 業	195	223	490			
化 学 工 業	413	1,127	943			
織 造 工 業	132	405	539			
紙 業	84	115	512			
農 林 水 産 業	(-) 21	339	80			
電 気 局 業	54	109	75			
交 通 業	465	397	1,515			
そ の 他	75	231	389			
合 計	1,759	3,531	4,967	* 4,490	14,777	

備考 ① 設備資金貸出の増加額をとった。 ※印は推計。

各 局 興 業 債 券 発 行 状 況

	第1.四半期	第2.四半期	第3.四半期	第4.四半期	計	備 考
割引興業債券	2,618	5,072	963	1,185	9,838	
利付興業債券	0	1,500	3,900	3,400	8,800	
計	2,618	6,572	4,863	4,585	18,638	

(4)

裏面白紙

5 設備資金融資繰上状況

	第1.四半期	第2.四半期	第3.四半期	第4.四半期			計
				1月	2月	3月	
紙業	80	2,333	926	0	118		
金属工業	864	89	380	38	0		
機械器具工業	70	80	96	12	10		
化学工業	861	877	3,293	5	82		
繊維工業	1,046	1,187	3,455	853	261		
炭業		120	16	0			
炭床水産業	200	1,112	385	29	56		
電気瓦斯業	1,095	640	1,055	60	510		
交通業	61	334	270	52	10		
その他	48	433	106	202	8		
合計	4,127	7,206	10,282	752	1,057		

(5)

裏面白紙

6 社債発行状況

(1) 月別 使途別

	発行額	設備資金			運転資金			合計		
		新規分	旧債返済分	計	新規分	旧債返済分	計	新規設備資金	新規運転資金	旧債返済分
4月	345	73	232	306	38	0	38	73	38	232
5	220	97	116	213	7	0	7	97	7	116
6	725	277	407	702	22	0	22	295	22	407
第1四半期	1,290	466	756	1,222	68	0	68	466	68	756
7	1,420	347	738	1,086	40	292	332	347	40	1,030
8	2,268	1,167	758	1,926	66	277	342	1,167	66	1,935
9	2,060	980	557	1,538	330	192	522	980	331	749
第2四半期	5,748	2,495	2,055	4,550	437	761	1,198	2,495	432	2,816
10	3,408	1,457	833	2,292	253	864	1,117	1,457	253	1,677
11	3,735	1,402	830	2,233	409	1,093	1,502	1,402	409	1,923
12	1,754	571	675	1,246	182	335	517	571	182	1,000
第3四半期	8,897	3,432	2,339	5,771	844	2,282	3,126	3,432	844	4,620
1	5,710	1,742	1,729	3,671	676	1,342	2,038	1,742	676	3,271
2	3,285	1,529	739	2,268	480	536	1,016	1,529	480	1,275
*3	3,360	1,999	252	2,245	806	791	1,117	1,999	806	1,043
第4四半期	12,355	5,264	2,920	8,184	1,502	2,669	4,171	5,264	1,502	5,589
年間	28,270	11,657	8,070	19,727	2,851	5,712	8,563	11,657	2,851	13,782
百分比	100%	(59.1%)	(40.9%)	69.7% (100%)	(23.3%)	(66.7%)	30.3% (100%)	41.2%	10.1%	48.7%

6 社債発行状況

(2) 業種別

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		計	
	発行額	内訳額	発行額	内訳額	発行額	内訳額	発行額	内訳額	発行額	内訳額
鉱業	0	0	0	0	500	470	850	815	1,350	1,305
金属工業	0	0	560	104	850	614	770	581	2,180	1,277
機械器具工業	0	0	350	204	2,567	1,388	3,060	1,306	5,977	2,798
化学工業	0	0	980	644	1,275	809	3,490	2,326	5,765	3,779
繊維工業	0	0	510	374	1,790	817	1,770	1,175	4,070	2,386
窯業	0	0	0	0	0	0	550	270	550	270
木材製品工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食品工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土木建築業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気業	0	0	100	64	270	94	450	353	820	511
交通業	950	922	2,278	2,168	1,278	1,234	740	905	5,246	5,227
商業	305	295	970	872	345	325	475	451	2,095	1,943
その他の業種	30	0	0	0	0	0	0	0	30	0
その他	5	5	0	0	0	0	0	0	5	5
合計	1,290	1,222	5,748	4,550	8,897	5,771	12,855	8,184	28,290	19,727

裏面白紙

7 株式発行状況

(1) 月別 按途別

月 別	発行額	設 備 費 金			運 転 費 金			合 計		
		新規分	旧債返済分	計	新規分	旧債返済分	計	新規分	旧債返済分	計
4 月	(5,177) 4,938	1,937	1,212	3,151	1,217	807	2,028	1,938	1,217	2,021
5 月	(7,008) 8,856	2,204	2,545	4,750	2,561	7,677	4,258	2,204	2,561	4,242
6 月	(5,870) 5,882	1,387	1,478	2,877	2,020	972	3,012	1,387	2,020	2,480
第1四半期	20,077 19,677	5,533	5,245	10,778	5,800	3,479	9,299	5,533	5,800	8,744
7 月	(4,810) 4,846	1,318	1,050	2,368	1,747	700	2,447	1,318	1,747	1,750
8 月	(9,855) 10,105	1,665	3,471	5,076	2,504	2,274	4,778	1,665	2,504	5,185
9 月	(7,787) 8,052	3,047	1,855	4,904	1,644	1,238	2,882	3,047	1,644	3,093
第2四半期	22,461 23,066	6,032	6,376	12,348	5,878	4,214	10,112	6,032	5,878	10,530
10 月	(11,643) 11,164	4,608	2,976	7,384	2,274	1,984	4,258	4,608	2,274	4,960
11 月	(2,774) 10,124	3,296	2,635	5,771	2,305	1,757	4,062	3,296	2,305	4,992
12 月	(3,896) 4,007	1,035	583	1,618	1,888	370	2,803	1,035	1,888	973
第3四半期	(25,524) 25,796	8,740	6,105	14,935	6,468	4,131	10,599	8,740	6,468	10,326
1 月	(6,625) 6,776	2,543	543	3,087	3,185	363	3,548	2,543	3,185	706
2 月	(2,402) 2,473	718	264	982	1,244	176	1,420	718	1,244	440
3 月	* 3,000	-1,050	720	1,770	750	480	1,230	1,050	750	1,200
第4四半期	(12,037) 12,249	4,211	1,527	5,839	5,179	1,019	6,198	4,311	5,179	1,254
年 間 計	(80,107) 80,728	24,618	79,283	43,900	23,345	12,863	36,208	24,611	23,345	32,146
百 分 比	100%	(56.1%)	(43.9%)	54.8% (100%)	(55.2%)	(34.8%)	46.2% (100%)	30.7%	27.2%	40.1%

備考① 発行額の括弧書は、発行費用を差引きプレミアムを加算した手取額である。

7 株式会社発行状況

(2) 業種別

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		計	
	増資額	内訳備資金	増資額	内訳備資金	増資額	内訳備資金	増資額	内訳備資金	増資額	内訳備資金
鉱業	1,740	1,061	1,333	714	3,871	2,247	1,910	711	9,074	4,935
工業	11,445	6,260	13,774	7,477	14,840	8,576	7,028	3,352	47,307	25,687
金属工業	648	354	576	307	718	415	792	163	2,284	1,241
機械器具工業	2,653	1,451	3,372	1,818	5,172	2,787	2,448	1,117	13,665	7,425
化学工業	442	242	77	42	445	257	208	97	1,174	740
繊維工業	4,336	2,372	3,736	2,002	5,131	2,766	2,424	1,156	15,627	8,496
紙及不織品工業	2,260	1,236	4,293	2,301	1,833	1,059	867	415	7,255	5,011
飲食その他	76	53	211	113	74	43	36	17	417	226
その他	803	437	1,415	758	1,193	689	563	217	3,774	2,154
その他	207	113	292	158	274	158	136	66	907	493
運輸業	244	113	123	66	221	127	77	46	685	372
林業	110	80	120	70	464	268	220	105	924	503
電気業	442	242	1,735	930	183	106	96	41	2,446	1,317
ガス業	1,772	981	1,453	777	2,648	1,530	1,237	590	7,131	3,880
商業	1,824	978	2,197	1,445	2,070	1,196	977	467	7,570	4,106
その他	4,879	1,043	1,540	845	1,479	821	686	327	5,584	3,076
合計	19,677	10,778	23,005	12,348	25,796	14,931	12,244	5,839	80,722	43,898

① 第一～三、四半期は業種別発行額の実績により設備資金繰延額を推計した。

② 第四四半期は繰上推計である。

1. 戦後鉱工業生産指数の推移

昭和7~11年平均 = 100

	1月	4月	7月	12月	年平均	増加	
						年間増加	7月と4月の差
昭和21年	18.2	28.8	40.0	37.8	33.1	19.5	11.2
昭和22年	33.7	37.1	45.4	44.0	40.2	10.1	8.3
昭和23年	42.7	51.7	66.8	68.9	58.1	26.2	15.1
昭和24年	67.2	79.3	77.0	72.4	72.2	15.0	0.3

-10-

裏面白紙

2 昭和24年生産状況

品名	単位		24年中生産実績	23年中生産実績	増減率	
	千立	千匁			増	減
石油	千立		37,962	33,726	+	12.5%
炭	千匁		2,175,552	1,787,702	+	21.7%
鋼	千匁		1,548,685	1,138,631	+	29.1%
鉄	千匁		1,967,730	1,027,396	+	91.5%
銅	千匁		78,186	85,456	-	7.9%
鉛	千匁		3,114,412	1,713,827	+	81.5%
鋅	千匁		740,38	54,333	+	34.3%
錫	千匁		12,763	10,177	+	25.1%
モリブデン	千匁		45,672	4,878	-	3.0%
ニッケル	千匁		13,702,85	1,248,608	+	7.4%
コバルト	千匁		73,711	56,278	+	31.3%
マンガン	千匁		545,616	336,727	+	62.0%
セレン	千匁		1,233,346	729,867	+	32.6%
碲	千匁		351,250	244,741	+	43.5%
亜鉛	千匁		145,839	105,486	+	38.3%
スズ	千匁		3,274,575	1,854,472	+	76.6%
アンチモン	千匁		2,809,401	1,714,533	+	64.0%
ビスマス	千匁		548,523	323,722	+	69.0%
電力	千KWH		32,992,382	29,620,868	+	11.0%
熱力	千KWH		3,461,539	2,426,584	+	42.6%

-(11)-

裏面白紙

3 昭和24年度主要物資生産並次に滞貨状況

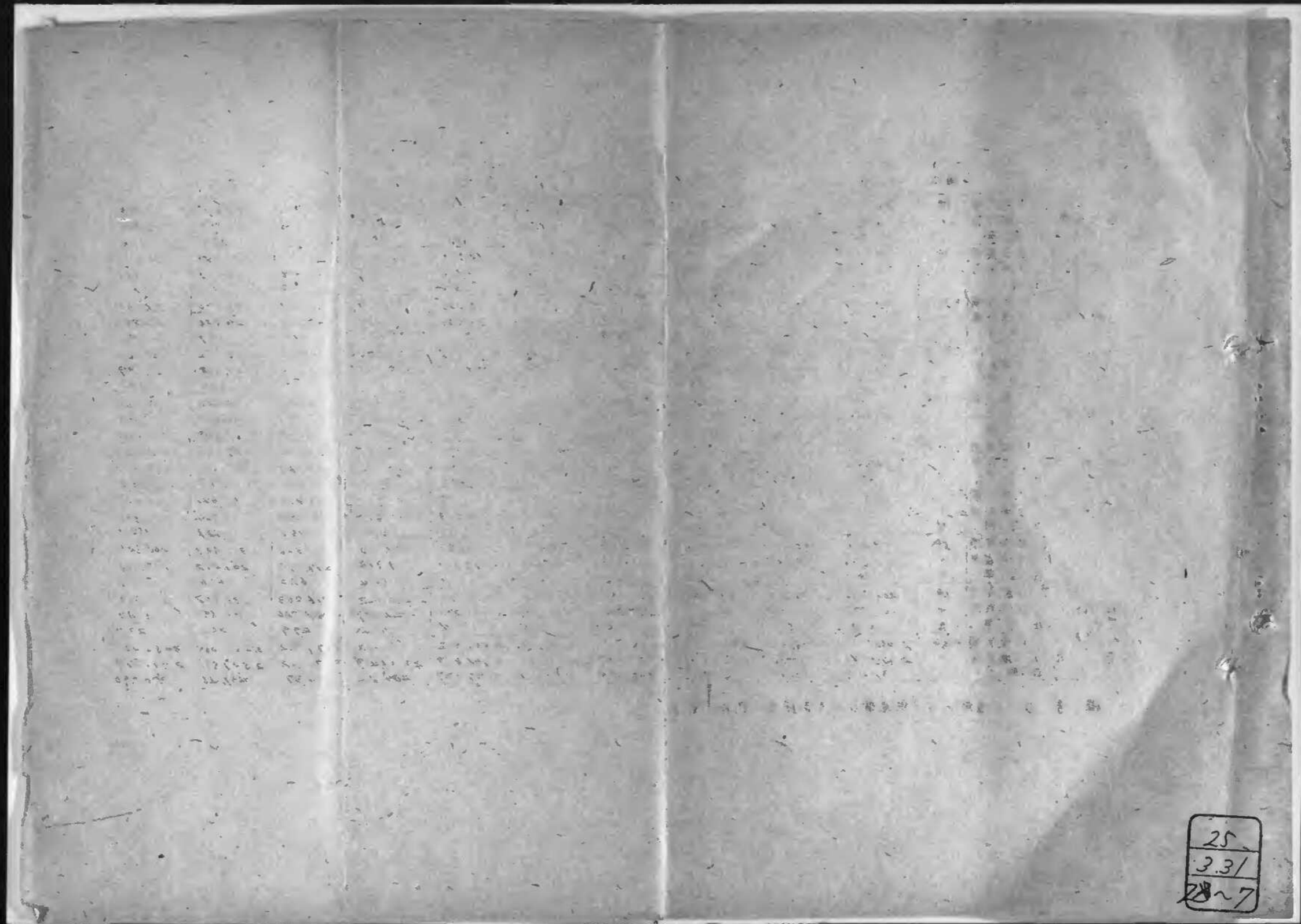
		單位	4月	5月	6月	7月	8月	7月	10月	11月	12月	1月
石 炭	生産実績	4 吨	3,267	2,700	2,158	3,304	3,056	3,209	3,115	3,107	3,325	3,043
	販売市場在庫	・	2,059	2,376	2,778	4,052	4,850	5,678	5,741	5,231	4,748	4,663
	在庫率	%	63.0	88.7	94.3	122.6	158.8	176.9	184.3	165.1	148.8	149.3
原 油	生産実績	五千	172.5	18,570	18,109	18,878	19,122	19,291	21,412	20,146	20,915	24,651
	工場在庫	"	10,142	9,529	8,736	8,367	7,310	6,255	6,377	6,538	7,335	8,961
	在庫率	%	58.9	51.2	48.2	44.2	38.2	32.4	29.8	32.5	35.1	36.3
硫 化 鉍	生産実績	吨	121,875	122,581	125,355	133,712	134,812		132,355	139,035	141,420	
	工場在庫	"	94,270	90,175	108,411	73,393	90,465		86,227	85,752	91,309	
	在庫率	%	77.3	73.5	84.1	67.7	67.1		65.1	61.7	64.6	
銑 鉄	生産実績	吨	117,874	124,465	122,927	144,156	128,100	123,025	157,300	160,531	162,841	159,683
	工場在庫	"	37,985	48,676	56,644	37,958	30,630	27,447	35,760	41,703	34,884	33,662
	在庫率	%	32.2	39.1	46.1	26.8	23.9	22.4	22.7	26.0	21.4	21.1
普通鋼尺材	生産実績	吨	144,401	153,219	158,988	155,756	172,766	174,119	187,826	206,601	232,393	200,226
	工場在庫	"	142,443	149,170	142,131	162,260	102,409	112,470	143,370	164,047	102,118	150,364
	在庫率	%	98.6	97.0	89.3	104.1	59.2	64.5	76.3	79.4	43.9	75.1
特殊鋼尺材	生産実績	吨	8,144	8,357	7,229	5,746	5,277	5,298	4,944	5,275	5,901	5,018
	工場在庫	"	14,477	15,456	15,301	13,408	13,096	13,314	12,890	13,284	15,911	13,963
	在庫率	%	177.7	184.8	211.6	233.3	248.1	251.3	260.7	251.8	269.6	275.5
鋼 線	生産実績	吨	237,288	245,570	234,506	266,673	222,274	262,886	301,325	322,609	332,236	328,375
	工場在庫	"	143,836	152,870	142,131	163,045	166,747	156,031	152,189	166,093	160,880	141,147
	在庫率	%	60.8	62.2	60.6	61.1	66.1	59.1	50.3	51.3	48.4	43.0
電動機	生産実績	馬力	116,735	109,423	903,246	110,943	117,729	112,789	127,468	113,186	124,946	118,385
	工場在庫	"	18,302	16,531	16,489	19,625	16,378	20,227	19,901	27,440	31,878	36,436
	在庫率	%	15.6	15.1	18.9	17.8	13.9	17.9	15.6	24.2	25.5	31.0
機 械	生産実績	台	8,159	7,768	6,983	1,441	4,850	3,784	4,045	3,671	4,263	3,491
	工場在庫	"	1,282	1,564	1,403	1,736	1,302	1,506	3,962	1,249	1,648	1,617
	在庫率	%	14.8	19.3	20.0	26.9	26.8	37.9	77.9	34.0	38.7	46.7
自動車	生産実績	台	40,829	26,784	26,784	41,793	50,602	49,074	57,385	60,895	73,803	69,905
	工場在庫	"	不詳	不詳	10,730	18,518	16,976	9,071	22,410	16,930	16,449	23,145
	在庫率	%			40.0	44.2	33.5	38.8	39.1	27.8	22.3	33.1
硫 安	生産実績	吨	111,530	113,706	109,115	97,968	90,022	98,147	115,331	115,190	114,423	110,217
	工場在庫	"	11,221	17,615	22,676	21,434	31,583	41,033	49,574	52,352	55,137	66,322
	在庫率	%	9.9	15.4	20.7	21.8	35.0	41.8	42.9	45.5	48.2	

(12)

裏面白紙

		單位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
石灰窒素	生産実績	吨	32,383	35,264	35,796	31,892	27,742	30,694	36,770	31,715	34,666	28,616
	工場在庫	・	3,207	3,944	5,367	6,384	8,138	10,716	14,274	11,575	13,300	9,604
	在庫率	%	9.7	11.0	14.9	20.0	27.1	35.5	60.1	36.3	38.4	32.6
苛性火灰	生産実績	吨	11,733	12,540	12,816	12,538	13,373	10,900	12,851	12,381	11,749	12,052
	工場在庫	・	8,775	10,037	11,470	13,568	5,392	7,235	11,113	13,486	13,572	13,325
	在庫率	%	74.7	80.0	87.5	108.2	40.3	66.3	86.5	11.2	11.4	11.1
一般洋紙	生産実績	千封度	43,357	43,320	48,973	46,157	46,245	50,338	51,879	58,226	57,190	51,531
	工場在庫	・			30,660	36,157	37,087	36,544	38,178	35,953	29,584	27,583
	在庫率	%			62.5	78.3	80.1	72.4	73.6	61.7	51.7	54.1
絹糸	生産実績	千封度	28,450	28,177	30,730	29,223	27,666	31,456	31,577	32,700	34,155	31,264
	工場在庫	・	17,327	22,382	21,234	23,129	23,641	21,788	25,167	26,237	21,808	20,159
	在庫率	%	60.9	79.4	69.4	79.1	85.4	69.2	79.7	79.7	62.9	64.5
人絹糸	生産実績	千封度	5,702	5,934	5,873	3,827	6,176	5,066	6,443	6,222	6,580	6,731
	工場在庫	・	12,082	15,440	18,374	20,766	28,564	24,617	23,254	17,273	16,633	15,138
	在庫率	%	211.8	260.1	305.7	357.6	381.5	491.7	364.8	309.8	252.8	224.9
絹織物	生産実績	千疋碼	71,579	77,271	82,618	86,247	83,465	82,096	83,941	84,114	97,053	102,030
	工場在庫	・	95,550	103,677	105,716	108,028	107,341	116,193	114,667	119,067	118,547	115,699
	在庫率	%	133.4	134.1	127.7	125.2	121.0	141.5	136.6	141.6	119.7	113.4
絹織物	生産実績	千疋碼	12,587	12,454	10,177	8,978	10,305	13,397	13,779	13,411	11,641	10,408
	工場在庫	・			14,357	13,734	13,027	12,713	13,415	15,371	16,764	15,832
	在庫率	%			141.0	152.7	126.4	94.8	97.4	114.8	143.1	152.1
セメント	生産実績	吨	254,656	250,287	252,776	287,084	285,857	312,882	324,710	321,340	351,627	268,524
	工場在庫	・	71,590	149,546	157,924	121,318	140,861	177,431	179,913	216,317	221,492	277,536
	在庫率	%	28.1	59.7	62.3	42.2	49.2	57.1	55.4	67.3	61.6	111.5
板ガラス	生産実績	吨	202,362	225,354	218,740	233,655	226,602	254,513	282,142	316,203	333,502	308,813
	工場在庫	・	105,737	115,776	153,935	171,515	182,232	181,788	124,787	94,720	83,677	73,717
	在庫率	%	52.2	51.4	70.3	73.4	80.4	71.4	44.2	27.9	25.1	23.7
電	生産実績	千KWH	3,056,779	3,198,355	3,070,127	3,075,618	2,691,401	2,867,812	3,138,963	3,077,492	3,259,065	3,012,219
	工場在庫	・	2,725,540	3,030,333	2,793,137	2,739,287	2,400,195	2,746,817	2,854,409	3,777,122	2,827,578	2,711,277
	在庫率	%	331.439	168.023	127.752	122.405	271.206	167.027	204.554	100.370	431.467	350.770

備考 ① 在庫率は月生産量に対する在庫の割合である。



25
3.31
28~7

裏面白紙

米國對日援助見返資金特別會計法の一部を改正する法律

(昭和二十五年三月三十一日
法律第六十四號)

米國對日援助見返資金特別會計法(昭和二十四年法律第四十號)の
一部を次のように改正する。

第四條第一項中「經濟の再建」の下に「並びに特定の教育事業」を
加え、「公私企業」を「国、国以外の公企業若しくは私企業」に、「
公企業」を「国若しくは国以外の公企業」に改める。

第六條第二項を削る。

第十條に次の一項を加える。

この會計の毎會計年度の歳出予算における支出残額は、順次翌年
度に繰り越して使用することができる。

第十四條の見出しを「(日本銀行等の資金運用等)に関する事務の取

扱」に改め、同條中「日本銀行」の下に「及び大蔵大臣の指定するその他の金融機関（以下「指定金融機関」という。）」を加え、同條に次の三項を加える。

2 政府は、日本銀行及び指定金融機関に對し、援助資金の運用に必要を資金を交付することができる。

3 指定金融機関は、他の法令に基く當該指定金融機関の業務の制限にかかわらず、第一項に規定する事務を行い、及び援助資金の私企業に對する運用に基く国の債權につき債務の保証をすることができる。

4 第一項に規定する事務の取扱手数料及び前項の規定による指定金融機関の債務の保証に要する経費は、この會計の負担とすることができる。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

D (3)

第壹回事業年度業務報告書

自昭和二十四年六月一日
至昭和二十五年三月三十一日



國民金融公庫

めくれず

21

業務の概況

国民金融公庫は国民金融公庫法（昭和二四、五、二法律第四九号）に基づき、庶民金庫及び恩給金庫の業務を承継し、銀行その他一般の金融機関から資金の融通を受けることの困難な国民大衆に必要な事業資金の供給を行う目的を以て設立され、昭和二十四年六月一日に成立、同日より業務を開始してここに第一回事業年度の決算を終了した。

当期を通じて終戦以来のインフレはようやく終えんし、ドツヂプランによる国家財政の極度の均衡化が図られたため、銀行貸出の引締め、徴税の強行と相まつて中小企業の資金の欠乏は甚だしいものがあり、これを如実に反映して公庫の貸出に対する国民大衆の要望は熾烈を極めたのである。ために資本金も当初の13億円（内12億円は庶民金庫の日銀その他に対する債務償還に充当）より同年十二月補正予算において18億円に増額されるに至つたのであるが、これを以てしてもなお且つ一般の需要を充すことは到底できない状態であつた。かかる状況下において資金難にあえぐ一般大衆のために公庫の果たした役割とその持つ意義は極めて大なるものがあつたといえよう。

以下当期中における事業の概要について説明する。

（一）普通小口貸付業務

借入申込者は上述の通り一般の金づまりを反映して尠大な数に上り、代理所を除く直接の業務所のみをみても当期中の申込総数は件数69,185件、金額にして6,240,974,000余円に達したのである。

これに対し直接業務所と代理所を合した貸付累計は件数20,073件、金額1,421,897,000余円であつて申込の内貸付を完了したものはその約二割に当り、この内訳をみると業種別には商業工業が他の業種に比して圧倒的な割合を占め、用途別には運転資金が設備資金の約三倍となつている。又貸付一件当りの平均金額は個人47,000円、連帯218,000円であり、その総平均は122,000円となる。又貸付期間別にみれば六カ月より十八カ月間のものが最も多いが、最近の傾向としては逐次短期の貸付から長期の貸付に移行して来たことが窺われる。

かくの如くあらゆる点よりみても、中小金融の特色が遺憾なく示されているのであるが、これらの貸付はすべて日本経済の安定復興にとつて必要欠くべからざるものであり、更に右以外になお資金が許せば貸付を必要と認められるものが多数あつたことを指摘できるのである。

（二）更生資金貸付業務

引揚者、戦災者又は生活困窮者等に対する事業資金の供給を目的とする更生資金貸付は庶民金庫において行われていたものをそのまま引継いだものであつて昭和二十四年度の貸付資金としては都道府県より交付を受けた第四次貸付資金3億円、政府より借入れた第五次貸付資金2億円の計5億円、並に本期中の回収金がこれにあてられたが、その結果再貸付を含めた当期中の貸付累計は31,915件、金額529,064,000余円となつている。

しかして当期末における更生資金貸付の昭和二十一年当初以来の貸付の現在高は件数にして203,795件、金額にして2,363,950,000余円に上る状況である。

以上当期中の業務の概況を報告したが、その状況を顧みると、公庫の存在が日本経済安定復興の基盤をなす中小企業者等国民大衆にとつて必要不可欠のものであり、今後益々深刻化するであろう経済情勢に即応してこれを一層拡大強化しなければならないことを痛感するのである。

庶務の要件 (自昭和二十四年四月
至昭和二十五年三月)

五月二日 国民金融公庫法の公布があつた。
五月二十一日 下の通り公庫設立委員及国民金融審議会委員に任命された。

(一) 設立委員

内田常雄 (経済安定本部財政金融局長)
愛知揆一 (大蔵省銀行局長)
豊田雅孝 (商工組合中央金庫理事長)
杉道助 (大阪商工会議所会頭)
湯河元威 (農林中央金庫理事長)
中山均 (静岡銀行取締役頭取)
藤田逸男 (日本協同組合同盟委員長)
藤林敬三 (慶応義塾大学教授)
梶川光男 (庶民金庫理事長)
高木三郎 (恩給金庫理事長)

(二) 審議会委員

内田常雄 (経済安定本部財政金融局長)
愛知揆一 (大蔵省銀行局長)
豊田雅孝 (商工組合中央金庫理事長)
杉道助 (大阪商工会議所会頭)
中山均 (静岡銀行取締役頭取)
藤田逸男 (日本協同組合同盟委員長)
藤林敬三 (慶応義塾大学教授)

五月二十六日 第一回国民金融審議会が大蔵省で開催された。
五月二十八日 国民金融公庫施行令(政令第一二二号)の公布があつた。
五月三十一日 岡崎茂樹氏(引揚者団体全国連合会代表)国民金融審議会委員に任命された。
六月一日 設立委員は準備完了したので資本金の払込を大蔵大臣に請求した。
同日 資本金給付金も払込があつた。
同日 大蔵大臣から梶川光男が国民金融公庫総裁に、佐間庸雄及び香西俊久が同監事に任命された。
同日 梶川総裁は設立委員代表愛知揆一氏より、その事務引継ぎを完了した。
同日 梶川総裁は大蔵大臣より副総裁及び理事任命に関する認可があつたので、井関孝雄を副総裁に、雨宮龍吉、最上孝敬、松田一隆及び紙屋清二郎を理事に任命した。
同日 支所設置、代理所設置、昭和二十四年度第一四半期事業計画及び資金計画について大蔵大臣の認可があつた。
同日 公庫設立の登記を完了し公庫は成立した。
六月二十一日 第二回国民金融審議会が大蔵省で開催された。
同日 更生資金貸付に関する業務方法書の件、大蔵大臣の認可があつた。
七月二日 昭和二十四年度第二・四半期事業計画及び資金計画について大蔵大臣の認可があつた。

七月九日 総裁梶川光男が経済団体連合会理事重任の件大蔵大臣の許可があつた。
七月十一日 旧庶民金庫第十六回事業年度の財産目録、貸借対照表、損益計算書及び業務報告書を大蔵大臣宛届出た。
同日 旧庶民金庫第十六回事業年度の期末諸表を大蔵大臣宛届出た。
七月二十九日 旧庶民金庫第十六回事業年度の業務報告書を会計検査院(大蔵省経由)に提出した。
八月八日 公庫法第二十八条第二項の規定に基づく大蔵大臣命令書制定の旨通知があつた。
八月二十四日 引揚援護庁から第四次資金貸付目標額設定について通知があつた。
九月一日 近畿無尽株式会社野田支店に対する代理業務の件、大蔵大臣の認可があつた。
九月二十一日 旧庶民金庫第十六回事業年度貸借対照表を官報に公告した。
九月二十二日 第一回及び第五回恩給債券買入銷却済の件大蔵大臣宛届出でた。
九月二十七日 第三回国民金融審議会が公庫で開催された。
九月三十日 昭和二十四年度第三・四半期事業計画及び資金計画の件大蔵大臣の認可があつた。
十月一日 株式会社因伯銀行に対する代理業務の件、大蔵大臣の認可があつた。
十月二十一日 元恩給金庫の外地店所が担保として提供をうけ、又は寄託の引受けをなした恩給の処理に関して、告示があつた旨大蔵省から通知があつた。
十月三十一日 引揚援護庁から更生資金貸付資金交付について通知があつた。
十一月一日 東京都建設局長より総裁梶川光男を東京都露店整理連絡委員会専門委員に委嘱する旨通知があつた。
十二月二日 第三回恩給債券買入銷却済の件、大蔵大臣宛届出でた。
十二月八日 法律第二四七号で公庫法中一部改正の件公布され、同日施行された。
十二月十二日 政府出資金(五億円也)の払込があつた。
十二月十六日 第四回国民金融審議会が公庫にて開催された。
十二月二十日 業務方法書中一部変更、昭和二十四年度第四・四半期事業計画及び資金計画並に同第三・四半期同上計画変更の件、大蔵大臣の認可があつた。
十二月二十七日 八尾信用組合に対する業務代理の件、大蔵大臣の認可があつた。
一月十九日 第五次更生資金貸付資金式億円也厚生省より借入の件、大蔵大臣の認可があつた。
一月二十日 第五次更生資金貸付資金式億円也厚生省より借入れた。
二月二十七日 第一回恩給債券全額償還の件、大蔵大臣宛届出でた。
三月十六日 三次信用組合に対する業務代理の件、大蔵大臣の認可があつた。
三月二十日 第五回恩給債券買入銷却済の件、大蔵大臣宛届出でた。
三月二十八日 第五回国民金融審議会が公庫で開催された。
三月三十一日 新支所設置(鳥取外四支所)の件、大蔵大臣の認可があつた。
同日 公庫役員及び職員級格付の件人事院総裁の承認があつた。

業務所、駐在員事務所及代理所数

業務所	20
駐在員事務所	6
代理所	427
銀行	(7)
信用組合	(297)
無尽会社	(123)
合計	453

普通小口貸付總括 24,6,1~25,3,31

摘要	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
当期貸付	14,641	1,172,054,450.00	5,432	249,842,800.00	20,073	1,421,897,250.00
当期回収	822	249,861,680.00	350	35,429,528.32	1,172	285,291,208.32
當期末現在高	13,819	922,192,770.00	5,082	214,413,271.68	18,901	1,136,606,041.68

普通小口貸付累計高内譯

A 用途別

用途別	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
運転資金	11,229	921,332,500.00	4,472	205,786,000.00		
設備資金	3,412	250,721,950.00	960	44,056,800.00		
合計	14,641	1,172,054,450.00	5,432	249,842,800.00		

B 期間別

用途別	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
3カ月以下	260	31,376,000.00	459	20,895,100.00		
3カ月を超え6カ月以下	470	34,748,000.00	702	26,090,900.00		
6カ月〃12カ月〃	5,022	362,299,500.00	3,002	139,385,100.00		
12カ月〃18カ月〃	4,030	339,713,500.00	497	22,878,000.00		
18カ月〃24カ月〃	3,801	313,920,500.00	428	20,646,000.00		
24カ月〃36カ月〃	1,058	89,996,950.00	344	19,947,700.00		
合計	14,641	1,172,054,450.00	5,432	249,842,800.00		

C 金額別

金額別	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
5万円以下	11,142	442,604,450.00	4,916	188,413,300.00		
5万円を超え10万円以下	1,410	131,560,000.00	412	39,065,500.00		
10万円〃20万円〃	959	168,660,000.00	79	13,690,000.00		
20万円〃30万円〃	576	160,670,000.00	15	4,123,000.00		
30万円〃50万円〃	526	244,720,000.00	10	4,550,000.00		
50万円〃100万円〃	28	23,840,000.00				
合計	14,641	1,172,054,450.00	5,432	249,842,800.00		

D 業種別

業種	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鉱業	28	3,831,000.00	7	175,000.00		
工業	5,446	554,216,500.00	1,548	75,998,400.00		
土木建築業	339	49,332,000.00	127	7,205,000.00		
農林業	6,821	421,060,000.00	2,893	129,013,200.00		
漁業	265	15,888,000.00	250	9,699,700.00		
林業	139	12,290,000.00	135	7,912,000.00		
交通業	186	22,020,000.00	35	1,775,000.00		
自由業	586	38,633,000.00	123	5,480,000.00		
其他	831	54,783,950.00	314	12,584,500.00		
合計	14,641	1,172,054,450.00	5,432	249,842,800.00		

舊小口貸付總括 24,4,1~25,3,31

摘要	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
前期末残高	12,358	59,107,699.70	10,895	31,213,852.29	23,253	90,321,541.99
貸付高	3,233	23,968,480.69	2,901	1,540,783.98	6,134	25,509,264.67
回収高	5,793	34,640,457.01	5,902	10,113,427.08	11,695	44,753,884.09
當期末現在高	9,800	48,435,713.38	7,894	22,641,203.19	17,702	71,076,922.57

更生資金貸付總括 24,4,1~25,3,31

摘要	直接接		代理所接		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
前期末残高	40,394	611,511,368.05	130,527	1,273,403,728.80	170,921	1,884,915,096.85
貸付高	18,892	283,161,460.26	24,591	402,463,571.50	43,482	685,625,031.76
回収高	5,456	86,071,480.39	5,142	120,518,276.33	10,608	206,589,756.72
當期末現在高	53,820	808,601,347.92	149,975	1,555,349,023.97	203,795	2,363,950,371.89

損益計算書

(自昭和24年4月1日
至昭和25年3月31日)

借方残高	勘定科目	貸方残高
163,569,494.34	<u>固有勘定</u>	147,344,282.61
152,063,922.83	事務費	37,700,763.89
44,616,674.11	報酬及給料	3,243,090.14
27,466,564.59	諸手当及給与金	27,884,552.24
9,856,194.06	旅費	1,494,953.33
14,069,348.97	消耗品費	5,078,168.18
27,229,919.72	役務費	81,093,866.32
4,336,894.34	備品費	28,888,327.70
22,120,800.33	手数料	52,205,538.62
408,358.50	賃金	15,180,471.01
1,938,027.16	施設費	1,136,184.19
21,141.05	補償金及補填金	355,286.82
1,605,571.51	税金	13,689,000.00
9,900,000.00	減価償却費	191.12
4,742,410.10	<u>特別勘定</u>	
507,152.16	受託金利息	11,055,253.64
3,225,611.13	預金利息	2,313,736.63
1,009,646.81	債券利息	20,967,621.83
		1,195,432.89
		9,044,312.08
		892,640.00
		9,311,268.81
		90,858.80
		433,109.25
168,311,904.44	合 計	168,311,904.44



昭和二十五 三八〇 號

肥後配給公団申請第 五 一 号

昭和二十五年第一、四半期事業計画及び資金計画認可申請書

肥後配給公団令第十七条の規定により別紙の通り事業計画及び資金計画書を作成致しましたから、御認可願いたく申請いたします。

昭和二十五年三月三十日

肥後配給公団

総裁 鈴木 和三郎

飯沼安定 本部長 謹言

25
4.2
2-11 29

肥前肥後公園令第十七条の規定に依り昭和二十五年第一・四半期
事業計画及び資金計画を作成する。

昭和二十五年三月三十一日

肥前肥後公園
事務長



古館 山本 家 宇田 大



保 岩 野 忠



昭和二十五年第一、四半期

事業計画書並びに資金計画書

尼 科 配 給 公 司

昭和二十五年第一四半期事業計画概算

前期末における肥料の配給状況は次の通りで、春肥配給は前知し総額
四四〇、秋肥三八〇、加給三七〇の配給率を示している。

品名	額	配給率
窒素質肥料	一、三九一、八〇〇	六〇六、八〇〇
リン酸質肥料	八三三、七五〇	三一一、九〇〇
加里質肥料	二〇六、二〇〇	七六、六〇〇

次に第一四半期における需給をみるに、先づ供給については工場生産
見込被食、並びに輸入計画数を基準として買入数量を原紙の如く総
額六六五千、秋肥四二三千、加里一六五千とした。
この買入数量は前期末の公団手持見込額を加えた供給量は総額一、
〇四七千、秋肥六三一千、加里一七八千である。
これに対し配給は、春肥前知し額に対し、六月末において総額八〇%
秋肥七五%加里七〇%の配給率を示すものとした。

品名	額		配給率	
	前期末未配給	前期末未配給	第一四半期配給	本期末未配給
窒素質肥料	一、三九一、八〇〇	七八五、〇〇〇	五一一、一〇〇	二七二、九〇〇
リン酸質肥料	八三三、七五〇	五二二、八五〇	三〇五、一五〇	二一七、七〇〇
加里質肥料	二〇六、二〇〇	一一九、六〇〇	六四、〇〇〇	六五、六〇〇

これにより、本期末の公団手持数量は総額五二五千、秋肥三一〇千
額、加里一〇九千となり、次期に繰越される。

昭和二十五年第一四半期事業計画

一、前期末公園手持数量

硫酸安	二〇四、五〇〇
尿素	三、〇〇〇
石灰窒素	六四、七〇〇
硝安	七四、二〇〇
窒素質肥料計	三八二、四〇〇
過燐酸石灰	二〇四、五〇〇
トーマス燐肥	二、八〇〇
骨粉	八〇〇
燐酸質肥料計	二〇八、一〇〇
加里	一三、〇〇〇
硫酸安	五一九、八〇〇
尿素	六、〇〇〇

單位 噸 (換算数量)

二、買入

石灰窒素	一一〇、〇〇〇	
硝安	二九、六〇〇	
窒素質肥料計	六六五、四〇〇	
過燐酸石灰	四〇〇、三〇〇	
トーマス燐肥	七、三〇〇	
熔成燐肥	一二、五〇〇	
骨粉	三、五七〇	
燐酸質肥料計	四二三、六七〇	
加里	一六五、七〇〇	
三配給	農藥用	沖繩向配合原料用
硫酸安	三三九、四〇〇	九、八〇〇
尿素	三、三〇〇	
石灰窒素	一〇六、九〇〇	
硝安	六二、五〇〇	
窒素質肥料計	五一二、一〇〇	九、八〇〇
過燐酸石灰	二九八、四〇〇	一六、一〇〇

四本期末公団手持数量

加	煇後質肥料計	骨	熔成燐肥	トーマス燐肥	造燐燐石灰	造燐質肥料計	硝	石灰燐素	尿	硫	加	燐酸質肥料計	骨	トーマス燐肥
一〇九、六〇〇	三一〇、五二〇	三、二二〇	一二、五〇〇	四、五〇〇	二九〇、三〇〇	五二五、九〇〇	四一、三〇〇	六七、八〇〇	五、七〇〇	四一、一〇〇	六四、〇〇〇	三〇五、一五〇	一、一五〇	五、六〇〇
											一六、一〇〇			
											五、一〇〇			

裏面白紙

昭和二十五年度第一、四半期資金計表

一、所要資金

(1) 肥料買入代金

安	三九〇、一三〇	七、七二八、七三〇	千円
石灰窒素	一〇七、三三〇	三、二二三、八二〇	
尿素	二、九一七	一、二九二、八三	
過燐酸石灰	四一七、九四〇	三、八九四、〇七二	
トーマス燐肥	七、三五〇	八〇、九八八	
溶成燐肥	一〇、二三三	一、一三六、六五	
固形肥料	七、四五〇	七、四五〇〇	
配合肥料	一、三五〇	二、二九一、〇九	
輸入硝安	一、五四五〇	三〇、九四三、三	
硝安	一、一八五〇〇	一、四一〇、五〇六	
骨粉	三、五七〇	六四、四〇三	
合計		一八、二三一、九五六	

(2) 運賃諸掛

安	三九〇、一三〇	六、四五五、七〇	千円
石灰窒素	一〇七、三三〇	一、四三〇、〇六二	
尿素	二、九一七	四、八二八	
過燐酸石灰	四一七、九四〇	七、五三一、一九	
トーマス燐肥	七、三五〇	一、三、二五五	
溶成燐肥	一〇、二三三	一、八五一、二	
固形肥料	七、四五〇	一、三〇三、三	
配合肥料	一、三五〇	一、二、八二五	
輸入硝安	一、五四五〇	六、九一三、九	
硝安	一、一八五〇〇	三〇、五一三、七	
骨粉	三、五七〇	一、八九六、七	
合計			

以資材費

合計

紙袋 二七二四〇六〇枚 八一、七二一 千円
 紙 一七五〇〇〇枚 七、二四五〇
 編 二〇〇、〇〇〇貫 七、八六六
 一、做給費 一四七、一二五 千円
 俸給存諸給与 一六〇九五
 旅費及會議費 五七、五一
 雜費 一〇八、二七四
 支払利息 九六、一六六
 N指定業者秋肥手数料未払分 二、二七三、四二七
 所要金合計 八、〇八九、九七八 千円
 二、回收金 三、〇二五、七八二
 (1)肥料代金 四八七、二六〇 屯
 窒素 質 八、〇八九、九七八 千円
 磷酸 質 三、〇二五、七八二

加里 質 七、一五二〇 一、三一七、九〇〇 千円
 輸出配合肥料 一、三五〇〇 二七三、二九四
 固形肥料 七、一六五 八七、〇五五
 合計 一、三八二、四〇〇九
 (1)価格差補給金 三、六〇四、一〇八 千円
 概算 三、四、五、月分
 精算 一、二、三、月分 七、八、一、九、四、二
 合計 四、三、八、六、〇、五〇
 (1)基本金 五、〇〇〇
 回收金合計 一、七、一、四、五、〇、一
 三、差引不足額 四、一、二、八、四、一、六

昭和二五年四月三日

昭和二四年における貿易の構成と
見返り資金の積立運用状況

柴田氏
生田氏

(工才又作業中間報告 其の一)

経済安定本部経済計画室

井上

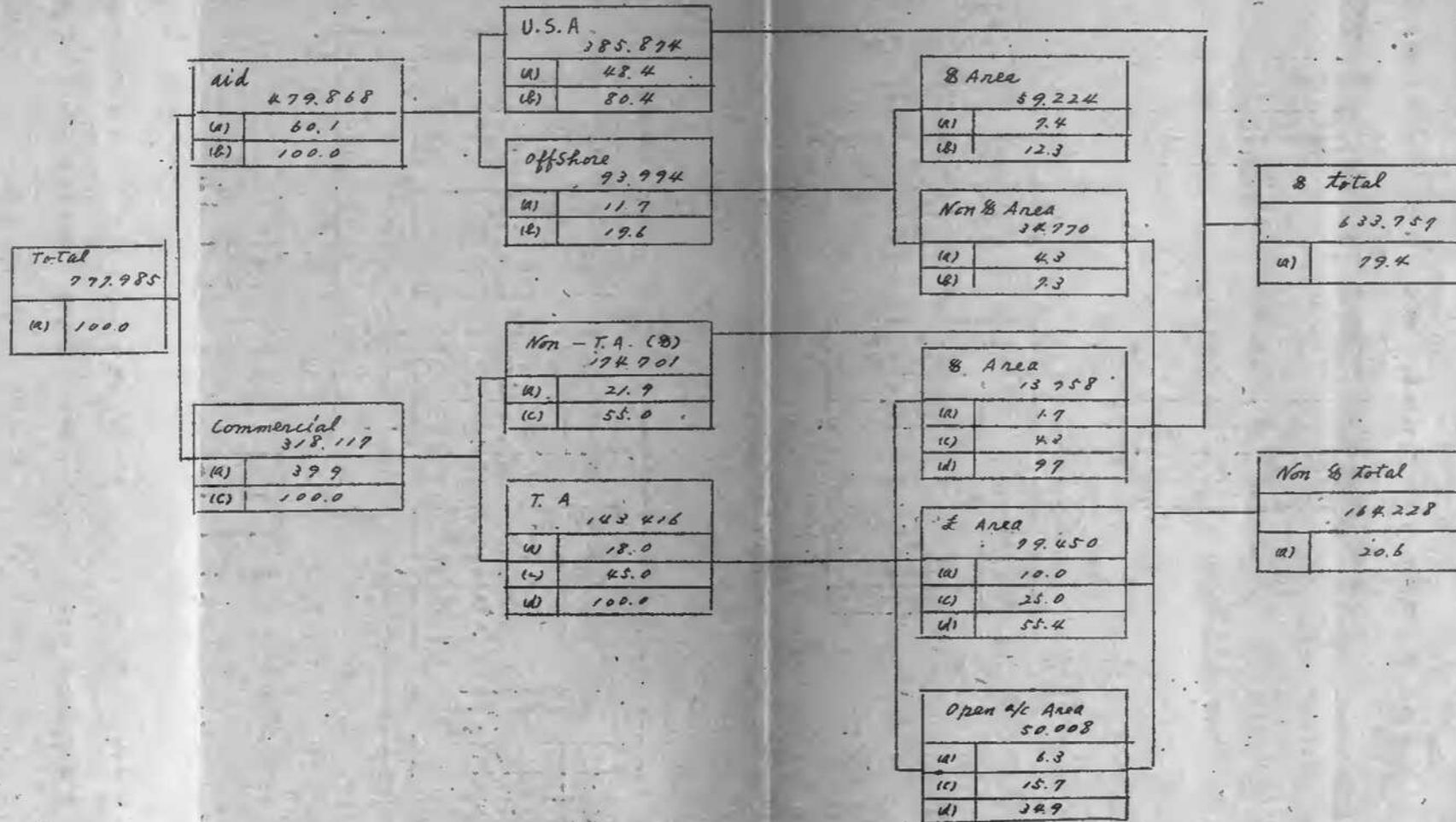
一 昭和二四年における貿易の構成

昭和二四年における貿易の構成を、自立経済の達成という観点に立つて分析してみよう。二の場合、現在の貿易がドルとポンドの交易の不自由という情勢の下に、いかに協定貿易を中心として推進され、且つ一方において莫大を頭口とする米国の対日援助費に支えられていくという事情から推して、特に左の四長は重点を置いて分析を進めることが必要であろう。

- (1) 昭和二四年の貿易において、協定貿易は如何なる比重を占めていたか。
- (2) 協定貿易の中、ドル圏、ポンド圏、オランダ圏、カウント圏の比重は夫々の程度であったか。
- (3) 貿易総額の中、ドルの占める割合はどの程度であったか。
- (4) 特に輸入において対日援助費の占める割合はどの程度であったか。
- (5) 輸入の増進について

をばまず輸入の増進について分析してみよう。昭和二四年一月から一月までの輸入実績を前述の諸長は考慮を拂いつつ整理してみると以下の通りである。

第一表 昭和24年1月～11月輸入更替の資金別協定別構成



Country

裏面白紙

これによると、まず協定貿易の占める割合は輸入総額の僅かに一八%で、援助資金を除いた商業輸入の中においても非協定貿易の占める割合より下廻り四五%とみられている。金額については約一億四〇〇〇万ドルを後に述べた協定貿易に對する輸出実績三億三〇〇〇万ドルに比較して約一億九〇〇〇万ドル不足するに過ぎない。若し輸出に底上げ輸入が行われればその比重は幾分向上することであろう。しかし、現況においてこの程度の輸入しか行われなかつたという事實は、協定貿易運営の不備、あるいは時期尚早な考慮を要するに過ぎない。当面輸入に對する協定貿易の占める比重はさきわめて小さいものであると言ふことができよう。

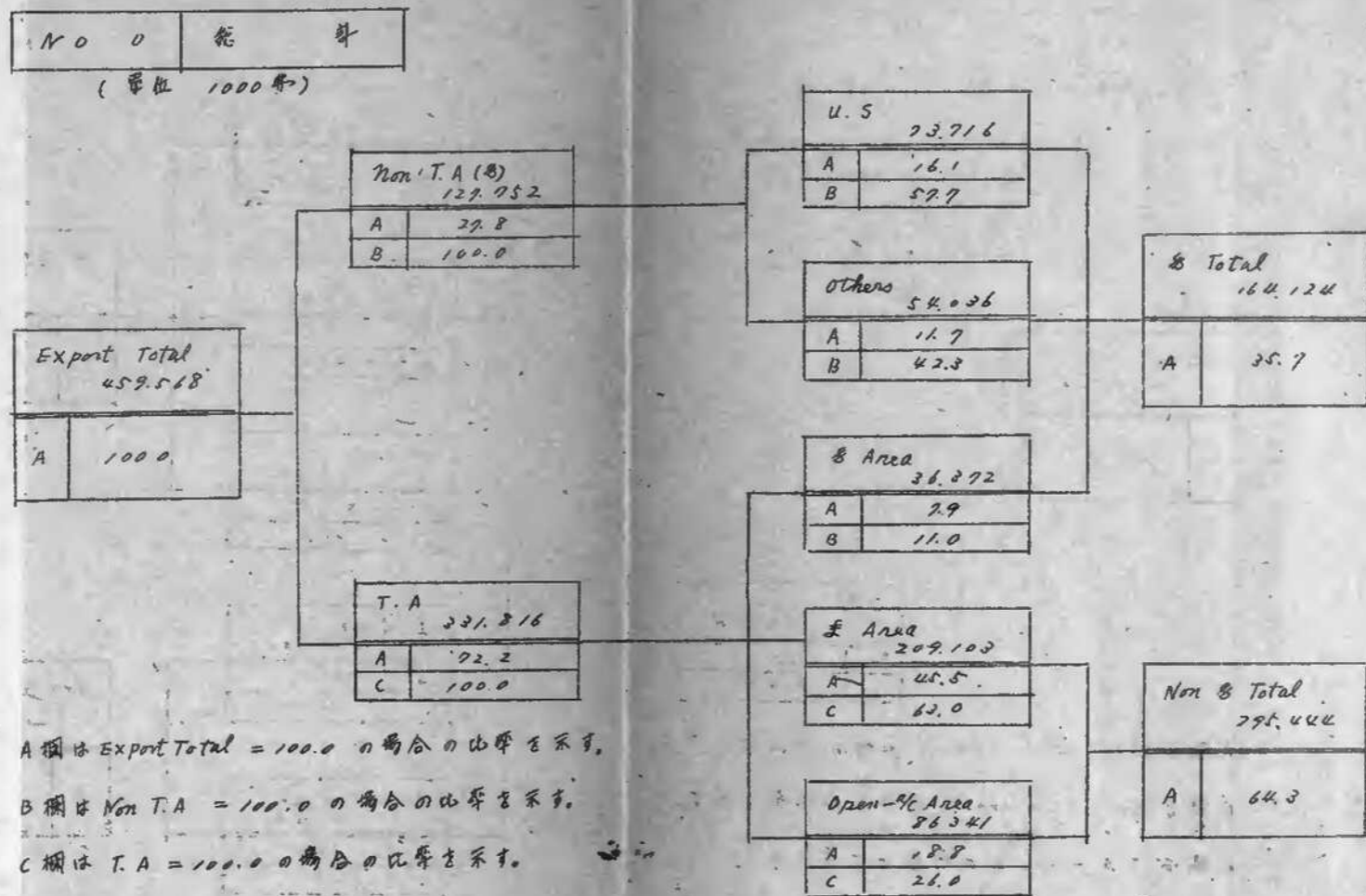
つぎに協定貿易中の各国の割合はドル圏一〇%、ポンド圏五五%、オーパントカワント圏三三%となつており、ポンド圏の占める比重は圧倒的に大きい。最近のポンド協定運営の不円滑という事態と関係せしめて考えれば、協定貿易の將來に極めて大きな問題を投げかけているとみることもできよう。

つぎに輸入総額中ドルの占める割合はついでとみると、協定貿易のドル圏を占めるドルの総額は約六億三〇〇〇万ドルに上り総額の約八〇%を占めている。

この中から協定貿易のドル圏を除いてかても約六億二〇〇〇万ドル（総額の八八%）で、ドルに對する依存度は予想外に大きいと言ふ。自立経済の達成ということは現況は対日援助費の打ち切りということもあり、ドル圏に對する輸出が対日援助費相当額まで伸びない限りドル圏よりの離脱を意味するものがあることを考えれば、ドル圏依存度八〇%という事實はさきわめて深刻な問題を生み出していると言ふべきであろう。

最後に対日援助費の残存率を別記して見よう。対日援助費の総額は約四億八〇〇〇万ドルで輸入総額の約六〇%を占める。この中米国からの買付は援助費の約八〇%に当り約三億八〇〇〇万ドルが用いられ、残りの二〇%に当り約一億ドルは米国以外からの買付に用いられている。国外買付約一億ドルはドル不足に悩む諸地域のドル不足を救ふためと緩和し、我國の輸出の振興にも或る程度役立つところがあるが、援助資金による米国よりの買付約三億八〇〇〇万ドルは、商業輸入に對する米国よりの輸入約一億三〇〇〇万ドルと合せて米国の依存度を金額にして約五億一〇〇〇万ドル（輸入総額に對する比率六五%）という数値を示している。

第二表 昭和24年1月～11月輸出実績の資金別、協定別構成



- (注) (1) A欄は Export Total = 100.0 の場合の比率を示す。
 (2) B欄は Non T.A = 100.0 の場合の比率を示す。
 (3) C欄は T.A = 100.0 の場合の比率を示す。

(1)

裏面白紙

この中、主たる品目は食糧、石油、化学製品類、鉄鉱原料（主として褐花）、非
金属鉱物類であるが、これらの多量による物價の買付先を米国以外の主として協
定貿易国に転換するに必要なるか否かが、自立経済達成を期する場合にはキー
ポイントとなるべきである。

(2) 輸出の構造について

つきは輸出の構造を分析してみよう。昭和二十四年一月から二月までの輸出実
績を輸入の両面と同様の方法を以て整理するとつぎの通りである。

(前頁・第二表)

これによると、まず協定貿易が占める割合は輸出総額の約70%を占領し、
約三億三〇〇〇万ドルを上り、この中インド圏が占める割合は六三%、オース
トラリア圏は二六%、ドル圏一%となっている。従つて前述の時期的な不利
の地を考慮しても輸入の場合に比較してその占める割合は巨額のドルが、同
感を感じず救済策の上より対日援助に相当する輸出を、將來、主としてこの協定
貿易国に対する輸出、殊にその大半を占めるインド圏に対する輸出に傾かせるか
とせう。

かといふ事は存するであろう。

つきは輸出総額中には約三億ドルの比重を占めてみよう。輸入の場合には全く逆
に、非ドル圏に対する輸出は、輸出総額の約四四%、金額にして約三億ドルであ
るが、ドル圏に対してドル圏に対する輸出は約三六%、一億六〇〇〇万ドルにすぎな
い。この中より、協定国のドル圏を除くと、金額としては約一億三〇〇〇万ドル、
輸出総額に對する比率は僅かに二八%といふことになる。これを協定国を除いた
ドル圏よりの輸入六億二〇〇〇万ドルと比較すると実に五億ドル弱の入超を示すわけ
である。將來の援助の削減に備えて、食糧兵の他、従来援助資金を買付けていた
諸物資の買付市場をドル圏以外に転換する努力が、現在、精力的に進められてお
り、また為替関係その他の影響で最近ドル圏に對する輸出がインド圏に對する輸
出よりも相対的に伸張しているに等なりである。昭和二十四年の貿易実績は現出
在米米ドル圏に對する入超の傾向は、今後相当大幅に修正されるであろうが、
ドルとポンドの交換が不自由である限り、二、三兆円を基本とする困難を克服す
ることは極めて難事であろう。

つぎに輸出の構成をより明かにするために輸出全品目を綿糸及び絹製品以下雑貨に区分するに四品目は分類し協定国又は非協定国に付する比重の大小によつて協定国物資又は非協定国物資に区分し、同様はドル国物資、非ドル国物資に区分するに次のようである。

表三 各輸出品目に関する協定国又は非協定国依存度

協定国物資	品目	依存度	非協定国物資			
			品目	依存度		
綿糸及び絹製品	人絹スフ糸及同製品	九五%	生糸及び絹製品	四五%		
					毛糸及同製品	三五%
食糧						
その他						

紙及紙製品	八%	化学品及医薬品	毛皮皮革及同製品	八%
ゴム及ゴム製品	九二%			
セメント	七一%	陶磁器		
石炭	九七%			
其の他非金屬物	六六%	鉄及同製品		
非鉄金屬	六一%			
機関、タービン、ボイラー	九八%	鉄道車輛		
各種穀物類	七一%			

其の他 機械	××%	船	九九%
船		船	
飛貨 其の他	××%		

註 111 協定国物産とは協定国向輸出比率が当該品目の輸出総額中××%以上を占めるもの

112 非協定国物産とは非協定国向輸出比率が当該品目力輸出総額中××%以上を占めるもの

113 中立物産とは協定国或は非協定国に計する依存度が××%〜××%以内のもの

第四表 各輸出品目に関する非ドル圏又はドル圏依存度

非ドル物産		中立物産		ドル物産	
品目	依存度	品目	依存度	品目	依存度
絹糸及絹製品	八九%	食糧		生糸及絹製品	六五%
人絹スフ糸及同製品	九一%			其の他 繊維	××%
毛糸及毛織品	七二%	ゴム及ゴム製品		竹木草及同製品	六五%
紙及紙製品	七三%			毛皮革及同製品	八×%
				化学品及医薬品	六×%

(6)

英の他 機械	鐵鋼、タービン、ボイラー	七 × ン ト	陶 磁 器	× 三 %
× 九 %	ハ ニ %	鉄 及 同 装 品	板 硝 子 及 同 装 品	× 一 %
		鉄 道 車 輛	石	八 一 %
		各 種 美 術 類	其 の 他 金 屬 機 物	× 三 %
			非 鉄 金 屬	× 〇 %
			船	九 九 %
			雜 貨 其 の 他	× 七 %

註 Ⅲ 非ドル國物産とは非ドル國向輸出比率が当該品目の輸出総額中×〇%以上を占めるもの

Ⅱ ドル國物産とはドル國向輸出比率が当該品目の輸出総額中×〇%以上を占めるもの

Ⅰ 中五物産とは非ドル國産はドル國に對する依存度が×〇%（四〇%以内）のもの

以上の二つの表を組合すことによつて、協定貿易の推進又はドル國への輸入力の増強等に対する輸出品目の在り方について種々の示唆を窺ふことが出来るであろう。

ニ 自主経済達成の視長より見たる貿易構成の諸問題

以上、昭和二十四年一月—二月の貿易実績を分析した結果、自主経済の達成という観点から特に問題となる長はドル國に於ける鉄鋼輸入と、協定貿易の比重

が未だ余り高くないことの二長である。勿論これは日援助の減じている役割が非常に大きいことや、協定貿易が本格的にはじけり現在の昭和三四年の九月以降であつたことなどが大きく影響していろいろわけであるが、兎も角、斯る現象から出発してドルの収支をバランスさせ、現在協定貿易を推進して貿易の絶対量を拡大するに以外にわれわれが一人立ちし得る方途はないわけである。

ではまずドルの収支をバランスさせるには如何なる努力が必要であろうか。第一は現在ドル圏（主として米圏）より輸入している物資の中、ドル圏以外に採換可能なものをできるだけ振替える努力が必要である。昭和二四年にかけるドル圏（主として米圏）よりの輸入物資の中、主なものに食糧（主として小麦）、石油、化学製品類、纖維原料（主として棉花）、非金屬鉱物（主として石灰、燐酸石）があるが、この中石油と化学製品類と物理的に取換不可能と見られる物資は除外するとしても小麦、棉花、石灰又は鉄鉱石等については相当程度取換が可能と思われる。すなわち、食糧についてはドルマ、シヤム等を中心として年間約一〇〇万屯、棉花についてはバキスタンの、エジプト、ブラジル等を中心として一〇〇万屯以内、石

炭については中国、印洋を中心として約一〇〇万屯程度の取換が可能であると思われる。しかし、これを極端の面からみると、食糧については現在の米国の小麦の産当り（エフ極格九五（一〇〇年）一小麦協定は参加した場合にハニ年）がシヤム米の産当り（エフ極格一二五年）はほぼ上り、棉花については一歳当り軍極は米國一七〇年に対してブラジル一八〇年、バキスタン一九五、エジプト二六五等といった割合で反つて割高になる場合も多し、これは日本船の航路等の他による運賃又は諸手ヤージの節約によつて相当程度は打開出来る向題であろう。また後述する將來に於ける輸出産業の大宗なるべき機械工業の基礎となるべき製鉄用の鉄鉱石、石灰については買付市場を米國から東亞諸地域に振り替えることによる輸入軍極の節約は顯著なものと思われる。何れにしてもこれら主要原材料のドル圏からの取換については今後とも持統的努力が必要であろう。

第二はドル圏に対する輸出をできるだけ振替えることが必要である。ドル圏に対する輸出品目の大宗は何といつても生糸及び絹織物であるが、その見通しが余り明るくない現在、第四表に示したドル圏物資については全面的に輸出促進の努力を盡すに

とが必要であるが、一見しては、国内生産品、繊維以外の軽工業品が主
 である。生産能力は推してその程度大幅の伸張は期待し得ないであろう。

結局ドル不足の克服のための以上の方法が効を奏したとしても、一二年の向に
 ドルの不足額を二億米以上に切下げることが、国民生活は国内産業に重大な影響
 を与えることなくしては不可能であり、こゝにも米国の東南アジア開発計画の進
 行に対する強い希望が生れて来るわけである。東南アジアの開發計画がどの程度
 の規模をとるか、米国の政策決定にまつ以外にないが、若しこれが実行に移されれば
 我國に与える影響を考えると、鋼材、セメント、等の建設用基礎材料、鉄道関係器
 材、各種工場プラントに対する需要となつて現れる公算が大である。

勿論、現在の技術水準やコスト高昇を考えると、日本に対してどの程度の需要が
 生ずるかは大いに疑問であるが、基礎製鉄原料の輸入先を東亞地域に振り替えるこ
 と、操業度の向上、等によつてコストの切下げの果をあげ、併せて技術の向上にも
 できるだけの努力を盡せば、欧米諸国に比べて資源的有利な面はより、緊密であ
 るから他国との競争についても必ずしも非難的ではあるまい。

つぎに協定貿易拡大のための努力は如何なる方向にむけられるべきかについて考
 討しよう。協定貿易方式の發展性如何については他の節において詳しく触れてい
 るので、ここでは消器して輸出品目の構成のみについてみると、生糸を除いた繊維製品
 と機械類及び鉄、非鉄製品が金額においても比率においても圧倒的に大きい。

表五 協定国間における輸出品目の構成

品目	金額(千円)	構成比
輸出総額	三三一八一六	一〇〇.〇
繊維類	二一八四〇二	六五四
機械類	三三、三〇二	一〇.〇
鉄非鉄製品	三〇、五三四	九.二
其の他	四九、六七八	一五.四

すなわち、繊維類の比重は圧倒的に大きく、遠かに下つて機械類と鉄及び非鉄金
 属製品が一〇%内外の比重を占めているが、最近の市場の状況より推して今後の伸
 張可能性は繊維よりも機械及び鉄非鉄製品の方がはるかに大きい。その主たる原因

は、協定諸国の中特に大きな地位を占めるインド、インドネシヤ、シヤム、ビルマ等が消費材について自給の態勢を獨力に備えており、従って消費材中の大衆たる織類の需要は相対的に減少し、工場建設のための基礎資材の需要が増大する傾向にあるためである。

以上、自主経済達成のために要請される貿易の構改について種々検討してきたが、何れの場合についても機械類及び鉄、非鉄、セメント等の基礎原料の輸出の増進なくしてはその目標には到達できないという結論に至る。例へば、機械工業及鉄鋼業は、國際的存比較の観点に立つてみれば、コスト及び技術の面において最も大きな問題を呈する産業である。従って今後の國內産業政策も、特にこの点に重点を指向することを忘れてはならない。

三 対日援助と資本蓄積

米國からわが國に与えられている援助のうち一つの大きな機能は、その見送り勘定として設定されている見送資金が國內の資本蓄積にとって非常に大きな役割りを果していることである。見送資金は昭和二十四年四月一日附幣司令部覚書に從

(40)

つて制定された米國対日援助見送資金特別会計法（昭和二十四年四月三日法律第四〇号）によつて昭和二十四年度より積立てられることになつた。見送資金設定の目的は、オ一に日本における財政均衡問題の課題に対し追加的の道具とすること、オ二に承認された「公債の計画」のための資本支出に利用出来るような資金源とすること、オ三に國の債務の償還を容易にする手段とすることなどであり、従つてその運用又は使用等については見送資金特別会計法第四條に「援助資金は通貨及び財政の安定、輸出の促進その他経済の再建に必要な使途に充てるため國債に運用し、若しくは國債の償還に用する費途に使用し、又は公私企業に対する資金に使用する事ができる」と規定されている。

さて、昭和二十四年度について見送資金の運用をみると総額（予算額）一五〇、八三〇百万円のうち四一%の大ニ四六七百万円が債務償還に、一八%の二七、〇〇〇百万円が國庫電氣通信に対する貸付に、二五%の三七、五三三百万円が公私企業に対する投資に使用され、一六%の二五、八三〇百万円が本年度に繰越されることになつてい

人 債務償還——見込資金特別会計による本年度の債務償還は約六、二五億円である。が二月末までに償還の終了したものは、國庫金債（政府出資交付公債五分半利）や三回國庫債券（約四八二億圓）であり、予算計上額の約七〇％に当たっている。これを月別にみれば次のようである。

十一月	八、四四七、七〇〇
十二月	三、〇四九、五八〇
一月	二、五五九、〇〇〇
二月	六、六四五、〇〇〇
三月	六、六四五、〇〇〇
四月	六、六四五、〇〇〇
五月	六、六四五、〇〇〇
六月	六、六四五、〇〇〇
七月	六、六四五、〇〇〇
八月	六、六四五、〇〇〇
九月	六、六四五、〇〇〇

2. 國鉄貸付および電通公債引受——さきに述べた如く見込資金才出面における本項目は総額の一八％を占め、他項目に平先して投資されている。これを月別にみれば次のようである。

七月	六、九九一、〇〇〇	(内) 國鉄	五、六一九、〇〇〇
八月	五、七六二、〇〇〇		三、一六五、〇〇〇
九月	五、六一〇、〇〇〇		一、二九八、〇〇〇
十月	五、六一〇、〇〇〇		一、二九八、〇〇〇
十一月	五、六一〇、〇〇〇		一、二九八、〇〇〇
十二月	五、六一〇、〇〇〇		一、二九八、〇〇〇
一月	五、六一〇、〇〇〇		一、二九八、〇〇〇
二月	五、六一〇、〇〇〇	(内) 電通	二、〇五〇、〇〇〇
合計	二、六八三、〇〇〇	(予算額)	二、七〇〇、〇〇〇

3. 私企業投融資——私企業に対する解除申請は金利の未決定、申請書類作成の繁雑さ等によつて出足が鈍り、七月一八日に至つて才一障として松尾総業が白銀へ解除申請を申出た。（十月十五日大蔵省より取下げ）。続いて同月三〇日には日空の申請があつた。しかもこの日空の一億七千万圓が解除支出されたのは約二ヶ月後の九月二十九日であつた。私企業への投融資を月別に整理すると次の通りである。

九月	一件	一七〇百万円
十一月	〇	二一九〇

一月 一九件
二月 七〇件
合計 一〇八件

さて次に以上のような見送資金の運用を幾分立ち入って考察してみよう。

元来甚微の簿籍は後述資本主義国であつた上に戦火によつて大きな損害を受け、しかも質的にみて国際水準よりも遙かに立ち遅れてしまつた日本経済はその存立をかけた急速にしかも極大巨資本蓄積を行わなければならぬ。そして、そのような要求を著す上に見送資金は現在大きな役割を果しているのである。ホーにその量において見送資金は大きく日比量を増している。財政投資と民間投資との双方を含めた全設備投資のうち見送資金からの設備投資の占める比率は、昭和二四年度において二・二五%を占め、二五年度においても二・一五%を占めるものと予想される。これを(一)公共事業費、(二)金融機関からの設備資金の貸出し、(三)証券投資や社内留保などの所謂直接投資の三者と比較してみると、二四年度においては(一)二六・八四%、(二)二・三八%、(三)三・九二%、二五年度においては、(一)二六・七四%、(二)二・五五%、(三)二・三三%となつていて、三者をそれぞれ見送資金とほゞ同一の比率を占めてゐるに過ぎない。元来、発達した資本主義経済においては設備資金の調達は主としてホーの直接投資によつて行われ、わが国のように産業資本の甚微の脆弱な後進国では国家資本と金融資本との比重が相対的に強く、(三)に等げた三者が設備資金供給の三大源泉であつたことを思えば、設備投資の中における見送資金の役割りは自から明らかであろう。

更に、計数的に掴むことは不可能であるが、見送資金のうち債務償還に当てられた部分の幾何かは金融機関から設備資金として貸出されてゐるわけであるから、見送資金の果してゐる役割はより以上に評価されるべきではないであらう。

種別	二四年度		二五年度	
	金額	% (a)	金額	% (a)
一 一般企業	649	85.51	1,012	62.56
公共事業	625	82.35	990	66.18
国家資本所建設費	13	17.1	10	6.7
				27.4
				27

(単位億円)

本
年
報
件
数
の
場
合

取組・指合費	11	12	0.80	0.33
特別会計	94	133	889	359
国府林野振興の経費	9	41	274	111
郵政省営地振興費	12	15	100	0.41
電報通信業投資費	73	77	515	208
内務省内務振興費	16	351	23,466	948
国債建設投資費	16	200	13,377	540
住宅金融公庫貸出	0	151	10,097	408
小計	259	1470	100,000	4041
国民	498	835	5839	2256
金融	230	400	2545	1081
株式	225	400	2845	1081
株式	43	35	249	0.94
同	557	571	4061	1542

投資	証券	株式	株式	株式	株式	株式
証券	352	3336	1511	276	1963	746
株式	550	3318	1503	268	1906	224
株式	2	0.18	0.09	8	0.57	0.22
株式	205	1944	880	295	2498	797
小計	1055	10000	4530	4416	10000	3798
見込資金	270	5455	1159	400	5410	1081
公取	225	4545	966	400	5400	1081
小計	495	10000	2125	800	10000	2162
合計	2329	—	100,000	3702	—	100,000

- 証(1) 新次投資は、財政支出中の建設的を部分としてツツツツしたものである。
- (2) 民間投資の計数は財政金融局作成の「総合資金需給見込」25年2月20日案によつた。
- (3) 右のうち(2)は各大部分を100とする場合の比率、(1)は合計を100とする場合の比率である。

オニにその方法において、見送資金はインフレーションによらざる強制貯蓄である。資本蓄積の源泉は一般に貯蓄と租税によって賄われるが、尤大なる資本蓄積を急速に行う場合、貯蓄と租税によって賄いえないときは強制貯蓄という方法がとられる。そして強制貯蓄の手段として多く用いられるものは、例えはわが国の戦時および戦後経済にみられたようなインフレーションである。ところが見送資金は援助物資の松下代金を積立てたものであり、国民所得を吸上げたものであるから、むしろデフレ効果を待つ強制貯蓄といふことができる。すなわち、貨幣数量説的を考へ方からすれば積立てられた見送資金が全額放出されるだけでなく、他に松下代金を援助物資に相当するだけの通貨増発が行われることによつてそのデフレ効果が相殺されることにはなるのである。このように見送資金はどの量と調達方法との二つの面において国内資本蓄積の上に大きな意義を帯びているのであるが、そのうち公私企業に対する投融資に当てられた部分は、対日援助が打切りれると否とに拘らず政府の債権として残るのであるから、将来それらが回収される後は再び政府が任意に使用することが出来るであらう。

昭和24年度対日援助見送資金運用状況

(昭和25.2.28)

(単位千円)

項目	予算額(A)	計画承認額(B)	運用額(C)	%	%	期末残
1. 資金	150,000,000		122,950,819	81.97		27,049,181
貿易特別会計収入	44,942,000		11,926,540	26.54		29,497,460
運用利息収入	140,600		1,024,279	0.74		381,721
II 運用及費用	150,830,000	108,431,064	88,701,198	58.88		
1. 公企業投資	27,000,000	27,000,000	24,521,000	89.37		169,000
国	15,000,000	15,000,000	15,000,000	100.00		0
電	12,000,000	12,000,000	11,831,000	98.59		169,000
2. 私企業投資		18,364,064	14,503,198			
電力		6,712,711	5,698,222			
海運		8,548,967	5,449,880			
石炭		1,882,386	1,284,597			

肥料	100,000	100,000	76.01	29,710.181
中小企业	300,000	32,500		
債	1,417,305	1,417,305		
債券償還費	62,467,000	48,167,000		
税金	31,449,621	31,449,621		
1. 倉庫証券保料高	30,802,465	30,802,465		
2. 報時資金預金	842,156	842,156		
I = II + III	150,530,000	120,950,819	80.19	29,879,181

註 対と内訳との数字の差は四捨五入の関係による。

償還期別交付状況

(私企業)

(単位千円)

期限別	償還期		金額	業種別	備考
	据置年度	償還開始年			
30年	5年	1955	5,128,072	電力(日電)	
25	3	1953	270,850	"(電通公社)	
15	3	1953	3,006,930	海運(才五次造船貨物船)	
13	3	1953	1,056,000	"(海運)	
10	1	1951	957,916	海運(日鉄北九州・日鋼信川崎)	昭和3年以前 4年目の交付済
-	3	1953	1,167,950	海運(A型教練船)	
-	1	1951	58,000	石炭(長崎線)	
-	1	1951	1,310,681	"(北米三度)	
9	-	1951	218,000	海運(船費油糧船)	

年	1951	1951	1951
7	1	560,689	石炭(積蓄) 炭鋼(母体入替)
6	1	161,000	石炭(大平洋炭産)
5	2	254,510	化学肥料(三冠) 石炭(大平洋炭産)
2	1	300,000	電力(日産)
1954年~5年	1	44,700	中小企業
合計		1,414,953.98	

(公企業)

(単位十円)

年度	金額	業種別
1954. 3. /	1,372,000	電通建設公債
" 9. /	2,409,000	"
1955. 3. /	2,050,000	"
1954.	15,000,000	国債
合計	26,831,000	

それではこのように大きな作用を営んでいる見込資金が対日援助の打切りに伴って消滅した場合、資本蓄積の課題は如何に解決されるべきであろうか。

前にも述べたように全設備投資中の約二〇%を占め、それが強い公益的性格を保っている部分の消滅は資本蓄積を難行に陥れる危険がある。しかも、資本蓄積を怠ることは経済再建の立前かり許されないことである。そして見込資金の消滅によって生じた穴を埋めるには財政投資と民間投資との何れかを増加せしめる以外にはない。しかし、財政投資を二倍近くに増加することは極めて困難であり、例えは終戦処理費の減廃などの如き大巾の経費節減が行われないう限りは増税によらざるを得ないが、現在の税負担の状況を考えるとそれは困難であるばかりでなく望ましくもないことであろう。次に民間投資による場合を考えてみるとそれは金融機関からの貸出しにしても直接投資にしても貯蓄の増大を前提としなければならず、それは所得を不変とすれば貯蓄性向の増大は消費性向の減少という方法によらざるを得ない。そしてこの場合やはり消費水準乃至生活水準の低下という望ましからざる壁に突き当らざるをえないのである。即ち、所得の増大を考えない場合は、財政投資

についても民間投資についても生活水準の圧迫による資本蓄積率の上昇という結論が導かれて来てしまふ。

勿論、貿易の振興を契機とする国民所得の増大によつて、そのような資本蓄積率の上昇を経なくとも所要の資本蓄積を可能ならしめることも考えることは出来る。しかし、現在日本経済のおかれている環境を考えるならば、この方途のみに頼ることの出来ないのはむしろ自明のことであろう。

さて、残された方法の一つとして次の事が考えられる。前に述べた様に投資された見返資金は撥入打切りの如何に拘らず、国家の債権として残るのであるから、それが回収された後はそれを国家の手によつて回転して資本蓄積の手段とすることが出来るわけである。そしてそのために一つの金庫を設立することも考えられよう。そのためには今後の見返資金の使途のうち投資資金を出来るだけ増加することが現在のみならず将来の資本蓄積のためにも望ましいことであろう。

昭和二十五年四月三日

昭和二十四年における貿易の構成と
見返り資金の積立運用状況

(工才入作業中間報告 其の一)
経済安定本部経済計画室

一 昭和二十四年における貿易の構造

昭和二十四年における貿易の構造を、自立経済の達成という観点に立って分析してみよう。この場合、現在の貿易がドルとポンドの交換の不自由という情勢の下に、あるいは協定貿易を中軸として推進され、且つ一方において莫大を頭にはする米国の対日援助費に支えられているという事情から推して、特に左の四長は重点を置いて分析を進めることが必要である。

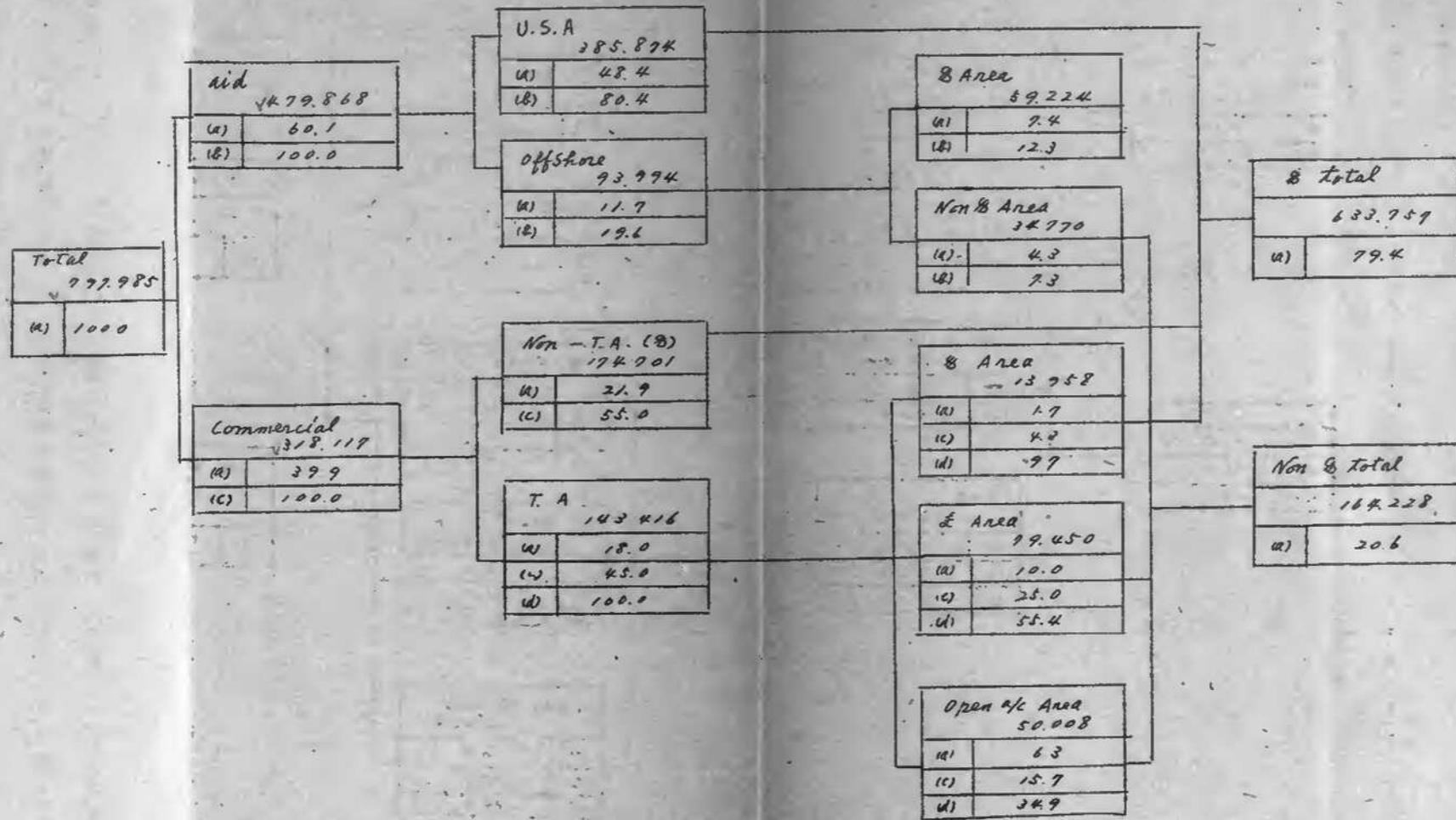
(1) 昭和二十四年の貿易において、協定貿易は如何なる比重を占めていたか。
(2) 協定貿易の中、ドル圏、ポンド圏、オーストラリアカウント圏の比重は夫々の程度であったか。

(3) 貿易総額の中、ドルの占める割合はどの程度であったか。
(4) 特に輸入において対日援助費の占める割合はどの程度であったか。

(5) 輸入の構造について
これはまず輸入の構造について分析してみよう。昭和二十四年一月から一月までの輸入実績を前述の諸長は考慮を排しつつ整理してかるとつぎの通りである。

25
4.3
2-7

第一表 昭和24年1月～11月輸入実績の資金別、協定別構成



裏面白紙

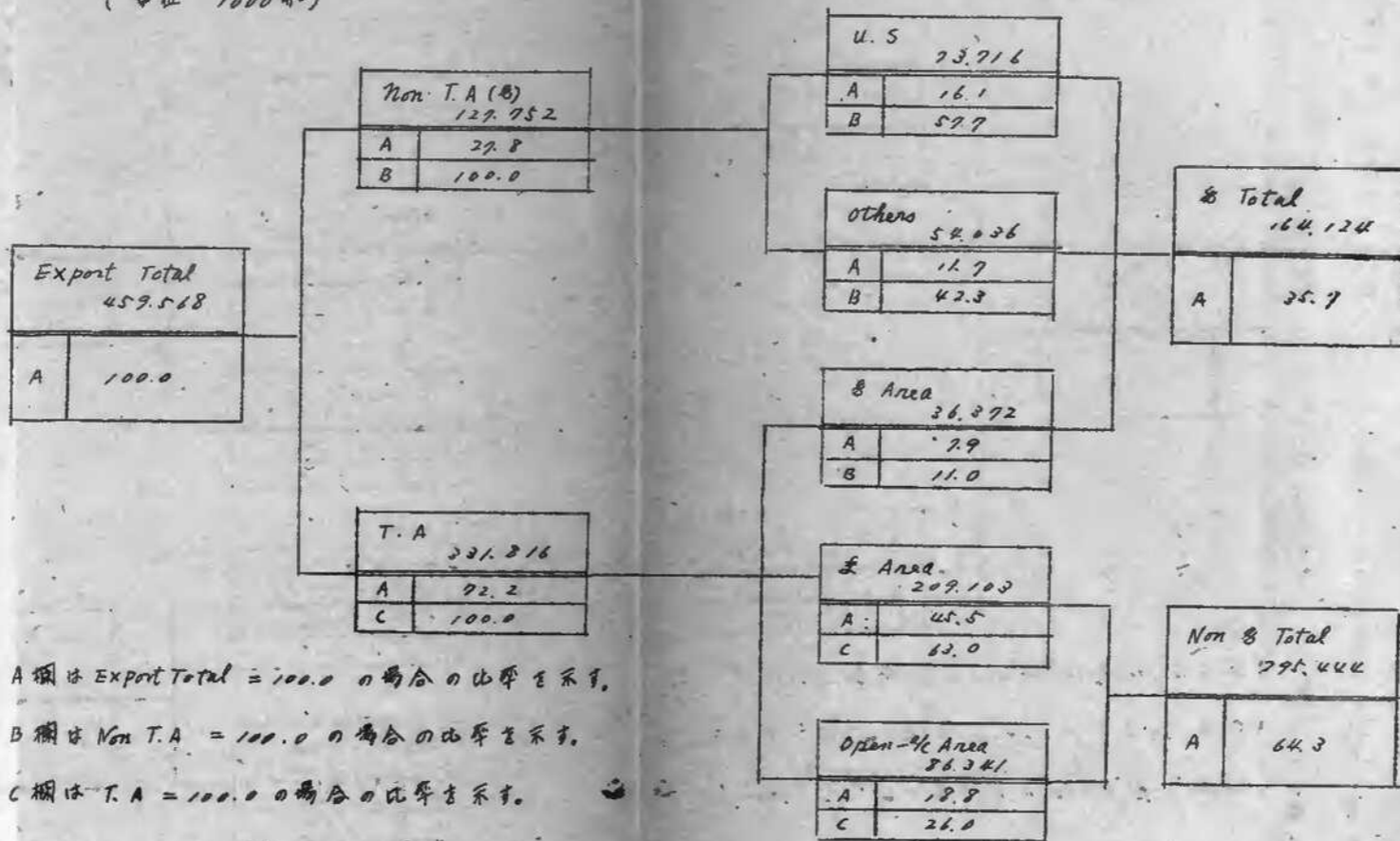
これによると、まず協定貿易の占める割合は輸入総額の僅かに一八%で、援助資金を除いた商業動向の中においても、非協定貿易の占める割合より下廻り四五%と占めている。金額については、約一億四〇〇〇万ドルに達する協定貿易に對する輸出実績三億三〇〇〇万ドルに比較して約一億九〇〇〇万ドル不足するに過ぎない。若し輸出額に依りて輸入が行われれば、その比重は幾分向上するに過ぎない。しかし、現実において二の程度の輸入しか行われなかつたという事實は、協定貿易運営の不備、あるいは時期尚早を考慮するとしても、当面輸入に對する協定貿易の占める比重はきわめて小さいものであると言ふことが出来る。つぎに協定貿易中の各国の割合はドル圏一〇%、ポンド圏五五%、オーガン、アカウント圏三五%となつており、ポンド圏の占める比重は圧倒的に大きい。最近のポンド協定運営の不円滑という事態と関係せしめて考へる場合、協定貿易の將來は極めて大きな問題を投げかけているとみるべきである。つぎに輸入総額中ドルの占める割合はついでとみると、協定貿易のドル圏をも含めたドルの総額は約六億三〇〇〇万ドルに上り総額の約八〇%を占めている。

二の中から協定貿易のドル圏を除いてみても約六億二〇〇〇万ドル（総額の七八%）で、ドルに對する依存度は予想外に大きいと言へる。自五経済の達成ということは、現実には計日援助費の打ち切りということもあり、ドル圏に對する輸出が計日援助費相当額まで伸びない限りドル圏よりの離脱を意味するものがあることを考慮すると、ドル圏依存度八〇%という事實はきわめて深刻な問題を孕んでいると言ふべきである。

最後に計日援助費の残存率に對して見よう。計日援助費の総額は約四億八〇〇〇万ドルで輸入総額の約六〇%を占める。二の中米圏からの買付は援助費の約八〇%に当る約三億八〇〇〇万ドルに用いられ、残りの二〇%に当る約一億千は、米圏以外からの買付に用いられている。圏外買付約一億千はドル不足に悩む諸地域のドル不足を幾分緩和し、我國の輸出の振興にも或る程度役立っているわけであるが、援助資金による米圏よりの買付約三億八〇〇〇万ドルは、商業動向による米圏よりの輸入約一億三〇〇〇万ドルと合せて米圏への依存度を金額にして約五億一〇〇〇万ドル（輸入総額に對する比率六五%）という莫大なものにしている。

第二表 昭和24年1月~11月輸出実績の資金別、協定別構成

No	0	係	率
(単位 1000円)			



- (注) (1) A欄は Export Total = 100.0 の場合の比率を示す。
 (2) B欄は Non T.A = 100.0 の場合の比率を示す。
 (3) C欄は T.A = 100.0 の場合の比率を示す。

(12)

裏面白紙

この中、主たる品目は食糧、石油、化学製品類、纖維原料（主として棉花）、非
金屬礦物類であるが、ニルリの多量による物資の買付先を米国以外の主として協
定貿易国に転換するにしかかざるか否かが、自立経済達成を考へる場合のキーポ
イントと言ふことかすまざるであらう。

(2) 輸出の構造について

つぎに輸出の構造を分析してみよう。昭和二十四年一月から一月までの輸出実
績を輸入の場合と同様の方法を以て整理するとつぎの通りである。

(前頁、第二表)

ニルリによると、まず協定貿易の占める割合は輸出総額の約70%を占領して
約三億三〇〇〇万ドルに上り、その中ポンド圏の占める割合は六三%、オーストラ
リアカクント圏は六%、ドル圏一%となつてゐる。従つて前述の時期のなす米
の他を考慮しても輸入の場合に比較してその占める割合は圧倒的に大きい。同
様にして数量単位の上で対日援助に相当する輸出を、將來に主としてこの協定貿
易国に対する輸出、殊にその大氣なるポンド圏に対する輸出に歸せられるかどう

かという点に訴ふるべきであらう。

つぎに輸出総額中に占めるドルの比重についてみよう。輸入の場合には全く逆
に、非ドル圏に対する輸出は、輸出総額の約六四%、金額にして約三億ドルにあ
るが、ニルリに対してドル圏に対する輸出は約三六%、一億六〇〇〇万ドルにすぎな
い。二の中より、協定国のドル圏を除くと、金額としては約一億三〇〇〇万ドル、
輸出総額に對する比率は僅かに二八%といふことになる。ニルを協定国を除いた
ドル圏よりの輸入は億二〇〇〇万ドルと比較すると実に五億ドル弱の入超を示すわけ
である。將來の援助の削減は備えて、食糧其の他、従来援助資金を買付けていた
諸物資の買付市場をドル圏以外に転換する努力が、現在、精力的に進められてお
り、また為替関係その他の影響で最近ドル圏に對する輸出がポンド圏に對する輸
出よりも相対的に伸張してゐることを弄かり考へて、昭和二十四年の貿易実績は現
在莫大にドル圏に對する入超の傾向は、今後相当大幅に修正されるであらうが、
ドルとポンドの交換が不自由である限り、二、に示される基本的事態を克服す
ることは極めて難事であらう。

つぎは輸出の構成をより明かにするにためは輸出全品目を綿糸及び絹製品以下雑貨に至るまで二四品目に分類し協定国又は非協定国に付する比重の大小によつて協定国物資又は非協定国物資に分け、同様はドル国物資、非ドル国物資に分けると次のようである。

表三 各輸出品目に関する協定国又は非協定国依存度

協定国物資	品目	依存度	非協定国物資			
			品目	依存度		
綿糸及絹製品	人絹スフ糸及同製品 毛糸及同製品	九五%	生糸及絹製品	六五%		
					食糧	其の他雑貨
竹、木、草及同製品		七三%				

(5)

紙及紙製品	九八%	化学品及医薬品 陶磁器	毛皮、皮革及同製品	八〇%
ゴム及ゴム製品	九二%			
セメント	八一%	鉄及同製品	板硝子及同製品	七九%
石炭	九七%			
其の他非金属物	六六%	鉄道車輛		
非鉄金属	六一%			
煤油、タービンボイラー	九八%			
各種雑貨類	七一%			

其の他 機械	76%	船	99%
		陸貨 其の他	1%

① 協定国物産とは協定国向輸出比率が当該品目の輸出総額中40%以上を占めるもの

② 非協定国物産とは非協定国向輸出比率が当該品目の輸出総額中40%以上を占めるもの

③ 中立物産とは協定国或は非協定国に對する依存度が40%（以下）以内のもの

第四表 各輸出品目に関する非ドル圏又はドル圏依存度

非ドル物産		中立物産		ドル物産	
品目	依存度	品目	依存度	品目	依存度
絹糸及絹製品	89%	食糧		生糸及絹製品	65%
人絹スワカ及同製品	91%			其の他 繊維	70%
毛糸及毛織品	72%	ゴム及ゴム製品		竹木等及同製品	65%
紙及紙製品	73%			毛皮皮革及同製品	81%
				化学品及医薬品	66%

英の他 機械	鐵鋼、カービシ、ホイラー	鉄及同製品	石	炭	陶磁	硝子及同製品	その他
八九%	八二%	鉄道車輛 各種天物類	非鉄金屬	其の他金屬雜物	六三%	八一%	七三%
					六〇%	九九%	六七%

註 Ⅲ 非ドル國物賣とは非ドル國向輸出比平が当該品目の輸出総額中六〇%以上を占めるもの

Ⅱ 非ドル國物賣とはドル國向輸出比平が当該品目の輸出総額中六〇%以上を占めるもの

Ⅰ 中五物賣とは非ドル國又はドル國に対する依存度が六〇%以内のもの

以上の二つの表を組合すことによつて、協定貿易の進捗及びドル國からの輸入力の増強等に対する輸出品目の在り方について種々の不岐を統括することになるやうである。

ニ 自主経済達成の現狀よりその貿易構成の諸問題

以上、昭和二十四年一月一—二月の貿易実績を分析し、結果、自主経済の達成といふ観点から特に向銀とある長はドル國は外ける種類を八割と、協定貿易の比重

が未だ余り高くないこと、三島がある。勿論これは対日援助の演じている役割が非常に大きいことや、協定貿易が本格的にはじまり現在の昭和二年の九月以降であつたことなどが大きく影響しているわけであるが、兎も前、斯る現象から出発してドルの収支をバランスさせ、また協定貿易を推進して貿易の絶対量を拡大するにと以外にわれわれが一人立ちし得る方途はないわけである。

ではまずドルの収支をバランスさせるための如何なる努力が必要であろうか。

第一は現在ドル圏（主として米英）より輸入している物資の中、ドル圏以外に類

似可能なものをできるだけ取り換へる努力が必要である。昭和二年はかかるドル圏

（主として米英）よりの輸入物資の中、主なものに食糧（主として小麦）、石油、

化学製品類、纖維原料（主として棉花）、非金屬礦物（主として石灰、燐酸石）等

があるが、二の中石油と化学製品類は物理的に取換不可能と見られる物資は除外する

としても小麦、棉花、石灰等は鉄鋼石等については相当程度取換が可能と思われる

が、すなわち、食糧についてはピルマ、シヤム等を中心として平均約一〇〇万屯、

棉花についてはバキスタン、エジプト、パラジル等を中心として六〇万屯内外、石

油

炭については中国、佛印等を中心として約一〇〇万屯程度の取換が可能であるといわれる。しかし、これら価格の面からみると、食糧については現在の米国の小麦の定当り（EF価格九五）一〇〇万（小麦協定）が加し、場合によっては八二万（小麦）がシヤム米の定当り（EF価格一二五）ははね上り、棉花については一歳当り單価は米国の棉一七〇万に對してパラジル一八〇万、バキスタン一九五万、エジプト二六五万といつた割合を反つて割高になる場合も多りが、これは日本船の航路其の他による運賃或は諸手ヤードの節約によつて相当程度は打開出来る向題であろう。また後に述べる將來における輸出産業の大宗たるべき機械工業の資材となるべき鉄鋼、鉄板、石灰、石灰については買付市場を米英から東亞諸地域に振り替へることによる輸入単価の節約は顕著なものと思われる。何れにしてもこれら主要原料のドル圏からの取換については今後とも持統的努力が必要であろう。

第二はドル圏に對する輸出をできるだけ大振興することが必要である。ドル圏に對する輸出品目の大宗は何といつても米、大豆、絹織物であるが、その見直しが必要である。第四は現在、第四表に示したドル圏物資については全面的に輸出促進の努力を盡すこ

と必要であるが、一見しては、印南新産品、織物以外の轻工品が主
 である。生産能力より推してその生産幅の伸張は期待すべきであろう。

結局トル不足の克服のための以上の方法が効を奏したとしても、一二年の間に
 ドルの不足額を二億半以上に切下げることが、国民生活は国内産業に重大な影響
 を与えることなくしては不可能であり、こゝにも米国の東南アジア開発計画の進
 行に対する強い希望が生れて来るわけである。東南アジアの開発計画がどの程度の
 規模をとるかば米国の政策決定にまつ以外にないが、若しこれが実行に移されれば
 我国に与える影響を考えると、鋼材、セメント、肥料、造船用基礎材料、鉄道関係器
材、各種工場アセントに対する需要となつて現れる公算が大である。

勿論、現在の技術水準やコスト高昇を考えると、日本に対してどの程度の需要が
 生ずるかは大いに疑問であるが、基礎製鉄原料の輸入先を東亞地域に振り替えるこ
 と、操業度の向上、昇によつてコストの低下の果をあげ、併せて技術の向上にも
 できるだけの努力を盡せば、欧米諸国に比べて資金的ななかりはより緊密であ
 るから他国との競争についても必ずしも非視的ではあるまい。

つぎに協定貿易拡大のための努力は如何なる方向にむけられるべきかについて考
 討しよう。協定貿易方式の発展性如何については他の節において詳しく触れている
 ので、ここでは消去して輸出品目の構成のみについてみると、生糸を除いた織維製品
 と機械類及び鉄、非鉄製品が金額においても比率においても圧倒的に大きい。

表五 協定国間における輸出品目の構成

品目	金額 (千円)	構成比
輸出総額	331,826	100.0
織維類	218,402	65.8
機械類	33,302	10.0
鉄非鉄製品	30,534	9.2
其の他	49,678	15.0

すなわち、織維類の比重は圧倒的に大きく、遠かに下つて機械類と鉄及び非鉄金
 属製品が10%内外の比重を占めているが、最近の市場の状況より推して今後の傾
 向可能性は織維よりも機械及び鉄非鉄製品の方がはるかに大きい。その主たる原因

は、協定諸国の中特に大きな地位を占めるインド、インドネシア、シヤム、ビルマ
等が消費材について自給の態勢を獨力に備えており、従つて消費材中の大宗たる鐵
産類の需要は相対的に減少し、工場建設のための基礎資材の需要が増大する傾向に
あるためである。

以上、自主経済建設のために要請される貿易の構成について種々検討してきたが
、何れの場合についても機械類及び鉄、非鉄、セメント等の基礎資材の輸出の増進
なくしてはその目標には到達できないという結論に至る。例へば、機械工業及鉄鋼
業は、國際的な比較の観点に立つてみれば、コスト及び技術の面において最も大
きな問題を呈する産業である。従つて今後の國內産業対策も、特にこの点に重点を
指向することを忘れてはならない。

三 対日振替と資本蓄積

米回からわが國に与えられている振替のうち一つの大きな機能は、その見送り勘
定として設定されている見送資金が國內の資本蓄積にとって非常に大きな役割りを
果していることである。見送資金は昭和二年四月一日附総司令部覚書に從

(6)

つて制定された米回対日振替見送資金特別会計法（昭和二年四月三日法律第四
〇号）によつて昭和二四年度より積立てられることになつた。見送資金設定の目的
は、オ一に日本における財政均衡列道の課題に対し追加的な道具とすること、オ二
に承認された「公共の計画」のための資本支出に利用出来るよう資金源とするこ
と、オ三に國の債務の償還を容易にする手段とすることなどであり、従つてその運
用又は使用等については見送資金特別会計法第四條に、「振替資金は通貨及び財政
の安定、輸出の促進その他経済の再建に必要な使途に充てるため國債に運用し、若
しくは國債の積還に用する費途に使用し、又は公私企業に対する資金に使用する事
ができない」と規定されている。

さて、昭和二四年度について見送資金の運用をみると総額（予算額）一五〇、八三〇
百万円のうち四一％の六二、四六七百万円が債務償還に、一八％の二七、〇〇〇百万円
が國鉄電氣通信に対する貸付に、二五％の三七、五三三百万円が公私企業に対する投
融資に使用され、一六％の二三、八三〇百万円が次年度に繰越されることに●●い
る。

債務償還——見返資金并別会計による本年度の債務償還は約六・二五億円であるが二月末までに償還の終了したものは復金債（政府出資交付公債五分半利才三回回庫債券）約四・八二億円であり、予算計上額の約七七％に当たっている。これを月別にみれば次のようである。

十一月	八、四六七、〇〇〇円
十二月	三〇、四九五、八〇〇
一月	二五、五九〇、〇〇〇
二月	六、六四五、〇〇〇

2. 国鉄貸付および電通公債引受——さきに述べた如く見返資金才出面における本項目は総額の一八％を占め、他項目に先立って投融資されている。これを月別にみれば次のようである。

七月	六、九九一、〇〇〇円 (内国鉄 五、六一九、〇〇〇円)
八月	五、七六二、〇〇〇 (〃 三、一六五、〇〇〇)
九月	五、六一〇、〇〇〇 (〃 一、二九八、〇〇〇)

十一月	二、五七四、〇〇〇 (〃 二、五七四、〇〇〇)
十二月	一、二七一、〇〇〇 (〃 一、二七一、〇〇〇)
一月	二、五七三、〇〇〇 (〃 一、〇七三、〇〇〇)
二月	三、〇五〇、〇〇〇 (内電通 三、〇五〇、〇〇〇)
合計	二、六八三、〇〇〇 (予算額 二、七〇〇、〇〇〇)

3. 私企業投融資——私企業に対する解除申請は金利の未決定、申請書類作成の繁雑さ等によつて出足が鈍り、七月一八日に至つて第一陣として松尾組業が日銀へ解除申請を申出た。（十月十五日大蔵省より取下げ）。続いて同月三〇日には日空の申請があつた。しかもこの日空の一億七千万円が解除支出されたのは約二ヶ月後の九月二九日であつた。私企業への投融資を月別に整理すると次の通りである。

九月	一件 一七〇百万円
十一月	〃 二一九、〇〇〇
十二月	一七件 五、〇一九、〇〇〇

一月 一九件 一八三八
 二月 七〇件 七二五七
 合計 一〇八件 一四五〇三

さて次に以上のようない見込資金の運用を幾分立ち入って考察してみよう。

元来若輩の毒弱は後進資本主義国であつた上に戦火によつて大きな損害を受け、しかも質的にみて国際水準よりも遙かに立ち遅れてしまつた日本経済はその存立をかけた急速にしかも極大巨資本蓄積を行わなければならぬ。そして、そのような要求を満す上に、見込資金は現在大きな役割を果しているのである。ホーにその量において見込資金は大きな比重を占めてゐる。財政投資と民間投資との双方を含めて全設備投資のうち見込資金からの設備投資の占める比率は、昭和二四年度において二一・二五%を占め、二五年度においても二一・ス二%を占めるものと予想される。これを(一)公事業費、(二)金融機関からの設備資金の貸出し、(三)証券投資や社内留保などの所謂直接投資、の三者と比較してみると、二四年度においては(一)二八・四%、(二)二・三八%、(三)二・三九%、二五年度においては、(一)二六・七四%、(二)二・五五%、(三)二・三四%となつていて三者をそれぞれ見込資金とほゞ同一の比率を占めてゐるに過ぎない。元来、発達した資本主義経済においては設備資金の調達は主としてホーの直接投資によつて行われており、わが国のように産業資本の基盤の脆弱な後進国では国家資本と金融資本との比重が相対的に強く、こゝに挙げた三者が設備資金供給の三大源泉であつたことを思へば、設備投資の中における見込資金の役割りは白から明らかであろう。

更に、計数的に細むことは不可能であるが、見込資金のうち債権償還に当てられた部分の幾何かは金融機関から設備資金として貸出されてゐるわけであるから、見込資金の果してゐる役割はより以上に評価されなければならぬであらう。

項	目	二四年度		二五年度	
		金額	% (a)	金額	% (b)
一	株式	649	85.51	2787	101.2
	債券	625	82.35	2684	67.56
二	公債	13	1.71	10	66.18
	国債				26.74
合計					27.24

種別	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合
国府林野建設の経費	94	12.38	119	159	133	889	359	1.11
郵政省米地振興費	12	158	452	15	41	234	1.00	1.41
建設省建設費改良費	73	961	313	77	77	515	2.08	2.08
府内債権回収費	16	211	669	351	200	23.46	9.48	9.48
国債建設費	16	211	669	351	200	13.37	5.40	5.40
住宅金融公庫貸出	0	0	0	0	151	10.09	4.08	4.08
小計	259	100.00	3259	1477.0	100.00	40.41	40.41	40.41
金融機関	498	472.20	2138	835	5939	2256	2256	2256
貸付	230	2180	958	400	2845	10.81	10.81	10.81
株	225	2133	866	400	2845	10.81	10.81	10.81
林	43	407	185	35	249	0.94	0.94	0.94
直轄投資	557	5280	2392	577	4061	15.42	15.42	15.42

種別	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合
証券	352	3336	1511	276	1863	746	746	746
株	550	3318	1503	268	1906	724	724	724
社	205	1944	880	295	2478	797	797	797
小	1055	10000	4530	4416	10400	3298	3298	3298
公債	270	5455	1159	400	5000	1081	1081	1081
私債	225	4545	966	400	5000	1081	1081	1081
小計	495	10000	2125	800	10000	2162	2162	2162
合計	2329	—	10000	3702	—	10000	10000	10000

(1) 新設投資は、財政支出中の建設的支出部分をピックアップしたものである。

(2) 民間投資の計数は財政金融局作成の「株金類金種別見込」25年2月20日集計による。

(3) %のうち(2)は各区分を100とする場合の比率、(1)は合計を100とする場合の比率である。

オニにその方法において、見返資金はインフレーションによらざる強制貯蓄である。資本蓄積の源泉は一般に貯蓄と租税によって賄われるが、尤大な資本蓄積を急速に行う場合、貯蓄と租税によつて賄いえないときは強制貯蓄という方法がとられる。そして強制貯蓄の手段として多く用いられるものは、例えばわが国の戦時および戦後経済にみられたようなインフレーションである。ところが見返資金は援助物資の払下代金を積立てたものであり、国民所得を吸上げたものであるから、むしろデフレ効果を併つ強制貯蓄といふことができる。すなわち、貨幣数量説的な考え方からすれば積立てられた見返資金が全額放出されるだけでなく他の払下げを援助物資に相当するだけの通貨増発が行われることによつてそのデフレ効果が相殺されることになるのである。このように見返資金はその量と調達方法との二つの面において国内資本蓄積の上に大きな意義を帯びているのであるが、そのうち公私企業に対する投融資に当てられた部分は、対日援助が打ち切れると否とに拘らず政府の債権として残るのであるから、將來それらが回収された後は再び政府が任意に使用することが出来るであろう。

昭和24年度対日援助見返資金運用状況

(昭和25.2.28)

(単位千円)

項目	予算額 (A)	計画未済額 (B)	運用額 (C)	%	%	期末額
1. 資金	150,000,000		120,950,819	80.19		22,879,121
貿易特別会計収入	449,424,000		119,926,540	26.26		29,492,460
運用利息収入	406,000		1,024,279	22.85		381,721
2. 運用及費用	150,839,000	108,413,196	37,501,198	59.34		
イ 公企業投資	27,000,000	27,000,000	24,231,000	99.39		169,000
債	15,000,000	15,000,000	15,000,000	100.00		0
通	12,000,000	12,000,000	11,831,000	98.59		169,000
私企業投資		18,964,064	14,503,198			
電力		6,712,711	5,698,722			
海運		8,368,967	5,449,880			
石炭		1,882,386	3,354,596			

肥料	123,830,000	100,000	100,000	76.01	29,710.181
中小企業	300,000	32,500	32,500		
鉄鋼	1,417,305	1,417,305	1,417,305		
3. 債務償還費	62,467,000	48,167,000	48,167,000		
Ⅲ 余 益 金		31,449,621	31,449,621		
1. 倉庫証券保料高		57,802,465	57,802,465		
2. 補助資金預金		647,156	647,156		
I = II + III	1,508,300,000	1,209,900,819	1,209,900,819	80.19	298,779.181

註. 対て内訳との数字の差は四捨五入の関係による。

債 選 期 限 別 貸 付 状 況
(私 企 業)

期 限 年 別	選		金 額	業 種 別	備 考
	措置年度	措置開始年			
30年	5年	1955	5,128,072	電力 (日本)	
25	3	1953	274,850	" (肥田会社)	
15	3	1953	3,006,930	海運 (千五次造船貨物船)	
13	3	1953	1,056,000	" (" 海運船)	
10	1	1951	957,016	海運 (日航北九州・日領徳川崎)	当初3年少額 4年目から毎年均等
-	3	1953	1,167,950	海運 (A型教練汽艇)	
-	1	1951	58,000	石炭 (長崎炭業)	
-	1	1951	1,310,681	" (北鉄三茂)	
9	1	1951	219,000	海運 (船渠油庫船)	
*	3	1953			

(単位千円)

年次	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957
7	560,689						
6	161,000						
5	254,510						
2	300,000						
1947年~5年	44,700						
合計	1,449,899						

(公企業)

(単位千円)

年度	金額	業種別
1954. 3. 1	1372,000	電通建設公債
" 9. 1	2409,000	"
1955. 3. 1	2050,000	"
1956	15,000,000	国債
合計	26,831,000	

それではこのように大きな作用を営んでいる見込資金が対日援助の打切りに伴って消滅した場合、資本蓄積の課題は如何に解決されるべきであろうか。

前にも述べたように全設備投資中の約20%を占め、しかも強い公益的性格を保持している部分の消滅は資本蓄積を進行に陥れる危険がある。しかも、資本蓄積を急ぐことは経済再建の立前から許されないことである。そして見込資金の消滅によって生じた穴を埋めるのには財政投資と民間投資との何れかを増加せしめる以外にはない。しかし、財政投資を二倍近くに増加することは極めて困難であり、例えば終戦処理費の減廃などの如き大巾の経費節減が行われないうちは増税によらざるを得ないが、現在の税負担の状況を考えるとそれは困難であるばかりでなく望ましくもないことであろう。次に民間投資による場合を考えてみるとこれは金融機関からの貸出しにしても直接投資にしても貯蓄の増大を前提としなければならず、それは所得を削減とすれば貯蓄性向の増大は消費性向の減少という方法によらざるを得ない。そして、この場合やはり消費水準乃至生活水準の低下という望ましからざる壁に突き当らざるをえないのである。即ち、所得の増大を考えない場合は、財政投資

についても国内投資についても生活水準の圧迫による資本蓄積率の上昇という結論が導かれて来てしまふ。

勿論、貿易の振興を契機とする国内所得の増大によつて、そのような資本蓄積率の上昇を経なくとも所要の資本蓄積を可能ならしめることも考えることは出来る。しかし、現在日本経済のおかれている環境を考へるならば、この方途のみに頼ることの出来ないのはむしろ自明のことであろう。

さて、残された方法の一つとして次の事が考へられる。前に述べた様に投融資された見返資金は撥助灯切りの如何に拘らず、国家の債権として残るのであるから、それが回収された後はそれを国家の手によつて回転して資本蓄積の手続とすることが出来るわけである。そしてそのために一つの金庫を設立することも考へられよう。そのためには今後の見返資金の使途のうち投融資を出来るだけ増加することが現在のみにならず将来の資本蓄積のためにも望ましいことであろう。

昭和25年度見返貸金私企業投資額参考資料

(百万円単位)

4/5 30号 藤田

業種	会社名	見返貸金投資額			工費概算	
		借入	借出	計		
電力	日本送電 水 火 送 電 の 他	14,167	3,253	17,820	送電機 14件 (最大出力 2,237KW, 電力需要増 1,218百万KW) 送電機 4件 (最大出力 1,117KW, 電力需要増 681百万KW) 送電機 2件 (最大出力 226KW) 送電機 1件 (最大出力 20KW) 送電機 9件 送電機 25件 (最大出力 1件 送電機工事 17件) 送電機 11件 送電機 12件 (保送工事 3件 関連新機工事 9件) 通信給電施設及改良工事	
		6,342	1,059	2,401		
		3,305	325	3,628		
		2,624	210	3,734		
		1,234	1,161	2,395		
		661	—	661		
		197	—	197		水力(羽前川)外送受電施設
		30	—	30		水力(白樂川)外送受電施設
		214	—	214		水力(箱根)外送受電施設
		61	—	61		水力送電電機
		103	—	103		送受電電機
		56	—	56		送受電電機
		31	—	31		送受電電機
		28	—	28		送受電電機
700	—	700	送受電電機			
14,867	3,643	18,520				

種 類	公 社 名	見 送 貨 金 弁 要 額			工 事 概 要
		批 稅	折 現	掛 替	
海 運	新 造 船	4,059		4,059	272 ¹ 64 (42費)
	A 型 改 造	2,168	1,062	3,230	批稅 27費 折現 6費
	T L 改 造	89	2,646	2,735	批稅 1費 折現 12費
	1 T L 14番船	83		83	
	辰 和 丸		138	138	24年度申請のR.V
陸 運	身	2,100	3,846	10,946	
	新和高速貨物運送団		250	250	神田池袋間の振込工事
	掛		250	250	

(2)

炭種	会社名	製造会社 年産額			工 事 概 要
		焼 純	新 規	存 貯	
石 炭	三井 飯 山	895		895	三池(海蔵明炭)田川(三枝根明炭、蘆原明炭)山野(三枝根明炭) 刈川(一畑真豆炭) 平別(三枝明炭及蘆原炭)
	三 菱 飯 塚	675		675	高崎(三枝明炭) 清ノ(高崎置垣明炭) 石屋山(周炭) 大夕炭(新幹線用炭) 栄七内(周炭) 平別(周炭) 油ノ(蘆原炭)
	北酒造炭灰焼船	269	190	459	夕炭(飯小屋炭合理比) 平知(三枝明炭) 梶井(三枝明炭) 蘆原炭(新炭) 新炭(飯小屋炭合理比) 清水沢(三枝明炭) 神城(蘆原炭)
	井 手 採 炭	109		109	系平(一~四坑明炭) 系別(五坑明炭) 蘆原炭
	古 河 飯 塚	100		100	水場(石不坑、排炭置垣) 切崎(三枝明炭)
	明 治	128	190	298	赤池(蘆原炭) 西井(三枝明炭) 佐賀(明炭) 成炭(新炭) 神保町(飯小屋炭合理比) 清水沢(三枝明炭)
	穿 刺 梁 屋	130		130	炭恩知(飯塚置垣炭) 中ノ山(水置垣炭) 西井山(千坂五号)
	東 島 炭 灰	350		350	豊田大、南(飯塚置垣炭、蘆原炭)
	日 本	225		225	高松(三枝明炭、蘆原炭) 相ノ布(明炭)
	飯 生 飯 塚	20		20	吉根(蘆原炭) 在下(蘆原炭)
	作 島 炭 灰	30		30	北方(水置垣炭) 井島(蘆原炭)
	大 正 飯 塚	49		49	中ノ島(明炭)
	松 島 炭 灰	40		40	如前(一、三坑明炭)
	日 産 炭 業	50		50	紅池(三枝明炭)
計	3,140	360	3,500		

日産炭業、野上炭業、平井に於り上記会社の内から金額削減の上二社に相当
 として出す。

業種	会社名	見込資金の要領			工 務 批 要
		性 態	環 境	弁	
紙 業	中外紙業(株)	0	115	115	特選金山青化製煉設備 300%
	千歳紙業(株)	0	94	94	千歳金山海運区紙設備 120%
	新渡谷紙業(株)	0	21	21	大口金山青化製煉設備 200%
	計	0	290	290	

業種	会社名	見込資金の要領			工 務 批 要
		性 態	環 境	弁	
鉄 鋼	八幡製鉄	120	194	314	(新設)西田製鋼所増設 (新設)東田No.1高炉及No.2高炉 2-24増設 2-24増設品(輸入増設)
	富士製鉄	525	50	575	(新設)富士No.1高炉及No.2高炉 (新設)No.2-2-2増設品
	日本鋼管	0	919	919	(新設)No.3高炉及No.1高炉増設 (申請中) 2-20及2-21工場
	神戸製鋼	0	140	140	(新設)厚板区縮短機其他合理化(申請中) 厚板工場(直轄製煉設備輸入)
	新日本製鋼	0	100	100	(新設)2-2-2工場(厚板工場増設(輸入)の材料) 厚板工場(直轄製煉設備輸入)
	計	205	1451	2,157	(新設)厚板区縮短機其他合理化(申請中)

(注) 継続工事及び現在申請中、24年度の(2.1)のうち以外は、凡そ所要資金の半額を計上し、他は自己調達による。

業種	会社名	製造資金所 数量		工 事 概 要		
		北 境	新 規			
化学肥料	日 東 化 学	—	130	130	硫酸製造設備増設 (カニ成一系列増)	
	東 北 肥 料	12	90	82	(電解一系列増)	
	日 本 水 素	—	60	60	()	
	昭 和 硝 工	—	230	230	(平水性設備新設)	
	東 富 硝 安	—	120	120	(777系新設)	
	別 府 化 学	—	90	90	(平水性設備新設)	
	計	12	700	712		
	化学製品	日 本 板 薬	200	—	200	薬が大田収縮機製造設備
		北 海 道 興 業	—	30	30	ヤルマ酸ソーダ製造設備
		虎 玉 石 炭	—	15	15	"
宇 別 ヲ ー 9"		—	200	200	塩化亜硫酸機	
新 日 本 窒 素		—	50	50	カーバトサ 及 同物帯取機	
日 本 カ ー バ イ ト		—	150	150	カーバトサ 及 硫酸セル製造設備	
日 豊 化 学		—	20	20	塩化セル 及 石灰製造設備	
三 井 化 学		—	50	50	ALON系高級染料製造設備	
鶴 川 化 工		—	20	20	7L系染料ソーダ製造設備	
計		200	635	835	ALON系染料製造設備	

業種	会社名	最近世会新年度			工事概要
		建設	新増	引当	
繊維	倉敷レーヨン	—	600	600	ビロビ屋10七増産機付増設金3,388百万円の一部
	東洋レーヨン	—	200	200	7:30日産5七増産機付増設金1,400百万円の一部
	大日本セルロイド	—	200	200	綿織機付日産5七増産機付増設金1,299百万円の一部
	新日本セメント	—	150	150	" " 500百万円の一部
	元倉工業	—	40	40	主糸自動操縦機新設
	引当	—	10	10	" "
			4200	4200	

業種	会社名	最近世会新年度			工事概要
		建設	新増	引当	
製紙	土地改良公社	—	500	1,800	土地改良約35千町、借地約11055(19町)借入地約25町(24年度計画)19年度引当
	組	—	100	100	小水中央電機約50町(14町5000)建設、出力2,500KW(24年度計画)50町
林業	会社組合	—	390	390	25千町建設地約家の森林蓄積45万石増加
	組	—	50	50	(徳田園林)(池原、泉屋、藤原、藤原)増産約13万石(5千町)24年度計画1年度引当
水産	大津漁業K.K.	—	200	200	(2,000馬力捕鯊母船(代船建造)大型11隻)増産、内船12,500馬力
	会社組合	—	50	50	(契約船工663カ、船1,500カ)市中部漁業団船50カ(本年度内在契約船)引当可能)
				50	(集積設備合理化)
				4800	

25年度第一・四半期鉄鋼材配当計色表

(25. 3. 27)
経本生産局産政課

(単位 吨)

	鉄			鋼				鉄			鋼				
	炭材	機械	計	炭材	機械	計		炭材	機械	計	炭材	機械	計		
運 送 單	500		500	5000		5000	炭 炭	200	400	600	5800	500	6300		
船 隻 撤 去							化 学 肥 料	600	1500	2100	11200	4000	15200		
輸 出	15000	-	15000	150000	-	150000	化 学 工 業	500	1000	1500	9000	1500	10500		
陸 運	國 鉄	4100	1000	5100	37000	1000	38000	ゴ ム 皮 等	-	220	220	330	120	450	
	私 鉄	755	445	1200	9800	200	10000	織 物	100	5000	5100	1000	4000	5000	
	道 路 車	900	100	1000	7100	100	7200	紙 パ ー ル 子	-	800	800	1250	750	2000	
海 運	汽 船	200	-	200	2000	-	2000	専 売 煙 草	300	300	600	1505	195	1700	
	汽 船	50	150	200	3900	600	4500	煙 草	-	100	100	150	50	200	
通 信	郵 政	-	80	80	660	40	700	樟 腦				100	-	100	
	電 報	-	250	250	2300	700	3000	計	300	400	700	1755	245	1800	
	計	-	330	330	2960	740	3700	農 業				400	400	2700	500
電 力		100	2400	2500	20000	10000	30000	其 の 他	250	250	500	1300	100	1400	
	石 炭	1300	3200	4500	18500	8000	26500	計	250	650	900	4000	600	4600	
	亞 炭	-	50	50	360	40	400	林 業	40	150	200	1650	150	1800	
鉄 鋼	熱 管 理	50	150	200	470	180	650	水 産 業				630	70	700	
	計	1350	3400	4750	19330	8220	27550	水 産 加 工		400	400	600	600	1200	
ガ ス	ガ ス	-	700	700	5900	600	6500	其 の 他	150	150	150	600	600	1200	
	コ ーク 入	20	130	150	670	30	700	計	650	650	1230	670	1900		
	計	20	830	850	6570	630	7200	食 料	100	100	100	300	400		
鉄 鋼	鋼	10000	23000	33000	20200	1800	22000	畜 産 業	-	-	700	-	700		
	金 属	100	200	300	2640	360	3100	酒	30	30	100	1400	1500		
鉄 鋼	非 金 属	70	30	100	1950	50	2000	農 産 物	800	800	1770	730	2500		
	計	170	230	400	4590	410	5000	計	830	830	1870	2130	4000		
石 油		-	500	500	9700	300	10000	生 活 用 品	800	-	800	2500	-	2500	
	金 属				160	40	200	衛 生 用 品	230	70	300	1680	300	1980	
金 属	其 の 他	200	50	250	260	60	300	土 木	200	600	800	12500	1500	14000	
	計	200	50	250	400	100	500	農 業	-	100	100	10800	200	11000	
船 隻	船 隻	9100	900	10000	72000		72000	建 築 用	500	-	500	2600	-	2000	
	電 機		300	300		2250	2250	其 の 他 産 業		15	15	1600		1600	
機 械	自 動 車		5000	5000		24000	24000	文 化 厚 生 施 設	270	270	4980	50	5030		
	農 機 具		6000	6000		17000	17000	官 公 需		85	85	1615	30	1645	
	鑄 鋼		3300	3300		7750	7750	生 産 用 原 材 料	25000	-	25000	120000		120000	
機 械	其 の 他		15400	15400		29000	29000	尿	650		650	545		545	
	計		30000	30000		80000	80000	合 計	72085	75915	148000	568855	21145	690000	

昭和二十五年第一四半期主要物資配当計画表

(単位 吨)

品名	硫黄	ニッケル	硬質鋼板		鋼板	鉄板	ノリ	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント		
			B	T																
運 送			75	65		280	200		30	900								5		
炭 火						20												70		
輸 出	510		375	125		1100	1800	1350	2250	15	15		4	1000				1200		
運 送			(300)	(75)		560	264	77	191	2750				630				30		
海 運						520	6	10	26	180				150				420		
電 力			300	300	600	250	552	62	7	4			3	10			1	20		
石 炭			(750)	(750)	200	400	25	4	9	450								20		
ガス			(375)	(50)	1000	530	50	10	30	1200								20		
鉄 鋼		200			200	1400	17500	150	420	6500			5	20		1	2150	500		
鉄 山						360	8,800	750	150	500							100	150		
石 油						160	13000		220	200			150					50		
金 属						48	4800	800	2135	97			80					520		
船 隻			5	(450)		600	60	75	110	3,750							110	100		
機 械		177		(200)		1900	3400	1,355	805	3,875			25	80	405			67		
薬	20		5	(200)		180	1,500	13,600	170	150			15	50	0.5		100	25	900	
化学肥料	240,000		3	(150)	(100)	350	250	61,600	425	1275	94,800							880		
化学工業	11,680					800	56,677	8,285	127,540	15,235	3,320	1,175	457	906	1,122	257	63,076			
ゴム						18	60	60	54	1,800			25	50	450		500			
紙			(125)	(50)	250	700	46,500	1,700	21,000	200			10							
紙パルプ	8,350					45	2,160	410	5,910	29			5	34	5					
染料			(20)		50	462	23	26	53	100			13	20	7	6		30		
農 業	1,020		(25)	(25)	150	650	162	150	184	107			95	20			25	100	5	
林 業						400	100	5	200	100			20				20	20	4	
水 産	5					800	35	60	75	80							3	1,000	2,000	5,000
畜 産						200	1	6	11	1									75	
食 料	2					300	72	3	12	4			1							
生活工業	7					600	250	8,221	567	58	400								3	
衛生用品						550	400	150	375	100				10	10		2		3	
衛生用品	20	2	(25)			240	3,800	417	654	100	550	120		65						
建設					14,000	180											150	20		
建設					300	7,000											150	500		
建設						900	20	10	145	70			150				7,500	50	500	
建設						87														
文化					1,000	890	34	115.5	71	39	15						10		17	
官 公					5	426	34	69	122	98	2									
官 公	910	31				50														
小 口						500				800								300		
保 留						500	500	1,100									500			
保 留	76	20	150	60	8	419	1,071			1,412	25	50	56	12	200			1,080		
合 計	340,000	27,570	445	6,000	4,000	22,113	23,030	773,520	43,670	49,450	139,800	4,550	1,903	1,130	1,400	15,305	3,262	75,680		

部 門	工業
ソ-グ灰	58,000
刀法奇性	28,000
電解奇性	54,000
計	140,000
農 業	400
化学工業	700
火 薬	800
蒸気製品	1,500
染 料	3,400
有機合成	60
油脂製品	1,750
革	450
織 物	580
温度感ソ-グ	120
地方保留	900
計	10,660
合 計	150,660

Paper Allocation Plan of the 1st quarter 1950

Item	Grand Total	News print	Post book paper	Printing paper Nos. 36	Kraft paper		Total
					Bago	paper	
Occupation Forces	1,160	660		0	350	150	500
Removal of Reparation	50			50			
Export	8,640			2,640		6,000	8,640
Education	27,932		17,057	10,875			
News paper	73,504	72,000		1,500			
Magazines & Post	15,000			15,000			
Periodical Secuphil Book	445			445			
Public Health & Welfare	830			780		50	50
Machine	551			0			
Chemical	551			0	178	373	551
Textiles	100			0		100	100
Coal mining	100			0	100		100
Ceramics	6,500			0	6,400	100	6,500
Printings	3,350			0		3,350	3,350
Food Stuffs	2,190			90	2,000		2,090
Paper mill self use	450			450			450
Paper secondary	2,500			2,300		200	2,500
Sericulture	260			0		260	260
House hold & daily necessities	200			100		100	200
Workclass small use	5,420			4,500	550		5,050
Small Demands	2,000			2,000			2,000
Labour Union	600			600			600
Railways	565			565			565
Printing Bureau	1,350			1,350			1,350
Tobacco monopoly	200			200			200
Civil Communication	305			305			305
Postal Service	950			950			950
General use	10,865			10,865			10,865
Reserve	6,154	2,360		2,455		1,339	1,359
Grand Total	192,047	75,000	17,057	58,000	9,578	12,412	21,990

昭和25年度第一四半期パルプ配当計画

紙種	紙						合計
	R.P	S.P	K.P	A.P	Q.P	合計	
セロファン	23,500	59,250	11,627.5	1,250	67,000	141,427.5	
セロロイド	22,500						22,500
ビスコース	500						
その他	300						
小計	1,300						1,300
印刷	100	1,000			100		
刑務	100	100			100		
小計	200	1,100			200		1,500
その他	-	50					
その他	-	75					
留	900				1,250		
合計	27,200	60,475	11,627.5	1,250	67,000	141,427.5	168,355

(単位 屯)

5 318

昭和二十五年年度第一、四半期官公需内訳

部門名	鉄鋼	鋼材	鋳造管	豆鉄板	硫酸	シリカ	硝子	カーボ付	紙	高価
大蔵省		400		3						
逓信省		250		60				10		
厚生省	5	650		20						
内務省	10	300		4						
計	15	1,600		87				10		
文部省	40	4,000	70	650	5	3	9	7	10	15
厚生省	80	800	930	180	8	80	25	10		
労働省	30	80		40	1	05	4			
逓信省	100	50		10		2	3	7		
計	270	5,030	1,000	890	36	110.5	71	29	15	17
最		80		8						
大蔵省		30		65	20					
逓信省	60	80		19	12	150	100			
大務		30		19		2	1			
文部省		700		130		6	8			
逓信省		50		19	1	2	2			
厚生省		10		4	0.5	4	4			
逓信省		30		10		1	2			
逓信省		10								
逓信省	5	10	5	9		2	1			
逓信省		250		139		0.2				
逓信省		150		45						
逓信省		200		8						
計	15							3		
海上	20				0.5	2	2	55		
計	85	1,645	5	446	34	69	122.5	98		2

3

2-3

めくれず

25
4.8
2.7

昭和二十五年年度所管産業設備資金について

一、通商産業省所管事業の昭和二十五年年度所管設備資金について約二二〇〇の會社を対象として別添(業種別説明)方針の下調査したところその總額は二一六八億圓である。石炭を除きその内容を整理すれば設備の機械化、工程中のアンバランスの補整、品質規格の標準化の爲の試験設備等の所謂合理化資金が二〇二億圓、設備の補修改良資金は二二六億圓、設備の全面的更新等積極的な近代化資金二一億圓、合計三五〇億圓、電力、鉱山関係、化学肥料、合成纖維等設備の新設拡充資金が七〇五億となつてゐる。

右の所要額は、個別的な結びつきの問題を考慮の外において單に資金総量の増減という観点のみよりみれば概ね調整可能なものであるがこの外に當然必要と認められるべき増減並に合理化計画ではあるが、現在予想される資金面よりの制約から着手できないものに電力において約二〇〇億、鉄鋼において約二十億程度の工事計画がある。

此處に見るように二十四年度に除々に動きつゝあつた合理化資金需要が漸次表面に現はれて來てはゐるが、各企業共主として蓄積資本及び有効需要の不足から合理化は云々、新く人員の整理等消極的な合理化の段階を終り、既に設備の集約化、老朽設備の改良補修等積極的な合理化計画を企圖して居るに過ぎない。積極的な近代化等の合理化計画を樹立しているものは殆んどない。

すなわち合理化の必然性は國際市場に於ける競争と、国内需要拡大のため避ける事が出来ない現象であつて、各企業は更に長期的合理化計画を考慮しつゝある事は当然であるが、一方に於て資本の問題が常に影となつて、計画の實行をおひやかしてゐる爲、彌縫的計画に墮してゐる傾向がある。と同時に、他方においてこうした軽易な合理化にも拘らず競争が激化するにつれて、脱落して行くものがあるとは云々、最近の合理化計画は増産を伴ひ需要を上過る過剰生産の傾向を余儀なくしてゐるものがある。例へばセメント、鉄鋼、豆油、雜貨の一部等には既にその傾向が現れて居る。これは、企業自体の合理化の限界を超える問題である。企業相互間の協定が事業者団体法、独禁法等により全面的に禁止されてゐる現状では次第にこの傾向は激化拡大するであらう。従つて、この理由から採算上の不安のため、企業は積極的な合理化計画を立てかけている。

自由競争による優勝劣敗を通じて経済の合理化を図ることは必要には相違ないけれども、本盤の脆弱な日本産業にとつては、これをそのままに放置する事はできない。

此の意味で各企業の合理化競争に対し、有効需要喚起の積極的措置が必要であらう。需要の動向がまづ現状のほゞに推移するにすれば此處に現はれた軽易な合理化資金すらも、需要面の不安からくる企業採算の先行不安を後に述べる金融機関の資金構成上の不健全は株式市場の過度の沈滞と相俟つて企業の資金調達は相当困難にあらう。

前記所要設備資金に対し、企業側の調達方法の予定を見ると増資八一億圓、社債一三九億圓、金債一〇三億圓、見返資金三三二億圓、社内留保一〇二億圓となつてゐる。見返資金について略確定してゐるのは二二二億であつて残り二二二億は希望額であり金融機関の借入希望五〇三億圓中一五〇億圓程度は與銀、信託等の金融機関の借入に依り賄はれると

これは、企業自体の合理化の限界を超える問題である。企業相互間の協定が事業者団体法、独禁法等により全面的に禁止されてゐる現状では次第にこの傾向は激化拡大するであらう。従つて、この由からくる採算上の不安のため、企業は積極的な合理化計画を立てかけている。自由競争による優勝劣敗を通じて経済の合理化を図ることは必要には相違ないけれども、本盤の脆弱な日本産業にとつては、これをそのままに放任する事はできない。

此の意味で各企業の合理化競争に対し、有効需要喚起の積極的措置が必要であらう。需要の動向がまゝ現状のままに推移するにすれば此處に現はれた難易な合理化資金すらも、需要面の不安からくる企業採算の先行不安を後に述べる金融機関の資金構成上の不健全は株式市場の過度の沈滞と相俟つて企業の資金調達に相当困難を齎すものがある。

前記所要設備資金に対し、企業側の調達方法の手定を見るに増資八億圓、社債一三九億圓、金融機関借入五〇三億圓、見返資金三四二億圓、社内留保一〇二億圓となつてゐる。

見返資金について略確定してゐるのは二三二億であつて残り一一一億は希望額であり金融機関借入希望五〇三億中一五〇億程度は興銀、地銀等の金融機関に於て資金により賄はれるとしても残額三五〇億内外の市中銀行からの調達に、見返資金の不確定分一一一億と共にその調達に關し、積極的な検討を加うべきものである。

二十四年度はマーケットオペレーションに支へられて、設備資金の金融機関からの供給及び社債の消化は比較的円滑であり見返資金供給の遅延があつたが、一應不充分な所要資金を賄つて来た。二十五年度は現金償は既に償還済であり設備、社債引当のマーケットオペレーションは市中銀行の設備の不健全化から余り多くを期待し得ないのではないかと見られる。

金融機関の設備の増進をされば昭和七年一十年平均と比較して手金に対する貸出比率は増加してゐるにもかゝらわらず有償証券準備率は五一%から二十四年十二月末に於て一六%に減少して居り、その預金内容も定期から当座普通に比重が極端的に移りつゝある点から見て、金融機関の貸出は資産構成の上から見て程度に達しつゝあるといはれる。従つてまた取引先に対しても

極めて擇別的となりつゝあり、前記企業側の調達予定と金融機関側の供給が實際にどの程度まで結びつくか疑問である。なお社債については一應現状程度の消化を期待しうるであらうが、増資については、市況は極めて非円滑であつて、その実現には相当の困難を伴うものと思はれる。

一二十五年年度の目途として資金需要者たる産業側に製品の有効需要に対する不安、過剰生産の危険があり、資金供給者たる金融機関側に資産構成上の不健全からくる融資の限界株式市場の沈滞の閉塞があるとするれば單に資金の量的操作による金融政策は今後の経済政策の上で果してその役割を果し得るや疑問である。

此の意味で二十五年度に予定されてゐる一二〇〇億を超える債務増進を強格に実施すれば通貨は膨張したままに産業界に浸透する可能性は極めて高いものと思はざるを得ない。従つて長期証券の供給と資本の蓄積は要する所が大である。

この証券市場を立ち上げるためには債務償還期限の再検討を要して、手金の全体的操作にまたないで直接有効需要を拡大し、合理化の前提条件をつくりつゝ、合理化の遂行をたかめ、それによつて更に増資力を増大して、新設備需要を喚起すべきものと思はれる。

25-11
2-11 (55)

米國対日援助見込資金運用主要領案 (E.S.B.)

一、米國対日援助見込資金の運用計画は、総合資金計画の一環として、経済安定本部が中心を定める。

二、本資金の運用計画は年別計画及び四半期別計画として作成する。右の運用計画は目的別に区分し、重んじている限り、具体的なものとする。

なお産業投資資金については原則として企業別に細分した計画とする。

三、大蔵省は対日援助見込資金を管理し、経済安定本部統裁定めの運用計画に基づき、資金を運用する。

但し、大蔵省は本資金の運用に当り、予算執行上、必要な調整を加へる事ができる。

右の運用に当り、運用計画に大規模な変更は必要とする場合は、経済安定本部は運用計画を修正する。

四、経済安定本部は運用計画の策定にあたり、資金管理者たる大蔵省と特に緊密な連絡を保持し、外前各号の運用計画の策定に密に諮問し、及び運用計画に基づく資金の運用に關し報告を受け、経済安定本部に關係者の方の担当責任を以て、援助資金運用協議會(假称)を設ける。

(註) 経済安定本部は本資金の運用計画につき連合団最下司令官の承認を受け、そのものとする。

米國対日補助見返資金特別会計法

(設置)

第一条 米國対日補助の見返の円資金をもって、米國対日補助見返資金(以下「補助資金」という)を設置し、その歳入歳出を一般会計と区別して管理する。

(管理)

第二条 この會計は、大藏大臣が、法令の定めるところに従い、管理する。

(資金)

第三条 補助資金は、米國対日補助物資に係る貿易特別会計からの繰入金、運用資産の回収、処分等による受入金及び資金運用による収益金をもつて充てる。

第四条 前項に規定する貿易特別会計からの繰入金の額は、米國対日補助物資のアメリカ合衆國通貨による価格を大藏省令で定める換算率により日本国通貨に換算し、価格に相当する金額とする。

第五条 貿易特別会計からの繰入金の時期は、政令で定める。

(補助資金の運用又は使用等)

第六条 補助資金は、通貨及び財政の安定、輸出の促進その他経済の

兩運に必要なる用途に充てるため、国債に運用し、若しくは国債の償還に用いる用途に使用し、又は公和企業に對する資金に運用し、若しくは公企業に對する資金に使用することが出来る。

第七条 前項の規定による運用に基き、理金の受拂は、財政法(昭和二十二年法律第三十四号)第二条第一項の收入及び支出とみなす。

第八条 第一項の規定による補助資金をもちて、国債の償還に充てる用途に使用することは、当該資金をもちて、国債を買入し、又はこれに必要なる金額を国債整理基金特別会計に繰り入れらるるものとする。

第九条 第一項の規定による補助資金の運用として、買入した国債は、必要に應じ、償却することが出来る。

第十条 第三項の規定による、買入した国債及び前項に規定する国債の償却に際し、償却するときは、当該国債と国債整理基金特別会計の所屬に移し、償却するものとする。

第十一条 第六項の規定による運用若しくは使用又は前項の規定による国債の償却に關しては、連合國最前司令の承認を要し、又はこれを行はなければならない。

第十二条 前項の承認を経た行の運用、使用又は償却については、連合國最前司令の官の監督を受け、又、必要を報告し、行うものとする。

第十三条 補助資金をもちて、国債の償還又は償却したときは、まず一般會計の負担に屬する国債について償還又は償却があつたものとす。

（歳入及び歳出）

第六條 この会計については、第三條第一項に規定する貿易特別会計からの繰入金、運用資産の回収、処分等に因る受入金及び資金運用に因る収益金と、もつてその歳入とし、第四條第一項の規定による運用又は使用のための支出金と、もつてその歳出とする。

第七條 第一項及び第三項に規定する補助資金の運用及び国債の買入並びに第十三條、第十四條に規定する短期証券の買入及び買入に關する事務の取扱手續は、この会計の負担とする。

（歳入歳出予算計算書の作成）

第七條 大藏大臣は、毎會計年度、この会計の歳入歳出予算計算書を作成し、附けなければならない。

（歳入歳出予算の区分）

第八條 この会計の歳入歳出予算は、歳入の性質及び歳出の目的に従つて、報告の項に区分する。

（予算の作成及び提出）

第九條 内閣は、毎會計年度、この会計の予算を作成し、一般會計の予算と、もつて国会に提出し、附けなければならない。

（支出残額の繰越）

第十條 補助資金と毎會計年度において支出し、未了した額は、その翌年度に繰越すものとする。

（歳入歳出決算計算書の作成）

第十一條 大藏大臣は、毎會計年度、歳入歳出決算計算書と同一の区分により、この会計の歳入歳出決算計算書を作成し、附けなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十二條 内閣は、毎會計年度、この会計の歳入歳出決算を作成し、一般會計の歳入歳出決算と、もつて国会に提出し、附けなければならない。

（歳入歳出決算の提出）

- 一、歳入歳出決算計算書
- 二、資金受拂額表
- 三、当該年度末現在の運用資金印細表
- 四、運用による利益及び損失額の総計表
- 五、国債の償還及び償却総計表

(補助資金の管理等)

第十三条 補助資金は、日本銀行に特別の預金勘定を設け、他の勘定と
区別して管理し、貯水は行わない。

又補助資金に余裕があるときは、又は当該余裕金を大抵有証券、
倉庫証券、融通証券その他政府の発行する短期証券をもち、一時保有
することができる。

(日本銀行の資金運用等)
第十四条 第十四条第一項に規定する補助資金の運用及び国債の買入

並に、前条第二項に規定する短期証券の買入及び売却に関する
事務は、日本銀行に取扱わせることができる。

(所屬換国債及び債却国債の額)
第十五条 国債整理基金特別会計は、毎会計年度、第十四条第二項の

規定により、この会計から所屬換をなすに当り、国債の額及び債却した当額
国債の額を国債整理基金特別会計の歳入歳出の決算に附記して明
らかにし、その額は、前記のとおりとする。

又前項の場合における所屬換を受けた国債の額及び債却した国債の
額は、当該国債の買入価格をもつて計算するものとする。

(施行規定)

第十六条 この法律の施行に關し必要な事項は、政令で定める。

附則

この法律中、この会計の昭和二十四年度の予算成立の日から
施行する。

理由

本國対日補助の是迄の日本國通貨をもつて、本國対日補助
見込資金を設け、通貨及び財政の安定、輸出の促進その他
経済の再建に資せしめる必要がある。これが、この法律案を
提出する理由である。

昭和25年度米國對日援助見返資金
 No. 92 私企業支出及經濟再建及安定費配分計画(案)

(單位億円)

25 4 10
經濟安定本部

	A 案 (400億円)			B 案 (464億円)		
	繼續	新規	計	繼續	新規	計
力運炭山鋼	148.7	32.3	181.0	148.7	36.5	185.2
電海石鑽	71.0	33.0	104.0	71.0	42.5	113.5
化學肥料	17.0	—	17.0	30.0	3.5	33.5
化學藥品	—	—	—	—	2.9	2.9
鐵	64	41	105	7.0	14.5	21.5
纖維	0.1	3.9	4.0	0.1	7.0	7.1
陸運	1.0	2.5	3.5	2.0	6.3	8.3
觀	—	—	—	—	1.20	1.20
東林水產	—	6.0	6.0	—	1.20	1.20
(小計)	(244.2)	(91.8)	(336.0)	(258.8)	(141.2)	(400.0)
中小企業	—	1.20	1.20	—	1.20	1.20
金融機關	—	5.20	5.20	—	5.20	5.20
(小計)	(—)	(6.40)	(6.40)	(—)	(6.40)	(6.40)
合計	244.2	155.8	400.0	258.8	205.2	464.0
聯合國人住宅	—	5.26	5.26	—	5.26	5.26
C.I.E.	—	2.5	2.5	—	2.5	2.5
(小計)	(—)	(5.51)	(5.51)	(—)	(5.51)	(5.51)
總計	244.2	210.9	455.1	258.8	260.3	519.1

(単位百万円)

業種	A案(400億)			B案(464億)		
	継続	新規	計	継続	新規	計
電力	14,867	3,233	18,100	14,867	3,653	18,520

工事概要(464億円の場合)

日発 継続 水力... 24年継工の内16地長 最大出力 313 千KW
年間電力量 1,313 百万KWH

火力... 24年継工の内7地長 最大出力 226 千KW
送電施設 9件, 変電施設 11件
通信給電施設 足改良工事

新規 水力... 4地長 最大出力 131 千KW
年間電力量 681 百万KWH
送電施設 18件, 変電施設 12件

配電 継続 水力 3地長(864KW) 足送電変電面配電施設

400億円案と464億円案の差

日発新規工事中下記のものを取り止める

水力	1地長	4,000 KW
火力	1地長	20,000 KW

その他計画内の変更等

(単位 百万円)

業種	A 案 (400億)			B 案 (464億)		
	継続	新規	計	継続	新規	計
海運	7100	3,300	10,400	7,100	4,250	11,350

工事概要 (464億円の場合)

昭和24年度以下の継続分 7100
 25年度新規工事分 4250

A型改造 6隻
 T_L改造 3隻
 辰和丸 1隻

新造船 約55,000円/T
 新造船(捕鯨船)1隻 17,000円/T

1062
 661
 139
 1,987
 400

400億円案と464億円案の差
 新造船約55,000円/Tを約29,000円/Tに半減する
 他の計画は変更なし

(単位 百万円)

業種	A案(400億)		B案(464億)	
	継統	新規	継統	新規
石炭	1,700	—	1,700	3,000
				350
				3,350

工事概要(464億円の場合)

1. 継統工事

24年度継統工事36億円のうち30億円

コスト切下の環境での出炭維持促進に上級炭出炭増強のための開発工事
品位向上のための選炭機増設

コスト切下のための運搬その他の機械化

2. 新規工事

特殊事情ある大規模開発工事について、会社の資金調達不能のため
にして特に止むを得ざるに計上している(=1件)。何れも策定/採掘
のーにいて、復讐時代からの資金繰り着炭に至る迄々着炭にいて、今一息
にいて正常出炭を見込まず、24年度着炭一噸位を考へる水準から、
資金繰りの完び解除をみるに至るからである。

400億円案と464億円案の差

上記新規工事は勿論中止、従って既に投下資金と経済効果
をみるに至らず、継統工事も464億円案に於いて削減がある
次第であるが、その上徹底的削減の外なし。

(単位百円)

業種	A 案 (40億)		B 案 (46億)	
	経費	新設	経費	新設
鉱山	0	0	0	290
				290

○ 工業概算 (464億円の場合)

倉敷化機錬炭送選鉱設備復元

青化機錬炭送選鉱復元(2山) 能力 200万 及び 200万
送選選鉱設備復元(1山) " 120万/日

○ 400億円の案と 464億円の案の差

400億円の案の場合の要項は、

業種	A 案 (40億)		B 案 (464億)	
	経費	新設	経費	新設
鉱山	838	412	1,050	2,150

○ 工業概算 (464億円の場合)

高炉、コークス炉改修(4基)

国内炭送用、輸入炭節約設備

圧送設備近代化

自家発電増強

其他

1,177
255
494
180
50

○ 400億円の案と 464億円の案の差

400億円の案の場合、コークス炉改修(4基)及び自家発電増強の要項は、送選選鉱設備の近代化

増強の要項は、送選選鉱設備の近代化

単位百万円

化学肥料	A案 (400億)			B案 (464億)		
	続	新規	計	続	新規	計
	12	388	400	12	700	712

工事概要
 硫酸安製造設備増強

700億円案と464億円案との差
 400億円案の場合に之を削除

化学薬品	A案 (400億)			B案 (464億)		
	続	新規	計	続	新規	計
	100	245	345	100	735	835

工事概要

機材回収硫酸設備	100
カルモニ酸ソーダ製造設備	65
塩化アンモニア	200
カーバット炉	180
醋酸ビニル及塩化ビニル製造設備	85
石灰酸	15
石炭系高級染料	90
スルホン染料	80
スルホン染料	20
金属漆器	20

400億円案と464億円案との差
 400億円案の場合に於てはカーバット炉, 醋酸ビニル, 塩化ビニル, 石炭酸, 染料, スルホン染料, 金属漆器及びカルギン酸ソーダの一部を削除す

纖維	A 業 (400億)		B 業 (464億)	
	継続	新規	継続	新規
	—	1,000	—	1,200
		計		計
		1,000		1,200

單位 百方圓

工事概要

ビニロン(日産10屯), プミラン(日産5屯), 醋酸
 纖維(日産約10屯)等新種纖維の製造設
 備建設

400億円案と464億円案との差
 2億円の差があるが、各企業に働き極力中
 調達に努力せしめ、不可能な場合は工事
 期間の延長を圖らう。

(單位百萬円)

業種	A案 (400億)		B案 (464億)	
	継績	新規	継績	新規
陸運				
計			250	250

。工事概要 (464億円の場合)
 帝都高速度交通管團の神田池袋間拡張工事
 400億円の案と464億円の案の差
 事業計画の中心

(單位百萬円)

業種	A案 (400億)		B案 (464億)	
	継績	新規	継績	新規
觀光				
計			150	150

。工事概要 (464億円の場合)
 27年度申請前(未許可)のホテル4社
 400億円の案と464億円の案の差
 計画の中止

(單位百萬円)

業種	A案 (400億)		B案 (464億)	
	継績	新規	継績	新規
農林漁業				
計	600	600	1,200	1,200

。工事概要 (464億円の場合)
 土地改良電 750百万円 約33千町
 小水力発電 73 " 25千町
 造林 250 " 15千町
 沼田開港 77 " 33組合
 製塩設備 50 設備合理化
 400億円の案と464億円の案の差
 土地改良電 750百万円 (400百万円減) 約16千町 (17千町減)
 小水力発電 73 " 25千町 (150千町減) 約6千町 (9千町減)
 造林 250 " 15千町
 沼田開港 77 " 33組合
 製塩設備 50 " 33組合
 耳取リやめ
 として4千町農林省に融資希望のあったもの、内重要なものを採上げ、
 (農林省に融資希望のあったもの) 土地改良 517 小水力発電 97)
 司令部に許可申請中のもの 沼田開港 110
 土地改良 29 小水力発電 52
 又造林は「造林臨時措置法」の11係上4特に計上した。

28
2.15
2-7

秘

(單位: 千圓) 昭和25年度所屬各業教育資金總振振表 (通商企業教育資金部)

業種	總計數額	用途				使用總分
		增資	社員費	市中銀行	免進資金	
鋼鐵	9,851,648	1,508,000	1,257,000	3,199,758	2,510,000	A 3,348,143 B 2,102,145 C 3,225,428 D 1,175,932
石炭	11,336,000	1,922,000	1,144,000	2,342,000	4,348,000	
電力	34,920,406	1,563,000	4,194,893	5,105,630	22,290,791	C 582,671 D 34,337,935
礦山	13,522,993	741,000	2,540,710	7,921,524	850,000	A 2,880,464 C 1,212,403 D 943,0126
鑛山	5,001,620	86,000	1,196,258	2,518,675	400,000	A 977,500 C 677,943 D 3,446,197
非煤鑛山	1,641,446			1,560,446		A 21,000 B 143,146
輕金屬	848,345		67,452	771,795		A 948,345
電線	888,084		97,000	786,654		A 888,084
沖刺	245,535			228,525		A 245,535
石油	6,375,263	655,000	1,180,000	3,459,769	450,000	C 534,460 D 584,0803
化學	20,181,426	1,210,330	1,647,700	12,750,268	2,615,000	A 6,559,830 C 2,155,038 D 11,466,558
鐵道	5,819,057	308,000	704,000	3,268,697	898,000	A 1,263,250 C 998,000 D 3,803,807
其他	15,146,651	59,000	180,000	852,845	100,000	A 729,126 C 1,000,000 D 685,525

業種	燃料費額	増進			使用割合	
		増資	社債	資本銀行		
運輸	1,187,861		459,000	736,263	50,000	A 848,398 C 188,463 D 150,000
カ-パ-ト	138,105			131,130		A 138,105
硫黄	1,229,223		709,839	709,839	200,000	A 9,150 C 218,700 D 980,373
石灰、加里	70,260			66,000		A 70,260
堆肥、肥料	398,592	40,000	30,000	306,049		D 378,592
Y-9'	1,659,137	61,730	197,800	779,609	550,000	A 1,535,943 C 123,194
火柴	238,122			238,122		A 118,000 C 119,122
一般燃料	37,000			37,000		A 37,000
有酸素成	4,761,530	562,500	370,000	2,994,030	835,000	D 4,761,530
染料	1,099,922			1,009,922	90,000	A 1,099,922
74式機油	148,100	31,100		87,000	30,000	b 148,100
高級燃料	426,210	150,000		359,110		C 89,310 D 337,000
74式機油	16,000			16,000		D 16,000
9-14製品	1,204,256	3,000	120,000	935,256		A 661,296 C 397,349 D 145,631
一般有機	3,400			3,400		A 3,400
油脂製品	220,000			229,000		A 45,000 C 145,000 B 30,000
機械	4,195,997	100,540	746,560	3,032,814	260,000	A 2,329,203 C 854,688 D 422,106
機械	1,280,730	6,000	406,000	862,400		A 554,994 C 87,730 D 336,206

94

業種	総計金額	種別			手付金	現金	貸倒
		債	債	債			
有線機械	272,940			272,940			A 152,990 C 114,950
無線機械	56,157			51,157			A 56,157
車 輛	1,317,003	20,000	281,500	801,213	200,000		A 985,009 C 246,094 D 85,900
ミシン	56,101			56,101			A 13,820 C 42,281
光學機械	271,000	53,000		218,000			A 15,010 C 256,000
時 計	156,795			151,845			A 23,620 C 133,175
運送土手 機械	25,000		22,000				C 25,000
磁石機械	7,735			5,000			A 7,735
農機具	173,648	2,000		162,500			A 9,828 C 163,820
特殊運送品	281,458		30,000	195,078			C 281,458
植具工具	150,200			142,200			A 40,000 C 110,200
其 他	147,230	18,500		114,380			A 15,250 C 81,980
織 物	10,341,140	262,863	4,313,120	7,106,801	1,200,000		A 1,855,683 C 516,348 D 7,968,109
綿織物	3,603,718	127,500	1,043,120	2,128,370			C 487,848 D 3,115,870
化学織物	5,292,323		1,200,000	3,931,223	1,200,000		A 1,319,950 B 3,922,423
麻 毛	1,206,066	113,863	150,000	872,958			A 325,250 D 880,816

業種	総計	増資			引当金	使用金
		増資	社債	市中銀行		
単色	209,933	16,500		150,200		A 161,433 C 28,500
多色	29,050	5,000		24,050		A 29,050
製紙	772,809	273,000	480,600	522,666	207,000	A 3,239,417 C 1,271,451 D 3,217,211
紙	3,069,880	160,000	1,000,000	2,204,535	50,000	A 986,309 C 430,373 D 1,653,198
その他	1,061,480	20,000		998,210		A 505,000 C 97,480 D 478,950
機械	1,082,421	30,000	380,600	597,821		A 912,921 C 169,500
耐火材料	211,000			211,000		C 211,000
陶磁器	23,387			80,800		A 55,387 D 28,000
石炭製品	128,000			98,000		A 128,000
木材	1,369,861			643,800		A 141,500 C 296,296 D 932,063
建築材料	100,000			38,000	100,000	A 100,000
炭素製品	38,000			38,000		A 36,200 C 1,800
研削材	40,000	3,000		37,000		C 12,000 D 25,000
印刷用品	283,000	50,000		160,000	27,000	A 186,000 D 97,000
七宝	15,500			15,000		A 15,500
其他	245,600	10,000		142,000	30,000	A 192,600 C 73,000

業種	総計	補正				使用上分
		増減	社債	貸付	貸受	
計	112,097,689	7,580,693	13,324,523	46,684,961	33,446,791 34,266,991	A 29,112,940 B 2,102,145 C 10,508,027 D 68,018,177
(追加)						
ガ	4,008,660	500,000	626,000	2,888,660		C 1,496,515 D 2,512,145
コ-7人	712,446			712,446		C 644,861 A 67,585
総計	116,998,795	8,080,693	13,944,523	50,286,067	34,266,991	A 20,180,325 B 2,102,145 C 12,649,403 D 79,530,922

- (註)
- 1 貸受のAは一般の金額の日進代化Cは維持補正の増減
 - 2 貸受のBは材料中の炭油係は不明につき除く
 - 3 見込増減の文字を基に(但し北山川南流計画を除く)

(單位千円) 昭和25年度所管事業設備資金總括表 (通商産業省管轄)

98
25
4.10
2-7

業種	總件數	組				使用正分
		増資	社債	市中銀行	引込資金	
鉄鋼	9851648	1508000	1257000	3199758	2510000	A 3348143 B 2102145 C 3225428 D 1195932
炭	11326000	1922000	1144000	2342000	4348000	
電	34920406	1563000	4194893	5105630	22290791	C 582671 D 34337735
鉱山	13522993	741000	2540710	8921524	850000	A 2880464 C 1212403 D 9430126
鑛山	5001620	86000	1196258	2518675	400000	A 877500 C 677943 D 344677
非鉄鑛山	164146		156046			A 21000 B 143146
輕金屬	848345		67452	471795		A 848345
電線	888084		97000	786654		A 888084
沖綫	245535			228585		A 245535
石炭鑛山	6345263	655000	1180000	3459769	450000	C 534460 D 5840803
化學	20101426	1210330	1647700	12750268	2655000 8445000	A 6558830 C 2155038 D 11466558
硫酸	5869057	308000	704000	3268697	800000	A 4263250 C 792000 D 3833807
石灰窒素	1514651	54000	180000	852845	100000	A 729126 C 100000 D 685525

業種	総所要額	捐 進				使用金額
		増 進	社 員	中 介 行	見 込 金	
恩賜紙類	1,197,861		459,000	736,263	50,000	A 848,298 C 149,463 D 150,000
カーパット	138,105			131,130		A 138,105
硫酸	1,229,223			709,839	200,000	A 9,150 C 219,700 D 980,373
石灰、加重	70,260			66,000		A 70,260
燐灰肥料	378,592	40,000	30,000	306,049		D 378,592
ソーダ	1,659,137	61,730	199,800	779,609	550,000	A 1,535,943 C 123,194
火 薬	238,122			238,122		A 118,000 C 119,122
一般機械	37,000			37,000		A 37,000
合成木材	4,761,530	562,500	370,000	2,994,030	835,000	D 4,761,530
染 木 材	1,099,922			1,099,922	90,000	A 1,099,922
74式機ソダ	148,100	31,100		88,000	30,000	B 148,100
74式機材料	426,210	150,000		359,110		C 89,210 D 337,000
74D-11	16,000			16,000		D 16,000
74心製品	1,204,256	3,000	120,000	935,256		A 661,296 C 399,349 D 145,611
一般機械	3,400			3,400		A 3,400
油脂製品	220,000			229,000		A 45,000 C 145,000 D 30,000
機 械	4,195,997	1,000,500	746,500	3,030,814	200,000	A 2,229,203 C 1,544,688 D 422,106
輸送機械	1,280,730	6,000	408,000	862,400		A 854,994 C 89,730 D 336,206

業種	總所要額	推定			支中額	見込	注
		増	減	差			
有線機械	202,940				272,940		A 157,990 C 114,950
無線機械	56,157				51,157		A 56,157
車 輛	1,317,003	20,000	281,500	801,213	200,000		A 985,009 C 246,094 D 85,900
ミシン	56,101			56,101			A 13,820 C 42,281
光学機械	271,000	53,000		218,000			A 157,000 C 256,000
時 計	156,795			151,845			A 23,620 C 133,175
建設土木 機械	257,000		22,000	5,000			C 257,000
鉱山機械	7,735			5,000			A 7,735
岩機具	173,648	2,000		162,500			A 9,828 C 163,820
特殊運用品	281,458		30,000	195,078			C 281,458
糊美工具	150,200			142,200			A 40,000 C 110,200
其 他	147,230	18,500		114,380			A 15,250 C 81,980
織 物	10,341,140	262,863	1,313,120	7,106,801	1,202,000		A 1,855,603 C 516,348 D 7,968,109
綿織物	3,603,718	127,500	1,043,120	2,128,370			C 487,808 D 3,115,870
化学織物	5,292,373		120,000	3,931,223	1,200,000		A 1,319,950 D 3,972,423
麻 毛	1,206,066	113,863	150,000	872,958			A 325,250 D 880,816

業種	総務費額	増資			市中銀行	交通資金	使用正金
		増	社	債			
味色	209,933	16,500			150,200		A 181,433 C 28,500
至x11x2 雑費	29,050	5,000			24,050		A 29,050
	2,228,079	273,000	450,600		5,226,166	207,000	A 3,239,417 C 1,271,451 B 3,217,211
紙347°	3,069,880	160,000	1,000,000		2,204,535	50,000	A 986,309 C 430,373 D 1,653,198
ゴ	1,061,430	20,000			998,210		A 505,000 C 77,480 D 496,950
セX21	1,082,421	30,000	380,600		597,821		A 912,921 C 169,500
耐火レンガ	211,000				211,000		C 211,000
陶磁器	23,387				80,800		A 55,387 D 28,000
硝子製品	128,000				98,000		A 128,000
板ガラス	1,369,861				643,800		A 141,500 C 296,296 D 932,063
建築材料	100,000					100,000	A 100,000
炭素製品	38,000				38,000		A 36,200 C 1,800
研削材	40,000	3,000			37,000		C 12,000 D 25,000
硝子製品	283,000	50,000			160,000	270,000	A 186,000 B 97,000
七宝	15,500				15,000		A 15,500
其の他	245,600	10,000			142,000	30,000	A 172,600 C 73,000

業種	総振替額	個 建 立 費				使用区
		増 資	社 債	資 本 増 行	貸 付 金	
計	112,077,689	7,580,693	13,324,523	46,684,961	23,746,797 34,266,991	A 29,112,740 B 2,102,145 C 10,508,027 D 68,018,777
(追加)						
ガ 入	4,008,660	500,000	620,000	2,888,660		C 1,496,515 D 2,512,145
コ - 入	712,446	-		712,446		C 644,861 A 67,585
総 計	116,798,795	8,080,693	13,944,523	570,286,067	34,266,991	A 20,180,325 B 2,792,145 C 12,649,403 D 70,530,922

- (註)
1. 使用区 A は一般の合建、B は近代化 C は維持補修
D は増設
 2. 使用区 B 某社中石炭因係は不明なため除外
 3. 見込増資は安率算に基く(但し北山川南東計画を除外)

昭和25年度米國対日援助見返資金
 私企業投資計画
 4.14 司令部
 12 英文課長の印
 25.4.10
 盛添安次郎

業種	継続	新規	計	追加要請額			合計
				継続	新規	計	
電力	148.7	33.3	181.0	-	4.2	4.2	185.2
石油	74.0	33.0	104.0	-	7.5	7.5	113.5
炭	13.6	3.4	17.0	13.8	2.7	16.5	33.5
金	-	-	-	-	2.9	2.9	2.9
鉄	14	4.1	18.5	0.6	16.4	17.0	21.5
化学	0.1	3.9	4.0	-	3.1	3.1	7.1
化学	1.0	2.8	3.8	-	4.8	4.8	8.3
紙	-	1.0	1.0	-	2.0	2.0	3.0
化学	-	-	-	-	2.5	2.5	2.5
化学	-	-	-	-	1.5	1.5	1.5
化学	-	1.0	1.0	-	6.0	6.0	7.0
小計	(234.8)	(95.2)	(330.0)	(14.4)	(42.6)	(44.0)	(400.0)
中	-	12.0	12.0	-	-	-	12.0
小	-	52.0	52.0	-	-	-	52.0
合	(-)	(14.0)	(14.0)	(-)	(-)	(-)	(14.0)
小計	(244.8)	(158.2)	(400.0)	(14.4)	(42.6)	(64.0)	(444.0)

電力 (単位 百万円)

148.7	3.233	18.100	-	42.0	42.0	18.520
-------	-------	--------	---	------	------	--------

工事概要
 人 継続
 昭和25年度中に見返資金の取上げによって着手した工事の内、25年度に継続する工事がある。
 (1)

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

能 統	新 規	計	追加委託額			合 計
			他	新	規	
7100	3300	10400		750	750	11,850

工事概要

1. 統 統

5000 新造船 272千円 (4.2億) 4759 (T.L段屋1隻(合計))

700 A型改修 196 " (1.28億) 2,357 (2)

Need:

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

昭和24年度当初計画に入つて、資金の關係から繰延され巨水力拡充工事及び昭和24年度電源並九に内連する受電施設並九に送電施設の拡充である。

Recd
 ① 新造船 10千9/T (1隻) 83
 ② 新造船 29千9/T
 ③ 新造船 17千9/T (1隻) 400 (=432, 1680)

④ 新造船 26千9/T
 ⑤ 新造船 950
 ⑥ 新造船 400 (=432, 1680)

統	統	新	規	計	追加要木額			額
					統	統	新	
1	330	340		1,700	1,378	272	1,650	3,350

1. 陸 統

三井 峯山 海盛用卷 200
 三養 飯茶 高 島 堅坑 100
 北海 煤炭 坂ノ 船 平 和 二坑用卷 100
 中 正 飯茶 本 平 一~四坑用卷 105
 明治 飯茶 本 地 送炭機設備 40
 西 井 路 堅坑用卷 25
 濃 路 明 卷 40
 沖ノ 山 水雷機回 15
 和 山 千石 55
 東 見 初 海盛用卷 50
 大ノ 浦 東都大ノ 用卷 250
 高 松 二島用卷、第三堅坑用卷 130
 相ノ 浦 送炭機 30

(B)

項目	内容	数量	備考	
1. 船	水生紙	17		
	大正紙	13		
	日笠紙	40		
	計	50		
	2. 新規	近下	130	
		中江	120	
		清水沢	60	
		鹿野	80	
		計	340	
		追加要求額	池田	250
山野			100	
砂川			120	
芦別			70	
高島			96	
古賀山	40		(上期)	
大野	75			
茶志内	70			
泊戸	80			
計	35			
北海道汽船	送炭機	52		
	雨壳	26		
	三坑雨壳	72		
	雨壳	11		
	三坑雨壳	59		
	三坑雨壳	15	(上期)	
	三坑雨壳	18	(上期)	
	三坑雨壳	18	(上期)	
	三坑雨壳	18	(上期)	
	三坑雨壳	18	(上期)	

宇部炭産	西中山	千石工事	11 (上巻)
	東見初	海底産重坑産	9 (上巻)
貝島炭産	大ノ浦	東新下ノ浦南産	50 (上巻)
	高松	一島南産、三堅坑南産	25 (上巻)
日永炭産	相ノ浦	送炭産	7 (上巻)
	北ノ方	送炭産	20
行島炭産	中ノ島	南産	9 (上巻)
大丘炭産	大ノ島	一ニ坑南産	40
松島炭産	江田	三坑南産	10 (上巻)
日堅炭産			
計			1378
2 新規			
明治炭産	佐賀	南産	22 (上巻)
北海産炭産船	清水沢	南産	130 (上巻)
三菱炭産	大坂	池ノ沢産電灯増産	100
日永炭産	鹿町	西坑及本南坑南産	20 (上巻)
計			272

備考

- 1) 石炭産は最近ある程度の収産を挙げているので本計画炭産に於ても資金繰りから継続工事は増加した。しかし、石炭各社は、(1)積金を主とする多額の借入金負担 (2)配当公団廃止に伴う自先重産資金需要並にそれらが借入金に對する圧迫、(3)炭産単産価産税その他木排金産増産を担うた問題のため収産を挙げず再生産乃至はCash 低下の爲の設備に投入する等とかが出産をいふに最も大きな問題がある。
- 2) 北産、清水沢、明治佐賀は國家の計画新炭産として重要な炭産であり、24年、度々大々第一噴出として扱われ下り炭後に金額の衰へる恐れがある。前者は炭産時代既投資額ノラノ百万円始炭産として可採炭産3,000万トンを7924 Cash 工事完了百年間70万トンの出炭を見込む。後者は炭産時代既投資額ノラノ百万円工事完成後年間24万トンの出炭を見込み、6,800 Cash 埋炭炭産520万トンを可採炭産2500万トンである。尚、煤産の古賀山(三菱)も同様の Cash であつたがこれと24年度解除は原リ工事進

款中である。

- 3) 遷延貯炭増産関係として特に繰尺炭産を産(日鉄鉱業、野上製炭)を予炭としてこれにより工事完成後出炭増産ノブチンを見込み、製鉄用原料炭の需給重直の緩和に資せんとするものである。
- 4) 産炭工事に伴って、大震災の如く亦繰られるが、これに何れも産炭産として石炭の合理化とコスト低下の指向し、石炭業の健全自立と産炭業に対する炭価上の圧迫を緩和せんとしたものである。
- 5) 合理化問題としての出炭増産を主に出炭維持のための関係工事、
- 6) コスト低下を目的とする産炭設備の新設改良工事を中心とした増産化、
- 7) 炭價向上を目的とした産炭設備の新設、改修

全鉄山

産 地	新 規	計	産 加 季 床 類		合 計
			産 規	計	
			290	290	290

追加原料費

中外鉄炭 (増産) 専化製錬設備原元 300 元/日 1.5 160元/日

千歳鉄炭 (千歳) 浮游選鉱設備原元 120 元/日 0.7 96元

新製産鉄炭 (大口) 専化製錬設備原元 200 元/日 8.1 181元

備 考

我が國の金山は昭和9年産鉄炭増産より山元専化製錬設備及び浮遊選鉱設備を撤去せられて以来、戦前戦後平均的コストの増産をみた産鉄炭は根拠から減産せられ、現産年産約4兆トンと云ふ状態である。

政府としては國際收支の見地から年産ノの九に増産することを計画している。

此の計画の対策と云つて、(1) 十社十一金山のうち中増産或いは自己増産が会社の資金繰上不可能であるが、産量品位とも増産で設備完備後現行金額で採算可能な三社三山を融資対象として増産した。本計画の工事完成後三山で2500千トン/年の増産となる。

鉄鋼

(単位 百万円)

既規	新規	計	追加要額			合計
638	412	1,050	67	1,033	1,100	2,150

工事概要

1. 既規

八幡製鉄 (旧日鉄八幡製鉄)

西田発電所増設

722

富士製鉄 (旧日鉄神岡) 釜石工場移設

576

2. 新規

戦平度より建設された日本鋼管 No.3 高炉 No.1 コークス炉改修及び相子製鋼合組
に工事のうち次の工事とヒリあける。

日本鋼管 No.1 コークス炉改修

412

追加要額

1. 既規

八幡製鉄 西田発電所増設 (工場)

58

富士製鉄 釜石工場移設

7

2. 新規

八幡製鉄 東田 No.4 高炉改修

137

神岡 No.3 コークス炉改修

62

戸畑ストリッパ部 (輸入機)

85

計

富士製鉄 神岡 No.4 コークス炉改修

285

釜石製鉄 釜石原料炭粉碎装置

103

釜石原料炭粉碎装置

30

計

日本鋼管 東田 No.4 コークス炉改修

183

釜石製鉄 釜石原料炭粉碎装置

50

日本鋼管 神岡 No.3 コークス炉改修

52

計

日本鋼管 釜石原料炭粉碎装置

200

釜石製鉄 釜石原料炭粉碎装置

322

計

日本鋼管 釜石原料炭粉碎装置

322

計

日本鋼管 釜石原料炭粉碎装置

322

計

日本鋼管 釜石原料炭粉碎装置

322

計

日本鋼管 釜石原料炭粉碎装置

322

神戸製鋼 中環工場
 肩状圧縮設備外合理化

計	100
新採集金属	40 (申請中)
予備	140
考	60

新採集金属 予備考

補給金繰戻後我が國鉄鋼業が國際競争に堪へ自立するたためには原料面は於ける
 改善と並んで備設備の合理化中を巧且つ順適にしている。圧縮設備の近代化を必
 要とする。而も過去に於ける設備資金の扱下不足し一般筋に整備整備も十分
 に行われていないので設備資金需要は極めて多く各企業のカでは調達し切れない。
 従つて各企業の自己調整能力をも勘案して

- (1) 最も基本的であり且つ多額の資金を要する高炉、コークス（文巻用）の増修
 - (2) 現在の原料供給状況から見て必要を國內炭活用設備
 - (3) 圧縮設備の近代化
 - (4) 自家発電増設その他
- に就いて2億5千万円程度の見込資金融資を行いたい所であるが、之を1.0億
 5千万円にする場合上記諸計画のうち種々一部をとり上げ得るに止まる。

化学肥料

(単位：百丁円)

従規	新規	計	追加		合計
			従規	新規	
12	388	400	-	312	712

工業概要

1. 従規

東北肥料

硫守製造設備 (銅液蒸発装置)

12

2. 新規

昭和電工

川崎

硫守製造設備 (ガスリニア)

(申請中)

128

水力発電所 (赤松)

硫守製造設備 (ガス法一系列増)

150

40500

294457

940

別府化学

硫守製造設備 (ガス法一系列増)

80

追加資本類

昭和電工

硫守製造設備 (ガスリニア) (上場)

22

日東化学

硫守製造設備 (ガス法一系列増) (〃)

70

別府化学

硫守製造設備 (ガス法一系列増) (〃)

30

東北肥料

硫守製造設備 (電解法一系列増)

80

日本水素

硫守製造設備 (電解法一系列増)

60

東亜硫守

硫守製造設備 (ガス法一系列増)

50

備考

現在尚多量の窒素質肥料が米國対日援助見込資金にまつて、輸入を以ていゝるが、
 停米之を國內にて自給すると共にその生産量を引下げ、且つ現在の地域的消費
 の不均衡をも是正せんとするものである。

本計画により電解法硫守52500丁、ガス法硫守121,100丁及び
 水素による石灰窒素3000丁の能力増加とす。尚生産コスト低減
 の採用、ガスリニアの設備、設備同のバランス調整の合理化を行ふこと等
 上場各社に平均約10%の低下が見込まれる。

化学薬品

種 別	規 規	計 計	追加要 求 額			合 計
			種 額	種 額	計 額	
100	245	345	-	485	485	830

工 業 機 器

1. 継 続

○ 在ガノ回収球破設備

日本 敏 泉

100

2. 新 規

○ カルピン酸ソーダ製造設備

北海道興発 (申請中) 30
花 王 石 炭 (") 15

旭化成工業ニテ製造設備

宇 初 ソ ー ダ

200

追加要 求 額

金属系漆製造設備

マニエ漆業

20

カーバイド炉新設

新日本炭業

100

カーバイド炉及び精製ビニール製造設備

日本カーバイド

150

旭化成ビニール及び石灰製造設備

日 豊 北 学

25

スレン系高級染料製造設備

三 井 北 学

90

カルピン酸ソーダ製造設備

橋 川 北 学

20

スチロロキシレン製造設備

ニ 社

80

- 3 回収設備計画は取手炭よりの継続工番であつて *Polymer* 原料の初告れより従来原料物事に被害をよえそとの併用設備がガスより極めて安価(飛行船の約50%)に設備が生産し得ると同時に被害を防止し得るものである。
- 5 カルピン酸ソーダは輸出振興の観点から振替が要望されており、且上記北海道興発にたいして一割外費導入が決定している。
- 6 旭硝子社は化学工業の基礎部門たるカルピモノエチレンソーダ工業の根本的合理化のため必要であつて、本計画を遂行しようとするソーダ法約20%の原料引下と運賃燃料36,000円増の増産が期待される。
- 8 金属系染料製造設備も輸出振興の観点から補充が要望されるものである。 (100)

得類の年間ノ之の万乗に達する見込である。

§ カーバイト焼付陶器有機合成事業の合理化の爲に標準であつてカーバイトの生産原価約ノ5%引下可能と見られる。

§ 石灰酸及び過化ビニールはカーバイト系有機合成事業と共に化学工業技術の適用として将来とも育成の要あるものであるが本計画は米露技術の導入によつて行はれるものである。

§ 高級染料の補充は輸出品税を削減せしめたり國産を優先せしむるものによつて漸次平岡ムフコ布の増産を期せしむる。

§ 世界有数の結核患者を有する我國に於て付ストレプトマイシンの國內生産は國民保健上極めて重要な問題であると考へられる。

(112)

鐵 道

(單位：百方町)

鐵 道	新 規	計	追加要求額		合 計
			鐵 道	新 規	
—	1000	1000	—	200	200
					1200

工 事 機 要

倉敷レーヨン	—	合成纖維(ビスロン)日産10毛製造設備	550	33
東洋レーヨン	—	合成纖維(アミロン)日産5毛	200	14
大日本セルロイド	—	醋酸纖維日産5毛	150	12
新日本産業	—	"	100	8

16毛 16毛 16毛
16毛 16毛 16毛
16毛 16毛 16毛

追加要求額

倉敷レーヨン	—	合成纖維(ビスロン)日産10毛製造設備(100)	1000
東洋レーヨン	—	(アミロン)日産5毛	50
大日本セルロイド	—	醋酸纖維日産5毛	50

備 考

纖維原料中棉花及羊毛は何れも之を額外に販賣してゐるが、合成纖維及醋酸纖維の原料は國産を以て期々得るものであり、その増産は外資の節約に寄與するのみならず、現在先進諸國に比し著しい立廻りを示してゐる新纖維の育成は我國纖維産業の発展上重要任務を有するものである。

添 加 要 求 額

鐵 道	新 規	計	追加要求額		合 計
			鐵 道	新 規	
—	—	—	—	250	250
				250	250

追加要求額

帝都高速度交通営団 (東京地下鉄)
神田池袋間拡張工事 250

備 考

3ヶ年計画工事費44億、内初年度分7億円で自己調達分450百万円は主として交通債券の発行により賄う。

1950年6000億円

(122)

本計画案の完成により現状線に比し距離に於て約2倍時間に於て片道約9分の節
 減となる。
 本事業の遂行に於て首都における甚しい交通の緩和、都民活動能力の増進の
 他都市対策事業として大きな効果を期待される。

観 光

(単位百万円)

概 算	新 規	計	追加要求額		合 計
			概 算	計	
—	—	—	150	150	150

追加要求額

ニューオリエンタルホテル 40 (申請中 20百万円)
 志摩観光ホテル 30 () 28
 名古屋国際観光ホテル 40 () 30
 大阪見本市会館ホテル 40 () 24
 NO.7E 上記の四ホテルは24年度の計画として取り入れられ、現在申請書提出
 中のものである。

農 林 漁 業

(単位百万円)

概 算	新 規	計	追加要求額		計
			概 算	計	
—	600	600	—	600	1,200

工 事 概 要

土地改良(灌漑排水施設、干拓工事、耕地整理等)64町) 350(申請中 29)
 農業用小水力発電施設 23() 52
 環田用起事業(北河津の環田用起の築港築堤、倉庫建設等) 22() 77
 造林事業 (造林面積約6千町) 100
 追加要求額
 土地改良事業(上掲約17千町) 400
 造林事業 () 約 9千町) 150
 農道整備合理化 50

附考

農村復興組合の資金の一部は森林中央金庫の借入金を見返資金で引受ける方法に依り調達することとするが上記諸事業はその性質上長期低利の資金を必要とするものが多いから主として24年農計画の繰延事業を計上した。

(1) 土地改良事業(330千町)食糧的ノ方を増産すると共に農業生産の安定、合理化を図る。

(2) 農業用小水力発電所建設：出力約500KWを以て約13千町の農家に農業に兼業用途に電燈電力を供給する(本國の電力量農家戸数約200千戸)

(3) 狭田湖泥事業：北海道の木村泥炭地を開発し約30千町の農産増加を図り併せて農民生活の安定に資する。

1. 造林(約15千町)：本國の森林は戦後の結果急激に減少し、森林資源は年々減少し、連年の風水害の大きき被害因を併してあるから政府は今回金に於て「造林臨時増進法」を制定し森林の増産促進を図ることとした。本計画に於ては現在160千町と増産される需産面積の一部の造林を行な約230千町の森林増産を増加すると共に災害防止水源保護に資する。

2. 農産増産：牧畜の合理化を行なノリスの低下を図る。

Rural
Development of the island of Hokkaido
各町に別々に行なうに注意
In the case of the island of Hokkaido, it is necessary to pay attention to the fact that the rural population is concentrated in the coastal areas.
In the case of the island of Hokkaido, it is necessary to pay attention to the fact that the rural population is concentrated in the coastal areas.

117
25
4.11
2-7

昭和廿五年年度農林水産業設備資金計画(案)〔企業(部)〕
No. 1
25. 4. 11. 農林大臣官房

字種名	所要額	調			分			備考
		収支(百万)	増減	仕入	市販	現金		
製紙未利用材用板	381,220	134,820	30,000	20,000	196,400	-	日本パルプ他9社	
不攪乾燥及合板	112,640	12,640	-	-	100,000	-	三井木材工業	
生糸製造	399,600	13,500	-	38,000	75,500	272,600	片倉製糸他5社	
炭酸カルシウム	47,000	8,000	-	-	41,500	39,000	北海道農牧他1社	
農薬	54,500	3,000	10,000	-	4,500	-	日産化学他3社	
小計	994,960	171,960	40,000	58,000	413,400	311,600		
製粉	162,360	9,375	111,800	18,200	22,985	-	昭和産業他4社	
小麦粉	91,960	81,960	-	-	10,000	-	アヰルパル粉母他1	
油脂	154,747	69,947	30,000	30,000	25,000	-	泰永、北野、日華他3	
缶詰	112,000	40,000	24,500	10,500	37,000	-	北日缶詰他1	
醬油	31,151	6,151	-	-	5,000	20,000		
調味料	50,000	-	-	50,000	-	-	野田、徳油、味の素	
砂糖	139,480	-	-	-	139,480	-	味、味の素	
糖粉	25,000	5,000	5,000	-	15,000	-	芝浦製糖	
澱粉	22,200	-	5,500	16,700	-	-	昭知産業	
食品小計	788,898	212,233	176,800	125,400	254,465	20,000		
漁業	1,654,000	-	190,000	139,000	662,500	662,500	大洋、日水	
船舶	107,238	10,900	42,638	29,000	2,300	22,400	日水、船洋	
油	1,042,000	-	-	-	421,000	621,000	日水、船洋	
冷凍機	133,644	644	20,000	-	13,000	100,000	帝崎産業	
以西瓜等代船建造	206,000	-	108,000	80,000	18,000	-	日水、五洋	
アメリカ式巾着漁業	185,800	2,000	22,000	-	97,000	64,800	船洋、宝幸、日華、五洋	
船艇建造	45,000	-	20,000	-	25,000	-	宝幸、他之	
船艇代船建造	101,050	11,050	58,000	-	32,000	-	日水、日華	
遠洋漁船冷凍機	26,000	-	4,000	-	20,000	-	日水、日華	
製氷冷凍冷蔵機	618,980	247,592	-	-	371,388	-	大洋他8社、日華、日冷他1	
製氷冷凍冷蔵機	152,500	500	-	150,000	2,000	-	日冷他1	
機肉換装	23,840	5,840	-	-	8,000	10,000	船洋	
水産小計	4,296,052	278,526	464,638	400,000	1,672,188	1,480,700		
(大企業分合計)	6,079,910	662,719	681,438	583,400	2,340,031	1,812,300		
(以下中小企業)								
興地未利用材用板	82,480	20,260	-	-	62,220	-	日水、果林他11	
合板及木材乾燥	115,000	20,000	-	-	65,000	30,000	新田合板工業他38	
特殊林産物	35,000	10,000	-	-	15,000	10,000	竹合板、木糠、ロシ、杉、桧、油	
蚕糸	66,668	18,648	-	-	48,020	-	惠南、泰系他13	
ゴウラ史毛	19,300	4,800	-	-	14,500	-	堀坂、増子他3	
花菱・野草筵	167,521	97,021	1,000	-	69,500	-	東洋、ツト他15	

(以下次頁)

業種名	件数	延床面積	延床面積	延床面積	延床面積	延床面積	延床面積	備考
製粉	3,000	-	1,000	-	2,000	40,000	3,000	三明化学他1
製粉	488,969	170,724	2,000	-	276,240	20,000	4,000	283工場の倉庫及補修
製粉	141,500	56,600	-	-	64,900	10,000	4,000	HPの改修
製粉	235,000	135,000	-	-	90,000	10,000	4,000	HPの改修
製粉	380,000	120,000	-	-	130,000	130,000	190	工場補修改良
製粉	50,000	10,000	-	-	30,000	10,000	21	埼玉補修他21
製粉	195,000	65,000	-	-	100,000	30,000	41	社合理化資金
製粉	95,000	25,000	10,000	-	45,000	15,000	37	九州化学他37
製粉	30,000	9,000	-	-	11,000	10,000	-	-
(食品小計)	1,126,500	420,600	10,000	-	470,900	225,000	-	鋼船9. 木船43
製粉	759,850	226,350	-	-	533,500	-	-	製粉船142隻分
製粉	616,280	246,512	-	-	369,768	-	-	若松製氷他4
製粉	128,000	40,000	-	-	88,000	-	-	小樽港協組他11
製粉	400,000	100,000	-	-	150,000	150,000	-	(令麻産、魚成処理、其油等)
製粉	1,290,160	500,160	-	-	790,000	-	-	494台分
製粉	31,000	9,000	-	-	22,000	-	-	東邦代成他2
製粉	483,300	145,300	-	-	338,000	-	-	養鮮10万封筒輸出
製粉	-	-	-	-	-	-	-	瑠珠 8405个
(水産小計)	3,708,590	1,267,332	-	-	2,291,268	150,000	-	-
中小企業合計	5,324,059	1,858,651	12,000	-	3,038,408	415,000	-	-
総合計	11,403,969	2,521,370	693,438	583,400	5,578,461	2,227,300	-	-

昭和廿五年度設備資金企業別需要額調査表

(單位千円)

種	企業名	資本金	事業場	所募額	設備資金			分	資金の用途目的	事業内容
					収	増	社			
奥 地 未 利 用 林 用 途	日本バルブ(株)	100,000	宮崎県岩戸村	40,370	20,370	-	5,000	15,000	奥山開発諸設備	車道8km 軌道4km 其他 昭和25年度生産見込量 55千石
	三井木材工業	30,000	群馬県北品村	41,990	21,990	-	-	20,000	"	車道5. 索道1.5km 其他 30千石
	日産農林(株)	20,000	長野県和田村	36,560	16,560	-	15,000	5,000	"	軌道9.9km 索道2.3km 其他 105千石
	東海商事(株)	15,000	静岡県井川村	37,000	2,000	15,000	-	20,000	"	索道8km 木馬道12km 其他 90千石
	興志本(合)	5,000	長野県和田村	40,000	17,000	-	-	23,000	"	軌道8km 車道2km 其他 50千石
	永和商事(株)	15,000	岩手県野田村	40,800	4,800	15,000	-	21,000	"	軌道8km 木馬道1km 其他 41千石
	本州製紙(株)	25,000	長野県平糞村	18,000	1,000	-	-	17,000	"	車道3.5km 軌道4km 其他 25千石
	十條製紙(株)	28,000	北海道釧路	17,500	7,500	-	-	10,000	"	車道12km 軌道10km 其他 20千石
	苫小牧製紙(株)	40,000	北海道	61,000	36,000	-	-	25,000	"	車道60km 軌道36km 其他 30千石
	奥会津産業(株)	10,000	福島縣	48,000	7,600	-	-	40,400	"	車道1km 木馬道3km 23千石
(大企業分小計)				381,220	134,820	30,000	20,000	196,400		計 469千石
	日本農林(株)	10,000	熊本県五箇荘	12,000	2,000	-	-	10,000	奥山開発諸設備	車道3km 木馬道10km 其他 本年度生産見込量 20千石
	(株)日興社	10,000	宮崎県桂葉村	12,000	2,000	-	-	10,000	"	軌道4.8km 索道1km 其他 5千石
	遠藤林業	3,000	群馬県北品村	12,700	5,200	-	-	7,500	"	車道2km 軌道2km 其他 30千石
	赤石木材工業	1,400	長野県湯村	19,560	2,860	-	-	6,700	"	索道2.5km 木馬道3km 其他 20千石
	富士林業(株)	180	長野県和田村	3,000	-	-	-	3,000	"	索道2km 其他

裏面白紙

業種	企業名	資本金	事業場	所管額	調 査 区 分				用途及目的	事業内容	
					収益率	増 資	社 債	市 債			見込資金
奥 地 未 利 用 林 地	島山五三郎商店		岩手縣大川村	2,800	800	-	-	2,000	-	奥山開発設備	車道2km 木馬道2km 本年度生産見込額 204石
	八重樫運吉		〃 色向村	2,000	-	-	-	2,000	-	〃	車道3km 木馬道2km 〃他 204石
	前川林業部		〃 小口村	7,600	4,600	-	-	3,000	-	〃	車道8km 土場300坪 704石
	岩手林産輸出(株)	1,000	〃 安永村	9,750	1,000	-	-	8,750	-	〃	車道5km 軌道2km 204石
	北上林産工業所		宮古市茅野	5,200	1,200	-	-	4,000	-	〃	車道4km 304石
	岩手床板工業(株)	195	岩手県色向村	2,270	-	-	-	2,270	-	〃	車道4km
合 計	一閑興業(株) (中小分合計)	4,000	岩手県須川村	3,600	600	-	-	3,000	-	〃	車道4km
合 計	三井木材工業(株)	22,500	名古屋	112,640	12,640	-	-	100,000	-	合板工場製品合庫	2454石

裏面白紙

151

21

業種	会社名	資本金	工場名	所要額	逓増		市区	分	資金使途又目的	資金を必要とする理由			
					収	益							
生	片倉製糸(株)	500,000		165,000				13,000	147,000	自動繰糸機—980台 コンワインダー—900錠			
	郡是製糸(株)	150,000	未定	44,800					44,800	自動繰糸機—560台			
			長井, 吾橋工場	8,000			8,000				低温用カラム乾燥機—2台		
			(計)	52,800			8,000			44,800			
糸	日本L-ヨン(株)	300,000		92,500				52,500	40,000	自動繰糸機—250台 コンワインダー—1,000錠			
	昭栄製糸(株)	32,500	小山工場	4,000	4,000						多條繰糸機改修		
			各工場	1,000	1,000						索緒機改装		
			本庄工場	600	600						貯蓄倉庫改造1棟		
			三工場	1,800	1,800						水質改良施設新設		
			須坂工場	500	500						急速乾燥装置新設		
			各工場	600	600						特大製糸繰糸機新設		
			(計)	16,000						1,600	自動繰糸機—200台		
製				4,800						4,800	コンワインダー—240錠		
			(計)	29,300	2,500					20,800			
	造	東海糸業協同(株)	3,000		10,380	7,380			3,000		自動繰糸機—36台 土地, 建物		
		埼玉共栄製糸(株)			5,000	2,000			3,000			乾荷機, 木行, パイ, 建物	
		(有) 吉田館			670	0			670			索緒機, 抽出機	
		高音蘭糸(株)			42,000	7,000			35,000			自動繰糸機—80台 コンワインダー—1,000錠	
		新栄田製糸(株)			700	0			700			抽出機	
		日星産業(株)			3,640	1,140			2,500				

裏面白紙

業種	会社名	資本金	工場名	所要額	額		区	介	資金の使途及目的	資金を必要とする理由
					収	増				
生糸	雄勝製糸(合)			600	200			400		
	前岡製糸所			310	10			300		
	成松製糸(株)			500	0			500		
	川上製糸工場			210	10			200		
	茨城製糸(株)			468	18			450		
	(株)須坂共同社			840	340			500		
	廣田製糸所			750	250			500		
製造	渡辺製糸所			600	300			300		
	神榮製糸(株)	40,000	綾部外9工場	30,000				30,000		
	交水製糸(株)	30,000		30,000	5,000			5,000	20,000	交水式自動繰糸機新設
小計			466,268	32,148			38,000	23,520	272,600	

裏面白紙

業種	會社名	資本金	工場名	所要額	調 達 区 分				資金の用途及目的	資金を必要とする理由
					収 益	増 資	社 債	市 銀		
農	日本農薬 (株)	10,000		20,000		10,000		10,000	製造機械設備の増設改良	粉末硫酸石灰 粉末銅清の増産
	日産化学工業(株)	500,000	王子工場	16,000				16,000	機械設備の新設	2-4-Dの増産
	三 頭 (株)	120,000	野州川工場	10,000	3,000			7,000		乳化清の増産
	東三農薬 (株)	7,000	横 浜	5,300				5,300	倉庫及工場並機械設備の増設	
			京 都	3,200				3,200		
			(計)	8,500				8,500		
	小 計			50,500	3,000	10,000		41,500		
薬	五明化学 (株)	1,000	本社及工場	1,500		500		1,000	機械設備の新設	機械油乳清
	野村産業(株)	500		1,500		500		1,000	機械設備の改修	石灰硫酸合清
	小 計			3,000		1,000		2,000		
	合 計			57,500	3,000	11,000		43,500		
炭 酸 カルシウム	北海道炭坑工業(株)	7,500	工興部工場	40,000	7,000			33,000	工場施設の増設	現有設備能力 40,000トニ 80,000トニに整備拡充
	宮城9ノ川(株)	5,000		7,000	1,000			6,000	工場機械施設の増設	現有設備能力 6,000トニ 20,000トニに整備拡充
	合 計			47,000	8,000			39,000		

裏面白紙

業種	会社名	資本金	工場名	所管額	額					資金の使途及目的	資金に必要とする理由
					収益	増資	社債	市銀	繰入金		
ア イ ウ エ	株式会社	1,200	東京都新橋区	2,500	800			2,000		工場設備改修	経営の合理化
	株式会社	8,500	兵庫県伊丹市	8,000	2,000			6,000		個別縫工機及び他種先 銅市場整備	
	株式会社	1,500	滋賀縣長浜市	4,500	1,500			3,000		種完場整備	
	日本食工株式会社	1,200	東京都北区	4,100	500			3,500		免反噴理加工場整備	経営の合理化
小計				19,300	4,800			14,500			

裏面白紙

125

業種	會社名	資本金	工場名	所要額	資金				資金の使途及目的	資金の必要の理由
					収益	増資	社債	市銀		
花	東洋硝子(株)	5,000		20,000	12,000			8,000	工場管理及附属設備補修改良	(以下同)
	旭硝子硝子(株)	2,000		20,000	12,000			8,000		
	三興硝子(株)	1,500		12,000	7,000			5,000		
造	東興硝子硝子(株)	1,500		12,000	7,000			5,000	(以下同)	
	碧陽硝子(株)	1,000		9,800	4,200	-1,000		4,500		
	山陽硝子硝子(株)	1,500		13,500	8,500			5,000		
野	工業硝子硝子(株)	400		10,000	7,000			3,000	(以下同)	
	工業硝子硝子(株)	1,500		10,000	7,000			3,000		
	津口硝子硝子	500		5,000	3,000			2,000		
草	金沢硝子製造所	500		7,000	4,000			3,000	(以下同)	
	岡山硝子硝子硝子(株)	5,000		12,000	7,000			5,000		
	備後硝子硝子(有)	2,165		12,000	7,000			5,000		
造	竹内硝子硝子	1,090		5,161	2,661			2,500	(以下同)	
	新潟硝子野硝子硝子	1,500		6,000	3,000			3,000		
	久留米硝子硝子硝子(株)	1,500		6,000	3,000			3,000		
	静岡硝子硝子硝子硝子	2,000		7,000	2,500			4,500		
小計			167,521	97,021	1,000		69,500			

裏面白紙

表1

業種	会社名	資本金	工場名	所要額	期 間			資金の使途及目的	資金を必要とする理由	
					収 入	増 資	社 債			
食	昭和産業 (株)	100,000	(数新) 鶴見工場	139,000		111,000	10,200	資本金増設/工場改修 三ノ宮工場4000名増設 鶴見工場増設/工場改修 新工場増設/工場改修 本社増設の増設 新工場増設/工場改修 鶴見工場増設/工場改修	作業能率の向上及新設の増設 の増設 作業能率の向上 品質の向上及新用途の需要に際して	
			(数新)	19,000		0,500	10,500			
			(水給) 上尾工場	22,200		5,500	16,700			
			(計)	171,200		125,900	45,400			
糧 食 品	日清製粉 (株)	250,000	館林工場	465			465	精選機及集塵機の改良補充		
			宇都宮工場	465			465			
			水戸工場	465			465			
			高崎工場	465			465			
			佐野工場		(25,1,238工場本館焼失其の復元計画は未定)					
			川越工場	465			465			
			鶴見工場	3,750	3,750			社宅建設購入		
			北見工場	465			465	精選機及集塵機の改良補充		
			名古屋工場	750	750			社宅建設購入		
			半田工場	465			465	精選機及集塵機の改良補充		
			神戸工場	3,115	950		1,365	社宅建設及精選機及集塵機の補充、改良		
			岡山工場	3,025	1,125		900			
			浜出工場	465			465	精選機及集塵機の改良補充		
			島根工場	900			900			
			羽犬塚工場	900			900			
(計)	14,160	6,375		2785						

裏面白紙

会二

社名	資本金	工場名	所管額	調 査 区 分					資金の用途及目的	資金に必要の理由
				株 益	増 資	社 債	商 銀	見 込 資 金		
日本製粉(株)	50,000		13,000	3,000			10,000		荷役保管設備の工場倉庫 及原料槽の補修 押送設備の増設	
和歌山製糖(株)	50,000	大坂工場	10,000				10,000		機械設備の増設	1-2事業の増加による増産 設備の拡充(月間貯蔵)
日本甜菜製糖(株)	30,000		81,960	81,960					設備の補修改良	
北日本製糖(株)	4,000		6,000	1,000			5,000		倉庫の増設 (3,000) 自動選別機等の増設 (1,000) 運搬機の増設等 (2,000)	
日本食品工業(株)	5,000	長崎工場 諸富工場	25,151	5,151				20,000	生産設備の補修改良及生産 工程の効率化	輸出振興のための増産
日清製糖(株)	50,000	横浜工場	45,100		15,000		30,000		抽水設備の改修、復旧	
日華油脂(株)	100,000	若松工場	37,000	20,000	16,500		1,000		加工工場洋室改造 15,000 圧搾工場口一取替 5,000 清油工場履帯機増設 5,000 連結油出工場口一室修繕 5,000 不圧一室取替装置新設 7,000	
日本食品化工(株)	25,000		11,000	5,000			6,000		未完成の製油設備の完成及び 原料処理能力1日30t→50t増設	
味の素(株)	400,000	川崎工場	113,710				113,710		機械設備の増設及改修	製糖-砂糖日生産増加-設備 拡充
		横浜工場	25,770				25,770		大豆-1改造19台改修工事	生産能力の増加
		(計)	139,480				139,480			
野田醤油(株)	80,000	野田工場 関西工場 酒造工場	50,000				50,000		設備改善	旧設備の老朽による
森永乳業(株)	70,000		65,000	40,000			25,000		市乳工場の新設(東京日産30t) 蔗糖煉乳製造設備(本稼2,500%) 工場設備の改良補修	
北海道酪農協同(株)	120,000	計根別工場 外17工場	89,727	29,727	30,000	30,000			煉乳製造設備、半条線設備 4-2製造設備の増設及 補修改修	

裏面白紙

食

種	會社名	資本金	工場名	調査				資金の使途及目的	資金に必要の理由	
				所要額	増設	増設	前銀			
食	三浦製糖 株	3,000		25,000	5,000	5,000	15,000	工場能力増強(生産能力19,000と16,000との差) A) 機械設備の増加 25,000 B) 機械設備の増設 C) 100-120HPの増設 2,500 D) 発電能力の増加 E) 工場150坪増設 4,500 F) 倉庫150坪 3,000		
	中央製粉 (株)	5,000		2,200			2,200	原料精選設備及製粉設備の増強		
	武蔵製粉 (株)	6,000		3,000			3,000	設備の増設 1) 増設 精白機、 2) 774X- 3) 774X- 4) 774X- 5) 774X- 6) 府中町駅に製粉所20間 の増設施設。		
食 品	中小企業関係									
	製粉			141,500	56,600	-	64,900	20,000	全国3,026工場の内10トン未満の2,837工場の10% (要緊急補修、改良、倉庫附設)に付融資を必要とする。 1工場平均所要額 500万円 (借入 60%)	
	精麦			235,000	135,000	-	90,000	10,000	47,000HP、改修(114台5,000円) 1工場平均50HP	
	製パン			380,000	120,000	-	130,000	130,000	七福町、404工場(35,836トン)の内190工場に付代江 工場製パンの補修改良に必要とする(1工場平均200万円)	

裏面白紙

業種	企業名	資本金	事業別	所要額	調 達 区 分				資金の用途及目的	
					自己(収益)	増 資	社 債	市 債		見送資金
水	大洋漁業	60,000	南氷洋捕鯨	1,325,000	-	(660,000)	-	662,500	662,500	捕鯨母船代船建造(17,000吨型) 本計画完成の際は現能力に比して31%の増強となる。
			遠洋漁船 冷凍機	187,290	74,916	-	-	112,374	-	鯨船7隻(1隻当り4,340千円) トール 17隻(" 9,230千円)
				1,512,290	74,916	-	-	774,874	662,500	(増資は第一次300,000千円、 第二次倍額増資 本年内予定)
産 業	日本水産	675,250	南氷洋捕鯨	189,000	-	110,000	79,000	-	-	冷凍船海幸丸建造
			"	140,000	-	80,000	60,000	-	-	キヤク(370吨160HP)1隻建造
			沿岸捕鯨	36,638	-	22,638	14,000	-	-	女川事業所建設
			"	35,000	-	20,000	15,000	-	-	鮎川事業所建設
			油槽船	442,000	-	-	-	221,000	221,000	12,000吨型1隻建造(総額994万5千円内CVA、市債計552万円八割達済)
			以西底曳	140,000	-	80,000	60,000	-	-	トール代船建造 290吨型2隻
			"	48,000	-	28,000	20,000	-	-	手繰船3組買収
			旋網漁業 遠洋船冷 凍機取付	6,000 92,300	- 36,920	4,000	2,000	-	-	55,380
極洋捕鯨	150,000	沿岸捕鯨	3,000	1,000	-	-	2,000	-	鮎川事業所拡張	
		"	32,000	9,600	-	-	-	22,400	電殺装置兩舷四隻分	
		"	600	300	-	-	600	-	捕鯨用漁群探知機	
		油槽船	600,000	-	-	-	200,000	400,000	口付船取付、改装2隻	
		7×巾	45,000	-	-	-	45,000	-	1隻建造	
		遠洋漁船 冷凍機	18,460	7,384	-	-	11,076	-	トール船取付2隻分	

裏面白紙

業種	企業名	資本金	事業別	所要額	調				元金	資金の使途及目的
					自己(収益)	増資	社債	市債		
水産			機内換装	23,840	5,840	-	-	8,000	10,000	以西底曳船機換装(25馬力→40馬力) 8隻 船底の能力、燃料効率向上等
	日魯漁業	176,200	7×巾	24,000	-	-	-	24,000	-	145馬力1隻建造 (總額52,000円内此20,000 4月一陸橋入)
			旋網	20,000	-	-	-	20,000	-	35馬力2隻(1組) 建造
			遠洋船 冷凍機	100,980	40,392	-	-	60,580	-	10-11. 10隻分 船底2隻分
			144,980	40,392	-	-	60,580	-		
	南日本漁業	30,000	冷凍機付 以西底曳	133,644	644	20,000	-	13,000	100,000	150馬力4隻(4隻中300馬力2隻 75馬力)
業	宝幸水産	50,000	7×巾	50,000	-	22,000	-	28,000	-	150馬力1隻建造
			"	64,800	-	-	-	64,800	-	280馬力 鋼船1隻輸入
			新造遠洋 凍母船	45,000	-	20,000	-	25,000	-	300馬力 1隻建造
			經船代 船建造	20,000	-	8,000	-	12,000	-	160馬力 1隻輸入 (港船中修理船)
			遠洋船冷 凍機取付	8,680	3,472	-	-	5,208	-	新船2隻分
	五洋水産	15,000	以西底曳 代船建造	18,000	-	-	-	18,000	-	鋼船在底船 95馬力2隻購入(1組 船中補充)
			7×巾	2,000	2,000	-	-	-	-	漁網倉庫その他施設建設(三項)

新造遠洋凍母船
280馬力鋼船1隻輸入
300馬力1隻建造
160馬力1隻輸入
(港船中修理船)
新船2隻分

裏面白紙

業種	企業名	資本金	事業別	所要額	調達				資金の用途及目的
					収益(自)	増資	社債	市銀	
水産			輕船代船 建造	50,000	-	50,000	-	-	老朽代船 鋼造船 (200吨型) 1隻建造
				70,000	2,000	68,000	-	-	
	日本冷蔵	500,000	製氷冷蔵 冷蔵	(335,571) 150,000	-	-	150,000	-	釧路工場新設 (約80,000千円) 長崎 福岡 冷蔵施設増設 八戸他40工場の補修改良増設 計画完了後 現在に比し 製氷4.2%, 冷蔵19.7% 凍結14%, 貯氷8.6%の能力増加となる。 総所要額 335,571千円の内 185,571千円は 社債により既調達
朝日冷蔵	12,000	製氷冷蔵 冷蔵	2,500	500	-	-	2,000	貯氷庫の改増築。現有能力450吨を700吨 に仰ぐ。年平均稼働率を仰ぐ。	
業	昭和漁業		輕船漁船代船 遠洋漁船 冷凍機	31,050 69,440	11,050 27,776	-	-	20,000 41,664	135吨型 1隻 在当 230千円 輕船船 16隻分 (氷藏法にF2冷却法のため、 設備物の鮮度低下着しく且つ 餌料の鮮度不良により漁獲能率 低下殊に漁業経営上莫大の損失 をきたす。老朽漁船の更新に要する
	日米水産		遠洋船 冷凍機	100,490 27,690 6,680	38,826 11,076 2,672	-	-	61,664 16,614 4,008	トール船 3隻 輕船 2隻
	川南工業所		遠洋船 冷凍機	34,370 64,060	13,748 25,624	-	-	20,622 38,436	トール船 1隻 輕船 2隻
	日光漁業(株)		全上	21,700	8,680	-	-	13,020	輕船船 5隻
	富士水産(株)		全上	21,700	8,680	-	-	13,020	輕船船 5隻

裏面白紙

南洋
2550
1200
8700
450

二建
港灣 — 6
與西區 35 64
生泉 — 7
港灣 — 8

15.7.43
大企業 6079
收盤 662
指 61
社 538
市 2,340
欠 1,812
中小 5,324
1851
12
0
3,038
415
合計 5749

昭和25年度所定設備資金總括表(後集計)
193387
11699
76.62
68764
單位使用 24 4.5 財政金融局
43.075
56828

通電
1200
630
外 中小
101
<補造的設備>
<資本不足>
190
170
150
50
50
190
170
150
50
50
190
170
150
50
50
<能吃不飽>

項目	總計	增資	社債	市中借入	口部留保等	見込資金
總計	193387	11699	76.62	68764	43.075	56828
電氣	116998	8080	13944	50286	10200	34266
電氣	349 35		6454	5105		2229
石炭	112 11 118	2	1	2.3	1	4.34
鉄鋼	104 10.985	416	12	43.1		2.5
非鉄金屬	20 2	0		2		0
銅	51 5		1	3		0.5
石油天然ガス	64 6	97	13	3	0.6	0.5
化學	203 20.208	6	2	13	2	3
窯業	33 3			2	0.8	
機械	42 4		0.7	3		0.5
織組	103 10		1	7		1
陸運	73 7	2	2	11	2	
海運	271 27			11		16
合計	1425 142	9	17	56	9	51
農林水産	344					
合計	1769					
増資(后集計)	7728	273	480	5226		207
1927-42	4720	56	50	3601		0

裏面白紙

附設 95% 引当金

20000 - 23000 = 3000
(準備金) (貸出) (引当)

9000 準備金
1000 準備金
1000 準備金
1000 準備金

昭和25年度産業資金需給見込作業

昭 25. 4. 18

1. 資金需給

24日 収入 24日 支出

20日 収入 20日 支出

12日 収入 20日 支出

22日 収入 21日 支出

21日 収入 21日 支出

収入 21日 支出

資金需給

1. 運輸資金

2. 従来小運輸資金需給の算出方法の検討

3. 生産増加に伴う増加運輸資金

4. 公団禁止に伴う増加運輸資金

5. 補助給金禁止に伴う所要資金

6. 貿易資金

7. 滞貨資金

8. 設備資金

9. 設備の整

10. 設備の質

11. 資金供給

12. 預貯金

13. 株式

14. 社債

15. 見込資金

16. 借入金

17. 借入金

18. 借入金

19. 借入金

20. 借入金

21. 借入金

22. 借入金

23. 借入金

24. 借入金

25. 借入金

26. 借入金

27. 借入金

28. 借入金

29. 借入金

30. 借入金

31. 借入金

32. 借入金

昭 25. 4. 18
運輸資金需給見込作業

1. 運輸資金

2. 従来小運輸資金需給の算出方法の検討

3. 生産増加に伴う増加運輸資金

4. 公団禁止に伴う増加運輸資金

5. 補助給金禁止に伴う所要資金

6. 貿易資金

7. 滞貨資金

8. 設備資金

9. 設備の整

10. 設備の質

11. 資金供給

12. 預貯金

13. 株式

14. 社債

15. 見込資金

16. 借入金

17. 借入金

18. 借入金

19. 借入金

20. 借入金

21. 借入金

22. 借入金

23. 借入金

24. 借入金

25. 借入金

26. 借入金

27. 借入金

28. 借入金

29. 借入金

30. 借入金

31. 借入金

32. 借入金

昭和24、25年度生産指数推移表

経本.生産局 25.3.15

業種	昭和24年度		昭和25年度	
	平均	平均	平均	平均
印刷品	35.9	49.8	68.5	95.0
厚紙	42.8	56.9	78.2	82.4
維他命	38.6	62.8	84.0	105.7
産物	16.3	19.4	24.7	33.2
茶	90.6	105.8	104.8	86.0
産物	38.6	56.2	94.9	106.2
機械	70.1	106.5	110.1	130.0
産物	50.0	58.8	94.8	106.7
産物	39.7	60.7	76.8	88.1
産物	79.3	93.0	105.5	113.8
産物	43.3	63.9	79.7	90.6
産物	138.9	159.8	171.3	162.6
産物	59.9	80.5	95.6	104.1

昭和24年度
平均
昭和25年度
平均

25
4.15
2~11

食料品配給公団及び飼料配給公団に対する

預金部資金融資手続について

(案)

食料品配給公団及び飼料配給公団は本年三月末日を以て廃止されることとなり、四月一日以降右二公団に対する預金部資金の新規融資通は行はれず、専ら回収となるので爾後左記により取扱うことと致したい。

記

一、両公団の所要資金の融資は三月三十一日を以て打切るものとする。これに伴い買取りは三月二十日限りとし、月末に右買取代金の決済をなされること。

二、右融資に含まれた公団の所要資金(買掛金諸未拂諸掛)及び四月一日以降発生する人件費その他経費については回収金を以て賄い、その残額を既融通資金の返済に充てしめること。

建設費本部

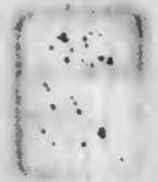
三、之が為差当り両公団の関東地区管轄の支局支部又は支所の回収資金は「公団融資手続細目中第二、融資回収の規定」に拘らず、公団本部に送金させることとする。

右支所よりの送金は毎月五日迄に回収した金額を翌日本部へ送金するものとする。

四、公団本部は前記支局よりの回収金及び本部における回収金中より、人件費その他の経費を賄うこととし、その所要資金については支拂計画を制作し、前月二十五日迄に日本銀行を經由大蔵省銀行局に提出、承認を得ることとする。

五、大蔵省銀行局に於いては右資金計画に基づき支拂所要額を決定の上日本銀行に通知すること。

六、公団本部は回収実績及所要経費支拂の実績を毎月十日毎に締切り翌旬七日迄に日本銀行及大蔵省銀行局に提出すること。



七、右以外の事項については従来、公田手続細目によること。

一、
縣舊吏家本誌

25-91
2-11-73

見返資金私企業投融資計画

司令部との接衝の経過につき (第一)

二五、四、一四 伝見

電力

第一長 資金繰と合理化の問題

リード氏

収益や社債発行で得た資金を投資的建設部門に使用すべきである。買入債エを行つていふことは、それによる建設資金の不足を見返資金で補う様をこころなる。財政現を改善する意力が無く、合理化の努力が無ければ電力不足のことは充分承知してはいるが、この長は努力が果ければ融資出来ぬ。經理収益の状況及びその見込債卸等資金計画償還計画を提出されたい。

日本側

經濟安定本部

渡資料金値上で収益も出、約七パーセントの配当の優遇補修は収益でまら方針である。

要求の資金繰り収益の資料及び合理化の努力状況の資料を提出する。

第二長 新規甲肉連事業の問題

リード氏

新規として肉連五争を掲げていすが、昨年度一〇〇億円、本年度一五〇億円と云う数字の線からゆうと、この五争は収益で実施のものとして解しているが、見返資金で融資できない。収益、社債発行による資金との関係如何。

日本側

補修五争量は非常に多く、その関係の資料を提出する。

海運

第一長 融資の率の問題

リード氏

新造船に付て五〇パーセントから七〇パーセントに引上げるのは理由如何、これ以上引上げるような長に付ては如何考へるか。

日本側

金利負担、増資難、担保不足等の問題で、これ迄の建込で市中信用の調達困難であり、又本年高は率を変えても金融機関、船会社とも何れも差支なく、七〇%を適当と思ふ。尚増設船は会社の収益性よく五〇%でよい。

第二長 新造船の改造の問題

リード氏

C.T.Sは新造、E.S.Sは資金関係から改造を考へているが日本側の見解如何。

経済安定本部

日本側

運輸当局には、一三五、一二三、一〇〇億円の三案があり、^件関係で一〇〇億円案をとり、且つ中小等の客陽案として新造、改造両方とも行うように計画し、第三長 民船還元と市中信用の問題

リード氏

四月の民船還元による影響、繋船、余剰船員による経理収益状況、並かに市中金融機関の態度如何。

日本側

悪化していると思ふが、調査の上資料を提出する。

第四長 辰和丸（死船）の問題

司令部側

夫れが物理中なるも、中小が賠償施設であり、これらはどう下すか。

日本側

物理場所については善処する。

第五号 新規長期継続の計画決定問題

リードセ

その決定は細目をインゲストリキ持込んでやるようなことをして
よくない。デコントロール後の金融機関の待遇を同じくする
べき。会社の経理、運輸等の手續準備上直に日本側の意向を
ば決定を要する。
継続については申請を宜しい。

鐵道

ファイリツアセ

先日は疑問に思われりだが、大分よく解つたから、収益性と社債借入金
の状況等の資料を提出さすべし。

農林水産

經濟安定本部

リードセ

三ヶプランの問題でないが、灌漑等で、一ヶ月の三ヶ月をなすような非常効果的
なプランがあるに聞かす、農林省では總花柳式の見地から出すのを好ま
ぬような話がある。

日本側

私企業投資の外資系ものは灌漑については、公営事業で立案をかり直ぐ現
出する。

一般的問題

リードセ

1. 船と覆きは雑ヒーマ一階一々ら如何
2. リーダーをエミーシエンシーク備えて私企業分が一月至二億円を設け
よべきである。
3. 希納のある企業には融資を承る。

4、市中の融資が多くなると見込資金の投資を制限する方針である。
直接投資はなるべく行わない方向に進むべきである。

日本側

2、3の長は反対する。
なほ、閣議は四十四億円の繰上り主展されて下り、四〇〇億円では了解していない。
又、貸方の示唆をふりて本案にも修正を加えたい。

参考事項

前二回、フィリップス氏と会見の折金融機関會資料引渡により市中融通が容易になり、又日債四や五日債四は認めない。リード氏は後益、四〇〇億円で進むことになった。二の外はサーカムスタンスにより使用を認めると云う意向の表明があった。

經濟安定本部

4

140

141
25
418
2-11

食糧配給公團の廃止に伴う金融措置要領

(昭二五、四、八、経本、財政金融局)

食糧配給公團は昭和二十六年三月末日までに廃止されることになつてゐるが、現在の公團の末端機構は公團廃止に先だつて民間企業に切替えられ小賣業者は概ね七月から九月末日までに、卸賣業者は十月から十二月末日までに新たに整備整定する予定である。これに伴ひ従来食糧官理特別会計、大蔵省預金部等によつて賄はれてきた巨額の食糧配給資金はその大部分が金融機関に肩替せられることになる外、更に配給諸施設の民間保有のために新しく長期資金が必要となり、これが調達し得ない場合には食糧の配給操作に支障を来す虞があるので、対策として大要左の如き措置を講ずるものとする。

一、固定資金

配給諸施設の買取、新設については極力自己資金を以て行はしめるよう指導するが、これを以てしても尚不足するを考へるので現在の中小企業に對する日本銀行別格融資の活用を図ると共に公團から新規業者への施設の円滑な移換に、主務官庁に於いて適切な斡旋を行ふ。

二、食糧の買取及び手持資金

暫定的には公團の委託販売制度がとられるので現実に資金を必要とする時期は明年一月一日以降となるが、この場合主として卸賣業者を對象として左の如き融資措置を講ずる。

一) 食糧官理特別会計はその食糧先拂代金に對し、必要最小限度の延納を認める。

二) 新しく卸賣業者を振出人とする食糧手形を設け、本手形決済のため確實な保証制度を考慮すると共に日本銀行に於て優遇措置を講ずる。

食糧配給公団機、機替(件)所需資金概算
(単位100万円)

一 中間調査概算 (全国5005所×概算)

1. 商品買入資金 10,730 1日買入数量 383600 俵
 1俵単価 2.33/1日
 1日持日数 12日

2. 運転資金 269 711分
 経費1俵当り 100日

3. 固定資金 782
 内訳 店舗 250
 運搬具 300
 汁添備品 250
 通袋 322
 桶 1800
 15921

二 合計

本施設に給付(1日) (全国5000箇所×1日)

1. 商品買入資金 4579 111買入数量 376754俵
 1俵単価 24.3/1日
 1日持日数 5日

2. 運転資金 9614 2日分
 経費1俵当り

3. 固定資金 2540 (豊原取店舗 4120箇所)
 店舗 1319
 運搬具 560
 汁添備品 280
 通袋 280
 桶 161
 7187

三 合計

商品買入資金 15309
 商品運送費 357
 固定資金 5462
 合計 21108

(四月二十五日閣議決定)

海運会社の船舶新造、改造等の継続工事（昭和二十四年度着工分）

に對する米國對日援助見返資金の貸付について

左記により、海運会社の船舶新造、改造等（昭和二十四年度計画の続行分）に對し、連合軍總司令部の許可あり次第、許可の内容に於いて、米國對日援助見返資金を貸し付けること。

第五次新造船	昭和二十五年年度		（單位千円）	
	所要金額	内訳	貸付	総電算
第四五九七八二	四、五〇、四八四	四二	二七、二八四〇	(ト)
二、二〇七、六〇七	一、三二〇、三五二	二八	一九、六七七六	
一、三九、三五〇	一、三九、三五〇	一	六三三五	
九四、九〇〇	九四、九〇〇	一	一〇、〇〇〇	
七、二四一、五三九	二、〇〇四、九八六	七二	四八、五九五一	
計				

会社名	工事の内容	昭和二十五年年度 金額合計	全上四半期別内訳				備考 (既付金額)
			第一四半期	第二四半期	第三四半期	第四四半期	
三菱海運株式会社	昭和二十五年年度新造船 計画に基く油槽船建造	三三、五〇〇	一、一七、七五〇		一、一七、七五〇	二八、五〇〇	
飯野海運		二一、〇〇〇		一〇、五五〇		二、四〇〇〇	
日東商船		一九、九四五〇		九、九七二五		二、五三、五〇〇	
日本水産		二二、〇〇〇		一〇、五〇〇		二、七六〇〇	
日本油槽船		二〇、八五九〇		一〇、四三九五		二、六五、六八〇	
照國海運		二五、〇〇〇		一〇、七五〇〇		二、五三、五〇〇	
東洋海運	昭和二十五年年度新造船 計画に基く中型油槽船建造	七、五〇〇		三五、三五〇		八七、〇〇〇	
日之出汽船		五九、五〇〇	二九、七五〇	二九、七五〇		七八、〇〇〇	
大洋海運		六九、〇〇〇	三、四、五〇〇	三、四、五〇〇		八六、五〇〇	
新日本海運		六四、一三〇		三、二〇、六五		八一、八七〇	
隆昌海運		六八、五〇〇		三、四、二五〇		八七、〇〇〇	
旭海運		五六、〇〇〇		五、六、〇〇〇		八四、〇〇〇	

山下汽船	大阪商船	三井船船	川崎汽船	東洋汽船	名村汽船	甲南汽船	松岡汽船	菅谷汽船	大同海運	山下汽船	三光汽船
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
九九〇〇	一三七〇八七	一〇八〇〇〇	一〇四〇〇〇	一三五六三七	七二八六〇	八四六〇〇	八九六〇〇	七七〇〇〇	七九六〇〇	九九〇〇〇	一一二〇〇〇
四九五〇〇	六八五四四	五四〇〇〇	六二〇〇〇	六二八一三	三六四三〇	四八八〇〇	四四八〇〇	三八五〇〇	三九八〇〇	四九五〇〇	五六〇〇〇
四九五〇〇	六八五四四	五四〇〇〇	六二〇〇〇	六二八一三	三六四三〇	四八八〇〇	四四八〇〇	三八五〇〇	三九八〇〇	四九五〇〇	五六〇〇〇
一六八〇〇〇	一六八〇〇〇	一六三〇〇〇	一五二〇〇〇	一五三〇〇〇	九〇〇〇〇	一〇七四〇〇〇	一一〇四〇〇〇	九三〇〇〇	九九〇〇〇	一二六〇〇〇	一四一〇〇〇

中央汽船	大同海運	飯野海運	日本海汽船	協立汽船	明治海運	東邦海運	中村汽船	日産汽船	新日本汽船	日本郵船	次山汽船	岡田商船
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七三〇二〇	七九六〇〇	一〇四二〇〇	九〇一〇〇	九四五〇〇	九五六〇〇	一二八四〇〇	一二九五〇〇	一〇七四〇〇	一二九五〇〇	一二四八〇〇	九二五六九	九四七六二
											四六二八四	四七三八一
五六五一〇	三九八〇〇	五二二〇〇	四五〇〇五	四七二五〇	四七二五〇	六四二〇〇	六四七五〇	五三七〇〇	六四七五〇	六二四〇〇	四六二八五	四七三八一
五六五一〇	三九八〇〇	五二二〇〇	四五〇〇五	四七二五〇	四七二五〇	六四二〇〇	六四七五〇	五三七〇〇	六四七五〇	六二四〇〇	四六二八五	四七三八一
九一九八〇	九九九〇〇	一三〇八〇〇	一一六四〇〇	一一五五〇〇	一一四九〇〇	一六〇五〇〇	一六〇五〇〇	一三四二五〇	一六〇五〇〇	一六三二〇〇	一一四〇〇〇	一一九七〇〇

144

日本汽船	会	王井商船	会	乾汽船	会	東洋汽船	会	会	会	日本郵船	会	大阪商船	会	大洋海運	会	馬場汽船	会	山下汽船	会	三井船船	林式 会社			
大烈丸	石河川丸	第一大海丸	乾國丸	福洋丸	延慶丸	永操丸	永徳丸	大靖丸	才大海丸	大久丸	和陽丸	山殿丸	大江丸	改 大 改 造	改 神 造	改 辰 丸	改 向日 丸	改 重 丸	改 多 丸	改 榮 丸	改 藤 丸	改 本 丸	改 永 丸	改 日 丸
七八四〇〇	六三五二五	七五一七一	八九二五〇	八八八五六	九二〇五〇	九三三八〇	九三八〇〇	八五九〇三	七四八四三	七五〇七五	八九四四〇	七七〇〇〇	七三五〇〇	七三五〇〇	六七五五〇	八九二五〇	八二四六〇	八一三二七	八五八九〇	七五五二三	五八一〇〇	九二七五〇	八六〇八四	八八二五〇
七八四〇〇			九二〇五〇	九三三八〇				七四八四三	八九四四〇	七五〇七五														
	六三五二五	七五一七一	八九二五〇	八八八五六		九三八〇〇	八五九〇三																	
七三五〇〇	五七七五〇	六八三三七	七八七五〇	七八七五〇	八二九五〇	八四七〇〇	八四七〇〇	七八七五〇	六八二五〇	六八二五〇	七七〇〇〇	七〇〇〇〇	七三五〇〇	七三五〇〇	六二九五〇	八三三五〇	七七〇〇〇	七三一五〇	八〇五〇〇	六七一〇九	五二五〇〇	八七五〇〇	八〇八五〇	七八七五〇

日本汽船	会	王井商船	会	乾汽船	会	東洋汽船	会	会	会	日本郵船	会	大阪商船	会	大洋海運	会	馬場汽船	会	山下汽船	会	三井船船	林式 会社			
大烈丸	石河川丸	第一大海丸	乾國丸	福洋丸	延慶丸	永操丸	永徳丸	大靖丸	才大海丸	大久丸	和陽丸	山殿丸	大江丸	改 大 改 造	改 神 造	改 辰 丸	改 向日 丸	改 重 丸	改 多 丸	改 榮 丸	改 藤 丸	改 本 丸	改 永 丸	改 日 丸
七八四〇〇	六三五二五	七五一七一	八九二五〇	八八八五六	九二〇五〇	九三三八〇	九三八〇〇	八五九〇三	七四八四三	七五〇七五	八九四四〇	七七〇〇〇	七三五〇〇	七三五〇〇	六七五五〇	八九二五〇	八二四六〇	八一三二七	八五八九〇	七五五二三	五八一〇〇	九二七五〇	八六〇八四	八八二五〇
七八四〇〇			九二〇五〇	九三三八〇				七四八四三	八九四四〇	七五〇七五														
	六三五二五	七五一七一	八九二五〇	八八八五六		九三八〇〇	八五九〇三																	
七三五〇〇	五七七五〇	六八三三七	七八七五〇	七八七五〇	八二九五〇	八四七〇〇	八四七〇〇	七八七五〇	六八二五〇	六八二五〇	七七〇〇〇	七〇〇〇〇	七三五〇〇	七三五〇〇	六二九五〇	八三三五〇	七七〇〇〇	七三一五〇	八〇五〇〇	六七一〇九	五二五〇〇	八七五〇〇	八〇八五〇	七八七五〇

145

20 - 10
 201 - 8 - 10

新日本汽船	飯野海運	合計	乾汽船	大光商船	八西汽船	東洋海運
龍船(昭和凡)引揚 感理	全 隆印丸 美造		丁 上望油桶船 さばん丸	全 第江丸	全 才十大多船丸	全 利根川丸
一三九二五〇	九四九〇〇	三三三七六・七	八九九五〇	五〇四〇〇	六五八〇〇	八三六五〇
一五九三五〇	九四九〇〇	三三三三〇・三五一	八九九五〇	五〇四〇〇		八三六五〇
		九二七二五五			六五八〇〇	
	二九三〇〇	二〇四一五四六	七八七五〇	四二〇〇〇	五七四〇〇	七六六五〇

台六、第二四半期以降分については見込である。

25-⑨
2-11

海運

見返資金私企業及融資計画

司令部との持衝の経過について (第三)

(三五、四、三一会見)

外航の所要船数の見直し

リード氏

外航貨物の見込については、前年実績一五〇万トンに対して日本側の見込は四〇〇万トンで、過大ではないか。

船腹、貨物、繫船状況の見込等の資料を提出するに。

(見直しは種々の条件があり難い資料を提出する。)

金融機関の態度は融資率に對する見解如何。

(本年度の新造船は優秀船主のみとなるであろうから七割でよい)

電力

日発の収支

リード氏

經濟安定本部

日発の配当の時期如何。

(二四年度下半年期決算後実施の予定)

内運工事の實施を新規令として計上し理由如何。

(前年度社債發行限度を四倍にする予定であったが、これが不可能なつらで、収益で實施するに困難となった。これを収益で實施すると改良工事が増える。) (前年からの繰越余裕金が多ければ、配当公開の条件が多くなるが、)

(前年度末の豊水による収益増加のため多額あり、配当公開に對する異状を払はない)

一般的向度

計画のきめ方

リード氏

四半期計画は決り、年間計画は決りな方が宜しいのではないか。

電気、船の外はケースバイケース主義でゆきたい。
（年間の計画を一應決めないと、四半期計画は立て難いからその様な
方法には賛成できない。）

○配分案

配分案は一本次のように考えている。
電気一五〇、海運七三、電気者運のための予備、六三、金融機関（内
八は予備）、中小企業一三、各産業四三、以上合計 四〇〇。
指、四〇〇。依はワシントンのインフラクションで、その内訳については指金
でないが、アフレカエヒも必要がある。
（各産業四三億円では、選擇するのに非常に困難であるが、考えて
みる。）

○電気、船の繼續の取扱

ファイリツプ依
申請書提出して差支えない。

經濟安定本部

○總設備資金計画

リノ依
總計画を提出さすたい。
（理任作整中に付、近く提出する。）

備考

指以内は日本側の答へ要旨、

25, 4, 261
呈本 財政金融局

昭和24年度
米國対日援助見返資金実績 (三月末現在)

(単位百万円)

1. 貸金		2. 運用及費用	
1. 貿易特別会計より繰入	127,867	1. 国債償還 (使用)	62,467
2. 運用収入	1,461	2. 公企業投資	37,000
合計	129,328	3. 私企業投資	15,000
		4. 電信	12,000
		5. 電力	24,603
		6. 石油	10,093
		7. 化学肥料	8,342
		8. 中小企業	3858
		9. 化学工業	284
		10. 鋼品	300
		11. 船舶	1,417
		12. 倉庫	308
		13. 倉庫	114,090
3. 余剰金	15,258		
4. 内			
1. 食糧証券保有高	15,236		
2. 援助資金預金	21		

上記の外昭和24年度貸付金として昭和24年度予算の昭和25年度への繰越額中から次のとおり支出を以て私企業投資は250億円と存する。

石油	245.0	百万円
炭林	90.1	"
運	50.0	"
船	395.1	"

1119

2043

復興融資殘高一覽表 (昭和廿五年四月三十日現在)

復興金融庫

総務部総務課

一 使途別表

(單位千円)

使途別	件数	金額
設備費金	七・二六四	八九五一・六四九七
運転費金	九五七	一四〇三・二六四九
合計	八・二二一	一〇三五四・九一四六

裏面白紙

二地方別表

地方別	設備費金		運転費金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
東京	二三〇〇	六三三〇〇三三六二	四六三	一〇三五七五五八	二七六三	七三七五九二〇〇
大阪	八二六	五二九三二七三	九六	七三四四一八	九二二	六〇二七五九〇
神戸	二八八	一四九〇三〇三	五七	一六八四九五	三四五	一六五八七九八
名古屋	四二五	一九一五二〇〇	六五	一〇五五〇〇尺	五三〇	一九二〇五〇尺
福岡	七九六	八六九三九九三	二六	一〇三五五八七	八二二	九七一九五尺〇
仙台	四六六	一七六〇八九一	五三	一二七三二二	五一八	一八八尺二五三
広島	四〇六	一九〇一五四尺	八一	一九六二〇〇	四八七	二〇九七七四尺
立川	二四九	一八二五〇三三	三七	三三四三六六	二八六	二二四九四一尺
札幌	九九	一三三九二二	四	七七四二	一〇三	一四三六六五
新潟	九三	一一一尺七四	一九	二八二八九	一〇二	二二四七〇四三
富山	三三四	一〇九〇九七	四	五四四五〇	三三二	九二二六五三
高松	三三四	一〇九〇九七	四	五四四五〇	三三二	九二二六五三
福井	三三四	一〇九〇九七	四	五四四五〇	三三二	九二二六五三
合計	七二六四	八九五二六四九七	九五七	一四〇三三六四九	八二二一	一〇三五五九一四六
前月ト比較増減△ハ減	△三三	△二五七三三〇	△三	△二〇九九九六二	△三三	△二三五七三〇一
						前月ト比較増減△ハ減
						二二二三四一九
						五三七一七
						一九九二七
						五二〇尺
						一五三三六
						七〇九〇
						五九一四
						五七四九
						二五七九
						二二五三四
						四七五七
						二四七六
						二二五七三〇一

裏面白紙

裏面白紙

三業種別表

業種別	件数	金額	件数	金額	合計	前月比増減
紙業	六二八	三三〇四一〇五二六	一〇九	四一四七三一一	七三七	三三〇五五七二七
(石炭)	三五四	三三一九一〇二二	二五	三三〇六七八四	三七九	三五四九七七九六
紙業	一五八一	四七〇三六二五	二七	一九二二三	一六〇	四七二二二二
紙業	二二七	二二〇七三三三	六	一五三五九六	二九五	三七四三六〇〇
(製紙)	三五	一七五五三三〇	二九	一七六〇四四	六四	三〇三二七七四
紙業	一一〇九	一九五九九四五	四二四	四三三六九七九	一五三三	六三九六九三四
紙業	二二〇	三四八八九三	三三	三四七二二	二六三	三三三六一四
紙業	七二五	八六〇二九七	七三	一五二五二四四	七二八	一〇二二六四四
(肥料)	一七	五三二五三三〇	一三	一五〇四四四	一〇〇	六六一五七二四
紙業	一九	一八四六三六〇	一	二〇四三三	二〇	一八四八三三四〇
紙業	四	二三八八	一	〇	四	二三八八
紙業	九二二	四六〇〇八九	一五	二七四六四	九二七	四六三三三五三
紙業	六四八	四八五〇三四四	二	四一七五	六五〇	四八九一四一九
(海産)	二六二	四〇二二三六	一	二五九七五	二六三	四〇四七一
紙業	一一八九	一五五七一五〇	二〇三	三六九三三四	一三九二	一九二六三七四
紙業	七二六二	八二七三三三三	九五五	一一〇五七六三	八二二七	九三三七一四〇
紙業	二	七八〇七七三〇	二	一九七五〇一	四	九七七七七三八
紙業	七二六四	八九五六四九七	九五七	一四〇三三六四九	八三三二	一〇三五四九一四六
合計	△三三二	△二五七三三〇〇	△二	△二〇九九九六二	△三三三	△二二二五七三〇一

四金額別表

金額別	設備費金		運搬費金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
五千圓以上	一五三	七〇四九三〇九六	三四	一一及〇七六五三	一八七	八三三〇〇七四九
五千圓未満 壹千圓以上	四三三	八八八五八八九六	四七	一一二二五六七	四八〇	一〇〇〇七四三三
壹千圓未満 參百圓以上	九七九	五〇四四六〇三	七四	四六一〇九二	一〇五三	五五〇五六九五
參百圓未満 壹百圓以上	二〇五三	三四三二五四二	一四三	三六二四六五	二一九六	三七九五〇〇七
壹百圓未満	三六五七	一六六〇三六〇	六五九	二七九七七三	四三二六	一九四〇二三三
合計	七二八四	八九五一六四九七	九五七	一四〇三三六四九	八二四一	一〇三三五四九一四六

裏面白紙

復興金融金庫

4月末融資殘高總覽表

總務部總務課

目	次
1. 摘要	
2. 直接貸代理店貸別殘高内訳表	
3. 証書貸手形貸別殘高内訳表	
4. 代理店及舗別殘高表	
5. 月中壹千萬圓以上保証肩替 及回收狀況表	

摘 要

(△印は減)

- (1) 4月中残高増減額 △ 2,357,300,957.17
- (2) 本支所別月中残高増減額
 本 所 △ 2,224,419,410.50
 支 所 △ 132,881,546.67
- (3) 証書貸手形貸別代理店別残高増減額
 { 証書貸 3,790,141,533.89 { 直接貸△2,059,457,628.71
 { 手形貸△6,147,442,491.06 { 代理店貸△297,843,328.46
- (4) 部課支所別残高増減額
 業 務 第 一 部 △ 228,076,671.21
 業 務 第 二 部 △ 71,975,288.00
 業 務 第 三 部 △ 86,133,700.00
 管 理 部 △ 1,825,055,772.46
 中 小 事 業 部 △ 1,5098,728.88
 直 轄 代 理 店 1,950,750.00
 支 所 △ 132,881,546.67
- (5) 代理店別残高増減額
 興 銀 △ 286,857,145.62
 朝 銀 △ 6,642,012.01
 中 金 △ 2,532,406.83
 光 拓 △ 1,811,764.07

裏面白紙

直接貸代理店貸内訳高表(部課支所別)

昭和25年4月30日現在

總務部總務課

部課支所別	区分	直接貸		代理店貸		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
業務第一部		107	18,242,583.020.33	50	24,722,225.734.50	157	42,970,868.754.83
業務第二部		202	3,738,465.760.00	66	2,979,098.612.00	268	6,717,564.372.00
業務第三部		182	6,412,700.800.00	44	4,052,130.200.00	226	10,464,831.000.00
管理部		206	10,615,611.706.51	39	181,995.500.00	245	10,797,607.206.51
中小事業部		455	5,641,224.63.64	409	3,409,266.28.67	864	9,050,490.92.31
地方部直轄代理店		0	0	1,003	1,903,950.161.94	1,003	1,903,950.161.94
小計		1,152	29,579,483.750.48	1,611	34,180,436.837.11	2,763	73,759,920.587.59
大阪支所		349	1,786,118.633.01	563	4,241,471.239.40	912	6,027,589.872.41
神戸支所		70	614,777.600.00	275	1,044,019.946.40	345	1,658,797.546.40
名古屋支所		199	607,438.457.00	331	2,313,070.409.38	530	2,920,508.866.38
福岡支所		202	4,722,162.507.48	590	4,996,417.478.44	792	9,719,579.985.92
広島支所		191	1,161,388.304.00	296	925,859.925.92	487	2,097,748.230.92
札幌支所		171	1,421,285.954.00	115	728,131.859.00	286	2,149,417.813.00
仙台支所		215	443,096.472.68	303	1,445,056.891.69	518	1,888,153.364.37
福山支所		32	25,750.601.88	59	86,220.733.67	91	112,071.335.55
新潟支所		59	114,433.318.20	44	31,231.600.00	103	145,664.918.20
富山支所		68	228,298.125.00	94	1,918,744.287.00	162	2,147,042.412.00
高松支所		38	123,722.230.20	324	798,918.396.62	362	922,651.626.82
小計		1,624	11,249,983.233.45	2,334	18,539,242.768.52	3,958	29,789,225.991.97
總計		2,776	50,829,466.983.93	5,245	52,719,679.605.63	8,021	103,549,146.589.56

裏面白紙

証書貸手形貸内訳残高表(部課支所別)

昭和25年4月30日現在

總務部總務課

部課支所別	区分	証書貸付		手形貸付		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
業務	第一部	50	15,720,584,130.00	107	27,050,284,624.83	157	42,770,868,754.83
業務	第二部	217	5,377,935,372.00	51	1,339,629,000.00	268	6,717,564,372.00
業務	第三部	152	6,826,029,000.00	74	3,653,352,000.00	226	10,479,381,000.00
管	理部	112	7,405,052,331.80	133	3,362,554,874.71	245	10,767,607,206.51
中	小企業部	637	720,656,365.31	227	1,843,927,270.00	864	2,564,583,635.31
地	方部直轄代理店	488	1,074,618,493.78	515	829,331,668.16	1,003	1,903,950,161.94
小	計	1,656	37,334,875,692.89	1,107	36,425,044,394.70	2,763	73,759,920,087.59
大	阪支所	491	4,349,211,059.00	421	1,678,378,813.41	912	6,027,589,872.41
神	戸支所	150	1,026,022,546.40	195	632,775,000.00	345	1,658,797,546.40
名	古屋支所	133	971,084,827.38	397	1,949,424,039.00	530	2,920,508,866.38
福	岡支所	403	2,385,227,459.77	419	7,334,352,532.15	822	9,719,579,991.92
廣	島支所	299	1,239,334,926.92	188	853,363,334.00	487	2,092,698,260.92
札	幌支所	203	1,708,199,927.00	83	441,217,886.00	286	2,149,417,813.00
仙	台支所	217	1,370,929,528.69	301	517,223,835.68	518	1,888,153,364.37
福	島支所	60	62,346,136.30	31	49,725,199.25	91	112,071,335.55
新	潟支所	71	119,684,918.20	32	25,980,000.00	103	145,664,918.20
富	山支所	278	1,077,591,094.00	724	1,069,451,318.00	1,002	2,147,042,412.00
高	松支所	215	679,308,296.62	147	242,040,330.20	362	921,348,626.82
小	計	2,520	14,988,990,714.28	2,938	14,200,235,257.69	5,458	29,189,225,971.97
總	計	4,176	52,323,866,407.17	4,045	51,225,280,152.39	8,221	103,549,146,559.56

裏面白紙

代理店及舖別貸出残高一覽表

昭和25年4月30日現在

總務部總務課

東			中			西			南		
件数	金額		件数	金額		件数	金額		件数	金額	
總店	846	45,873,188,897.97	總店	78	237,666,348.50	總店	37	18,227,000.00	總店	8	4,580,000.00
本店	375	32,110,124,803.40	和歌山	91	110,072,875.00	下關	47	139,030,000.00	京都	37	29,776,000.00
大阪	105	3,578,062,115.90	奈良	39	26,926,000.00	鳥取	36	14,543,000.00	大津	18	15,750,000.00
神戸	63	742,600,961.00	大津	22	18,370,000.00	三次	1	1,280,000.00	神戸	17	103,252,000.00
名古屋	56	1,855,571,000.00	神戸支所	195	198,166,985.40	鹿山	20	27,845,767.11	名古屋	60	104,850,917.38
福岡	70	4,237,067,444.42	神戸	36	55,754,400.00	仙台支所	233	374,371,941.69	津	2	22,500,000.00
廣島	32	650,415,000.00	州本	4	1,151,388.55	仙台	43	34,206,000.00	福岡	31	22,253,977.36
札幌	35	638,272,923.00	加古川	14	9843,000.00	盛岡	66	73,438,000.00	廣島	27	20,323,500.00
仙台	30	1,051,623,400.00	津山	19	7,267,500.00	山形	35	37,095,750.00	札幌	8	6,539,700.00
福山	22	19,168,357.25	三田	4	3,740,000.00	秋田	10	3,467,500.00	青森	18	9,637,009.00
新潟	16	14,435,000.00	姫路	15	20,724,264.99	鶴岡	23	63,959,989.00	仙台	5	1,838,125.00
富山	25	633,863,893.00	岡山	77	8,154,431.86	青森	51	112,204,722.69	秋田	17	7,586,416.00
高松	17	351,974,000.00	豊岡	7	2,900,000.00	福山支所	37	67,152,376.42	新潟	10	4,641,600.00
			尾崎	19	16,632,000.00	備前	7	3,300,000.00	富山	10	5,537,000.00
			名古屋支所	212	350,398,492.00	平	18	58,402,376.42	金沢	16	37,467,894.00
面轄代理店	1,108	1,335,398,079.03	名古屋	28	33,495,000.00	三津	12	5,450,000.00	高松	10	7,549,100.00
本店	214	485,643,500.00	岐阜	41	40,178,000.00	富山支所	883	1,201,875,500.00	津島	8	3,428,000.00
横浜	184	205,274,564.40	豊橋	37	56,461,932.00	福井	744	308,219,500.00	高知	4	1,636,000.00
川崎	5	4,264,000.00	四日市	17	27,706,720.00	富山	9	9,975,000.00	松山	8	16,690,000.00
浦和	89	85,887,200.00	山田	43	110,334,540.00	金沢	130	353,681,000.00			
小田原	5	1,533,000.00	上野	4	5,030,000.00	新潟支所	18	12,155,000.00	北		
静岡	87	316,944,487.00	半田	4	5,000,000.00	新潟	13	9,330,000.00	函館	29	39,830,000.00
浜松	139	249,709,250.00	津	38	72,192,300.00	高田	5	2,825,000.00	釧路	8	3,281,400.00
甲府	40	50,573,970.23	福岡支所	439	707,098,056.66	高松支所	277	417,641,296.62	室蘭	6	5,211,000.00
松本	19	11,315,000.00	福岡	29	70,351,500.00	惠那	38	35,269,862.16	旭川	4	5,310,000.00
千葉	106	134,206,000.00	小倉	34	119,877,000.00	今岩	53	93,592,463.07	小樽	7	5,228,504.00
水戸	87	139,454,500.00	鹿屋	8	5,030,000.00	高知	100	195,199,371.39	本店	15	15,508,332.00
宇都宮	46	26,800,000.00	鹿児島	136	127,118,000.00	徳島	47	62,292,600.00	青島	1	2,000,000.00
前橋	51	70,367,554.40	宮崎	52	64,465,000.00	中野	14	6,065,000.00	北	2	1,900,000.00
土浦	33	23,800,050.00	佐賀	44	23,844,500.00	松山	25	25,222,000.00			
上田	11	5,447,000.00	大分	49	35,894,000.00						
立川	4	3,433,000.00	長崎	62	137,468,000.00	中	490	721,882,993.42			
長野	24	21,745,000.00	又富米	11	13,029,999.60	本店	100	218,349,954.68	対前月比較増減	△25	297,843,328.46
大阪支所	352	582,410,323.50	熊本	64	90,018,057.06	水戸	1	375,000.00	比較率	0.46%	0.56%
大阪	57	96,855,000.00	鹿児島支所	237	265,122,426.92	横浜	14	5,784,000.00	職員総額対比	66.23%	50.17%
茨城	17	15,140,000.00	鹿児島	12	10,783,159.31	甲府	5	3,628,000.00			
新宮	29	63,130,000.00	山口	42	28,626,500.00	静岡	12	6,767,000.00	総合計	5,445	52,719,679,605.63
総務部	19	13,750,100.00	福山	42	24,637,000.00	大坂	40	31,892,800.00			

裏面白紙

壹千萬圓以上保証肩替及回收狀況表(部課支所別)

(昭和25年4月中)

總務部總務課

部課支所名	会社名	業種	設備資金	保証肩替及回收別	会社名	業種	運転資金	保証肩替及回收別
			金額千円				金額千円	
業務第一部	三菱鉱業(株)	石炭	18,700	回收	三菱鉱業(株)	石炭	6,500	回收
	日本発送電(株)	電気	30,000	"	日本発送電(株)	電気	125,700	"
	日本鋼管(株)	鉄鋼	1,882	"	日本鋼管(株)	鉄鋼	8,642	"
業務第二部	静岡鉄道(株)	地方鉄道	16,000	保証肩替	東日本重工業(株)	特殊鋼	24,000	回收
					(株)日立製作所	機器	20,000	"
業務第三部	三菱化成工業(株)	染料	13,000	回收	東洋高圧工業(株)	肥料	16,297	回收
					三井化学工業(株)	染料	34,000	"
管理部	全国航製品製造統制組合	航製造	2,588	回收	兵器処理委員会	兵器処理	20,000	回收
大阪支所	豊国汽船	海運	10,000	回收				

25
7.31
2-6

復興金融金庫

5月末融資殘高總覽表

總務部總務課

目	次
1. 摘要	
2. 直接貸代理店貸別殘高内訳表	
3. 証書貸手形貸別殘高内訳表	
4. 代理店及舖別殘高表	
5. 月中壹千萬圓以上保証肩替 及回收狀況表	

摘要 (△印は減)

- (1) 5月中残高増減額 Δ 1,463,674,322.45
- (2) 本支所別月中残高増減額
- | | |
|-------------|------------------|
| 本所 Δ | 1,360,292,175.55 |
| 支所 Δ | 103,381,146.50 |
- (3) 証書貸手形貸及代理店貸別残高増減額
- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 証書貸 986,825,494.83 | 直接貸 Δ 1,220,369,128.22 |
| 手形貸 Δ 2,450,519,917.28 | 代理店貸 Δ 243,305,194.03 |
- (4) 部課支所別残高増減額
- | | |
|----------------|------------------|
| 業務第一部 Δ | 149,778,850.00 |
| 業務第二部 Δ | 57,888,530.00 |
| 業務第三部 Δ | 81,879,000.00 |
| 管理部 Δ | 1,050,567,133.92 |
| 中小事業部 Δ | 16,067,197.03 |
| 直轄代理店 Δ | 4,112,143.00 |
| 支所 Δ | 103,381,146.50 |
- (5) 代理店別残高増減額
- | | |
|-------------|----------------|
| 興業 Δ | 204,274,057.00 |
| 勸業 Δ | 31,202,288.00 |
| 中金 Δ | 6,262,085.03 |
| 北拓 Δ | 1,566,764.00 |

裏面白紙

直接貸.代理店管内記残高表(部課支所別)

昭和25年5月31日現在

總務部總務課

部課支所別	区	直接貸		代理店貸		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
業務第一	部	104	18,176,011.70	33	50	24,645,078.70	42,821,089.90
業務第二	部	200	3,705,341.76	00	66	2,954,333.75	6,659,675.51
業務第三	部	181	6,382,063.80	00	44	4,000,928.20	10,383,002.00
管理	部	203	9,565,044.57	59	39	181,995.50	9,747,040.07
中小事業部		452	5,579,204.63	64	405	3,106,143.16	8,685,347.79
地方部直轄代理店		0	0	1,001	1,001	1,899,838.01	1,899,838.01
小計		1,140	38,386,381.76	56	1,605	34,013,245.64	72,399,627.40
大阪支所		345	1,762,285.63	01	560	4,225,322.79	5,987,608.42
神戸支所		70	5,987,000.00	00	275	1,034,565.46	1,631,565.46
名古屋支所		201	610,599.45	70	326	2,299,654.90	2,910,254.35
福岡支所		232	4,735,937.72	98	586	4,986,658.44	9,722,596.16
廣島支所		191	1,159,974.30	40	295	932,532.92	2,092,507.22
札幌支所		168	1,417,805.95	40	115	723,203.09	2,141,009.04
仙台支所		221	4,425,581.72	68	303	1,428,135.35	1,880,693.52
福島支所		31	25,463,109.88	88	57	84,384,529.67	109,847,639.55
新潟支所		58	113,468.31	20	43	29,676,600.00	143,144,918.31
富山支所		68	231,043,125.00	93	931	1,914,205,697.00	2,145,248,822.00
高松支所		38	118,873,230.20	322	360	794,788,896.62	913,663,126.82
小計		1,623	11,222,716,058.95	3,313	3,313	18,463,128,766.52	29,685,844,825.47
總計		2,763	49,609,097,225.51	5,418	5,418	52,476,374,411.60	1,02,085,471,637.11

裏面白紙

証書貸手形貸内訳残高表(部課支所別)

昭和25年5月31日現在

總務部總務課

部 課 支 所 別	区 分	証 書 貸 付		手 形 貸 付		合 計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
業務第一部		47	16,729,320.130.00	107	26,091,769.774.83	154	42,821,089.904.83
業務第二部		216	5,335,576.519.00	50	1,324,099.000.00	266	6,659,675.519.00
業務第三部		156	6,788,570.000.00	69	3,594,432.000.00	225	10,382,902.000.00
管 理 部		110	7,432,136.337.41	132	2,314,903.735.18	242	9,747,040.072.59
中 小 事 業 部		631	7,083,384.110.28	226	1,805,977.85.00	857	8,889,361.965.28
地方部直轄代理店		489	1,097,350.993.78	512	801,987,026.16	1,001	1,899,338,019.94
小 計		1,649	38,091,338.090.47	1,096	34,307,789.321.17	2,745	72,399,127,411.64
大 阪 支 所		486	4,328,541.559.00	419	1,665,066.813.41	905	5,993,608.372.41
神 戶 支 所		150	1,018,230.346.40	195	615,041,700.00	345	1,633,272,046.40
名 古 屋 支 所		133	965,905.327.38	394	1,944,348,535.00	527	2,910,253,862.38
福 岡 支 所		400	2,423,644.453.77	418	7,398,951,749.65	818	9,822,596,193.42
廣 島 支 所		299	1,341,471,926.92	187	851,035,300.00	486	2,092,507,226.92
札 幌 支 所		201	1,872,803,163.00	82	268,205,286.00	283	2,141,008,449.00
仙 台 支 所		221	1,370,240,438.69	303	510,453,035.68	524	1,880,693,474.37
福 鹿 支 所		58	55,005,327.55	30	54,823,342.00	88	109,828,669.55
新 潟 支 所		72	120,139,918.20	29	23,005,000.00	101	143,144,918.20
富 山 支 所		334	1,148,822,504.00	665	996,426,318.00	999	2,145,248,822.00
高 松 支 所		216	674,067,796.62	140	239,594,330.20	356	913,662,126.82
小 計		2,570	15,218,873,811.53	2,866	14,466,971,013.94	5,436	29,685,844,825.47
總 計		4,219	53,310,711,902.00	3,962	48,774,760,335.11	8,181	102,085,472,237.11

裏面白紙

壹千萬圓以上保証肩替及回收狀況表(部課支所別)

(昭和25年5月中)

總務部總務課

部課支所名	会社名	業種	設備資金	保証肩替及回收別	会社名	業種	運搬資金	保証肩替及回收別
			金額千円				金額千円	
業務第一部	帝國石油	石油	20,000	回收	同和鉱業	鉱業	13,300	回收
	関東配電	電気	12,000	"	三井鉱山	石炭	18,000	"
	東京鋼材	金属	10,700	保証肩替	明治鉱業	鉱業	3,200	"
	三井鉱山	石炭	16,000	回收				
	明治鉱業	"	6,960	"				
業務第二部	日本紡織	綿紡	10,000	保証肩替				
	中日本重工業 (三原車輛)	車輛	10,300	回收				
業務第三部	日本水産(株)	雑業	12,000	回收				
福岡支所	九州紡織(株)	綿紡	19,500	保証肩替				

754
~~Handwritten scribbles~~

4648

D

産業投資計画検討資料 No.1



164

金融統計全国銀行関係

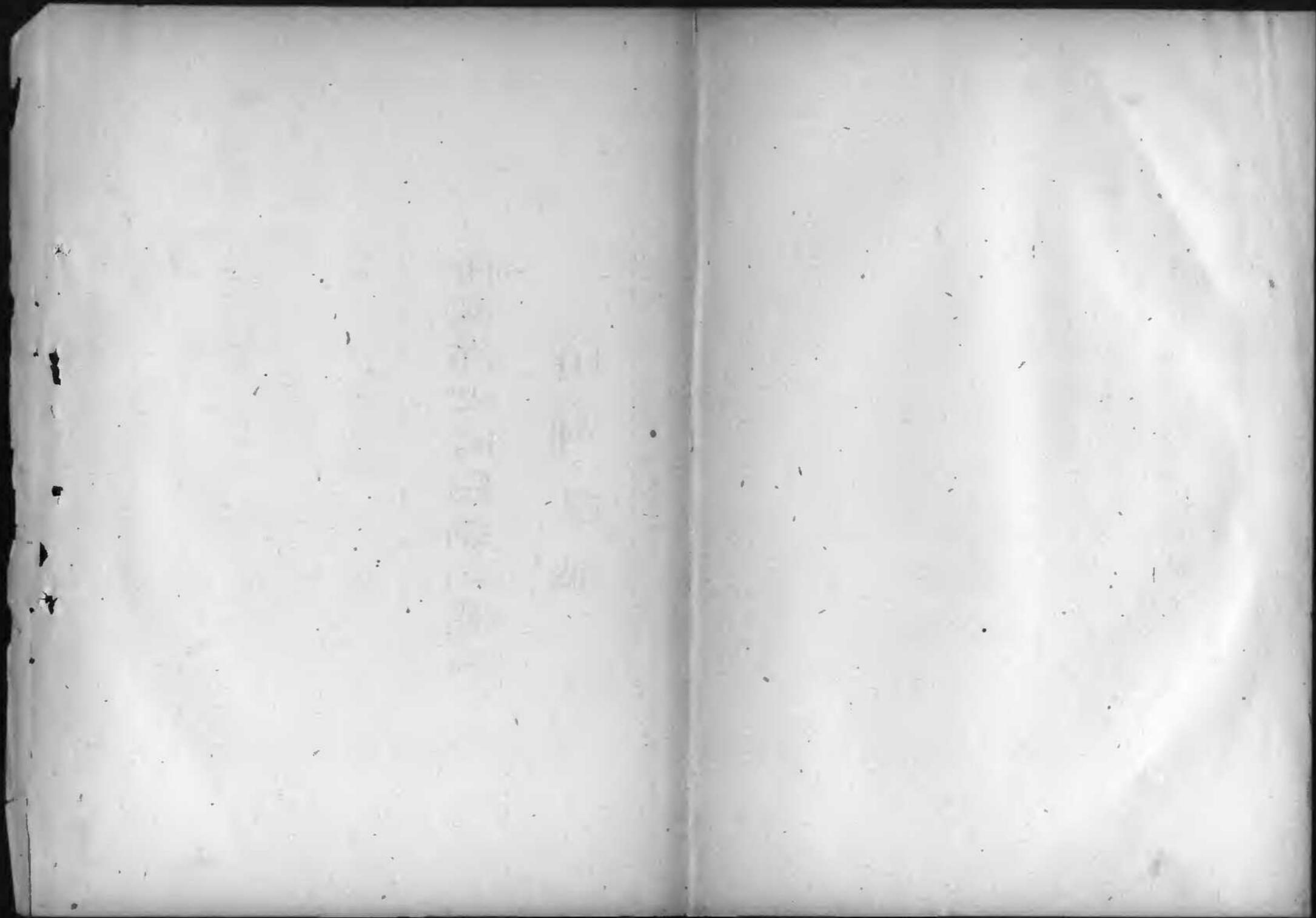
主要指標

I

田 25.5.2

経済安定本部

経済計画室資金班



第一表

昭和9~11年を基準(100)とした主要経済指標

年月中

昭和5	東京卸売 物価指数 (100)	銀行券 発行高 (1,753億円) (100)	全国銀行			全国銀行 対企業出率 (70.3%) (100)	全国銀行 対企業準備率 (41.5%) (100)	全国銀行 準備貸付割引 利率(平均) (2.4%) (100)	工業活動 生産指数 (100)	昭和5
			預金 (1,302億円) (100)	貸出 (9,153億円) (100)	% 有価証券 (4,131億円) (100)					
6	88.5	81.9	84.7	111.3	74.5	131.3	94.2	112.9	82.6	昭和5
7	74.8	75.9	81.3	109.8	69.1	135.0	88.9	112.3	66.4	6
8	83.0	81.3	82.7	105.1	75.1	126.9	92.2	122.5	91.2	7
9	95.1	88.1	88.3	100.7	81.9	113.8	94.3	114.3	80.4	8
10	92.0	93.8	93.7	92.0	94.0	103.4	101.2	104.6	91.7	9
11	97.4	100.7	99.1	99.2	101.0	100.0	100.6	100.5	99.9	10
12	103.6	106.4	103.2	103.8	104.0	96.7	98.2	94.9	108.4	11
13	125.8	131.5	120.9	120.3	107.6	99.4	92.1	91.5	129.3	12
14	132.7	152.1	196.7	133.5	142.3	90.9	95.8	84.2	132.9	13
15	146.1	209.9	192.6	164.3	145.6	95.2	94.9	84.2	148.7	14
16	169.1	272.5	239.4	200.7	225.4	93.8	92.6	90.4	142.4	15
17	175.7	341.0	290.2	229.3	298.2	79.5	98.0	69.3	151.7	16
18	191.1	407.7	357.5	271.6	400.1	76.0	104.1	68.0	148.4	17
19	204.4	585.6	432.4	353.5	503.9	81.7	103.7	65.7	172.2	18
20	231.6	4012.3	580.2	550.9	642.6	92.3	92.9	—	188.8	19
21	349.2	3182.6	919.9	1066.5	837.9	115.9	89.9	65.5	20.8	20
22	4622.9	5322.8	4112.1	4599.5	888.3	148.2	89.9	23.4	43.9	21
23	4822.1	12,520.9	1,799.2	1,838.1	1,262.0	102.1	83.7	89.0	51.6	22
24	12,813.3	24,266.9	3,892.2	4,116.4	1,784.9	107.4	69.9	135.6	62.0	23
25	24,327.2	24,266.7	6,077.8	2,418.9	4,680.8	121.9	53.3	194.7	90.9	24

資料..... 大蔵省 日本銀行編 『昭和23年財政経済統計年報』(1948年版) 日本銀行統計局編 『金融統計月報』 による。

注 (1) 東京卸売物価指数は公定価格のあるものは全価格により、ないものは自由価格による平均指数である。
(2) 全国銀行新規貸付割引利率は月中ととり各年6月、12月の2ヶ月の平均とした平均利率である。

第二表 主要経済指標 (単位 百万円)

年 月 末	銀行券発行高		全国銀行主要勘定						郵便貯金及郵便振替貯金		東京卸売	工業活動	貿易				年 月 末
	金額	指数 (1957=100)	金額	指数 (1957=100)	金額	指数 (1957=100)	金額	指数 (1957=100)	金額	指数 (1957=100)	物価指数 (1957=100)	生産指数 (1957=100)	輸出	輸入	貿易差		
昭和54	1,436	81.9	11,035	89.7	10,183	111.3	9,672	78.5	2,397	74.6	88.5	87.6	1,076	87.7	1,506	61.7	
5	1,330	75.9	10,594	81.3	10,052	109.8	9,584	69.1	2,664	82.9	74.8	86.4	1,518	72.5	1,680	63.5	
6	1,426	81.3	10,777	82.7	9,616	105.1	9,298	73.1	2,769	86.2	83.0	71.2	1,179	86.2	1,276	62.3	
7	1,544	88.1	11,509	88.3	9,213	106.7	5,432	81.9	2,417	89.3	95.1	80.4	1,470	72.4	1,411	57.1	
8	1,627	92.8	12,202	93.7	8,875	92.0	6,435	71.0	3,021	94.0	92.0	91.7	1,457	72.1	1,528	57.6	
9	1,766	100.7	12,910	97.1	9,080	99.2	6,198	101.0	3,188	99.2	99.2	99.9	1,571	78.8	1,717	76.5	
10	1,865	106.4	13,768	107.2	9,505	103.8	7,160	108.0	3,434	106.8	103.6	108.9	1,572	75.7	2,017	76.2	
11	2,305	131.5	15,746	120.9	11,011	120.3	7,134	107.6	3,787	117.8	125.8	129.3	1,571	88.5	2,283	91.1	
12	2,754	157.1	17,117	141.7	12,222	133.5	9,438	142.3	4,517	140.6	132.7	137.9	1,572	88.5	2,283	91.1	
13	3,677	209.7	21,071	192.6	15,078	164.3	12,308	185.6	5,795	178.7	144.6	199.7	1,571	88.5	2,283	91.1	
14	4,777	272.5	31,189	239.4	18,371	200.7	14,988	225.4	7,507	233.6	169.1	197.4	1,571	88.5	2,283	91.1	
15	5,978	341.0	37,801	270.2	20,785	229.3	17,775	278.2	9,246	286.4	175.7	153.7	1,571	88.5	2,283	91.1	
16	7,148	407.7	46,569	357.5	24,856	271.6	26,530	400.1	13,356	415.6	191.1	148.4	1,571	88.5	2,283	91.1	
17	10,266	585.6	61,328	432.4	32,354	353.5	33,415	502.9	17,450	605.2	204.4	172.2	1,571	88.5	2,283	91.1	
18	17,745	1,012.3	77,926	598.2	51,154	558.9	42,945	641.6	31,023	965.2	231.6	188.8	1,571	88.5	2,283	91.1	
19	25,440	1,622.6	119,829	917.9	97,621	1,066.5	55,228	832.9	41,132	1,279.8	349.2	288.8	1,571	88.5	2,283	91.1	
20	33,397	2,327.8	149,869	1,112.1	146,406	1,599.5	58,700	888.3	53,951	1,678.6	462.9	348.8	1,571	88.5	2,283	91.1	
21	21,911	1,250.9	23,376	1,779.2	168,243	1,838.1	81,682	1,262.0	52,541	1,639.8	482.7	348.8	1,571	88.5	2,283	91.1	
22	35,290	2,026.9	50,349	2,879.2	381,348	4,166.4	117,032	1,769.9	74,132	2,306.5	728.3	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
23	34,575	1,948.2	50,126	2,847.6	381,201	4,164.8	120,674	1,817.8	80,035	2,490.2	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
24	32,448	1,837.4	50,132	2,847.9	390,894	4,270.7	121,565	1,833.3	82,981	2,581.7	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
25	31,547	1,829.3	50,549	2,872.6	408,285	4,460.2	121,291	1,829.2	82,324	2,561.4	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
26	31,572	1,802.4	50,146	2,831.3	415,282	4,536.8	121,133	1,826.8	84,719	2,635.9	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
27	30,917	1,745.2	50,893	2,805.6	425,878	4,652.9	121,451	1,831.6	87,968	2,737.0	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
28	30,828	1,714.3	50,533	2,817.7	469,153	5,016.4	121,237	1,828.3	92,782	2,886.2	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
29	29,897	1,685.4	61,422	3,724.2	490,661	5,360.7	119,784	1,806.4	97,140	3,022.4	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
30	27,579	1,681.3	63,297	3,867.1	518,628	5,666.2	118,839	1,792.2	99,965	3,110.3	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
31	27,201	1,701.9	711,382	5,960.8	563,353	6,154.8	117,440	1,765.0	102,765	3,203.6	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
32	30,625	1,747.0	68,845	5,142.0	588,624	6,430.9	119,870	1,737.3	107,118	3,332.7	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
33	30,822	1,737.5	708,369	5,376.3	612,231	6,688.9	115,200	1,737.3	108,908	3,388.6	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	
34	35,311	2,026.7	772,018	6,079.8	679,052	7,418.9	106,146	1,660.8	110,193	3,428.5	796.7	576.6	1,571	88.5	2,283	91.1	

資料 日本銀行統計局編「金融統計月報」46.36による。(貿易に関しては外国貿易年表による。)

備考 (1)東京卸売物価指数は公示価格のあるものは全価格により、ないものは自由価格による平均指数である。

(2)貿易額昭和14年迄の金額は上段は内地分(種別を含む)のみを計上した。尚指数は上段は内地分のみによるものを、下段は台湾、朝鮮を含むものについて計算したものを示した。

(3)輸出額はF.O.B. 輸入額はC.I.F.である。

表三 全国銀行における準備金の構成

No. 1

(単位 百万円)

年・末	預金総計 A	コ-ロ-ン 預金・現金 B		国債 地方債 社債 株式 C		A/B+C %
		金額	対A%	金額	対A%	
昭和1年	10,845	2,260	20.84	3,233	29.81	50.65
2	14,811	1,800	16.65	3,870	25.80	52.45
3	11,287	1,940	17.19	5,230	46.34	63.53
4	11,444	1,931	16.87	4,786	41.82	58.69
5	11,035	1,825	16.54	4,592	41.61	58.15
6	10,595	1,824	13.94	4,457	42.07	55.51
7	10,777	1,608	14.92	4,531	42.04	56.96
8	11,509	1,798	15.62	5,046	43.84	59.46
9	12,203	1,904	15.60	5,726	46.92	62.52
10	12,911	1,798	13.93	6,218	48.16	62.09
11	13,768	1,797	12.86	6,675	48.79	60.65
12	15,746	2,151	13.66	6,801	43.19	56.85
13	19,117	2,253	11.78	9,057	47.38	59.16
14	25,092	3,089	12.31	11,625	46.32	58.63
15	31,190	3,501	11.22	14,342	45.98	57.20
16	32,801	4,179	11.04	18,941	50.11	61.15
17	46,569	4,445	9.54	25,487	54.73	64.27
18	56,328	3,728	6.62	32,325	57.39	64.01
19	72,927	5,119	6.57	42,008	53.91	60.48
20	119,829	12,229	10.20	54,284	45.30	55.50
21	144,869	24,184	16.69	56,216	38.80	55.49
22	234,376	40,033	17.08	81,167	34.63	51.71

資料 大蔵省 日本銀行 昭和23年財政経済統計年報 1948年版
による。

16.2

全国銀行における準備金の構成

(単位 百万円)

年月	コロン+備+現金		国債、政府証券類		社債、地方債、株式		B+C+D A %	備金総計 A
	金額	対A %	金額	対A %	金額	対A %		
23. 1	42,497	17.88	65,130	27.40	15,380	6.47	51.75	232,664
2	39,806	16.65	64,554	27.00	16,441	6.88	50.53	229,115
3	54,383	22.71	64,414	25.06	13,853	5.39	53.16	252,076
4	48,719	18.94	64,750	25.18	14,576	5.67	49.79	252,161
5	42,629	17.71	66,613	24.76	15,289	5.68	48.15	268,988
6	50,778	17.36	66,453	22.72	15,906	5.44	45.52	292,544
7	52,156	16.86	65,987	24.34	17,354	5.61	43.81	308,219
8	66,962	19.37	66,636	19.27	14,611	5.38	44.02	345,780
9	88,497	22.65	68,843	17.62	21,560	5.52	45.79	390,691
10	70,987	18.21	71,847	14.43	24,612	6.31	42.95	389,890
11	81,134	19.16	72,296	17.31	26,666	6.30	42.77	423,479
12	101,128	21.01	80,103	15.85	36,931	8.31	43.17	505,349
24. 1	94,338	18.90	85,885	16.98	35,589	7.10	42.88	501,226
2	96,489	19.24	86,161	19.18	35,404	7.06	43.48	501,532
3	132,018	23.64	85,143	15.24	36,148	6.97	45.35	558,550
4	98,115	18.23	85,168	15.03	35,966	6.68	40.74	538,186
5	103,765	18.50	85,469	15.24	35,983	6.42	40.16	560,893
6	105,729	18.15	84,506	14.51	36,731	6.31	38.97	582,534
7	103,005	16.57	84,003	13.65	35,782	5.81	36.03	615,423
8	105,315	16.60	82,688	12.84	36,152	5.70	35.34	634,300
9	156,289	21.97	79,774	11.21	32,267	5.24	38.42	711,383
10	120,565	18.00	75,948	11.34	38,923	5.81	35.15	669,845
11	128,492	18.35	83,613	10.51	41,587	5.94	34.80	700,369
12	154,774	19.54	85,491	8.27	40,655	5.13	32.94	792,018

資料 日銀統計局編 金融統計月報 による。

注 (1) 日銀、金庫と合算ない。

No. 3

全国銀行における対預金貸出率

(単位 百万円)

年 月	預 金 類		貸 出 類	B/A %
	A	総		
昭和 1	10,844.5	11,337.7	104.5	
2	10,811.1	10,917.9	101.0	
3	11,287.7	10,332.2	91.5	
4	11,444.4	10,322.2	90.2	
5	11,033.5	10,183.3	92.3	
6	10,595.5	10,052.2	94.9	
7	10,777.7	9,116.6	84.2	
8	11,509.9	9,213.3	80.0	
9	12,203.3	8,875.5	72.7	
10	12,911.1	9,080.0	70.3	
11	13,968.8	9,505.5	68.0	
12	15,746.6	11,011.1	69.9	
13	19,117.7	12,222.2	63.9	
14	25,692.2	15,038.8	58.9	
15	31,190.0	18,377.1	58.9	
16	37,801.1	20,985.5	55.9	
17	46,566.9	24,856.6	53.4	
18	56,828.8	22,354.4	52.4	
19	77,922.9	51,154.4	65.6	
20	119,822.9	97,621.1	81.5	
21	144,869.9	146,406.6	101.4	
22	234,376.6	188,243.3	71.8	

資料.....興銀調査部編

No. 44 全国銀行における対預金貸出率 (単位百万円)

年月末	預 金 (A)		貸 出 (B)		B/A %	
	額	%	額	%	A	%
23. 1	237,664		176,002		74.25	
2	239,115		184,226		77.09	
3	259,076		182,296		70.91	
4	257,161		188,710		73.38	
5	268,988		194,922		72.46	
6	292,544		212,664		72.69	
7	302,269		222,039		73.35	
8	345,780		262,746		75.99	
9	390,691		291,189		74.53	
10	389,890		311,703		79.95	
11	423,429		344,964		79.10	
12	505,349		381,348		75.46	
24. 1	501,226		384,201		76.65	
2	501,512		390,895		77.94	
3	558,550		408,245		73.09	
4	538,186		415,252		77.16	
5	560,893		425,878		75.93	
6	582,533		459,153		78.82	
7	6,542,222		4,906,661		74.93	
8	6,344,299		5,186,228		81.76	
9	7,112,822		5,652,553		79.19	
10	6,698,445		5,881,624		87.87	
11	7,003,669		6,122,231		87.42	
12	7,920,188		6,799,052		85.74	

資料……日銀統計旬報 金融統計月報による。

注 1) 日銀、金庫を含まない。

2) 貸出——(銀行引受手形、商業手形、荷高借手形) 貸付金% (無担保、有担保貸付、当座貸放)

No 5

全國銀行（表）日銀金庫のにおける

月 末	2 3		2 4	
	対積金貸出率	対積金埋戻率	対積金貸出率	対積金埋戻率
1	74.05	51.75	76.05	42.88
2	77.09	51.83	77.94	42.48
3	76.91	52.16	75.09	45.35
4	73.38	49.99	72.16	40.74
5	72.46	48.15	75.93	40.16
6	72.89	45.52	75.82	38.97
7	75.35	42.81	78.72	36.83
8	75.99	44.02	81.76	35.34
9	74.53	45.99	78.19	38.42
10	74.95	42.95	82.87	35.15
11	79.10	42.97	82.42	34.80
12	75.46	42.17	85.74	32.94

全国銀行（日銀を除く）預金

（単位 十円）

年月末	貯蓄性預金		流動性預金		預金総額	
	金額	預金に對する比率%	金額	預金に對する比率%	金額	増加比率
昭和1年	6,998,270	64.5	3,846,865	35.5	10,845,135	100
2	6,896,322	63.8	3,914,352	36.2	10,810,674	99
3	7,426,965	65.8	3,859,914	39.2	11,286,879	104
4	7,682,510	64.1	3,761,516	32.9	11,444,029	106
5	7,598,352	68.8	3,436,974	31.2	11,035,327	102
6	7,494,238	70.7	3,100,361	27.3	10,594,599	98
7	7,380,309	68.5	3,391,944	31.5	10,772,253	99
8	7,967,360	69.2	3,591,921	34.8	11,559,281	106
9	8,515,815	69.8	3,686,892	30.2	12,202,707	113
10	9,231,883	71.5	3,678,808	28.5	12,910,691	119
11	9,792,872	70.1	4,175,451	29.9	13,968,323	129
12	10,759,876	68.3	4,991,907	31.7	15,751,783	145
13	12,093,975	68.5	6,023,067	31.5	18,117,042	146
14	16,381,586	65.3	8,710,695	39.7	25,092,281	231
15	20,473,914	65.6	10,715,911	34.4	31,189,825	288
16	24,561,230	65.0	13,239,887	35.0	37,801,117	348
17	30,528,395	65.5	16,040,989	34.5	46,569,384	429
18	34,038,845	60.4	22,288,991	39.6	56,327,836	519
19	42,663,007	54.7	35,263,719	45.3	77,926,726	718
20	43,817,326	36.6	75,991,799	63.4	119,809,125	1105
21	37,987,896	26.2	106,881,364	73.8	144,869,262	1136
22	55,392,785	23.6	178,973,264	76.4	234,366,049	2,161
23	118,315,217	23.4	387,038,164	76.6	505,353,381	4,660
24	271,313,795	34.3	520,705,186	65.7	792,018,981	2,303

備考(1) 昭和19年迄は本邦、台湾及び樺太を含む。

(2) 20年以降は本邦のみである。

(3) 21年以降は新旧勘定の合計額を対上した。

(4) 貯蓄性預金には通知預金、定期預金、定期積金、国民貯蓄組合時金、郵便貯蓄預金、政府指束手金を含む。

(5) 流動性預金には当座預金、普通預金、その他預金を含む。

昭和10年までは大藏省「金融事項調査」

「19年10月まで」、「全国銀行主要勘定別」

「20年5月までは全国金融統計」

「20年9月までは日本銀行」

「12月までは大藏省」

「21年以降 日本銀行 刊」

資料……

第四表 10.1 全国金利 (年率%)

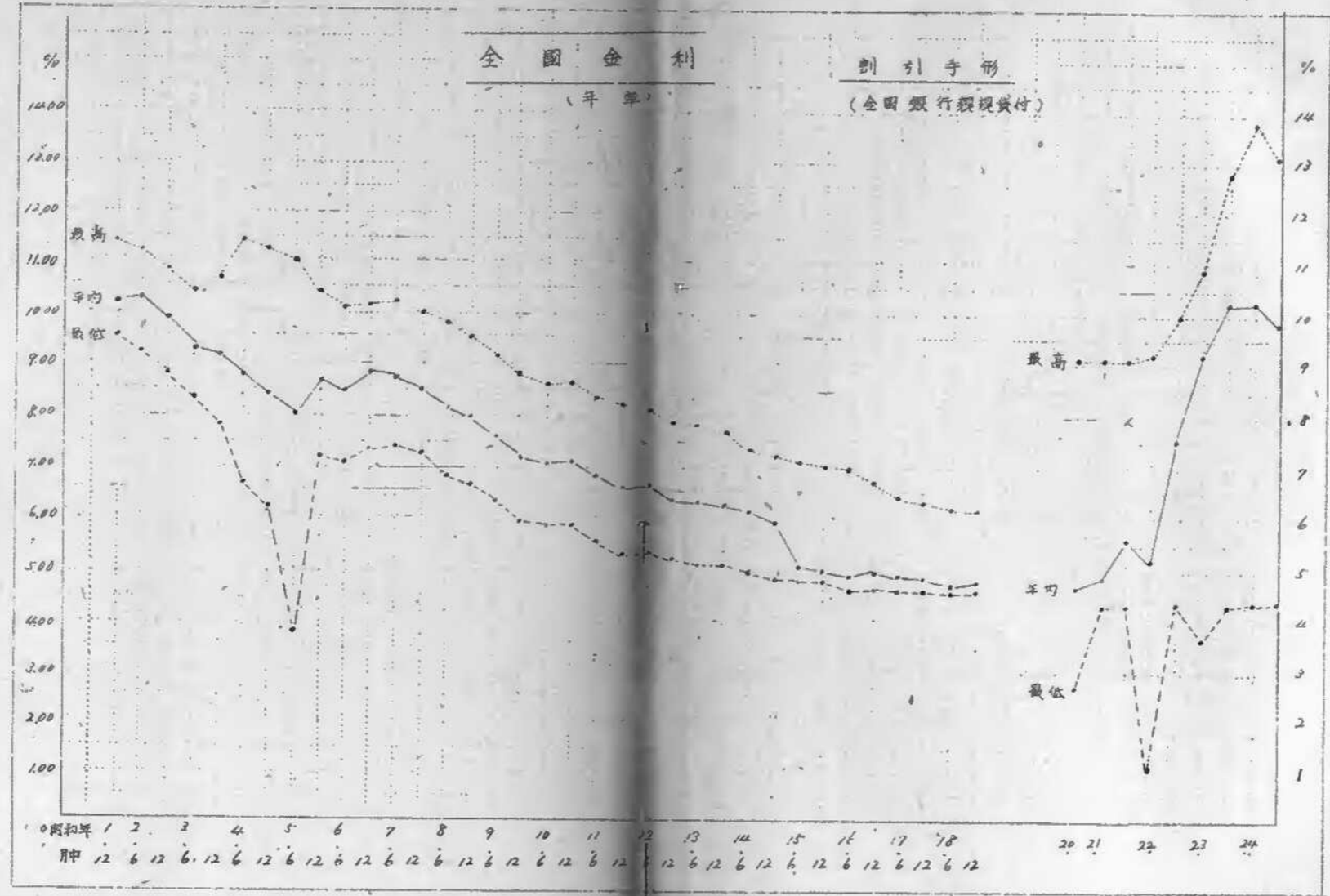
年 月 中	割引利率 (全国銀行町現貸付)			年 月 中	割引利率 (全国銀行町現貸付)		
	最 高	最 低	平 均		最 高	最 低	平 均
昭和1 12月	11.42	9.49	10.22	昭和14 12月	7.41	5.00	6.06
2 6	11.13	9.16	10.25	15 6	7.22	4.89	5.95
12	10.84	8.80	9.86	16 6	7.12	4.85	5.04
3 6	10.40	8.36	9.38	17 12	7.04	4.85	5.00
12	10.51	7.81	9.16	18 6	7.01	4.71	4.93
4 6	11.42	6.59	8.82	19 6	6.93	4.91	4.96
12	11.17	6.28	8.50	20 6	6.86	4.64	4.89
5 6	10.99	5.91	8.09	21 12	6.28	4.64	4.82
12	11.44	7.30	8.76	22 6	6.19	4.60	4.67
6 6	10.11	7.08	8.54	23 6	6.06	4.60	4.71
12	10.22	7.48	8.91	24 6	-	-	-
7 6	10.26	7.52	8.87	25 12	-	-	-
12	10.00	7.37	8.61	26 6	9.49	2.66	4.67
8 16	9.82	6.90	8.29	27 6	9.09	4.27	4.89
12	9.49	6.72	8.03	28 6	9.09	4.27	5.58
9 6	9.16	6.42	7.67	29 6	9.20	4.10	5.18
12	8.80	6.06	7.26	30 6	10.00	4.38	7.52
10 6	8.65	5.95	7.15	31 6	10.95	3.65	9.13
12	8.69	5.95	7.19	32 12	12.98	4.30	10.22
11 6	8.42	5.82	6.90	33 6	12.87	4.38	10.22
12	8.25	5.40	6.64	34 6	13.10	4.38	9.86
(1935) 12 6	8.10	5.48	6.64				
(1936) 12 6	7.96	5.23	6.42				
(1937) 12 6	7.85	5.18	6.35				
(1938) 12 6	7.70	5.11	6.24				

資料…… { 昭和12月迄は大蔵省調査
昭和17年6.12月 } は全国金融統計会調
昭和18年6.12月 } は全国金融統計会調
昭和20年12月以降は日本銀行調

備考 (1) 割引率形は当折換

(2) 最
低
最
高
平
均
の
算
出
方
法
は
昭和12月31日迄は各報告の計数の
平均、20年6月以降最高最低は
各報告中の最高最低とす。

No 2



第 3 利率 (年率%)

年 月 中	新 規 貸 付 利 率 (全部銀行新規貸付)			3-10 月 物 (市中金利)		新 規 貸 付 利 率	
	最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	最 高	平 均
(1948) 昭和 23.							
1	10.58	2.65	6.56	2.29	2.92	11.00	2.00
2	10.58	4.47	9.13	2.29	2.92	11.00	2.00
3	11.00	4.38	9.13	2.29	2.92	11.00	2.00
4	11.00	3.65	9.13	2.29	2.92	11.00	2.00
5	11.22	3.65	9.13	2.29	2.92	11.00	2.00
6	10.95	3.65	9.13	2.29	2.92	11.32	2.00
7	12.05	4.00	10.22	2.29	2.29	12.77	2.00
8	12.41	4.00	10.22	2.65	2.65	14.60	2.00
9	12.78	4.00	10.22	3.65	2.65	14.60	2.00
10	12.78	4.00	10.22	3.65	2.65	14.74	1.83
11	12.14	4.01	10.22	3.65	3.65	12.51	1.83
12	12.78	4.30	10.22	3.65	3.65	12.78	2.30
(1949) 24.	10.41	3.65	10.22	3.65	3.65	12.07	2.30
1							
2							
3	10.14	2.80	10.22	2.65	2.65	12.80	2.80
4	12.14	2.65	10.22	2.65	2.65	14.24	2.65
5	13.14	4.38	10.22	2.65	2.65	12.87	4.00
6	12.87	4.38	10.22	2.65	2.65	12.87	4.00
7	12.87	3.65	10.22	2.65	2.65	12.87	2.65
8	12.80	2.65	10.22	2.65	2.65	12.87	2.65
9	12.80	4.38	9.86	2.65	2.65	12.51	2.65
10	12.80	5.11	9.86	2.65	2.65	13.51	4.00
11	12.80	5.11	9.86	2.65	2.65	12.90	2.65
12	12.10	4.38	9.86	2.65	2.65	12.90	2.60
25.	12.80	5.11	9.86	2.65	2.65	12.90	2.65



昭和二十五年主要物資の需給見通しについて

(経済企画院)

一 要文がき

一 本資料は昨年十二月に關係各省より提出せられた昭和二十五年主要物資需要調査をもととし、次に述べるようを想定し、もとより作業した結果をとりまとめたものがある。

二 諸物資の需給が相ついで激減せられたことにより、需給計画作成物資の範囲が著しく狭められたと同時に各企業の実態把握が漸次困難になり、従来の物資需給計画に比し本作業の結果は著しくその計画性を弱めていることが認められる。即ち需要、供給何れの面においても一応の見通し程度の域を脱しない計画が多い。

三 本資料は五七し本年二月三月の間に於ける状態判断をもとに作業したものがあるから、今後はおける状況の変化により当然修正せらるべきものがある。

二 需要の想定

一 本作業の基礎となつていゝ需要想定の際に於ける諸前提は概ね次の通りである。

- (1) 二十五年度予算にもとづく一般会計(六六〇四億円)及び各事業特別会計の支出は支障なく行われること。
- (2) 見込資金を含む産業設備資金は一五〇〇億円程度確保せられること。
- (3) 価格差補給金は予定通り支出せられ、貸渡及び物価は概ね現行水準に於いて維持せられること。
- (4) 電力燃料金はついても現行通り措置されること。
- (5) 現行為替レートは維持せられること。
- (6) 米國の対日援助は継続せられ、輸入難付物資の最低再調達価を確保せられること。
- (7) 対中英國係その他世界状況は現状に比し特に急激な変化はかたしなくないこと。
- (8) 対米輸出入及び米國の東南アジア南米援助計画の進行にともなう貿易事情の变化は詳細に不明のため一応考慮しないこと。
- (9) 物資需要の根拠をなす資金供給見込については概ね次の通りと判断した。
- (10) 公共事業関係(災害復旧を含む)は、国庫及び地方公債等を通じて地元負担額を加算

171

すると、二十四年度の九五八億円に対し、二十五年度は一三二億円で約三〇%の増加がみられる。

(2) 国鉄、電気通信、郵政及小国産林野の各事業特別会計の合計額は、二十四年度の三七一億円に対し、二十五年度は四八二億円と約三〇%の増加がみられる。

(3) 一般産業の設備資金については、見込資金を含めて、二十四年度の約一三〇億円に対し、二十五年度は一五〇億円程度と二〇―三〇%の増加が予想される。

(4) 輸出口については、現在作成中の輸出計画にもとずき、極力これを数上せむこととし、石炭、木材、沖運輸出その他の関係は若干の食糧のほかのみとされている。

(5) 以上の物資需要を背景とし、二十五年度における各産業の生産活動が円滑に遂行せられることを予想して、諸物資の生産見込を算出し、結果は、第一次推計数字の通りである。

三、伏念の見込

(1) 震災需要に見合う諸物資の生産を確保するのための動力源として、石炭及び石油

については、所要量を確保するに必要はなからぬが、電力同様、ついでに、予定せられる発電量をもつては、若干の不足を認むべきことが懸念せられる。

(2) 予りわち第一次推計数字による諸物資の生産に必要な電力量は、大口需要合計で一六〇億KWHが必要とされている。

これに対し電力の供給見込は、水力については平水時の可能発電力(過去八年間の可能発電力の実績の内最高と最低を除いた大々時の平均)を前提とする、年間発電量、二九二億KWH、火力については標準料金を適用し、発電量は

三四億KWH(火力用炭三三〇万トン)、合計三二六億KWHであり、その中大口需要分として需用端において割当せらるる電力量は一六六億KWHである。すなわち標準割当量を超過し、石炭の高率火力料金による電力を全産業として割当量の約五割程度は使用しようとするものとみて、大億KWHを加算しても、なお供給見込は一三二億KWHに達しない。

しかしながら、第一、石炭の買入価格の増大による影響、

裏面白紙

則ち努力と電費使用者側の一層の電力使用合理化にも期待を込めるので、この際より一三億KWH程度の増加を見込めるとし、一四五億KWHを基準として諸物資の生産見込を推定し、第二、第三次推計数字の通りである。

三、第一次推計数字は、第二次推計数字は各物資とも若干生産高の減少がみられるが、この際第一次推計数字の推定より若干の増大は通りに本年度的において諸物資の需要を若干と見ても、前年度より各物資の繰越が相当量あるのを、前年度繰越に支障を及ぼすような事態のおこることはまずないものと予想せられる。

Survey of Influences caused on Industrial categories by the power allocation.

Item	Estimated of production		Estimated of production		Estimated of production		Estimated of production		Estimated of production	
	1949	1950	1949	1950	1949	1950	1949	1950	1949	1950
Cadmium	1875	390	1932	438	1812	438	97	94	C/A	9/8
	114	124	124	114	114	100	94	94		
Iron & steel	1619	579	1804	200	1629	667	100	88		
	114	124	124	114	114	100	94	94		
Mining & refining	502	320	653	325	588	324	117	90		
	211	433	246	425	185	425	91	92		
Aluminium	44	90	90	85	85	193	95	95		
	185	37	245	176	176	95	86	86		
Petroleum	498	480	549	507	500	559	105	91		
	3845	870	3771	861	3445	894	103	91		
Chemical fertilizers	824	500	1050	336	932	535	113	89		
	784	94	1050	216	100	216	113	84		
Textile	784	94	1050	216	100	216	113	84		
	784	94	1050	216	100	216	113	84		
Cement	3094	4111	3810	119	95	3094	4111	3810	119	95
	3094	4111	3810	119	95	3094	4111	3810	119	95
Sheet glass	3500	3611	3500	118	97	3500	3611	3500	118	97
	3500	3611	3500	118	97	3500	3611	3500	118	97
Abrasive	2	4	3	126	95	2	4	3	126	95
	2	4	3	126	95	2	4	3	126	95
Ammonium sulphate	1205	1401	1350	106	97	1205	1401	1350	106	97
	1205	1401	1350	106	97	1205	1401	1350	106	97
Calcium cyanamide	365	400	380	104	95	365	400	380	104	95
	365	400	380	104	95	365	400	380	104	95
Calcium superphosphate	1306	1400	107	100		1306	1400	107	100	
	1306	1400	107	100		1306	1400	107	100	
Corkite	410	402	435	110	96	410	402	435	110	96
	410	402	435	110	96	410	402	435	110	96
Caustic soda	148	175	167	113	96	148	175	167	113	96
	148	175	167	113	96	148	175	167	113	96
Soda ash	126	160	140	127	100	126	160	140	127	100
	126	160	140	127	100	126	160	140	127	100
Cotton yarn	3095	510	420	125	94	3095	510	420	125	94
	3095	510	420	125	94	3095	510	420	125	94

Demand	Balance of Power				Estimated of production					
	Actual FY 1949 (A)	Plan FY 1949 (B)	Actual FY 1950 (C)	Plan FY 1950 (D)	Material	Unit	Actual FY 1949 (A)	Plan FY 1949 (B)	Actual FY 1950 (C)	Plan FY 1950 (D)
Electric power	16	30	27	29						
Land power	131	131	157	104						
Waterworks	364	399	390	102						
Industry	29	43	36	124						
Transportation	3	3	3	95						
Public utilities	57	35	36	100						
Other	101	102	100	100						
Total	418	427	427	427						
Electric power	16	30	27	29						
Land power	131	131	157	104						
Waterworks	364	399	390	102						
Industry	29	43	36	124						
Transportation	3	3	3	95						
Public utilities	57	35	36	100						
Other	101	102	100	100						
Total	418	427	427	427						

note 1. The first plan shows the amount of power required for the production of the amount of effective demand.

2. The second plan shows the allocation amount of power based on the amount of its supply

昭和25年度米國對日援助見返資金年間配分計画(案)
 (單位:百万円)

(経理課本部)

公企業 國有鉄道 電氣通信事業 國有林野事業 住宅金融公庫 公共事業	40,000 4,000 12,000 3,000 10,000 11,000	公社に交付 特別会計へ繰入 企上 公庫へ交付 配分計画案定中
債務償還	50,000	
私企業 電海力 予運備 その他重要産業 金融機関 中小企業	40,000 15,000 7,200 6,300 4,300 6,000 1,200	前年度からの継続事業 企上 海運(船舶運賃)の電力の支出を若干定 別紙参照 銀行等の債券発行に際し法律に基づく優先株の引受 前年度決定の融資枠に5,300
経費再建の安定費 民間情報教育事業 連合国人住宅公庫等 予備	28,132 250 8,000 9,350 1,350 18,532	賠償料等 物産(11)等を含む
合計	159,132	

(別 統)

乙の他重要産業投融資計画(案)

(単位:百万円)

(2556)
(E.S.B)

業 種	金		類 計	備 考	
	A	B		A	B
石 炭	1,510	690	2,200	繼續工事及び特殊手携 及び新規工事・増産増産 増産・合理化工事。	同 足
金 鉱 山	220	0	220	青化製錬及浮遊選鉱設 備復元	—
鉄 鋼	1,050	40	1,090	コークス炉改修・自家発電 増強	屑鉄処理設備外合理化
化学肥料	270	90	360	硫酸生産設備増強	同 足
化学薬品	200	280	480	塩化生産設備	硫酸(酸ガス回収)・カルキ 酸ソーダ・石灰酸・塩化ビ ニール・金属深器・高倍率 料・ストロトロン生産設備
織 紐	450	350	800	合成繊維生産設備増強	合成繊維及び醋酸人絹 生産設備
地 下 鉄	0	250	250	—	路線延長(神田・池袋間)
農林水産	600	100	700	土地改良・小水力発電・ 農田開発等の進捗。	冷庫庫建設
計	4,300	1,800	6,100		

昭和15年度日通会私企業投資言詞決定資料

(單位 億円)

対5.4 経本目合高

業種	金額		要
	A	B	
石炭業	15.1	0.0	中外企業 0.8 (新設)
鉄業	2.2	0.0	0.7 (新設)
鉄鋼	10.5	0.4	神戶製鋼 0.4
化学肥料	2.7	0.9	日東化学 0.9
化学染品	0.0	0.8	日本化学 0.8 (北海連銀)
織	4.5	0.5	0.3 (花王) 0.15 (昭和化学)
織下	0.0	0.0	0.2 (日豊化学) 0.05 (マルニ)
織水産	0.0	1.0	0.3 (三井化学) 0.4 (スズキ)
計	43.0	16.0	0.1 (シン)

合計 59.0
 15.1
 2.2
 10.5
 2.7
 0.0
 4.5
 0.0
 0.0
 43.0

対5.4 経本目合高

石炭 8
 鉄 2
 鉄鋼 8
 化学 18

裏面白紙

177
25
5.8
2-7

附紙

昭和25年度産業資金需給見込の説明

理 解 25.5.8.
(単位億円)

一、資金需果

(一) 設備資金需果見込

I (A) 業

(1) 設備の維持増修合理化によるコストの切下中に重点を置き、併せて15%程度
の生産の増加を図るための設備資金の最小限度必要額は下記のとおり1,588
億円となる。これは遺産、還新、買入れを省かざらず昭和25年度の有効需果資金増進
率の点と考慮し、業者の資金需果を査定した数字の累計である。
そして、産業資金需給見込(A)においては、生産の増加が10%程度であること
及び昭和25年度下半期において有効需果率の減退、物価の低落、ストックアップの増
大等の理由から、設備資金の需果が低下すると思われること、及び設備資金の
調達の可能性等を考慮して下記1,588億円の約9割程度1,275億円を昭和25
年度の設備資金とした。

II (B) 業

(B) 業の場合は、生産約15%増加を前提として、下記1,588億円とそのまま、設
備資金とした。

電気	349	億円	陸	70	億円
石油	113		運		
鉄鋼	98		運(含台湾)	228	
軽金属	52		産	8	
電機	9		(小)	計	306
石油	11				
天然ガス	63		農林水産	114	
化学	201				
繊維	3		合	計	1,588
その他	42				
その他	103				
その他	47				
その他	97				
(小)	計	1,168			

1)

㉔) 運転資金需要見込

(単位 億円)

I. 生産の増加に伴うもの ----- (A) 777
(B) 1165

(説明) (A) 昭和25年度末産業貸出残高は、9413億円、そのうち設備資金 6641億円、
運転資金 2772億円と見込まれる。(附表1参照)

従って昭和25年度において生産は10%増加増産は不変とすれば昭和25
年度中の生産増加に伴う運転資金の貸出増加見込額は 1165億円である。

$7772 \times 10\% = 777$

(B) 同様にして生産15%増加すれば $7772 \times 15\% = 1165$

II 公団廃止に伴うもの ----- (A) 376
(B) 516

(1) 貿易公団廃止に伴うもの ----- (A) 130
(B) 270

(説明) 貿易公団の廃止に伴って、その増貸及び未収金の処理に必要な資金である。(附表2参照)

(2) その他の公団廃止に伴うもの ----- (A) 246
(B) 246

(説明) 食料品配給公団等の廃止により、各種貯蓄の集荷配給が公団から民間機
構に移行することによつて必要となる運転資金である。(附表3参照)

III 輸出入の増大に伴うもの ----- (A) 310
(B) 350

(1) 輸出増大に伴うもの ----- (A) 130
(B) 150

(2) 輸入増大に伴うもの ----- (A) 170
(B) 200

(説明) 昭和25年度は昭和24年度に比し輸出入ともに増大する見込であり、特にラ
ンチ輸出等に重点をおけば一層貿易資金の需要も増加するもので、この程
度の貿易資金が必要になるものと思われる。(附表4参照)

IV 価格差補給金の削減に伴うもの ----- (A) 300
(B) 0

(説明) 昭和24年度において価格差補給金は892億円削減される結果資金の回
転率と年三回転程度とみても企業は運転資金をこれに比しては300億程度の運
転資金が必要になると思われる。(附表5参照)

V その他 ----- (A) 342
(B) 455

(説明) 昭和25年度殊に下半期において或程度の企業は整理、滞貨の増加を見る
ことには止むを得ないものと思われるが、これに伴つて必要となる運転資
金年々である。

合計 I+II+III+IV+V ----- (A) 2,095
(B) 2,786

才三 資金供給

一) 貸出の見込

I 預金増加の見込

(A) 表、昭和24年度の預金増加実績見込は郵便貯金の増加分金融機関の手許小切手を除くと2,522/億円程度であるが、昭和23年度と昭和24年度の郵便貯金と際いた預金純増を比較すると100対77程度である(附表(参照))
 昭和25年度においても略、この割合で預金純増が減少するものとすれば本年度の一般金融機関の預金純増見込は、1,941/億円(2,522/億円×77%)即ち前年度の90.0%程度となるが、(A)案の場合における一般貯蓄増分の見込は、5.更にその5割5分程度しかが預金の純増がないうものと考え、1,675/億円と一応推定した。

(但し、郵便貯金は昭和25年度において350/億円の増加が見込まれるから金融機関の預金の純増は2,025/億円となる。)

(B) 案、昭和25年度においても昭和22年度并昭和24年度の預金純増の比率(100対77)で預金の増算が減少するにすぎるとして、一応上記の1,900/億円と推定した。

II 貸出増加の見込

(A) 案、昭和25年度においては金融機関は出資の貸付健全金融の方針に従い預金の増皿債償還等によつて生じた資金の範囲内で投融資することになるものと推定されるが、預金債償還がとくに少いので、下記金融機関資金繰表が与判断するところ、日銀からの借入金115/億円を得て始めて貸出2,964/億円を引受、395/億円、株券引受40/億円が可能となる。

(B) 案、預金の増算が(A)案の場合に比して、比較的減少せし、預金貯蓄金のうち中預記純増が少く、貸付償還の比率の上ることとなるので、下記金融機関資金繰表が与判断するところ、日銀からの借入金を80/億円程度に引き、貸付健全金融の方針を堅持しつ、も、約2,800/億円程度の貸出が可能となる。

金融機関資金繰表(預金部を除く)

資 金 源	資 金 運 用		甲	
	A 株	B 株	A 株	B 株
(1) 一般預金増加	1,675	2,100	1,810	2,764
(2) 手許小切手増加	△ 200	△ 200	1,930	2,884
(3) 国債債権	267	607	△ 120	△ 120
(4) 預金より預託金	120	651	395	445
(5) 金融機関発行	117	412	40	40
(6) その他	208	208	140	140
			117	412
			1-	57
合 計	2,387	3,778	2,502	3,858
差引不足(-)	(-) 115	(-) 80	-	-

(4)

182

(三) 増収、社債発行、社内留保見込額の新算

I 増収の見込額

(1) 昭和24年度才4.四半期における増収実績見込は、月平均約30億円程度であり、昭和24年度下半期以降不振を続中の株式会社市況は昭和25年度においても急激に好転する可能性が少いものと思われ、そこで、本年度において月平均約30億円程度増収が行われるに比するものと考え、年間350億円と推定した。

(2) (A) 同業について特に著しい相違はないものと考え、一本同額とした。

II 社債発行の見込額

昭和24年度社債発行は好調を示し、年間262億円の純増をみたが、本年度は、利息も金勘面では市中金融機関に計する債務償還が行われ、産業面では長期資金の割当て社債市場に依存せざるを得ない等の理由により、昭和25年度においては、昭和24年度才4.四半期の実績月平均約35億円内外の社債が消化されるものと考え、(A) 業の場合、月平均約30億円、年間400億円とし、(B) 業の場合、月平均35億円、年間450億円と推定した。

III 社内留保の見込額

(1) 昭和24年度の社内留保の増加見込額は410億円であるが、昭和25年度においても、累年同額と推定した。即ち、本年度の利益は昨年度と累年大差ないものと考えられ、企業利益に対する課税は法人税が軽減されるが、当面、再算増税が課税されるので、諸税負担の超過計増に対する税金相当額程度が軽減されるに止るものと思われる。又、税引後の利益に於いて見れば、昨年度は償却額が減少するたため、積立金として残る部命が大きかつたのであるが、本年度は再算増税により償却額が増加して積立全部命が減ずることになるので、償却額と積立金との合計を企業の内留保と考えれば、本年度の社内留保は昨年度と累年同額と推定される。

(2) (A) (B) 同業ともに一本同額と推定した。

附表 1.

昭和25年度末運轉資金貸出残高の推定

(単位:億円)

I 昭和24年12月末貸出残高の弁別

項目	貸出残高	割合
(1) 銀行、信託、預金、農林中金、金庫	14554	8247
(2) (1)の財産集資金に非ざるもの	6793	170
地方公共団体	57	14
個人消費資金及賦税資金	77	79
非営利事業及地款	20	27
小計	154	170
(3) (1)-(2)	1438	8077
	(17%)	(83%)
(4) 物用要素協同組合、農業会 協会、生保、損保、市街地信用組合	169	725
	(19%)	(81%)
(5) 預金部、前保、郵便当金 (金融機関に付したる預金95億を除く)	1607	2364
		(89%)
(1)+(4)+(5) 計		9933

II 昭和24年12月末運轉資金貸出残高
(Iの(3)+(4))

1607 7364 8971

III 昭和25年1月乃至3月貸出増加見込

34 408 442

IV 昭和24年度末運轉資金貸出残高見込
(III+IV)

1641 7772 9413

(6)

2. 貿易公団の廃止に伴う匯転資金増加見込

- (A) 貿易公団廃止に伴い、同公団の積戻 1,077 億円の中興常積費 283 億円を民間企業が引取るため、未収金の中村政府、地方公共団体分等を除いた 288 億円を認め、民間企業の匯転資金の需要が 3/1 億円を生ずるが、内 40 億円程度は昭和 24 年度中に引取済であるから昭和 25 年度中の引取費の増加は 270 億円となる。然し乍ら、(A) 案の場合においては、生産^{増加}が少く、積戻の増大を見る等、一般至積積算の見通しから、民間企業は 270 億円の約半程度しか実際に引取り得ないものと考へ、1,300 億円と推定する。
- (B) 案の場合には、概至積積算の見通しとして、出来の場合よりも生産費^{一応}が増大するものと考へ上記の 270 億円^{一応}をそのまま計上した。

貿易公団の積戻及び未収金の状況

昭和 25 年 1 月末現在
(単位百万円)

輸 入	入			計	未 収 金
	正 ス ト ツ ツ	異 ス ト ツ ツ	予 ト ツ ツ		
鐵工品貿易公団	1,921	15,100	5,185	42,207	8,793
鐵産貨身公団	14982	3,612	—	18,595	5,493
小 計	16,903	18,712	5,185	40,802	14,286
輸 出					
鐵工品貿易公団	—	1,463	—	1,463	
鐵産貨身公団	18315	8,206	—	26,522	
小 計	18,315	9,670	—	27,986	
合 計	35,219	28,383	5,185	68,788	14,286

備考 匯商産業省調査による。

附表 3.

公団（除貸券公団）廃止に伴う還本資金増加見込

（単位億円）

I 肥料配給公団

昭和25年度の取扱金額、577億円、年10回転として60億円
値上り7.0%とみて-----100

硝産配給公団

昭和25年度取扱金額、1,076億円、年18回転（1回転約20日）として-----60

食料品配給公団

砂糖1回の取扱金額（約2ヶ月半分）60億円として-----60

味噌、大豆その他1回の取扱金額（約1ヶ月分）15億円
値上りの割とみて-----20

飼料配給公団

昭和25年度取扱金額、58億円、年間1.2回転、値上り2割とみて-----6

合

246

備考 (1) 食糧配給公団は昭和25年度予算年度内には廃止されたいものと考えた。

(2) 肥料、砂糖の両公団は予算上は年度内は存続することになっているが、最近の情勢を鑑み年度内に廃止されるものと考えた。

(3) 食料品、飼料の両公団は予算上も廃止されることになっている。

II. 公団廃止に伴って現在預金部から公団に貸付している還本資金の回収等財政資金に若干影響してくるわけであるが、本公団の配給事務を民間に移行した場合においては、資金回転率が変化すること等も考えられ、これ等の諸要素は、相互に相殺する関係にもある中で、一応これ等の要素は考慮外において推算した。公団の取扱う事務は主として生活必需品等国民生活上必須の物資であるから、(4)(5)両案の場合において特に着しい差はないものとして一応同額を計上した。

附表 4.

輸出入の増加に伴う黒字資金の増加

I (A) 米の場合

(I) 輸出

昨年度輸出見込額 520 百万ドルと本年度見込 679 百万ドルとの差 159 百万
 ドル、円貨換算 592 億円、4 回転として ----- 150

(II) 輸入

昨年度見込額 430 百万ドル(援明勘定を除く)と本年度見込 646 百万ドルとの差 216 百万ドル、円貨換算 777 億円、資金の回転率を 4 回転として ----- 200
 (I)+(II) ----- 350

(本年度の輸出入見込は 本作成の外貨予算による。)

而して (A) 米の場合の一般時態勢状態の見通しから實際の貿易は計画の約 8 割
 を程度に止まるものととして 300 億円を一応推定した。

II (B) 米の場合

貿易は計画通り実行されるものととして上記の如く機械的に算出して 350 億円を
 一応推定した。

附表 5.

細格差補給金撤廃に伴う増加黒字資金の推定

I. 昭和 25 年度における細格差補給金の削減額は下記のとおり 892 億円にたよるので、
 黒字資金の回転率を年南 3 回転ととして補給金削減による増加黒字資金を 300
 億円と推定する。

	昭和 24 年度(修正予算)	昭和 25 年度	差 引
年 定 額 資 産	102,349 百万円	33,271 百万円	69,078 百万円
輸 入 物 資 産	93,151	56,729	16,422
増 加	3,700	0	3,700
計	179,200	90,000	89,200

II 資金の性質上 (A)(B) 両案の場合により特に著しい差異はないものとして、一応同額
 と推定した。

附表 6.

昭和23.24年度預金及貸出純増比較表

理經 25. 4. 21.
(單位百万円)

	預金純増		前年同月比	貸出純増		前年同月比
	23年度	24年度		23年度	24年度	
4月	2,322	△ 28,155	—	7,275	14,463	198.3
5	12,231	17,215	140.7	6,213	15,448	248.6
6	21,908	28,997	131.4	20,074	40,717	202.8
7	17,859	38,642	216.3	22,299	36,474	163.5
8	22,094	14,656	66.3	33,601	36,237	105.8
9	57,998	△ 8,015	148.3	32,215	52,212	162.0
10	21,525	△ 10,356	—	25,690	26,581	103.4
11	56,025	24,932	44.5	28,069	27,978	99.6
12	103,386	92,130	97.4	54,888	68,489	124.7
1	△ 2,555	△ 18,304	—	2,667	△ 3,174	—
2	△ 2,057	△ 6,375	—	15,240	40,852	268.0
12月至2月 合計	98,774	△ 67,451	68.3	72,795	106,167	145.7
合計	310,736	239,193	76.97	248,231	356,297	143.5

註 1. 預金純増 ----- 預金部、簡易保険、郵便年金仕除く。

2. 貸出純増 ----- 貸金、積金部、簡保、郵便年金仕除く。

3. 昭和24年度預金増加見込

(1) 一般預金 3,038

(1) 〇〇
(2) 手持小切手増 517

(1) 一(口) 2,521

一般金融機関

預金の純増

(10)

昭和25年度米國振助見返資金
私企業投融資計画

25. 5. 10

(単位：百万円)

業種	金額	備考	変
電力	15,000	前年度からの継続工事	
海運	7,200	同上	21,600
子種	6,300	海運(船舶建造会社)及び電力は支出する予定	6,300
その他重要産業	4,300	別紙貸出を具体約は審査の対象とする	6,600
金融機関	6,000	銀行等の債券発行に關する保証に基く優先株の引受	
中小企業	1,200	前年度決定の融資要領に於けるもの	36,000
計	40,000		

66

別紙

この地重要産業投資計画の対象とするもの
25.5.10
E.5.8
(單位百万円)

業種	金額	摘要
石炭	2,200	繼續工事及び強粘結炭増産並増味事情ある新規工事
金銀山	220	中心製錬及び浮遊選鉱設備増元
鉄鋼	1,090	コークス炉改修、自家発電増強、屑鉄処理設備等
化学肥料	360	硫酸生産設備増強
化学薬品	480	塩酸、硫酸(廃ガス回収)、フルギン酸ソーダ、石炭酸 塩化ビニール、金属炭素、高級染料、スチロブライソ ン、生産設備
繊維	800	合成纖維及び醋酸人絹生産設備
地下鉄	250	路線延長(神田、地鉄間)
観光	200	観光ホテル建設
農林水産	1,000	土地改良、小水力発電、栗田開発、道林及び冷蔵庫建設
計	6,600	

この計画は、昭和二十五年四月
工業化令第一〇九号
に基づき行われる

その他重要産業投資企業別計画

25.5.18

石炭 2,200百万円

内容別途

金鉱山 220百万円

工事概要

中外鉱業	塔越	青化製煉設備復元	300 ^t /日	80
千歳鉱山	千歳	浮遊選鉱設備復元	120 ^t /日	80
新鉱産鉱業	大口	青化製煉設備復元	200 ^t /日	60

備考

我國の金山は昭和18年鉱業整備により山元青化製煉設備及び浮遊選鉱設備を撤去せられ。之がために戦前最高年間約25tの生産をみたる産企業は根底から破壊せられ現在生産約4tに止る状態である。

故つて、設備機元計画十社十一山のうち、而中調査又は自己調査が会社の資金繰上不可能であるが鉱産品位とも優秀な設備完成後現行金価格で採算可能な三社三山を融資対象として選択した。

本計画の工事完成後三社で1,254キログラムの増産となる。

鉄鋼 1,090百万円

工事概要

八幡製鉄	八幡	西田発電所増設	122 (機軸)
富士製鉄	輪西	仲町No.1コークス改修	516 ()
日本鋼管	川崎	No.1コークス改修	412 (申請中)
神戸製鋼所		屑鉄処理設備等	40 (申請中)

備考

補給金撤廃後我が国鉄鋼業が国際競争に堪へ自立するに於ては原料面に於ける改善と共に、諸設備の合理化、集中を巧且つ陳腐化している近代設備の近代化を必要とする。而も過去に於ける設備資金の投下は不足し、一般物的補修整備を十

(E)

分に行われていないので設備資金需要は極めて多く各企業のカナは潤遺し切れない。
しかしながら資金配分上は設備の近代化革新事業を順次上する余地は多いので、継続工事及び申請中の工事のうちから、各社資金繰り及び工事の重要性を勘案して上級工事を融資対象として選んぬ。

化学肥料 360万円

工事概要

東北肥料	硫酸製造設備(銅架電機設置)	12 (他 統)
昭和電工	(ガスシンク)	28 (申請中)
	水力発電所	150 (")
別府化学	硫酸製造設備(ガス一系列増)	80
日東化学		90

現在尚多量の窒素肥料が輸入されておるが將來之を國內にて自給すると共に其の主産農産物に引下げ且つ現在の世界的至需給の不均衡をも是正せんとするものがある。即ち本計画により硫酸76,000 T/y, 自家発電による石灰窒素3,000 T/yの能力増加と共に出産農産物は中水性法の採用、ガスシンクの設備、設備間のバランス又調整等の合理化を行ふことによつて、各社平均約10%の低下が見込まれる。

化学薬品 480百万円

工事概要

日本紙業	廃ガス回収硫酸設備	80 (他 統)
北海道興産	アルギン酸ソーダ製造設備	30 (申請中)
花王石鹸		25 (")
宇部ソノダ	塩化ナトリウム製造設備	200
ナリニ工業株式会社	金属漆製造設備	20
日豊化学	塩化ビニール及石灰製造設備	125
三井化学	高級染料製造設備	50

協和 硫磺	ストレプトマイシン製法設備	20
科学研究所		20
明治製菓		20
備考		

- 4) 回收硫酸設備； 昨年度よりの継続工事であった Pope 使節団の報告により従来農産物茅に被害を与へておられた精錬所の塵芥スから極めて安価に硫酸を製造すると共に運送防止を図る。
- 4) アルギン酸ソーダ； 米国茅に於ける需要は極めて多いから設備を増強し外貨の獲得を図る。尚北海道果糖は一部外貨導入の決定を見ておる。
- 4) 塩安； ソーダ類に対する補助金は本年十月以降廃止されることになつておるが、その際拵けたソーダ工業は現状の儘では海外品に対抗することは出来まい。故工業が重要基礎産業である事情に鑑みその根本的合理化は喫緊の要務である。本計画は仮つて本会社のソーダ製造原価は 20% 引下げをとり、又塩安肥料 36,000 T/y の増産が期待される。
- 4) 金属探査； 輸出振興の見地から探査が要望されるものであり、外貨獲得項は年間百万帯以上は達する見込がある。
- 4) 塩化ビニール； 本計画は進歩せる米國技術の導入によつて劃期的な産重合方式を実現し我國ビニール工業の発展に資せんとするものである。石炭酸； 我國に於ける石炭酸製造原価は國際価値に比し著しく割高となつてをり、之を原料とするペープライト、合成纖維、染料等諸工業の發達の在めには其の引下げが必要である。本計画は進歩せる米國技術の導入によつて在米の方法に比し約 30% のコスト引下を図らんとするものである。
- 4) 高級染料； イソグロビン系高級染料は輸出纖維製品染色用として需要旺盛であるに拘らず、殆ど輸入にのみ期待せざるを得ない現状にある。本計画は戦前より豊富な生産をもち三井化学に於て設備拡充をなし外貨の節約に資せんとするものである。
- 4) ストレプトマイシン； 世界有数の結核患者を有する我國に於てはストレプトマイシンの国内生産は國民保健上極めて重要である。

織 維 800百万円

工事概要

合成レーヨン	合成纖維(ビニロン)日産10万製造設備	450
東洋レーヨン	合成纖維(アミラン)日産5万	150
大日本セルロイド	醋酸纖維日産5万	100
新日本産業	"	100
備考		

纖維原料中棉花及羊毛は何れも之を海外に依存してゐるが、合成纖維及醋酸纖維の原料は何れも国内資源であるからその増産は外貨の節約に寄与するものである。然し此の種新纖維工業は欧米諸國に於て著しい発達を示してをり、其の育成は我國産業政策上極めて重要な意義を有するものである。

陸 運 250百万円

工事概要

帝都高速度交通管団(東京地下鉄)

神田、池袋向板張工事

備考

250

3ヶ年計画概工事費40億。内初年度分が總円で自己調達分450百万円は主として交通債券の発行により賄ふ。本計画線の完成により環状線は比し巨費に於て約2哩、時間には於て左道約9分の削減となる。

本事業の遂行によつて首都に於ける甚だしい交通の緩和、都民活動能力の増進の他、都市対策事業として大きな効果を期待される。

観 光 200百万円

工事概要

ニユーオリエンタルホテル	(収容人員 90人)	40	百万円	(申請中)
志摩 観光ホテル	(" 60人)	30	(")	
名古屋国際観光ホテル	(" 150人)	40	(")	
大阪皇本布会館ホテル	(" 92人)	50	(")	
東京国際観光会館	(" 292人)	30		

東京スリージョンホテル (収容人員、34人) 10^{百万円}

備考

観光施設の現状は極めて不備であり、特に宿泊設備の不足は甚しい。本計画の実施は依り約800人分の宿泊設備を拡充し外貨の獲得に資する。

農林漁業 1,000百万円

工事概要

土地改良 (農業水利施設、耕地整理、干拓工事等約30千町歩)	650 (申請中 16)
農業用小水力発電所建設	73 (" 52)
猿田浦茶施設 (水産道に於ける猿田浦茶の島の施設建設費建設費)	77 (" 77)
造林事業 (造林面積約6千町)	100
水産物冷蔵設備建設	100

備考

現在多量の食糧を米国の援助に仰いでいる事情に鑑み、農林水産業の基礎があり又一般に長期且つ低利の資金を必要とする上記諸事業を実施し、生産増加並に費の造成活用を図る。

- (A) 土地改良事業； 灌漑排水工事，干拓，耕地整理等約30千町実施し，食糧約60千石の増産を図ると共に農業生産の安定並に生産の合理化を図る。
- (B) 農業用小水力発電所建設； 出力約1,500KWhを以て約1,54戸の農家は農業用並に電燈電力を供給し，農業経営の合理化を図る。
(我が国の無電力農家戸数は約200千戸と推定される)
- (C) 猿田浦茶事業； 水産道の未利用茶葉場を利用し，約30千石の魚獲増加を図り併せて漁民生活の安定に資する。
- (D) 造林 (約6千町歩)； 我が国の森林は今までの過伐の結果荒廃著しく森林資源は年々減少し，連年起る風水害の大きな原因を占めているから政府は今回には於て「造林臨時措置法」を制定し森林の恢復造成を図ることとし，本計画は民間森林に於て現在1,160千町と推定される要造林面積の一期に於いて造林を行ひ，約100百万石の森林蓄積の増加を図り併せて災害防止，水産漁業に資するものである。

196

(未) 水産物冷蔵設備建設； 我國漁獲高の予を占める北海道に於ては魚類を保管
処理する施設が乏しい爲、年々魚獲の増進は止むを得ず肥料飼料用
に何れり出ている。 今後我國の漁獲生産量の増加はあまり期待せざるに
状態にあるので、漁獲増進は水産物を有効適切に利用する爲めの基本設備か
ある冷凍及冷蔵設備を重要視するに建設し不足せる動物蛋白質資源の確保と
円滑なる需給とを固り併せて漁業団体の安定合理化に資する。

25 (9) 2-11-107

(別紙)

閣議決定
五、一六
大蔵省公債管理課

米田村日援助見返資金の私企業に対する貸付について

左記により米田村日援助見返資金より貸付けるものとし総司令部の許可あり次第許可金額を許可の條件に従ひ実行すること

単位 千円

部門 事業主体 事業設備の内容
石炭 小滝炭鉱株式会社 小滝炭鉱用炭
予定額見返資金貸付
二五、〇〇〇

化学薬品 北海道理研 〃 アルギン酸ソーダ製造設備
一五、〇〇〇

観光 株式会社 観光ホテル建設
三〇、〇〇〇
〃 株式会社 観光ホテル建設
二〇、〇〇〇
〃 株式会社 観光ホテル建設
二四、〇〇〇
〃 株式会社 観光ホテル建設
一八、〇〇〇

鉄鋼 日本鋼管株式会社 ブロック炉改修
四一、〇〇〇

化学肥料 昭和電工株式会社 硫酸製造設備
一七八、〇〇〇

農林 土地改良、灌漑用炭
川水力発電
一四五、九三五

日産後課のアイル

別紙

米國對日援助見込資金の私企業に付する貸付について

經濟安定本部の見込資金私企業投資計画に基づき、左記により米國對日援助見込資金より貸付けを認め、總司令部の許可あり、次ぎ許可金額を許可の條件に従い実行すること。

記

部門	事業主体	事業設備の内容	見込資金貸付予定額	備考
電力	日本電送電機	電送変電設備	一三八、二六、三五四	昭和二十五年度第一次申請分
〃	北海道電機	〃	一七六、六五〇	〃
〃	東北配電機	〃	二九、七三九	〃
〃	関東	〃	二四、〇〇〇	〃
〃	中部	〃	六一、〇〇〇	〃
〃	関西	〃	一〇三、一三四	〃

電力 中国配電機 電送変電設備 五五、六七〇 昭和二十五年第一次申請分

九州 〃 〃 〃 二八、一三五 〃

鉄鋼 (株)神戶製鋼所 厚板左端処理設備停電用予備機 四〇、七三二 昭和二十五年申請分

農林三組合 土地改良事業 一六、五六〇 昭和二十五年第二次申請分

昭和二十五年度見返資金公営事業費用計画案

25.5.17
経済安定本部 (単位:千円)

事業名	総事業費	25年度				26年度	27年度	25年度 公営事業 費千円
		予算	1/2半期	3/4半期	4/4半期			
(河川)								
鎌ヶ石堰堤	2,400,000	400,000	140,000	190,000	70,000	1,200,000	800,000	2000
勝沢堰堤	500,000	200,000	90,000	90,000	20,000	300,000	0	200,000
五十里堰堤	2,000,000	400,000	130,000	200,000	70,000	800,000	800,000	30,000
物部堰堤	1,700,000	200,000	50,000	80,000	70,000	800,000	700,000	0
江戸川	1,900,000	500,000	150,000	200,000	150,000	700,000	700,000	0
淀川	300,000	150,000	50,000	60,000	40,000	150,000	0	130,000
木曾川	300,000	150,000	50,000	60,000	40,000	150,000	0	57,000
最上川	400,000	200,000	80,000	90,000	30,000	200,000	0	175,000
合計	9,500,000	2,200,000	740,000	970,000	490,000	4,300,000	3,000,000	594,000
(以防)								
利根川本川	400,000	250,000	100,000	100,000	50,000	150,000	0	30,000
渡良瀬川	400,000	250,000	100,000	100,000	50,000	150,000	0	30,000
大甲山系	300,000	200,000	100,000	60,000	40,000	100,000	0	30,000
鬼怒川	200,000	100,000	50,000	30,000	20,000	100,000	0	0
合計	1,300,000	800,000	350,000	290,000	160,000	500,000	0	90,000
(農業水利)								
三本木	1,130,000	113,000	56,000	57,000	0	0	0	70,000
田沢	138,000	138,000	69,000	69,000	0	0	0	20,000
百河大吹	320,000	320,000	128,000	128,000	64,000	0	0	96,343
新利根川	331,000	210,000	70,000	70,000	70,000	12,000	0	62,000
商	500,000	500,000	167,000	167,000	166,000	100,000	0	115,000
印旛沼	400,000	400,000	133,000	133,000	134,000	0	0	105,000
九段毛川	300,000	250,000	63,000	125,000	62,000	50,000	0	62,000
野洲川	214,000	214,000	86,000	86,000	42,000	0	0	104,000
栗橋川	174,000	174,000	70,000	52,000	52,000	0	0	53,000
小坂部川	390,000	200,000	70,000	70,000	60,000	190,000	0	56,000

事業名	燃料費	事業費	2.5年度			26年度	27年度	25年度 公共事業 費千円
			内訳					
			1/2半期	2/2半期	物半期			
燃料	700,000	80,000	40,000	40,000	0	620,000	0	
番類川	870,000	100,000	30,000	30,000	40,000	790,000	0	
昭和中路	86,000	86,000	29,000	29,000	28,000	0	0	
合計	4656,000	2,785,000	1,011,000	1,058,000	718,000	1,871,000	0	
(千円)							788,343	
児島湾 (水産)	180,000	100,000	30,000	40,000	30,000	80,000	80,000	
三崎	100,000	70,000	15,000	25,000	30,000	30,000	0	
焼津	230,000	148,000	30,000	45,000	13,000	82,000	0	
長崎	125,000	82,000	15,000	22,000	25,000	63,000	0	
合計	455,000	280,000	60,000	92,000	128,000	175,000	0	
(道路)							(87,000) 34,800	
東海道整備	1,800,000	1,800,000	630,000	615,000	555,000	0	320,000	
長大橋梁	1,087,000	950,000	290,000	320,000	340,000	117,000	15,000	
中石狩川	70,000	70,000	20,000	20,000	30,000	0	3,000	
奈平橋	420,000	355,000	100,000	125,000	130,000	65,000	6,000	
四ノ木橋	362,000	310,000	100,000	100,000	110,000	52,000	0	
夢前橋	85,000	85,000	25,000	30,000	30,000	0	0	
大平橋	130,000	130,000	45,000	45,000	40,000	0	6,000	
関門国道遺留	1,500,000	400,000	100,000	150,000	150,000	500,000	90,000	
道路路線状	500,000	500,000	180,000	172,000	148,000	0	0	
合計	4,867,000	3,650,000	1,200,000	1,257,000	1,193,000	617,000	625,000 33,600	
(都市)								
広島	500,000	130,000	50,000	40,000	40,000	200,000	170,000	
長崎	200,000	70,000	30,000	20,000	20,000	100,000	30,000	
合計	700,000	200,000	80,000	60,000	60,000	300,000	200,000	
							(248,500) 179,000	
							(135,000) 90,000	
							(409,500) 249,000	

事業名、 (新、添採設)	総事業費	25年度				26年度	27年度	25年度 公費 千円
		34半期	5年度					
			34半期	34上旬	34下旬			
山 燈 台								
陸 中 尾 崎	13,940	13,940	9,540	4,400	0	0	0	0
生 地 地 鼻	10,610	10,610	5,000	5,610	0	0	0	0
八 丈 島	18,830	18,830	3,000	6,000	9,830	0	0	0
余 羽 崎	16,520	16,520	10,000	6,520	0	0	0	0
火 津 崎	14,500	14,500	0	3,740	10,760	0	0	0
地 蔵 崎	6,600	6,600	0	0	6,600	0	0	0
白 瀬 崎	3,940	3,940	2,000	1,940	0	0	0	0
湯 津 崎	8,590	8,590	6,000	2,590	0	0	0	0
沖 の 神 瀬	4,460	4,460	2,460	2,000	0	0	0	0
下 瀬	3,010	3,010	0	0	3,010	0	0	0
観 音 崎	9,200	9,200	0	5,200	4,000	0	0	0
磯 崎	3,800	3,800	0	0	3,800	0	0	0
(四) 蒸 餾 機 設								
八 丈 島	19,000	19,000	14,000	6,000	13,000	0	0	0
神 敷 岬	22,000	22,000	14,000	8,000	0	0	0	0
II 浮 橋								
瀬 戸 内 水 道 橋 設	180,000	180,000	60,000	60,000	60,000	0	0	0
合 計	335,000	335,000	112,000	112,000	111,000	0	0	0

番 案 名 (係安通船地位)	総重量	重量	25年度			26年度	27年度	28年度 公費 千円
			1/1	2/2	3/3			
系 船	11,248	11,248	11,248	0	0	0	-	
鹽 盆	1,854	1,854	0	0	1,854	0	7,841	
横 次	5,074	5,074	0	5,074	0	0	5,076	
名 占	5,279	5,299	2,712	0	2,587	0	7,383	
神 屋	6,240	6,240	2,757	0	3,483	0	10,188	
門 司	3,637	3,637	0	0	3,637	0	8,654	
鹿 司	5,882	5,882	5,882	0	0	0	4,531	
鹿 司	1,823	1,823	0	0	1,823	0	4,968	
新 司	1,833	1,833	0	0	1,833	0	3,283	
高 島	5,180	5,180	0	0	5,180	0	7,673	
高 島	3,553	3,553	0	0	3,553	0	3,911	
高 島	1,864	1,864	1,864	0	0	0	4,175	
小 船	3,162	3,162	0	0	3,162	0	3,817	
小 船	8,128	8,128	8,128	0	0	0	0	
大 船	5,206	5,206	0	0	5,206	0	9,505	
大 船	9,179	9,179	0	0	9,179	0	0	
大 船	9,457	9,457	9,457	0	0	0	0	
大 船	9,199	9,199	0	0	9,199	0	0	
大 船	2,749	2,749	2,749	0	0	0	0	
大 船	2,423	2,423	0	2,423	0	0	0	
引 船	5,145	5,145	5,145	0	0	0	0	
引 船	5,145	5,145	5,145	0	0	0	0	
合 計	150,000	150,000	49,942	49,362	50,696	0	81,005	

手 茶 名 (結核病院)	他手茶費	茶 重	25年度				26年度	27年度	25年度 公手茶 費子算
			内						
			1/2 半期	1/4 半期	1/4 半期	1/4 半期			
北海 海 邊	60,000	30,000	15,000	15,000	0	30,000			
青 森	30,000	30,000	10,000	20,000	0	0			
岩 手	50,000	30,000	0	10,000	20,000	0			
山 形	30,000	30,000	15,000	15,000	0	0			
秋 田	70,000	40,000	0	20,000	20,000	30,000			
新 潟	40,000	40,000	20,000	20,000	0	0			
坂 井	20,100	20,000	0	10,000	10,000	0			
滋 賀	20,000	0	0	0	0	20,000			
京 都	20,000	20,000	10,000	10,000	0	0			
大 阪	20,000	20,000	0	10,000	10,000	0			
和 歌 山	0	0	0	0	0	20,000			
鳥 取	20,000	20,000	10,000	10,000	0	0			
島 根	30,000	30,000	15,000	15,000	0	0			
香 川	30,000	30,000	0	10,000	20,000	0			
福 岡	20,000	20,000	0	0	20,000	0			
大 分	30,000	30,000	0	10,000	20,000	0			
宮 崎	30,000	30,000	15,000	15,000	0	0			
鹿 兒 島	20,000	20,000	0	0	20,000	0			
和 歌 山	20,000	20,000	10,000	10,000	0	0			
大 分	20,000	20,000	0	10,000	10,000	0			
大 分	30,000	0	0	0	0	30,000			
合 計	630,000	500,000	130,000	220,000	150,000	130,000			
總 計	22,773,000	11,000,000	3,762,902	4,146,362	3,090,096	7,973,000	3,800,000	2,362,166	

裏面白紙

昭和24年度見込資金融資状況一覧表

昭和二十五年五月二〇日

經濟部安定本部
經濟計畫室

72

5-24
2-7

504

石灰会社見返資金融資先額

(單位千円)

会社名	融資額	資金の使途	利率	返済日	償還期	償還の方法その他				
三井鉱山	941,000	三河海成南炭	389,900	7.5%	25.3.31	34.3.31	(1)元金 26年9月末5,000 4月、以後3月、9月末 日に次々5,900千円 支払う。 (2)利息 利拂期は毎年3月、 9月末			
		田川三斜坑南炭	120,000							
		田川運搬設備合理化	60,000							
		山野送炭設備	20,000							
		山野三坑煤船南炭	746,000							
		砂川一坑煤及望坑	46,000							
		芦刈送炭設備	90,000							
		芦刈三坑南炭	64,000							
		三榮鉱業	855,223	新潟	55,700	7.5%		25.3.28	34.3.31	(1)元金 昭26年27年04月 10月末日27,500千円 以後4,10月末日10 55,000千円 (2)利息 利拂期は4月、 10月末
				新潟県中野、望坑、穂積坑、 新瀬尾坑、湯田坑、蓮根坑設備	34,000					
高島望坑南炭	27,992									
高島深部南炭	23,007									
送炭設備強化	16,050									
計	156,749									
山形炭鉱	22,296									
古賀山炭鉱	51,307									
美田	177,593									
大夕張	98,681									
茶臼内	106,892									
油	51,805									
北越炭礦汽船	455,458	又張	29,400	7.5%	25.2.23	34.10.31	(1)元金 26年10月末日 23,458 27年以降4月10月 末に27,000 (2)利息 利拂期は毎年4月 10月末			
		奥部望坑南炭	58,000							
		北ノ郷煤坑機械化	60,360							
		平和 斗二斜坑南炭 機械化(0-9'-)	1,800							
		南田 送炭機	30,000							
		榎村 南部地区南炭	6,000							
		三回山坑南炭	24,450							
		機械化(0-9'-)	3,600							
		送炭機増強	12,000							
		新幌内 坑外運搬機械化 0-9'-	9,000							
空知 奥平坑深部南炭 送炭機	4,600									
清水沢炭電所	8,000									
14,500KW増強	1,800									
						206				

井里鐵業	170,000	東平 奉別 敷志村	95,000 48,000 27,000	7.5%	25,3,27	22,2,20	(1) 元金 昭27.2.14未2才一回 として32年延毎半二 末24,000を2才11 期償還26,000を債 還了す (2) 利息 毎半、2月末日
台河鐵業	148,000	大峰鐵礦石方坑附設工事 漆田坑附設工事 峰地坑送炭設備 好向坑送炭才三堅坑附設工事 排水設備 送炭設備	23,000 28,000 14,000 50,000 20,000 14,000	7.5%	25,3,10	22,2,20	(1) 元金 毎半3月、9月末2才 500027年6000 28年7000 29年 8000、30年9000 31年10,000 (2) 利息 利払期は毎年3月 9月末
明治鐵業	176,000	立山 水洗設備 上野別 運炭設備 西井 水洗設備 堅坑附設 炭路 水洗設備 末池 送炭設備	22,000 36,000 28,000 10,000 15,000 16,500 20,000 29,000	7.5%	25,3,20	24,9,30	(1) 元金 昭26年、2月5月8 月11日末日 4000千円、以右34年 8月末延毎半2,5 8、11月末5000千円 (2) 利息 利払期は毎半2,5 8、11月末日とす
常盤炭鐵	100,000	鹿島坑送炭才 盤崎地	52,000 48,000	7.5%	25,3,25	22,1,31	(1) 元金 昭26年7月、11、31 年7月延毎半7月、7月 に8,500千円 (2) 利息 利払期は毎年7月、 7月末日
宇都興産	100,000	沖、山 復旧 東尾初 増設	60,000 40,000	7.5%	25,3,17	24,3,31	(1) 元金 昭26年9月末延毎 一回として毎年3月、9月 末日に6,250千円償 還 (2) 利息 利払期は毎年3月 9月末日の年二回 とす

貝島炭砒	181,000	大々浦炭砒東部開墾工事 東部送炭設備暫設	100,000 51,000	7.5%	25,327	34,231	(1) 元金 昭26年9月10日 付、以後3月9日 に10,000円
雄判炭砒	75,000	雄判 運搬設備 送炭 計	6,000 9,000 15,000	7.5%	25,330	31,231	(1) 元金 昭26年9月2日一 回に10,000円、9月末日 に7,500円清算
麻生炭砒	80,000	炭砒 運搬設備 送炭設備 炭砒 硬拾 計	47,000 13,000 32,000 7,800 20,200 28,000	7.5%	25,225	31,229	(1) 元金 昭25年5月2日一 回に10,000円、昭27年2月2日送 還年2月5日、8月、11 月末日に1,500円用 院、以後毎年2月5日 8月、11月末日に2,500 円清算
蘆花炭砒	32,000	上蘆花炭砒炭砒 大々浦水洗機	29,000 3,000	7.5%	25,223	30,131	(1) 元金 昭26年4月2日一 回に10,000円、昭27年7月、7月 10月に2,000円用 (2) 利息 利息相付、7月、8月、 7月、10月、
井島炭砒	58,000	井島、 運搬送炭設備 北 方 輸 送 機 運搬 機	48,000 9,000 1,000	7.5%	25,318	30,131	(1) 元金 昭25年4月、10月、 25,10 4,000円 27 4,000 4 28 4,500 4 29 4,500 4 30 4,500 4 (2) 利息 4月、10月、昭25年、昭26年、
太平洋炭砒	81,000 120,000	釧路炭砒所 洋坑復元 桂太坑開墾工事		7.5%	24,122	30,113	(1) 元金 昭26年2月、5月、8月 17月、6,000円、昭27年 昭28年2月、5月、8月 11月に8,750 (2) 利息 利息相付、毎年2.5、 8.11) 各月末

大正鐵業	40,000	新一坑新二坑南港 防 水 工 事 硬 捨 工 事	20,000 5,000 15,000	7.5%	25,315	33,331	(1) 元金 昭26年5月、5月、 27年2月、2000、14 后32年2月、5月、 5月、11月、15,000千 円 (2) 利息 利払2月、5月、8月、 11月
松島炭礦	62,000 38,400	大島鐵業所、才一坑、才二坑 林 林 化		7.5%	25,125 25,224	32,430 32,430	(1) 元金 毎年10月に支払う、 才一回25年10月、15 330万円、以後270 万円、年済。 (2) 利息 利払毎年4月、10月 9 = 回払。
松浦炭礦	11,000	本坑南港工事 運搬設備工事	4,000 7,000	7.5%	25,416	31,930	(1) 元金 昭26年3月、9月 500万円、27年~ 31年3月、9月に 100万円。 (2) 利息 3月、9月、年二回
早良鐵業	23,000	送炭設備拡張 種 込	15,000 8,000	7.5%	25,239	33,130	(1) 元金 昭26年5月、11 月の各末日、1,000 万円、29年6月31日 5月、11月、1,500、 32年3月に2,000 (2) 利息 利払は毎年5月、11月、
日笠鐵業	23,700	才一水平坑遺留製工事 才三坑南港 送炭設備 炭車購入 炭炭有城	1,000 13,000 2,000 5,400 2,300	7.5%	25,445	32,130	(1) 元金 昭26年6月30年迄 5月、11月に1,500 万円、昭27年5月、11 月に2,000、32年5 月、11月、2,350 (2) 利息 5月、11月の2回払
小倉炭礦	14,000	50号バーン水洗設備	14,000	7.5%	25,445	30,330	(1) 元金 昭26年6月29 年迄3月末日に 2,800 (2) 利息 利払期は29年 迄は毎年3月、6月、 9月、12月の末日、 30年においては 3月30日とす。

大正鐵業所	20,000	精選設備	20,000	7.5%	25.4.6	30.11.30	(1)元金 昭和25年1月1日20000 24年5月1日15500 14年5月1日10000 1075年. 諸 (2)利息 利払期は5.11.17月 の年之圖とす.
長崎鐵業	21,000 37,000 11,000	積込及び水洗設備 全上 全上		7.5% 7.5% 7.5%	24.12.19 24.12.23 25.2.25	34.3.31 34.3.31 34.3.31	(1)元金 毎年1月4月. 7月 11月の4回払. (2)利息 利払期は毎年7.4. 7.11.各月の4回払.
羽幌炭礦	34,510 11,490	築別鐵業所用炭 送炭設備 卸堀削炭工事 索道 送炭設備 計	第一回 2768 282 3402 246 9500 5000 12840 4960 8000 1000 34,510 11,490	7.5% 7.5%	25.2.7 25.3.24	30.3.31 30.3.31	(1)元金 毎年3.9.月未の間回 (2)利息 利払期は毎年3.9月 の2回
大浜炭礦	16,000	大浜炭礦 深部開採 水洗設備	13,000 3,000	7.5%	25.3.27	31.3.31	(1)元金 昭和26年3月より30年 12月未の間5.6.9.12 月に750. 期限15000支取、 (2)利息 利払期は3.6.9 12月未日の毎々回
日清鐵業	10,000	新庄鐵業所の運搬設備		7.5%	25.3.9	30.9.30	(1)元金 昭和25年9月より28 年3月迄500 兆 28年9.29年3月. 9月. 1000 兆. 30年3.9月に各 2000 (2)利息 利払期は3月.9月未日
日本炭礦	177,000	高松炭礦 三笠炭礦 相浦炭礦 高松炭礦 三笠炭礦 相浦炭礦 高松炭礦 三笠炭礦 相浦炭礦	70,000 24,000 24,000 70,000 24,000 24,000 70,000 24,000 24,000	7.5%	25.4.6	31.3.31	(1)元金 昭和26年9月未日 10000. 14年毎 9月未日 100000 年. 諸. (2)利息 利払期は3月.9月 未とす.

鉄鋼会社見返資金融資先調

(単位千円)

会社名	融資額	資金の使途	利率	貸付日	償還期限	償還の方法その他	
日本钢管	360,364	川崎製鉄所				元金 0825.5末日 10,364.4月 11.9 10,000 0828.5.9 10,000千円以上 11.9 10,000 0827.5.9 10,000 11.9 10,000 償還毎年5月17日 末日20,000千円以上	
		才田高炉復旧工事 製鉄設備、炉体廻り	1,992.9	0.075	25.1.26		25.5.31
		熱風炉	3,123				
		化工関係、才-ル、才-ル回成工場	11,677				
		才-北工場	10,473				
		才-北工場	9,189				
		才-才X才-ル工場	5,014				
		才-才安工場	99,367				
		才-ル蒸溜工場	25,279				
		製成設備、微炭炉	16,825				
		運輸関係、構内用特殊車輛	8,250				
		十石ヒ-3-1577購入	8,600				
		その他 電力(変電室補修)	15,704				
		動力(ボイラ-室補修)	2,530				
		管橋(軌道補修)	51,205				
		製鋼関係、混鉄炉及転炉	26,526				
		生産設備工事、製鋼関係、荷役設備	3,000				
		運輸関係、建設車、クレーン、一輛入	1,373				
		構内冷熱車	22,73				
		蒸気汽機車	3,245				
製鋼関係、発生炉、排水設備	11,100						
才-才X才-ボイラ-	9,851						
才-の 地盤以下対策工事	4,428						
新設工事 化工関係、才-才、製造工事	6,113						
生産設備工事、製鋼関係、才-才、才-才	320						
製鋼関係、才-才、才-才							
八幡製鉄	460,289	河内才-才、製鉄炉修繕	174,000	0.075	25.2.27	22.9.31	元金 25.9.末、26.2.8.4月 末、26.3.末、9月末 27.3.末、28.0.00 千円以上、28.4.末、後 毎年3.末、9.末、35,000 以上支給
		鉄造石、破砕設備改良	5,000				
		才-才、製鉄炉、才-才、才-才	10,000				
		才-才、才-才、才-才	1,800				

805

<p>豊士製鉄</p> <p>596,652</p>	<p>20,800</p> <p>4,339</p> <p>8,400</p> <p>33,000</p> <p>11,500</p> <p>11,000</p> <p>150,000</p> <p>1,450</p> <p>15,000</p> <p>15,000</p>	<p>25%</p> <p>25.2,17</p> <p>25,2,31</p> <p>(1)元金</p> <p>25年9月末</p> <p>4,652,4円</p> <p>26年3月末に</p> <p>6,000,4円以上</p> <p>9月決算27年3月末</p> <p>1-各14,000,4円以上</p> <p>27年9月28日3日</p> <p>20,000,4円以上</p> <p>28年9月29日30日</p> <p>29年9月30日</p> <p>30年9月31日</p> <p>31年9月31日</p> <p>32年9月31日</p> <p>(2)利息</p> <p>利息額3月9月末</p>
<p>豊田クレーン工場設備</p> <p>酒滑津田時生設備</p> <p>低圧汽缶場即炭番取管</p> <p>戸畑送風汽缶場移設</p> <p>洞田送風汽缶場</p> <p>給水軟化設備増設</p> <p>送電川水源地550KW</p> <p>電動ポンプ購入</p> <p>西田港電所</p> <p>80t/分汽缶増設</p> <p>電質汽缶車 購入</p> <p>貨車 購入 30台</p> <p>30t在 蒸質汽缶車購入</p>	<p>164,256</p> <p>17,570</p> <p>50,000</p> <p>80,231</p> <p>10,500</p> <p>3,330</p> <p>2,625</p> <p>小計</p> <p>164,256</p> <p>101,989</p> <p>27,200</p> <p>3,650</p> <p>23,500</p> <p>5,200</p> <p>14,000</p> <p>7,000</p> <p>77,461</p> <p>260,000</p> <p>24,879</p> <p>12,331</p> <p>16,356</p> <p>57,671</p>	<p>輪曲製鉄所</p> <p>コ-311粉砕装置一式</p> <p>付町1別コ-72炒取機</p> <p>付町3別コ-72炒取機</p> <p>塩枝工場用ガス電炉設一式</p> <p>屑鉄グレーン移設</p> <p>中央発電所コ-72式</p> <p>自動給水加減装置</p> <p>釜石製鉄所</p> <p>釜石コ-72炒取機</p> <p>才二製鋼工場機旧</p> <p>才二製鋼余額ボイラ-</p> <p>才一火力発電所機械修理</p> <p>才二火力発電所修理</p> <p>北城橋5号プロ-ダ増設</p> <p>軌道改良</p> <p>塩板工場移設</p> <p>小計</p> <p>広畑製鉄所</p> <p>製鉄設備</p> <p>コ-72製送設備</p> <p>副産物搬送設備</p> <p>製鋼設備</p>

鋼材製造設備	23,780				
動力設備	7,862				
給排水設備	4,145				
輸送設備	25,872				
小計	172,396				
総計	596,652				

(8)

化学肥料会社見返資金融資丸

(単位千円)

会社名	融資額	貸付の用途	利率	貸付日	償還期	償還の方法、その他
三池合成	50,000	三池工場コ-7大改修 (藤岡大車田中)	25%	25.2.22	25.4.30	(1)元金 25.10.30日付500 年々日返毎年4 月末0月末5,000 千円迄償還 (2)利息 支払期5月末、 10月末
三池合成	50,000	〃	〃	25.1.27	25.4.30	〃
別府化学	60,000	第五一基新設	〃	25.2.15	25.12.30	(1)元金 25.9.30日付50000 4月以上、爾後毎年3月 末9月末に5500千円 以上償還 (2)利息 支払期3月末9月末
日本水業工業	40,000	灯入圧縮機及灯入精製装置 増設工事	〃	25.2.17	25.3.31	(1)元金 据原期向25.3.30 満了後 26.3.30日付5000 千円以上、爾後毎年3月 末9月末に3700千円 以上 (2)利息 支払期毎年3月末 9月末
東北肥料	48,000	銅液硫酸装置新設 高圧ホ-1一基増設工事	〃	25.2.18	25.9.30	(1)元金 25.9.30日付28,500日 付5000千円以上、爾後 毎年3月末9月末6000 千円以上 (2)利息 支払期3月、9月末日
東海硫安	36,500	電解硫酸装置増設備21000吨 増設工事中 水電解及変流装置増設工事	〃	25.2.22	25.9.30	(1)元金 26.10.31日付一圓 増設4月末、10月末に 4500千円以上 (2)利息 支払期4月末、10月末

化学薬品会社見返資金融資光額

(10)

(単位千円)

会社名	融資額	資金の便達	利率	貸付日	償還期限	償還の方法その他
日本磁業	300,000	(日立製煉所) 押越回収磁鉄製造 設備資金 (佐賀製煉所) 104,600	7.5%	25.2.14	33.2.31	(1)元金 27.9月末を一回 とし29年3月迄 3月9月末日に 15,000千円 29.9月より32.3 月迄毎年3.9月末に 30,000千円 32年9月末及33年 3月末に各 34,000千円 償還 (2)利息 利率は3月9月末日

配電会社見返資金融資先調

(單位千円)

会社名	融資額	利率	付日	償還期限	償還の方法その他
(新)日本窒素肥料	170,000	7.5%	24.9.29	26.12.31	(1)元金 26.12.31日迄に金額を随時償還する。 (2)利息 利払期 3月末、9月末
(新)日本窒素肥料	430,000		24.12.2	26.12.31	(1) (2)
日本発送電	1,480,000 1,794,072 354,001 1,500,000 1,013,789 1,762,349		24.12.16 24.12.31 25.2.21 25.3.14 25.3.27	25.3.31	(1)元金 据置期間30年、3月31日 据置期間満了後毎年3月末 9月末に29,600,000円迄 35,687,440円 7,080,000円 30,000,000円 20,275,780円 35,246,980円 (2)利息 利払期 3月末、8月末、9月 末、12月末、3月末
北陸配電	84,000		25.2.16	25.3.31	(1)元金 据置期間28.3.30 据置期間満了後28.3.31日迄 400,000円償還 毎年3月末、9月末日迄 7,500,000円償還 (2)利息 利払期 3月末、9月末
北海道配電	186,850		25.2.22	25.3.31	(1)元金 据置期間28.3.30 据置期間満了後28.3.31日迄 2,050,000円 5年後毎年3月末、9月末日迄 4,200,000円 (2)利息 利払期 3月末、9月末
東北配電	283,000		25.3.10	25.3.31	(1)元金 据置期間26.3.30 据置期間満了後26.3.31日迄 1,800,000円 5年後毎年3月末、9月末日迄 7,400,000円 (2)利息 利払期 3月末、9月末

中国配電	100,230	7.5%	25,3,15	45,3,31	(1)元金 据置期前26,3,30 26,3,31日付 1,450,000円 末後3月末,9月末に 2,600,000円 (2)利息 利払期, 3月末,9月末
関東配電	448,250	"	25,3,18	44,9,30	(1)元金 据置期前26,3,30 26,3,31日付 4,250,000円 末後毎年3月末日,9月末日付 12,000,000円 (2)利息 利払期, 3月末,9月末
中部配電	203,000	"	25,3,18	45,3,31	(1)元金 据置期前26,3,30 26,3,31日付 1,600,000円 末後毎年3月末日,9月末日付 5,300,000円 (2)利息 利払期, 3月末,9月末
関西配電	375,690	"	25,3,22	44,9,30	(1)元金 据置期前26,3,30日迄 26,3,31日付 1,250,000,000円 末後毎年3月末日,9月末日付 10,000,000円 (2)利息 利払期, 3月末,9月末
四国配電	103,922	"	25,3,24	44,9,30	(1)元金 据置期前26,3,30 26,3,31日付 322,000円 末後毎年3月末,9月末日付 2,800,000円 (2)利息 利払期, 3月末,9月末
九州配電	904,900	"	25,3,24	44,9,30	(1)元金 据置期前26,3,30 26,3,31日付 4,000,000円 末後3月末,9月末日付 2,800,000円 (2)利息 利払期, 3月末,9月末

(12)

25-①
2-11-70

見込資金私企業投資計画

司令部との格闘。経過について (オ三)

一、電力、海運に対する保留方針三億円

(二五、五、二六、会見)
ワイリツがスル

右は電力、海運、電力については優先的に考へるが海運も特

造船につき種々の問題があり、電力につきは電力料金

及び賃銀等の問題もあり、この中から電力、海運以外の

事業に対する支出も考慮される

よその保留は電力、海運に限定しおの保留とする。

経済安定本部

二、捕鯨船もこの中に含む 但し解除は審査の結果による

三、その他産業四三億円

八右は電力、海運と並ぶ枠と考へてゐる

二、計画についてはコミット出来ない。ケースバイケースの審査

査により決定する。年間計画を作つても情勢が異なる

ではふいか。

三、計画は日本側で決めてそれに基づき日本側がレズメ

ドすることは差支ない

三、金融機関の優先株六〇億円

人農中ハツソはその内容上からなる検討中

又その予備八億円は証券対策がふく、金融機関の増資

ハツソの予備を考えている

四、兩建安定費中の九六億円の内容

ニハ〇億円のうちCIEニ億円、粉ミルク一三億五千万

円、連合口人住宅八〇億円(内差当り五六億円ニ〇〇〇戸

の予定、その予備二〇億円) 合計九六億円として

経済安定本部

渉外局から発表にしようとする

1914



以資整理

援助資金運用狀況（五月中）

（昭和二十五年五月三十一日
資金局資金課）

目次

一 概況	頁
二 私企業貸付狀況	四
(一) 大企業貸付	四
(二) 中小企業貸付	四
三 金融機關株式引受	八
四 大企業貸付申請處理狀況	九

50

25
5.31
2-7

援助資金運用状況（五月中）

一、概況

五月中の援助資金受払状況をみると、収入面では月次援助物資等処理特別会計からの繰入一三六九七百万円の外、運用利殖金収入（公私企業貸付金利息食糧証券運用益等収入）一一〇百万円、運用資金回収（私企業貸付元金回収）一百万円を加え合計二九件一三八一九百万円に上つたのに対し、支出面では私企業貸付一五五件三二一百万円（大企業貸付二件一三一百万円、中小企業貸付一五三件一八九百万円）、金融機関株式引受二件一五〇百万円、教育情報事業交付金一件一百万円、合計一五八件一八二二百万円があつたため、差引余裕金は月中一〇九九六百万円を増加して月末現在三〇、二七四百万円となつた。

この余裕金の運用内訳は食糧証券運用残高三〇、一三百万円（繰面三〇、三〇〇百万円）、援助資金預金残高一六一百万円である。（なおこの外に私企業貸付利息の利

払延期による元加分一〇七百万円ある。

区	分	件数	廿五年決算計	五	月	中	備	考
前年度剰余金繰入		二	一五、二五八					
損引物等繰入		二	一九、五八四					
特別会計から繰入			一、八八九					
運用利益金		二	一、五〇七					
公企業貸付金利息		一	七〇					
私企業貸付金利息		一	四二					
食糧証券運用益		七	七七					
国債証券利息								
運用資金回収		二	一一					
公企業運用資金回収		二	一一					
私企業運用資金回収								
台	計		三五、〇四二					
公企業支出			一、一〇九					
電通特別会計へ繰入			〇					
国有林野特別会計へ繰入			〇					
日本国有鉄道								
大企業二〇件								
中小企業二件								
日本郵政								
日本郵船								

(単位百万円)

区	分	件数	廿五年決算計	五	月	中	備	考
日本国有鉄道交付金			〇					
住宅金融公庫交付金			〇					
公天幸業			〇					
私企業貸付金			三、一六八					
大企業			三、一六八					
中小企業			〇					
森林漁業			二、〇〇七					
金融機関株式引受			二、〇〇七					
債権償還費			七〇					
連合国軍人等			二、五〇〇					
住宅公社貸付			〇					
教育情報事業			一、六〇〇					
台	計		四、七六九					
余裕金			一、〇九六					
食糧証券運用残高			一、〇九六					
〔類番〕			一、〇九六					
運用資金預金残高			一、〇九六					
日本国有鉄道								
大企業								
中小企業								
森林漁業								
金融機関株式引受								
債権償還費								
連合国軍人等								
住宅公社貸付								
教育情報事業								
台	計							
余裕金								
食糧証券運用残高								
〔類番〕								
運用資金預金残高								

(注) 運用利益金並びに私企業貸付金両欄の括弧内は利益延期による元加分を示し、実際の受払には関係なきため外書にした。

二 私企業貸付状況

(一) 大企業貸付

五月中に於ける大企業の貸付状況は次の通りである。

(単位百万円)

業種	会社名	司令部承認		貸付実行		資金の使途
		日時	金額	日時	金額	
海運	澤山汽船	十六日	四三	二十日	四三	第五次新造船計画に基く貨物船一隻建造費中使水拂分 三丁型散積船二隻はん見改造費中使工拂分
	乾汽船	二十三日	八八	二十九日	八八	

即ち、本月は廿五年設計画分として最初に司令部から承認を受け、海運二件一三
一百万円の貸付を実行したに過ぎない。貸付案件は既往のものと若く同様であるが
只、期限は澤山汽船十五年、乾汽船十年となつてゐる。

(二) 中小企業貸付

五月中の貸付申込の受理は、一九八件二三一百万円に上り、これに前月からの繰
割分二六七件三三一百万円を加え未処理分は四六五件五六三百万円之多額となつた

内二

が、この中承認したものは九四件一三二百万円、取下三〇件三六百万円で差引三〇
一件四〇五百万円が未処理として翌月へ繰越された。

一方貸付実行額は右承認額の外、前月承認未実行分を含め一五三件一八九百万円
に上り、第一四半期貸付実行累計は一七九件二二〇百万円となり、三〇〇百万円の
枠に対し、八〇百万円の余裕を残して越月した。

之を業種別にみると、次の通り重要基礎産業の関連産業が首位を占め、輸産
業がこれに次いでゐる。

業種	五月中		第一四半期承認累計額		当初よりの承認累計額	
	件数	百万円	件数	百万円	件数	百万円
輸産業	三一	四〇	六六	八二	一一	二〇
重要基礎産業の関連産業	四六	六〇	八一	一〇一	一八	二四
前産産業	一七	二〇	三二	三六	七七	九二
生必物資産業	九	一一	一九	二二	二一	二五
計	九四	一三一	一七九	二二〇	二二	五二

五

(2) 次に担当店別にみると、本店(四六件)が第一位を占め、大阪(二二件)、名古屋(一四件)がこれに次いでいる。主なるものを挙げると次の通りである。

本店	大阪	名古屋	神戸	前橋	静岡	金沢	秋田	京都
四六件	二二	一四	七	七	五	六	五	五
五四 百万円	二八	一六	九	九	五	五	七	七
一三二 件	四三	三三	二一	一七	一七	一五	一三	一三
一五〇 百万円	五七	三九	二七	二四	一九	一六	一六	一五

(3) 又取扱銀行別にみると、富士(一二件)、大阪(一一件)に次いで大和(九件)、神戸(八件)、東海(七件)等案外大銀行筋が目立っている。主なるものを挙げると次の通りである。

福 田	七	九	一一	一五
-----	---	---	----	----

富士銀行	大和銀行	大阪銀行	神戸銀行	東海銀行	横浜正金銀行	三和銀行	北国銀行	青島銀行	日本興業銀行
一二	九	一一	八	七	七	六	五	六	五
一六 百万円	一〇	一四	一〇	五	六	八	五	七	五
三七 件	二八	二四	二〇	一八	一六	一四	一三	一二	一二
四六 百万円	三六	二九	二七	一九	一七	一九	一四	一六	一四

三、金融機関株式引受

五月中の金融機関増資優先株式（出資）の引受は次の通り、日本勧業銀行一、〇〇〇百万円、商工組合中央金庫五〇〇百万円計一、五〇〇百万円が夫々実施され、なお月中承認を受けた北海道拓殖銀行七〇〇百万円は六月一日実行の予定である。

	発行価額	発行株（已）数
日本勧業銀行	一株 五〇円	二〇、〇〇〇千株
商工組合中央金庫	一口 一〇〇円	五、〇〇〇千口

右により債券発行余力は次の通り約銀三七七億円、商工中金一八三億円となり、夫々六月から発行の予定である。

（単位百万円）

商工中金	新 銀	旧 銀	計	債券発行限度	既發債残高	預金残高	債券発行余力
五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、二八六	六五、七二〇	三、九七六	二四、〇三九	三七、七〇五
五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五	一、六〇〇	一八、三五一

四、大企業貸付申請処理状況

大企業貸付申請の処理状況をみると次の通りである。

大企業貸付申請処理状況

(単位百万円)

業種	受理		本行審査済		大蔵省審査済		司令部承認		貸付実行	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
電気	七	一四、二〇八	三	二九、九九	三	二六、五	二	一三、三	二	三、一
海運	三	一四、四二二	二	二九、九	三	二六、五	二	一三、三	二	三、一
新造船	二	三、九一	二	二、七八	二	二、六五	二	一、三	二	三、一
改造船	二	三、〇一	一	二、二	一	一、七	一	一、三	一	一、三
その他	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八	一	八、八
石炭	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八	一	八、八
金鉱山	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八
鉄鋼	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八
化学肥料	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八
化学薬品	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八

業種	受理		本行審査済		大蔵省審査済		司令部承認		貸付実行	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
電気	七	一四、二〇八	三	二九、九九	三	二六、五	二	一三、三	二	三、一
海運	三	一四、四二二	二	二九、九	三	二六、五	二	一三、三	二	三、一
新造船	二	三、九一	二	二、七八	二	二、六五	二	一、三	二	三、一
改造船	二	三、〇一	一	二、二	一	一、七	一	一、三	一	一、三
その他	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八	一	八、八
石炭	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八	一	八、八
金鉱山	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八
鉄鋼	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八
化学肥料	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八
化学薬品	一	二、五〇	一	八、九	一	八、九	一	八、八	一	八、八

備考 ① 右の外に廿四年度計画による分で廿五年度に入り承認貸付実行されたものに石炭鉱業五件、二四五百万円、炭業一四七件七〇百万円がある。

受理状況

私企業からの申請受理は私企業運用計画の決定と相俟つて漸次増加しつつあり、月中電気業七件一四、二〇八百万円、海運業三件三九、一百万円、石炭鉱業一件二五〇百万円、合計一四、八四九百万円に上り、月末累計は一四件、

一五、一九六百万円となつた。

大企業貸付申請受理状況（五月中）

（単位：百万円）

業種	申請者	受付日	金額	資金の使途
電 気	東北配電	二日	二九	送電線路設備新設改良工事 資金（経費分）
	中国配電	四日	五五	
	中部配電	十日	六一	
	九州配電	十九日	二八	
	日本発送電	二十九日	一三、八二六	
海 運	北海道配電		一七六	丁上型船舶。外資造船資金
	四国配電		三一	
	飯野海運	二日	八九	

石 炭	明治鉱業	二十九日	二五〇	第五次新設船舶建造資金 第五次新設貨物船建造資金 第五次新設貨物船建造資金 飯野海運及新設船舶資金
	三菱海運	三十一日	二一三	第五次新設船舶建造資金 第五次新設貨物船建造資金 第五次新設貨物船建造資金
	日本海汽船		八七	

（一） 受理状況

右の中本行の審査を了したものは、電気業三件二九九百万円、海運業三件二二二百万円、合計六件五二一百万円であり、更に大蔵省の審査を了したものは前述の司令部承認二件一三一百万円の外は海運業一件八九百万円（飯野海運）のみであり、他は未だ審査中である。

以上



外
四

25B
25A

振助券
第二十回中小企業貸付明細表

6/20 30印 (1.4)
25.4.26.
(21.7.26)

承貸日 昭和二十五年四月二十六日
貸付実行日 五月 四日

資金局 21.1.4

承認 番号	担当店	貸付先	貸付金 (千円)	残高 (千円)	業種	用途	貸付 金額	資金 用途	期 間	取組銀行			
										銀行名	貸付 金額	返済 期日	
269	本店	大 啓 堂	2000	45	輸出	紙製品製造加工業	1500	買取設備増設	2年7月	富士中央支	1500	25.6.1	1年2月
270	秋田	兵島木成製紙(株)	500	35	重同	紙漿、木成製紙業	1350	木成製紙設備増設	4年1月	秋田本店	1350	25.2.1	2年2月
271	福岡	九州紙業(株)	2000	28	"	紙製品製造業	1500	紙製品製造設備増設	3年1月	福岡本店	1500	3次	1年4月
272	札幌	藤屋製工業	180	155	"	機械器具工業	1500	工場の改修増設	4年7月	札幌花壇支	1500	25.8.1	3年7月
273	新潟	明達金属(株)	1500	110	輸出	鋼材、鉄鋼業	1500	鋼材、鉄鋼設備増設	2年7月	新潟支	1500	3次	1年6月
274	静岡	兩生文具(株)	1000	40	"	文具製造業	500	輸出向設備増設	1年7月	東海清水支	500	25.8.1	1年7月
275	大阪	山中化学工業(株)	2000	26	重同	化学製品製造業	750	活版印刷設備増設	1年7月	神戸通商支	750	25.8.1	1年2月
276	鹿児島	尾道製鉄(株)	1200	79	"	鉄 道 業	1300	鐵道設備増設	3年1月	福岡尾道支	1300	25.3.1	1年2月
277	本店	第一合成化学工業(株)	1190	16	輸出	合成樹脂製造業	1500	合成樹脂製造設備増設	2年7月	東京西葛西支	1500	3次	1年5月
278	新潟	平越輸出製田工業(株)	700	40	"	輸出向設備製造業	600	設備設備増設	4年1月	北越新潟支	600	25.8.1	2年2月
279	前橋	橋本製鋼工業(株)	2000	68	"	個人鋼鐵物業	1500	打鐵設備増設	3年1月	群馬前橋支	1500	25.8.1	1年10月
280	鹿児島	岸本製鋼(株)	1000	50	"	製 鋼 業	1500	設備設備増設	3年1月	福岡神戶支	1500	25.8.1	1年4月
281	大阪	大阪製鋼(株)	500	42	"	各種鋼材製造業	1100	鋼材製造設備増設	2年1月	新田八尾支	1100	25.7.1	1年7月
282	名古屋	水野貿易(株)	1000	49	"	輸出向設備製造業	1500	輸出用電機設備増設	2年7月	神戶名西支	1500	25.8.1	1年8月
283	静岡	重三織造(株)	2000	80	"	輸出向設備製造業	1500	輸出用設備増設	3年1月	東海清水支	1500	25.8.1	1年10月
284	本店	大貫織造(株)	2000	34	重同	織物製造業	1000	織物製造設備増設	2年1月	福岡熊本支	1000	3次	1年2月
285	本店	(株)藤谷製作所	500	60	"	機械器具工業	1500	機械製造設備増設	3年1月	八王子支	1500	25.8.1	2年8月

(1)

水産番号	担当者	貸付先	貸付金 (千円)	業種 (5)	業種 (6)	業種 (7)	貸付 金額	資金使途・期間	取扱銀行				
									銀行名	貸付額	利率(%)	期間	
286	大阪	三和金属工業(株)	2,000	83	重肉	銅鋼管製造業	1,500	相模川橋補修増設	3年7ヶ月	大 阪上町支	1,500	2支7%	2年2月
287	前橋	昭和織物(株)	2,000	32	輸出	絹人絹織物業	1,500	刀織機増設	4年7ヶ月	群馬大 伊勢崎支	1,500	2支6%	2年8月
288	本店	新和機械工業(株)	1,500	80	重肉	土不鉸山機械製造業	1,000	工不鉸機製造設備改良	4年7ヶ月	大 和川崎支	1,000	3支	1年2月
289	・	南武機械製作所	150	52	・	化学機械製造業	400	肥料用化学機械補修改良	2年1ヶ月	大 和川崎支	400	"	1年2月
290	松本	東京特殊電線(株)	3,000	156	・	電線電纜製造業	1,500	特殊電線製造設備増設	3年1ヶ月	八十二丸子支	1,500	2支6%	1年8月
291	札幌	日本オブラート(株)	1,000	20	輸出	オブラート製造業	1,350	オブラート製造設備増設	4年7ヶ月	北海道北 旭川支	1,350	3支2%	2年8月
292	鹿児島	日産製作所	2,000	21	重肉	鉄鋼二次製品製造業	1,500	鉄釘設備増設	1年7ヶ月	鹿児島大 本店	1,500	3支3%	1年2月
293	秋田	山形産油化学工業(株)	2,500	18	庄必	油脂搾油機械加工業	1,500	精製設備増設	4年7ヶ月	庄 内本店	1,500	2支6%	4年8月
294	金沢	新本織物(株)	500	14	輸出	織物業	500	絹織物製造設備補修改良	3年7ヶ月	北 國根上支	500	2支7%	2年
295	・	五十嵐食肉加工(株)	1,000	21	庄必	ハムソーセージ製造業	400	食肉冷蔵設備補修改良	1年7ヶ月	北 陸足利支	400	2支6%	1年1月
296	本店	相 印 刷(株)	950	85	・	印刷業	1,500	オフセット印刷設備増設	2年7ヶ月	富 士江州支	1,500	3支	1年3月
297	松本	大明化学工業(株)	1,000	38	重肉	水酸化PLiニユム並に硫酸PLiニユム製造業	500	水酸化PLiニユム乾燥設備改良	4年1ヶ月	八十二 伊那支	500	2支6%	1年1月
298	本店	東京717-製作所	1,500	53	・	特殊合金電線製造業	1,000	電線製造設備増設	3年7ヶ月	日本大 本店	1,000	3支2%	1年6月
299	門司	(株)高谷鉄工所	3,000	152	"	鑄造鉄工業	1,500	特殊鋼製造設備改良	2年7ヶ月	千代田 戸畑支	1,500	2支8%	1年2月
300	名古屋	セントワ忠業(株)	190	20	庄必	京産用陶土器製造業	250	土器製造設備補修改良	2年1ヶ月	東 海新川支	250	2支9%	1年4月
301	本店	八 明 化 成(株)	1,000	22	・	製 薬 業	1,500	相模川橋補修増設	3年1ヶ月	神 戸見内支	1,500	2支6%	1年7月
302	高知	輸出興信紙商工業協同組合	1,000	197	輸出	紙 紙 業	1,500	興信紙製造設備補修改良	4年1ヶ月	四 國 宿支	1,500	2支9%	1年10月
303	松本	高 谷 鉄 工 所(株)	1,000	31	重肉	真空管製造業	900	真空管製造設備増設	4年1ヶ月	富 士岡谷支	900	2支6%	1年1月
304	小樽	小樽海陸運輸(株)	1,250	111	・	運 輸 業	1,500	特船改修	3年1ヶ月	北 陸小樽支	1,500	"	8ヶ月
305	本店	(株)鎌倉ハム製肉商会	1,000	30	輸出	産 肉 業	1,500	冷蔵設備補修改良	1年1ヶ月	駿 河横濱支	1,500	2支7%	1年9月

承認 番号	担当店	貸付先	資本金		業種	貸付 金額	資金用途	期間	取扱銀行			
			(円)	(%)					銀行名	利率(%)	期前	
306	全沢	宮崎織物株	2000	20	輸出	800	織物製造設備補修改良	3年7ヶ月	北 國根上支	・ 800	2%7丁	27年
307	高知	土佐紙(一)	2000	103	正必	1500	紙張製造設備増設	4年1ヶ月	四 國伊野支	1500	3	27年8月
308	"	城東紙(一)	570	47	"	1000	手漉和紙製造設備補修改良	4年7ヶ月	四 國後免支	1000	3%3丁	17年7月
309	本店	東邦工業(一)	1000	31	重肉	500	織縫機具製造設備増設	3年1ヶ月	富士大宮支	500	2%6丁	17年
310	前橋	松島銀造工業(一)	400	11	正必	1500	織造設備補修改良	3年1ヶ月	協 和前橋支	1500	3%	17年3月
311	高知(限)	久礼田紙紙所	195	57	正必	1000	手漉和紙製造設備補修改良	4年7ヶ月	四 國後免支	1000	3%3丁	17年7月
計	(43件)		50,700							50,700		
累計	(311件)		381,400							381,400		

(3)

第二十一回中小企業貸付明細表

承認日 昭和二十五年四月二十八日

貸付実行日 昭和二十五年五月 八日

資金局

承認 番号	担当店	貸付元 (株)	貸付金額 (千円)	従業員 (名)	基業 種	貸付 金額(千円)	資金用途	期間	取扱銀行			
									銀行名	貸付額	利率(年%)	
312	本店	伊勢又木穀製粉 (株)	1000	48	生必製粉製菓業	1000	製粉設備増設	2年11月	常陽大田支	1000	2支7%	1年27月
313	本店	新国産自動車整 備(株)	500	20	重肉自動車修理加工業	700	自動車修理設備増設	4年7月	東海東橋支	700	2支8%	2年
314	仙台	台武化学工業 (株)	500	12	" 活性炭系製造業	650	活性炭系製造設備増設	3年11月	七七 柏岡支	650	2支6%	1年
315	前橋	昭和登毛 (株)	3000	39	" 紡織業	1500	紡織設備補修改良	2年11月	日本 前橋支	1500	3支	1年25月
316	新潟	相崎輸出農田工 業(株)	500	58	輸出 輸出向麻農田製造業	650	麻農田製造設備補修改良	4年11月	比越 比叡支	650	2支6%	2年27月
317	名古屋	東海製油 (株)	1000	24	生必 植物性油脂製造業	1500	植物性油脂製造設備増設	4年7月	十大大垣支	1500	2支7%	2年6月
318	京都	福田金属粉工 業(株)	3450	138	輸出 金属粉末製造業	1500	金属粉末製造設備補修改良	3年11月	大和 京都支	1500	2支6%	1年
319	松江	嵯峨果糖製糖 (株)	2000	51	" 糖結製造業	1500	糖結製造設備増設	3年11月	山陰同本店	1500	2支7%	1年11月
320	松山	中村忠工業(株)	2000	81	" 織布製造業	1250	タオル製造設備増設	2年7月	伊豫合同常盤支	1250	2支8%	1年27月
321	門司	荷田港海陸運送 (株)	3500	94	重肉 運送業	1500	石炭積込機増設	3年7月	福岡 門司支	1500	2支6%	1年
322	本店	北辰化学工業(株)	2000	131	輸出 工業製品製造業	1250	工業製品製造設備増設	2年7月	横浜 信川崎支	1250	3支	1年5月
323	金沢	数田和市郎		70	" 絹人絹織物業	1500	力織機補修改良	4年7月	北国 大野支	1500	3支	1年9月
324	金沢	上野 彦助		16	重肉 貨物運送業	800	貨物自動車修理	3年7月	北国 大野支	600	2支7%	1年
325	松山	今治機業 (株)	500	30	輸出 綿・ス・織物業	500	力織機増設	2年7月	伊豫合同常盤支	500	2支8%	1年27月
326	本店	常盛化学 (株)	1500	12	輸出 油脂製造業	1500	防蝕塗料製造設備増設	3年11月	三和 渋谷支	1500	2支7%	1年7月
327	大阪	(株) 芦原倉庫	1500	7	生必 倉庫業	500	倉庫設備補修改良	3年11月	帝國 和歌山支	500	2支7%	1年3月
計	(16件)					17600				17600		
累計	(327件)					377000				377000		

第二十二回中小企業貸付明細表

承認日 昭和二十五年五月十日
貸付実行日 昭和二十五年五月十七日

資金局

承認番号	担当店	貸付先	資本金 (円)	従業員 (名)	業種	貸付 金額(円)	資金用途	期間	取扱銀行名			
									貸付金額	利率(日歩)	期	向
328	神戸	神戸製糖化工(株)	1800	157	輸出ゴム製品製造業	1500	ゴム製品製造設備増設	2年	大和 天橋支	1500	2支6%	9月
329	甲府	甲府皮革工業(株)	2800	176	製革業	1500	皮革機械修繕	2年6月	山梨中央本店	1500	3支1%	1年2月
330	京都	京都製糖生研(株)	1000	20	生糸製品製造業	1000	白日吸フック製造設備増設	3年	仁和 京都支	1000	2支6%	1年7月
331	京都	瓜見倉庫(株)	1500	31	並肉倉庫業	1500	倉庫設備補修改良	2年6月	富士 吹上支	1500	2支6%	1年4月
332	大阪	五校石綿物織所(株)	1000	176	石棉製品製造業	1500	石棉布製造設備補修改良	3年6月	大阪 天大支	1500	2支7%	2年2月
333	大阪	大阪硝子工硝子(株)	3000	108	輸出ガラス製品製造業	1500	輸出用硝子製造設備補修	3年1月	三和 天大支	1500	2支8%	2年2月
334	函館	小島倉庫(株)	1500	30	生糸倉庫冷凍製氷業	1500	コンプレッサー増設 切取装置其他基業工事	4年1月	北海道 函館支	1500	3支2%	2年6月
335	大阪	大阪口一ル織製所(株)	2800	50	運戻ゴムロール製造業	1500	ゴムロール製造設備増設	1年6月	三和 今里支	1500	2支6%	6月
336	本店	川崎医送(株)	500	21	小運送業	1000	荷役設備増設	3年6月	山梨中央 泉支	1000	2支6%	1年7月
337	名古屋	森吉倉庫(株)	1980	47	倉庫業	1500	床板倉庫設備増設	4年	東京 一宮支	1500	3支	2年3月
338	大阪	大和化成(株)	2800	86	工業製品製造業	1500	銅系応用製品製造設備補修改良	3年	富士信託銀行 本店	1500	3支5%	1年6月
339	前橋	福島織物工場(株)	500	13	輸出織物製造業	1000	絹入り絹力織機増設	4年6月	群馬大同本店	1000	2支7%	2年2月
340	本店	新田産業(株)	178	70	重機電気自動車製造業	1500	電圧自動車製造設備増設	3年	富士 新宮支	1500	2支6%	7月
341	本店	小島工業(株)	1500	116	輸出鋸鋸製造業	1500	鋸鋸製造設備補修改良	2年	帝國 木更田支	1500	2支6%	1年
342	大阪	前山厚織工業(株)	260	65	重機織布業	1500	綿織物製造設備補修改良	4年	南都 下市支	1500	2支6%	4年2月
343	福岡	福岡特殊硝子(株)	1000	64	輸出硝子工業品製造業	1500	硝子製造設備補修改良	3年6月	福岡 本店	1500	2支6%	9月
344	仙台	置賜木材工業(株)	1500	73	製材木材乾燥業	1400	木材乾燥設備補修改良	2年	勸銀 山形支	1400	3支2%	1年

(5)

水 番 号	相当店	貸付先	貸付金 (円)	従業員 (名)	基 準	業 種	貸付 金額(円)	貸付 用途	期 間	取 扱 銀 行 名			
										銀行名	貸付金額	利率(%)	期 間
345	本店	(株)松橋製作所	1500	68	輸出	アルミ厨房用品製造業	1000	溶解炉改良	1年6ヶ月	千代田志村支	1000	2支9%	117月
346	大阪	志美織工業(株)	1200	68	"	針金釘製造業	1500	針金挽鉋設備増設	2年	帝國 面野田支	1500	2支6%	1年
347	神戸	日本染工(株)	2300	51	"	染色加工業	1500	染色加工設備補修改良	3年	神戸 長田支	1500	3支	1年10ヶ月
348	"	竹内絹帯工業(株)	1000	93	"	絹帯製品製造業	1250	裁断縫製工設備補修改良	3年	大和 尼崎支	1250	2支8%	1年
349	鹿児島	北元石油(石)	500	37	卸	石油供給業	1500	給油設備補修改良	2年6ヶ月	鹿児島大菜本店	1500	3支3%	1年8ヶ月
計	(22件)						30,650						
累計	(349件)						892,650						

(6)

第二十三回中小企業貸付明細表

承認日 昭和二十五年五月十五日
貸付実行日 昭和二十五年五月二十二日

資金局

承認番号	担当店	貸付先	資本金 (千円)	従業員 (名)	基準	業種	貸付 金額(千円)	資金使途	期間	取扱銀行			
										銀行名	貸付額(千円)	利率(年率)	期間
350	本店	新川口電機製作所	2,000	120	重	肉電機保安装置製造業	1,500	各種試験器増設	3年	富士 川崎支	1,500	2%65	11月
351	"	関東バルブ	1,500	46	"	バルブコック製造業	1,500	バルブコック製造設備増設	3年	代田 羽田支	1,500	2%65	1年
352	"	(株)三光合	1,000	135	輸	出自動車部品製造業	1,000	自動車部品製造設備増設	1年6月	三和 池袋支	1,000	2%71	17年
353	大阪	太陽製鋼	3,000	89	"	自動車用子工製造業	1,500	自動車用子工製造設備増設	3年	大阪 新橋支	1,500	2%65	12月7日
354	"	三國紡織製工	2,000	113	重	紡織部品製造業	1,500	紡織部品製造設備増設	3年6月	大和 宝島支	1,500	2%71	17年
355	"	南海油脂	500	21	"	油脂精製加工業	1,500	油脂精製加工設備増設	4年6月	大阪 新橋支	1,500	2%65	1年10月
356	"	南海鉄工	2,000	136	"	自動車部品製造業	1,500	自動車部品製造設備増設	2年6月	第一 船場支	1,500	2%65	1年17月
357	本店	三共油化工業	3,000	25	"	油脂精製加工業	1,500	アスファルト製造用設備増設	37年	千原 浦安支	1,500	2%71	1年6月
358	青森	橋井造船	1,000	24	"	船舶造船業	1,500	工務設備及水道設備増設	2年6月	青森 本店	1,500	2%57	3年7月
359	本店	帝都冷蔵	3,000	21	生	必製氷冷凍業	1,500	冷蔵設備増設	2年6月	代田 水代橋支	1,500	2%65	1年6月
360	"	陶器	2,000	186	"	リヤス製品製造加工業	1,500	吊機増設	4年6月	富士 几野支	1,500	2%65	1年
361	青森	八戸食糧	1,000	16	"	梨粉精製業	1,250	梨粉精製設備増設	3年	青森 八戸支	1,250	3%	3年5月
362	福岡	近賀茶業	1,200	36	輸	出製茶業	1,500	製茶設備増設	4年6月	佐賀 大塚本店	1,500	3%	3年3月
363	下関	義海堂	2,000	171	"	絹織織及染色加工業	1,500	染色加工設備増設	3年6月	山口 岩園支	1,500	3%	2年8月
364	名古屋	宮田八丁工業	1,000	60	"	自動車部品製造業	1,000	八丁製造設備増設	2年	東海 新橋支	1,000	2%65	2年
365	"	新田合板工業	3,500	113	"	合板製造業	1,500	単板乾燥設備増設	2年		1,500	2%71	1年2月
計	(16件)						22,750				22,750		
累計	(365件)						452,400				452,400		

(7)

第二十四回中小企業貸付明細表

承認日 昭和二十五年五月十八日
貸付実行日 昭和二十五年五月二十四日

資金局

承認 番号	親会社	貸付先	資本金 (円)	従業員 (名)	業種	業 産	貸付 金額 (円)	資金使途	期間	取 扱 銀 行 分			
										銀行名	貸付金額 (円)	利率 (年率)	期間
366	本店	(株)長谷川氷室	1000	18	生仕	製氷冷蔵業	900	製氷設備増設	3年11月	千代田 小山支	900	3.6	1年11月
367	本店	横浜埠頭(株)	3500	25	重関	倉庫業	1500	校場倉庫改修	2.6	帝国 横浜支	1500	2.6	1
368	本店	(限)竹田盛商店	200	6	生仕	製粉製菓業	400	製粉機及製菓機増設	1.6	常陽 岩間支	400	2.6	1.7
369	本店	明和印刷(株)	3000	176	"	印刷製本業	1500	輪転印刷機増設	3	大阪 神田支	1500	3.3	1.8
370	本店	東電員(株)	3000	268	重関	電動機製造業	1400	電動機製造設備増設	3.6	" 目山支	1400	2.6	2.6
371	札幌	札幌自動車運送(株)	1911	108	"	貨物自動車運送業	1500	貨物自動車購入	2.6	北海道 札幌支	1500	2.7	1.9
372	札幌	(株)山本鉄工所	3000	56	"	鐵山用機械器具製造業	1500	工次機増設	3	" 栗山支	1500	3.2	1.8
373	小樽	(株)共立機械製作所	1000	43	"	炭酸用機械器具製造業	200	工次機増設及び 12蒸気処理炉新設	3	" 栗口支	250	3.2	2.2
374	大阪	喜多金属工業(株)	1000	60	輸出	フッパ一製造業	1250	フッパ一製造設備増設	3	協和 八尾支	1250	3	1.2
375	高松	徳島精油(株)	1000	13	重関	植物油製造業	750	製油設備改良	3	阿蘇 萩本支	750	3	3.2
376	京都	丹波貨物自動車(株)	2125	141	"	貨物輸送業	1500	トラック購入資金	3	丹和 龍岡支	1500	2.6	1.9
377	前橋	上毛倉庫(株)	500	11	生仕	倉庫業	1500	倉庫増設	3	群馬 馬目本支	1500	2.6	1.11
378	本店	(株)国末金庫店	1000	30	輸出	金庫製造業	1500	金庫製造設備増設	3.6	万代 一光本支	1500	2.6	2.1
379	福岡	博多鉄器工業(株)	2000	104	"	アルミ製品製造業	1000	炬炭炉増設	1.10	日本 福岡支	1000	3.2	1.10
380	長崎	大洋倉庫(株)	1000	5	重関	倉庫業	1500	倉庫増設及び補修	3	親和 長崎支	1500	2.6	1.9
381	鹿児島	花陽化学工業(株)	1000	36	"	活性炭製造業	1000	活性炭製造設備増設	2	鹿児島 延岡支	1000	2.6	1.3
382	下関	(株)一馬本店	1000	39	生仕	味噌醤油製造業	1500	味噌醤油醸造 設備増設	4.6	山口 防府支	1500	3	2.3
383	福岡	(名)旅館味庄	500	7	輸出	旅館業	1000	洋室改修	3.6	福岡 本店	1000	3	1

承認 番号	担当官	貸付先	預本金 (円)	従業員 (名)	基準	業 態	貸付 金額 (円)	貸金 用途	期間	取扱銀行分			
										銀行名	貸付額 (円)	利率 (%)	期間
384	25尾	豊南麦果(株)	2000	12	包囲	ベニトイロ麦果	1500	農業用 殺虫剤 製造設備 増設	4年6月	百五吉川支	1500	3.2	3.5月
385	高松	高松通商倉庫(株)	500	11	"	倉庫業	1000	倉庫設備増設	4	百十四本馬	1000	2.6	2.2
計	(20年)						23950				23950		
累計	(385年)						476350				476350		

(9)

第二十五回中小企業貸付明細表

承認日 昭和十五年五月二十日
貸付実行日 昭和十五年五月二十日

資金局

承認番号	担当店	貸付先	資本金 (千円)	従業員 (名)	基準	業種	貸付金額 (千円)	資金使途	期間	取扱銀行分			
										銀行名	貸付金額 (千円)	利率 (年率)	期間
386	本店	機械製造英田(株)	1000	18	輸出	輸出英田製造業	750	輸出英田製造設備修改良	2年4月	大和 大和	750	3.2	1年2月
387	"	赤尾川工業(株)	1000	43	重関	アルミ圧延業	1500	圧延機増設	3	大和 三河島	1500	3	1.6
388	"	東急貨物運送(株)	1115	97	"	貨物自動車運送業	1500	貨物自動車修改良	3	富士 和歌山	1500	2.6	1
389	大阪	向陽工業(株)	1250	43	輸出	ワヤハット製造業	1000	ワヤハット製造設備増設	3	三和 青田	1000	3	1.8
390	"	百又布帛製品(株)	1000	48	生仕	布帛製品製造業	600	ミシン補修改良	3	大和 和歌山	600	2.6	2.1
391	"	金剛機器工業(株)	1500	43	輸出	ミシン製造業	1000	ミシン製造設備修改良	2	大和 富田	1000	2.6	2
392	本店	泉光硝子(株)	3000	158	重関	電球用硝子製造業	1500	電球硝子製造設備修改良	3	富士 和歌山	1500	2.6	7
393	"	能勢化学工業(株)	2000	34	"	塗料製造業	1350	硝子塗料製造設備修改良	3	日本 大和	1350	3.2	1.6
394	大阪	(株)ハトヤ製造所	1000	76	輸出	布帛製品製造業	1500	ミシン増設	3	三和 和歌山	1500	2.7	1.8
395	本店	(株)中興電機研究所	1500	52	重関	通信機製造業	1500	通信機製造設備修改良	3.6	第一 和歌山	1500	2.6	1
396	"	蒲田製氷冷蔵(株)	3000	22	生仕	製氷冷蔵業	1500	冷蔵倉庫及冷却設備修改良	2.6	神戸 和歌山	1500	2.6	11
397	広島	日本特殊塗料工業(株)	1000	28	重関	防火塗料製造業	700	防火塗料製造設備修改良	3	日本 大和	700	3.2	1.6
398	長崎	丸三蒸業(株)	1000	65	生仕	蒸業	1400	蒸業系烟道修改良	2.6	親和 和歌山	1400	2.6	1
399	前橋	(株)永井工業所	198	30	"	製糖製酒業	900	製糖工場修改良	3	群馬 大和	900	2.7	2.8
400	本店	神東電機(株)	1000	26	重関	電気器具製造業	1000	電気器具製造設備修改良	2	大和 日本	1000	2.7	1.3
401	秋田	(株)立石炭科工業所	800	48	生仕	焦炭製造業	1500	焦炭炉増設	4.6	秋田 大和	1500	3.2	4
402	松本	(株)歌久商店	1300	12	"	味噌醤油醸造業	750	味噌醤油醸造設備修改良	4.6	八十二 和歌山	750	2.6	4.7
403	松江	深田鋳造(株)	2500	99	輸出	鋳造業	1500	冷床冷床設備修改良	3.6	山陰 合同	1500	2.7	11

承認番号	担当店	貸付先	資本金 (円)	従業員 (名)	業種	業種	貸付 金額 (円)	資金使途	期間	取扱銀行			
										銀行名	貸付 金額 (円)	利率 (年率)	期間
404	札幌	旭川市街靴店(株)	2,700	168	靴店	靴製造用材料運送業	1,500	靴製造設備増設	4.6月	富士 旭川	1,500	2.7	2.7月
405	下関	関共立油屋工業所	150	21	"	漆料製造業	400	漆料製造設備増設	2.6	山口 下関支	400	3	1.8
406	大阪	日交コム工業(株)	2,000	66	輸出	原裝717加工品運送業	1,500	717更新設備増設	3	帝國 玉造支	1,500	2.6	1
407	福岡	福岡合板(株)	1,097	51	靴店	合板製造業	1,500	合板製造設備増設	4.6	福岡 東支	1,500	2.6	2.6
408	京都	ソレツ通信工業(株)	2,000	131	"	通信機部品製造業	1,500	通信機部品製造設備増設	4	中興 京都支	1,500	2.6	2.3
409	仙台	南翔機織工業(株)	500	18	"	717加工品製造業	1,000	更新717加工設備増設	3	南翔 本店	1,000	2.6	1.5
410	名古屋	(株)三菱製糸所	330	72	輸出	ハリケンランフ製送業	1,500	ハリケンランフ製造設備増設	3	大阪 名古屋支	1,500	3	1.8
411	"	(株)池川織工所	750	43	靴店	小笠原製糸業	1,100	小笠原製糸機更新設備増設	4.6	百五 田支	1,100	2.6	4.7
412	神戸	三弘織布(株)	2,300	116	輸出	絹右織製送業	1,500	力織機相替改良	3.6	神戸 西支	1,500	2.6	1.8
413	"	白山織糸工業(株)	2,000	27	靴店	電気紡糸機製造業	1,500	電気紡糸機製造設備増設	3.6	第一 神支	1,500	3	1
414	福岡	唐津陶管(株)	500	60	"	制管機大規模更新業	1,500	製管機更新設備改良 並に乾燥場増設	4.6	佐賀 中支	1,500	3	2.6
415	金沢	新式板金(株)	1,000	102	輸出	兩人用織物製造業	1,500	力織機相替改良	3.6	北国 高支	1,500	2.7	2
計	(30年)						27,450						
累計	(415年)						513,800				37,050		513,800

(11)

第二十六回中小企業貸付明細表

承認日 昭和二十五年五月二十二日
 貸付実行日 昭和二十五年五月二十二日

承認 番号	担当店	貸付先	貸付金 (千円)	借入 月数 (月)	業 種	貸付 金額 (千円)	資金使途	期間	取 扱 銀 行 介			
									銀 行 名	貸付 金額 (千円)	利率 (年率)	期間
416	本店	大同工業(株)	2000	36	重機	自動車修理業	自動車修理設備増設	3年10月	大 阪 商 工 銀 行	1000	2.5	1年10月
417	"	(資)金子工場	495	100	"	鑄造業	鑄造設備改修	1.6	第 一 予 計 支 店	1000	2.6	?
418	"	丸八倉庫(株)	1500	23	"	倉庫業	倉庫設備補修改修	2.6	千代田 永代通支	1500	2.6	1.3
419	"	平野運送(株)	2200	125	"	貨物運送業	トヨタ購入資金	2	"	1000	2.6	1
420	松本	南信紙製機工業(株)	500	70	生産	衛生材料製造業	力載機補修改修	4	八十二 伊那町支	1000	2.6	2
421	名古屋	青山定一		80	輸出	綿織物業	綿織物業設備増設	2	協 和 布 織 支	1250	2.7	1.1
計	(6件)					6750				6750		
累計	(42件)					520550				520550		

(12)

第二十七回中小企業貸付明細表

承認日 昭和二十五年六月五日
貸付実行日 昭和二十五年六月十二日

資金局

承認 番号	担当店	貸付先	資本金 (千円)	従業員 (名)	基準	業 種	貸付 金額 (千円)	資金使途	期間	取 扱 銀 行 介			
										銀 行 名	貸付金額 (千円)	利率 (日歩)	期 向
422	小樽	北海羊毛工業(株)	1000	40	輸出	毛紡織業	1000	梳毛設備の改修	3年6月	北星 小樽支	1000	2.6	2.2
423	青森	(株)芝城機械製作所	1000	11	重岡	焼玉機製造業	1000	焼玉機製造設備増設	2.6	青和 本店	1000	2.5	3.7
424	仙台	小名浜油脂化学工業(株)	1500	28	輸出	ウレタン製造業	1500	精製設備増設	3	七七 小名支	1500	3	1
425	前橋	富士織造工業(株)	150	22	〃	絹人絹織物業	1500	刀織機増設	3.4	足利 橋板	1500	2.6	1.8
426	〃	村田発條(株)	1000	70	重岡	発條製造業	1000	発條製造設備増設	3	〃 宇都宮支	1000	2.6	1.10
427	〃	刀洋織物(株)	198	10	輸出	絹人絹織物業	1000	絹人絹力織機増設	4.6	群馬 伊勢崎支	1000	2.6	2.8
428	静岡	下田船渠(株)	1000	170	重岡	船舶造船業	1500	船舶造船設備増設	3	静岡 下田支	1500	2.8	1.8
429	名古屋	(株)三和フナリ研究所	500	9	輸出	合成樹脂製造加工業	1150	フナリ製造設備増設	3	〃 名古屋支	1150	2.8	1.6
430	〃	(株)三 貴	2000	71	生仕	製材木工食品製造	1000	木工製品製造設備増設	3	第一 大塚支	1000	2.6	1
431	〃	中央木材(株)	2200	42	輸出	製材木工業	1000	70-137製造設備増設	3.6	東海 本店	1000	3	1.11
432	〃	(株)名古屋商会	1500	178	〃	陶磁器土管加工業	1250	土管加工設備増設	2	日本 名古屋支	1250	3.2	1.1
433	京都	大光印刷(株)	1200	25	〃	印 刷 業	750	石版打外印刷機増設	3.6	大和 新橋支	750	3	1
434	大阪	日高海運(一)	195	14	重岡	海 運 業	1000	船 舶 改 修	4.6	紀陽 柳井支	1000	2.6	1
435	〃	(株)大阪泥炭製炭所	175	22	輸出	自製泥炭製造業	600	自製泥炭製造設備増設	3	三和 手田町支	600	3	1.8
436	神戸	田端祐三郎		10	生仕	製 菓 業	1300	製 菓 改 修	4.6	香庄 本店	1300	2.6	2.7
437	〃	英編製紙(株)	1800	120	輸出	紙 物 業	1500	ミヤカ-ド機増設	3.6	神戸 中町支	1500	2.8	2.1
438	岡山	池田木米紡織(一)	2000	21	重岡	紡 織 業	1000	精 紡 機 増 設	1.6	富士 玉島支	1000	2.6	8
439	〃	(株)牛蒡造船所	1500	59	〃	造 船 業	750	船 隻 改 修 補 修 改 良	3	中国 牛蒡支	750	3	3

(32)

承取 番号	担当店	貸付先	貸付金 (千円)	残高 (千円)	業種	業 種	貸付 金額 (千円)	資金使途	期間	取 扱 銀 行 名			
										銀行名	貸付金額 (千円)	利率 (年率)	期間
440	広島	広島倉庫運輸(株)	1000	98	倉庫	倉庫運輸業	1500	倉庫建物の補修改良	3.6 ^月	富士 広島支	1500	2.6	1.1 ^月
441	松江	日本畜産実業(有)	2000	14	生仕	椎茸菌培養業	700	培養装置補修改良	3	日本 初葉 鳥取支	700	3.2	1.1
442	高松	柳承林材工業(有)	2500	63	製材	製材業	1500	乾燥装置増設	2.6	四国 高松支	1500	2.6	1
443	高知	高知木製品工業(株)	397	31	生仕	木製品製造業	600	木製品製造装置改良	3	商工 中金 高知 出張所	600	3.5	1.5
444	福岡	福岡造船鉄工(株)	2000	122	製鋼	造船及船舶修理業	1500	帆糸加工装置補修	3.6	福岡 東門支	1500	2.6	1.10
445	"	鳳凰木産(有)	150	17	輸出	木炭製造業	750	木炭製造装置増設	4.6	佐賀 中央 本店	750	2.6	2.7
446	大分	日本電気化学工業(株)	1000	20	製鋼	精糖製造装置改良	750	コントロール装置増設	2	大分 合同 本店	750	2.6	2.2
447	"	日本ビーズ工業(有)	1000	176	輸出	ビーズ製造業	1500	切屑染色乾燥装置改良増設	2.6	" 別府 支店	1500	2.8	1.6
448	長崎	五島炭石(有)	1000	42	製鋼	炭石採取業	600	採掘装置増設	1	親和 長崎支	600	2.6	8
449	"	大同マッチ工業(有)	2000	22	輸出	マッチ製造業	550	製糖酒精工場増設	2	" 本店	550	2.6	2.7
計							29750				29750		
累計							550300				550300		

1/28 306p

7/28 306p

倉田

昭和二十五年 10月 10日
貸付実行日 昭和二十五年 6月 16日

第二十八回援助資金中小企業貸付承認明細表

資金司

承認番号	種別	貸付先	資本金(円)	返済期(月)	業種	貸付金額(円)	資金用途	期尚	返済			
									銀行名	元金(円)	利息(円)	
450	札幌	大連産業(株)	1000	12	輸出	1500	脱脂脱水装置増設	2年5月	北拓 札幌支	1500	3月25日	1年5月
451	"	道東製鋼(株)	2500	29	重肉	1000	鉄鋼検査装置取替	1年11月	" 道東支	1000	3月25日	1年2月
452	"	船艇船舶用金物製造(株)	1000	47	"	1000	各種用鋼船新造	3年	" 船艇支	1000	3月25日	1年11月
453	"	日本ルフィング工業(株)	3000	17	"	900	ルフィング装置設備増設	2年11月	" 苫小牧支	900	3月25日	1年9月
454	"	道産農林工業(株)	2000	13	輸出	1000	輸出用機械設備増設	2年11月	" 帯広支	1000	3月25日	1年4月
455	小樽	府勝石炭(株)	195	20	生必	1500	石炭製造設備増設	3年11月	" 小樽支	1500	2月6日	1年11月
456	秋田	(株)高砂系試験機製作所	250	47	重肉	1500	試験機製造装置	4年5月	秋田 大町支	1500	3月25日	2年5月
457	仙台	仙台運送(株)	3000	81	"	1500	運送用トラック増設	2年11月	七十七 新橋町	1300	2月6日	1年2月
458	"	北部製油(株)	3000	25	生必	1500	植物油抽出装置増設	2年11月	岩手 本志	1500	2月9日	1年8月
459	金沢	(株)新田機業場	1000	28	輸出	750	機械設備増設工場建設	3年5月	北国 南河支	750	2月7日	1年8月
460	"	能登部共栄(株)	2000	59	"	1250	力能機及コンクリート機増設	4年5月	" 能登部支	1250	2月7日	2年2月
461	"	小倉織物(株)	1500	54	"	1500	絹織物設備増設	4年5月	" 西町支	1500	3月	2年11月
462	名古屋	大野製鋼(株)	700	19	重肉	750	鉄鋼設備増設	2年5月	東海 大野支	750	3月	2年5月
463	"	福村工業(株)	550	105	生必	1100	縫製工場設備増設	2年11月	大阪 名古屋支	1100	2月6日	2年11月
464	広島	尾道鉄道(株)	3000	153	重肉	1500	貨物輸送設備増設	4年11月	支那 尾道支	1500	3月	3年8月
465	松山	安藤汽船(株)	1500	90	"	1000	定期船空室増設	4年5月	" 今治支	1000	2月7日	2年7月
466	長崎	古藤海運(株)	1000	42	"	1500	クレーン一建	3年5月	長和 本店	1500	2月6日	2年10月
467	鹿児島	宮崎トヨ自動車(株)	3000	90	"	1500	自動車修理設備増設	3年11月	昭興 本店	1500	2月7日	1年11月
468	本店	東邦産業(株)	4500	110	輸出	1500	圧延設備増設	1年11月	大和 日本橋支	1500	2月7日	1年2月
469	"	(株)豊田電線製造所	3000	71	重肉	1500	丁字線設備増設	1年5月	大和 池袋支	1500	2月6日	8月
470	"	(株)細工舎工場	875	124	"	1500	農機具製造設備増設	3年5月	勤振 川崎支	1500	3月25日	1年11月

取 扱 番 号	取 扱 店	資 材 先 取	資本金 (円)	株数 (株)	業 種	業 種	資本金額 (円)	資金 使 途	期 間	取 扱 銀 行 名			
										銀行名	資本金額 (円)	利率 (%)	期 間
471	本店	埼玉繊維物工業(株)	1000	9	生世	織糸業	1500	機架設備新設	2年5月	埼玉 藤支	1500	2年5月	2年5月
472	"	田辺伸縮(株)	500	55	輸出	伸縮圧延業	1500	圧延設備増設	2年11月	中一 川口支	1500	2年6月	11月
473	"	(株)大野機織工業所	1000	83	"	輸出向以完具製造業	1500	工場設備増設	3年11月	東京 浅草支	1500	2年6月	3年11月
474	"	(有)日本電線製造所	2500	158	重肉	絶縁銅管製造業	1500	絶縁銅管製造設備増設	2年5月	大和 東京支	1500	3年	9月
475	"	ニツサ工業(株)	3000	71	"	土木建築業	1500	建築用材料製造設備増設	2年11月	中尾 本店	1500	2年5月	2年11月
476	"	大日本繊維工業(株)	2500	86	輸出	靴下製造業	1500	編立設備増設	2年5月	富士 静岡支	1500	2年6月	1年7月
477	"	生 産 機	1600	91	生世	製 菓 業	1300	工場設備増設	2年11月	前玉 静岡支	1300	3年2月	2年5月
478	"	日本鉄板肉売(株)	1000	85	重肉	鉄板石炭業	1500	鉄板石炭製造設備増設	4年5月	埼玉 味橋支	1500	3年2月	2年5月
479	"	斉藤工業(株)	1700	131	"	電気通信機用特殊合金	1500	試設設備増設	4年5月	協和 鎌倉支	1500	1年	1年
480	"	山田工業(株)	500	21	"	精密材料製造業	750	精密材料製造設備増設	1年11月	富士 久原支	750	2年6月	11月
481	"	中村金庫(株)	1000	43	輸出	架鉄金属圧延業	1250	圧延設備増設改良	2年5月	大和 三河島支	1250	3年	1年6月
482	"	理科学材料(株)	2500	11	"	理科学用金属材料製造業	1250	研究所材料製造設備増設	4年5月	大和 横井支	1250	2年6月	1年5月
483	"	(株)宮城製作所	2500	54	重肉	電機機軸製造業	750	電機機軸製造設備増設	3年5月	三和 船橋支	750	2年6月	3年5月
484	"	日本染料工業(株)	2000	29	輸出	油脂性染料製造業	1500	研製材料製造設備増設	2年11月	中村 立川支	1500	2年6月	11月
485	"	(株)秋田工場	1500	70	重肉	船舶補機製造業	1500	船舶補機製造設備増設	1年11月	協和 小岩支	1500	2年7月	1年11月
486	"	長安自動車運送(株)	650	109	"	自動車運輸業	600	貨物自動車購入資金	2年5月	千葉 茂原支	1500	2年6月	1年5月
487	"	秋田プラスチック(株)	350	22	輸出	プラスチック製成型製造業	750	プラスチック製造設備増設	2年5月	大和 新宿支	600	3年	1年
488	"	相模ゴム工業(株)	2900	95	生世	医療用ゴム製品製造業	49700	ゴム製品製造設備改良	1年11月	駿河 厚木支	750	2年8月	1年11月
計	(28件)						600000				49700		
累計	(1620件)										600000		

第二十九回 補助資金 中小企業 貸付承認明細表

承認日 昭和十五年七月三日
貸付実行日 昭和十五年七月十日

資金局

承認番号	担当店	貸付先	貸付金額(千円)	数量(%)	業種	貸付金額(千円)	資金用途	期別	取扱銀行名			
									銀行名	貸付金額(千円)	利率(%)	期別
489	本店	(株)乙成商店	500	18	並列 果材業	1,500	果材設備増設	3年11月	東海 深川支	1,500	2年9.5	2年8月
490	本店	(株)グット工場	1,000	31	。 鋼管工作機械製造業	1,000	鋼管工作機械製造設備増設	2年5月	大同 川崎支	1,000	3年	1年7月
491	本店	(株)徳田農作所	1,000	44	。 果空冷乾燥機業	500	果空冷乾燥機設備増設	2年5月	富士 沼津支	500	2年6.5	11月
492	本店	(株)前井工業農作所	1,000	32	増出 果材機械製造業	1,000	果材機械製造設備増設	2年5月	常陽 船橋支	1,000	2年7.5	1年5月
493	本店	東邦紡績(株)	1,000	25	。 紡毛業	1,500	7.5寸商品製造設備増設	2年11月	東京 北沢支	1,500	2年2.5	1年7月
494	本店	(株)龍いん染工場	500	40	。 染色業	500	染色設備増設	2年11月	千葉 東金支	500	2年7.5	3年
495	本店	萬成自動車(株)	2,000	60	並列 自動車修理機械製造業	1,000	オートパーツ製造設備増設	2年11月	大同 日取支	1,000	2年8.5	1年
496	本店	安井木材工業(株)	1,000	29	。 炭酸、木材乾燥業	1,500	木材乾燥設備増設	2年11月	東海 千住支	1,500	2年7.5	1年11月
497	本店	日本織縫加工(株)	1,500	81	輸出 布帛製品製造業	1,500	織縫製品加工設備増設	2年11月	千葉 東金支	1,500	3年	3年
498	本店	(株)運所保通加工業所	175	111	並列 探採鉄炭造業	1,500	探採鉄炭製造設備増設	1年9月	横浜 川崎支	1,500	3年	1年
499	本店	(株)福原金属加工業所	170	54	。 各種金属伸管業	1,500	各種伸管製造設備増設	2年11月	横浜 川崎支	1,500	2年3.5	1年3月
500	本店	川岸屋食品(株)	500	40	並列 冷凍冷蔵水産加工業	1,500	製氷冷蔵設備増設	3年5月	富士 銚子支	1,500	2年6.5	1年11月
501	本店	千葉食品工業(株)	1,900	25	輸出 罐詰製造業	1,000	罐詰製造設備増設	3年5月	千葉 船橋支	1,000	2年6.5	1年6月
502	本店	藤森工業(株)	1,500	166	。 防水紙及び塗料製造業	1,500	防水紙製造設備増設	1年11月	大正 田園支	1,500	2年5.5	1年11月
503	本店	中品硝子工業(株)	2,000	32	並列 電線通信機器製造業	1,500	電線製造設備増設	3年5月	大阪 西成支	1,500	2年6.5	2年
504	小樽	北通硝子工業(株)	1,000	48	並列 硝子工業	1,500	硝子製造設備増設	4年5月	北通 旭川支	1,500	3年2.5	2年3月
505	仙台	水上製菓(株)	2,000	19	。 冷凍冷蔵業	1,500	冷凍冷蔵設備増設	2年11月	仙台 仙台支	1,500	2年9.5	2年3月
506	蒲田	峰崎硝子(株)	500	18	。 硝子業	1,500	硝子製造設備増設	2年11月	蒲田 蒲田支	1,500	2年6.5	1年5月
507	新潟	藤原硝子工業(株)	175	16	輸出 硝子業	400	硝子製造設備増設	3年11月	北越 比南支	400	2年6.5	2年2月
508	新潟	柏陽硝子工業(株)	300	40	。 硝子業	400	硝子製造設備増設	3年11月	。 。	400	2年6.5	2年2月
509	新潟	旭硝子硝子工業(株)	175	16	。 硝子業	400	硝子製造設備増設	3年11月	。 。	400	2年6.5	2年2月
510	金沢	辰巳製紙(株)	1,000	58	並列 製紙業	1,500	抄紙機増設	1年11月	北陸 安江支	1,500	2年6.5	1年2月

承認 番号	担当店	貸付先	資本金 (円)	従業員 (名)	基準	業種	貸付金額 (円)	資金用途	期間	取扱銀行別			
										銀行名	取扱金額 (円)	引当(円)	期間
511	甲府	富士産機(株)	320	45	重 岡	紙 張 製 造 業	1,500	紙張製造設備増設	4年5月	山梨中央 富士支	1,500	0支	4年5月
512	甲府	坂本炭産(株)	190	56	生 必	精 糖 業	1,500	倉庫増設	3年5月	。 本店	1,500	3支	1年6月
513	松本	原本油脂工業(株)	2,500	17	。	植物油脂製造業	1,500	植物油脂精製設備増設	1年11月	信和 長野支	1,500	3支	1年2月
514	松本	丸二一光学工業(株)	1,500	112	重 岡	光学玻璃製造業	1,500	顕微鏡製造設備増設	2年11月	八十二 時又支	1,500	2支	1年8月
515	石川	松田工業(株)	500	57	輸 出	玻璃器具製造業	500	硝子加工機設備増設	3年11月	百五 新潟支	500	3支	2年5月
516	石川	三共産業(株)	2,000	20	生 必	皮革製造業	1,000	社上設備増設	4年5月	東海 4支	1,000	2支	1年8月
517	大阪	東洋硫黄工業(株)	1,250	90	重 岡	二硫化炭製造業	1,500	二硫化炭製造設備増設	2年11月	大和 堂島支	1,500	2支	1年
518	大阪	三光ミシン工業(株)	1,000	62	。	ミシン製造業	1,500	特殊ミシン増設	2年11月	三和 河内支	1,500	2支	1年8月
519	大阪	三好石綿工業(株)	2,000	75	。	石棉製造業	1,500	石棉紡織設備増設	1年11月	第一 大阪支	1,500	2支	1年7月
520	大阪	西村メリマス(株)	2,000	186	輸 出	メリマス生地製造業	1,500	染色整理設備増設	2年5月	三和 吹上支	1,500	2支	1年4月
521	大阪	日本興業(株)	1,000	28	。	セルロイド製造業	1,500	セルロイド製造設備増設	2年11月	福和 勝山支	1,500	2支	1年3月
522	神戸	ホネット工業(株)	500	37	。	ミシン針製造業	1,000	針針製造設備増設	3年11月	神戸 二見支	1,000	2支	2年
523	神戸	中石化工(株)	300	44	生 必	薬品製造業	1,500	硫酸70%製造設備増設	3年5月	第一 神戸支	1,500	3支	1年
524	神戸	協成油脂工業(株)	1,500	24	重 岡	加工油脂製造業	1,500	加工設備増設	4年5月	神田 神戸支	1,500	2支	1年2月
525	神戸	吉川紙産工業(株)	2,000	53	輸 出	紙 物 業	1,100	シヤワト増設資金	3年5月	神戸 中町支	1,100	2支	2年2月
526	神戸	月石香料薬品(株)	800	81	。	樟腦製造業	1,500	樟腦製造設備増設	2年11月	。 本店	1,500	2支	1年4月
527	岡山	(有)大器化学工業所	500	8	生 必	樹脂精製加工業	750	樹脂精製設備増設	3年5月	中国 大井支	750	3支	3年4月
528	広島	坂本理研工業(株)	3,000	25	輸 出	護照製造業	500	護照製造設備増設	1年11月	五福 安芸支	500	3支	2年11月
529	広島	原田製粉(株)	1,500	10	生 必	製 粉 業	1,000	製粉設備増設	2年5月	第一 広島支	1,000	2支	1年11月
530	松江	虎港海運運送(株)	2,000	109	重 岡	港 湾 運 送 業	1,000	港湾運送船増設	3年5月	山陰合同 本店	1,000	2支	1年3月
531	下関	三尾金属工業(株)	1,000	24	。	鋼板加工製造業	1,250	スレト製造設備増設	1年11月	山口 下松支	1,250	3支	1年8月
532	高知	高知車輻(株)	1,500	48	。	鉄製器具製造業	1,500	知用内製製造設備増設	4年5月	四国 本店	1,500	3支	2年
533	大分	(株)帝國ホテ工業所	1,000	30	。	炭素製品製造業	750	炭素製品製造設備増設	1年11月	大分合同 本店	750	2支	1年
534	熊本	(有限)化学及血清製造研究所	1,828	11	生 必	薬 業	1,500	血清製造設備増設	2年11月	日本郵政 熊本支	1,500	3支	2年11月
計	(46件)						55,550				55,550		
累計	(534件)						655,550				655,550		

第三十回援助資金中小企業貸付承認明細表

承認日 昭和二十五年七月十一日
 貸付実行日 昭和二十五年七月十八日

資金局

承認番号	担当店	貸付先	資本金 (千円)	業種 (号)	基準	業種	貸付金額 (千円)	資金使途	期間	取扱銀行			
										銀行名	貸付金額	利率(年)	期間
535	本店	地球編物(株)	2,500	34	庄必	靴下製造業	750	靴下製造設備改良	1年10月	富士商工	750	2年6%	1年11月
536	本店	雁口造船(株)	500	25	重関	船舶造船業	600	木船建造及修理設備増設	2年4月	横浜商工	600	3年	1年6月
537	本店	霞町田工場	300	47	重関	非鉄金属製造業	1,000	鋳物製造設備増設	1年10月	横浜商工	1,000	3年	1年4月
538	本店	岡東有機(株)	2,000	13	輸出	ビタミン油製造業	1,000	ビタミン油製造設備増設	1年10月	秋田商工	1,000	2年6%	1年
539	本店	株紅三	3,000	51	輸出	紫色堅理業	1,500	紫色設備増設	1年10月	第一商工	1,500	2年6%	11月
540	本店	正和産業(株)	1,000	46	輸出	皮革製品製造業	1,250	輸出用皮革製品製造設備増設	2年10月	協和商工	1,250	3年3%	1年11月
541	本店	大谷川工業(株)	1,000	47	重関	土石採取業	1,500	碎石設備増設	1年11月	協和商工	1,500	3年3%	1年
542	本店	房総油脂工業(株)	3,000	110	庄必	植物油脂製造業	1,500	油脂精製設備補修改良	2年10月	協和商工	1,500	3年	1年
543	本店	大和興業(株)	2,000	75	輸出	金属加工製造業	1,500	金属加工製造設備増設	3年4月	野島商工	1,500	2年6%	2年6月
544	札幌	北海八二ヤ(株)	600	58	重関	合板製造業	750	製材設備増設	3年10月	北海道商工	750	3年2%	2年6月
545	函館	相馬商事(株)	1,950	27	庄必	倉庫業	1,500	倉庫補修	2年4月	北海道商工	1,500	3年2%	1年
546	函館	70口無線電機(株)	1,000	64	重関	無線通信機製造業	600	試験設備増設	3年10月	第一商工	600	2年6%	2年11月
547	青森	株青森商船	2,500	67	重関	海運業	750	荷捌倉庫増設	2年4月	日本商船	750	3年2%	1年4月
548	福島	帝北食糧(株)	1,500	49	輸出	理詰製造業	500	輸出理詰製造設備増設	2年10月	日本商船	500	3年2%	10月
549	静岡	海空化学(株)	3,500	47	輸出	寒天製造業	1,500	寒天製造設備増設	3年10月	静岡伊藤	1,500	2年8%	1年8月
550	静岡	浜田産業(株)	1,000	37	輸出	製茶業	1,000	製茶設備増設	2年10月	静岡金銀	1,000	2年8%	1年4月
551	静岡	中村製茶(株)	1,000	38	輸出	製茶業	1,250	製茶設備増設	2年10月	静岡本店	1,250	2年8%	1年5月
552	静岡	佐野吳代治		43	輸出	製茶業	750	製茶設備増設	2年4月	静岡伊藤	750	2年8%	1年5月
553	静岡	金舌製茶(株)	1,000	42	輸出	製茶業	1,200	製茶設備増設	2年4月	静岡伊藤	1,200	2年8%	1年5月
554	名古屋	網大製網(株)	2,500	180	輸出	漁網製造業	1,500	漁網製造設備増設	2年10月	東海商工	1,500	2年7%	1年2月

(5)

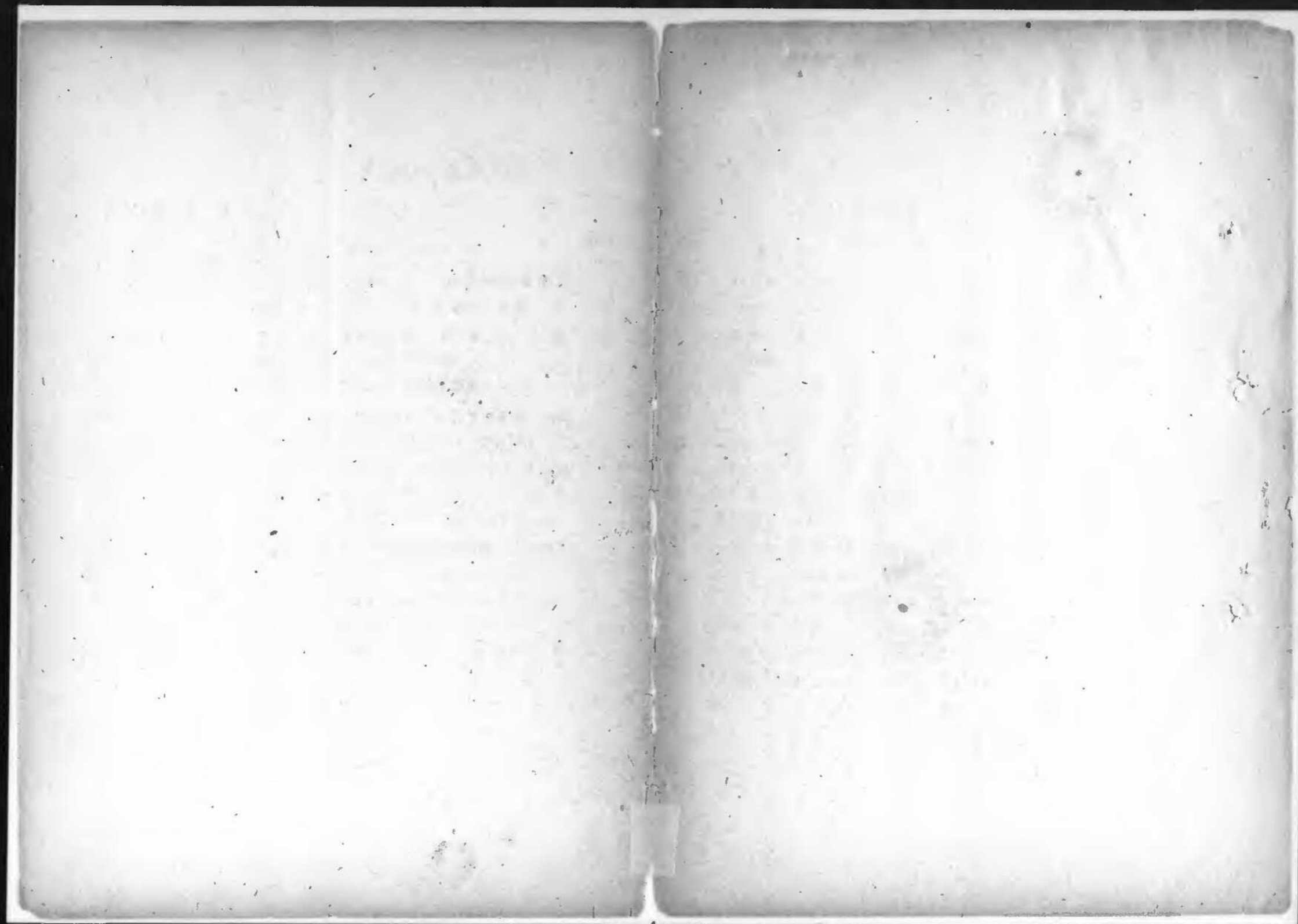
承認 番号	担当店	貸付先	資本金 (円)	株数 (名)	基準	業種	金額 (円)	資金使途	期間	取扱銀行			
										銀行名	貸付金額	利率(年)	期間
555	京都	北江化学陶器(限)	350	48	生必	陶器製造業	1500	陶器製造設備増設	4年10月	滋賀 福栄支	1500	2支8%	2年6月
556	大阪	(株)木匠車輜製作所	700	13	重関	車輜製造業	1500	車輜製造設備増設	2年10月	三和 堺支	1500	3支	2年2月
557	大阪	三洋シヤツ (株)	1000	67	輸出	布帛製品製造業	1250	布帛製品製造設備増設	2年10月	三和 郡島支	1250	2支6%	1年8月
558	大阪	日本魔法瓶工業(株)	2,000	125	輸出	魔法瓶製造業	1500	魔法瓶製造設備増設	3年4月	大阪 工部支	1500	3支	1年7月
559	大阪	(限)前田鉄工所	1500	125	輸出	自動車部品製造業	1500	7リ-木組製造設備増設	2年10月	三和 堺支	1500	2支6%	1年10月
560	岡山	三木織物(有)	1000	41	輸出	織物業	1000	織物製造設備増設改良	2年4月	中国 神戶支	1000	3支	1年6月
561	広島	(株)大正縫針製作所	3000	97	輸出	縫針製造業	1500	縫針製造設備増設	2年10月	支備 横川支	1500	3支	1年6月
562	広島	光明製針(株)	1000	73	輸出	製針業	1500	製針設備増設	2年10月	支備 五日支	1500	3支1%	1年6月
563	松山	今治夕比輸出(有)	767	18	輸出	染色整理加工業	1500	染色機増設	4年10月	支備 今治支	1500	2支7%	2年10月
564	松山	南塚通運(株)	3000	18	重関	小運送業	1500	小運送設備増設	3年4月	四国 宇和支	1500	3支	1年4月
565	福岡	福岡糖紙工業(株)	1000	26	生必	植物油脂製造業	1500	榨油設備増設改良	2年10月	福岡銀行本店	1500	2支6%	1年1月
566	福岡	東亜工業(株)	1000	93	重関	鋳造業	1500	鋳造設備増設	3年4月	佐賀中央本店	1500	3支2%	2年7月
567	鹿児島	久菱製靴工業(株)	2,000	42	生必	縫製業	750	縫製設備増設改良	3年10月	日向中央本店	750	2支7%	3年1月
計	(334件)						37700				37700		
累計	(774件)						95450				95450		

第三十一回援助資金中小企業貸付承認明細表

承認日 昭和二十五年七月十九日
貸付実行日 昭和二十五年七月二十六日

資金局

水 番 記 号	担 当 店	貸 付 先	資本金 (円)	代表者 (名)	基 準	業 種	貸付額 (円)	貸 金 使 途	期 間	取 扱 銀 行 分			
										銀行名	貸付金額	利率(月)	期 間
568	本店	東洋英珠(株)	180	30	輸出	真珠養殖業	1500	真珠養殖設備増設	4年4月	群馬大同銀行	1500	2%6分	1年7月
569	本店	(株) 東川商店	1500	26	生必	香腸及肉類罐詰業	1000	反毛箱状設備増設	4年4月	大阪銀行	1000	2%6分	1年2月
570	本店	日本醸造工業(株)	3500	129	生必	味噌醤油醸造業	1500	醸造設備増設	3年4月	大阪白旗	1500	3%2分	1年1月
571	本店	日東農産化工(株)	3000	15	生必	除虫菊栽培及化工产品製造業	1500	抽出設備増設	3年4月	豊原銀行	1500	3%	1年4月
572	本店	不二電機(株)	2000	100	輸出	毛-9-製造業	1500	毛-9-製造設備増設	2年10月	大阪札幌	1500	3%	1年
573	本店	三陽産業(株)	1000	61	生必	煉炭製造業	1500	煉炭製造設備増設	3年4月	千葉本店	1500	2%8分	1年8月
574	秋田	秋田港湾運送(株)	2000	197	重関	港湾運送業	1000	船 修 理	4年4月	羽後船政	1000	2%6分	1年10月
575	仙台	廣電兵商店	500	8	生必	味噌醤油醸造業	1000	味噌醤油醸造設備増設	4年4月	七七本店	1000	2%6分	2年7月
576	福島	环合石会社	3000	30	生必	味噌醤油醸造業	250	醸造設備改修	1年4月	新銀会政	250	2%6分	10月
577	前橋	(株) 日豊製作所	1100	125	輸出	自動自動車及小型車製造業	1500	自動自動車製造設備増設	2年10月	足利馬込	1500	2%6分	1年6月
578	金沢	(株) 延生機業場	2000	63	輸出	絹人絹織物製造業	1500	力織機及比一機増設改修	2年4月	橋井武政	1500	3%3分	1年7月
579	名古屋	771-精密工業(株)	500	198	輸出	ミシン部品製造業	1000	ミシン部品製造設備増設	2年10月	第一大塚	1000	2%6分	1年
580	名古屋	(株) 粉井製鋼所	1000	46	輸出	911L製造業	600	911L製造設備増設	2年10月	東海常滑	600	2%7分	3年2月
581	名古屋	英文絹織(資)	193	50	輸出	絹人絹織物	1500	絹人絹織物製造設備増設	3年4月	大和名張	1500	3%	3年4月
582	岡山	(株) 北原織物所	3000	177	輸出	絹織物製造業	1500	絹織物製造設備改修	4年4月	中国井東	1500	3%	2年8月
583	下関	(株) 高橋造船鉄工所	2750	143	重関	船舶運内機修造業	500	造船設備増設	1年4月	帝国下関	500	3%	1年1月
584	福岡	山陽工業(株)	320	91	生必	製 糖	1500	威力印刷設備増設	3年4月	富士銀行福岡	1500	2%7分	2年
585	福岡	協通商事海運(株)	2000	38	重関	海上運送業	1500	貨物船修理	2年10月	秋田福岡	1500	2%6分	1年11月
586	門司	山本製糖(株)	1000	27	重関	製 糖	500	製糖設備増設	4年4月	福岡石炭	500	2%7分	1年
計	19件						22,350				22,350		
累計	78件						117,800				117,800		



明治一八年に入り、大阪商船会社より揚荷仲次業の組合結成が要請されたが、一七年二月には熊本県からも指導が行われ、「熊本県申第百二十八号布達」が発せられ、規則の作成を命じられた。すなわち、二月一七日の日記には「県庁ヨリ同職組合云々之事、御布告ニ依テ規則設置之事ニ付回漕案中忘吾会場ニ於テ第八時ヨリ集會之事、依テ高島西垣出席」とある。このほか、日記には、七月三日には業者の宮崎真三（商号は漢真）「荷賃之事訊入」とあって協議が行われ、同七月二日「忘吾会所ニテ中次問屋ノ事」、前述の一八・一九両日の会議を経て、八月一日「揚荷一件落着ニ付事務受取ノ為メ百貫へ出張一泊」と記され大略方針が決定されたようである。

一八年七月一八日に「百貫港積揚貨物取扱経済分担規則書」が作成され、大阪商船熊本支店に対して、仲次業者の業務を統一することが宣言された。百貫港における揚荷については、商船熊本支店が海運社に全部を委託し、個々の同業者は海運社の下に共同して参加するというものである。百貫港における積揚貨物の取扱いは、大阪商船熊本支店と海運社の請負契約的關係を基本とし、個々の仲次業者との損益分担について約則書として取り交わされたものである。これによれば、

①、損害要償負担の保証金として、海運社は大阪商船熊本支店に、株券で以って二〇〇〇円を預託する。商船への貨物積入や船中の仲仕取扱等はすべて海運社の負担とする（第三条）。また、積揚貨物の仲仕賃に対して、各船より支払う代金はすべて海運社が受け取り、仲仕賃経費とすること（以下第四条）。また、仲仕賃は、各船から受け取った金額を除いて、残額はその年額を海運社が、残り半額は揚荷取入金より支払うこととした。

②、以上の分担方法で海運社が負担することとするが、積荷損益の金額が、半期ごとに平均して一月五〇円以上に達した場合は、その金はつぎのとおりとした。総額を三分割して、一は、海運社の損益。二は海運社長の責任において、事業上の功労者の報酬金など、大阪商船の熊本支店長と協議して費消する。三は、第七条の分担法を以って、残らず配分するといふものである（第六条）。

③、揚荷についての損得の責任負担の割合をつぎのとおりとする。海運社の専有負担（一〇％）、海運社社長の

④

42頁

25-⑨
25-⑩-①②
H-D ⑩

昭和二十五年五月

政府資金による融資の基準となるべき

産業及び交通に関する基本計画説明資料

経済安定本部

5-15
2-6

283

目次
一 電力
二 海運
三 石炭
四 鉄鋼
五 非鉄金屬
六 化學
七 織纒
八 機械
九 港務
十 農林水産

新

一 電力

(一) 鉱工業生産上昇のための最大のネックは電力の供給不足であり、現在日朝
 当別 ピーク電力の抑制等により需給のバランスを取つてある状況である。
 需給差有功需要へ事業用に対するもの(二十五年度二八三億KWHに想定さ
 れたが、之に対して温水にめぐりれ而も火力を平年以上に運転して需給差
 給量に二七四億KWHで需給を蓋すまでに至つていけり。

今後五カ年の需給差電力需給は次の如く想定される。(単位キロワット時)

年度	26	27	28	29	30
需給差有功 必要量	二九七	三〇〇	三〇四	三三八	三五二
百五 有功需給	二九四	三〇六	三一一	三三四	三四七
既設供給力	二六四	二六四	二六四	二六四	二六四
既設供給力 不足率	二七四 六七%	二八七 六一%	二八九 七八%	二九〇 三〇%	二九一 三九%
新規増設 予定の時	二七四 六七%	二八九 五五%	三〇三 五四%	三二六 六八%	三二七 八八%
新規増設 予定の時 不足率	二七四 六七%	二九一 四八%	三〇三 三三%	三二六 三三%	三三一 四五%
新規増設 予定の時 不足率	二七四 六七%	二九一 四八%	三〇三 三三%	三二七 三八%	三三八 一

註 供給力は平均年ベース、不足率は対自立経済有効需要

新規A工事とは経費、準備工事について緊急度の高いもの

新規BはAにつぐもの、新規CはBにつぐもの

以上の如く今後電源開発、ロス軽減を大中にとりあげてほしいので供給はバランスを保つに至るわけであり、之がため自家発電、ロス軽減等によつて当面の不足をカバーしつゝ、新規電源開発により将来にぞびえまなかれば自立経済計画自体の縮少は避けられぬ状況である。

然るに現行電気料金は原価主義によつてゐるため充分な利益も計上出来ず、過去における建設資金の大半は国家資金に依存して来た。今後経費は且つ大中に再評価による鎮却増を料金面に織込み、極力自己調達力の増大を計つてゆくが、なお所要資金額は巨額であるので、電力供給増大のため政府資金の投下を行う必要がある。

更に自家発電については、各企業とも増産態勢を取つてゐるので今後の電

力需要は旺盛である。然るに電気事業者よりの買電に依存してゐるときは純体量の不足により他律的調整を余儀なくされるので、企業としても操業度の安定のため自家発電の建設を必要とする。且つ当面の電力需要の増加を企業内部で賄ひしめ、極力需給バランスの不均衡を調整せしめるためにも自家発電の建設を促進せしめる必要がある。

(二) 以上により危当り二十六年度に於ける政府資金投下の対象としては新規電源開発、ロス軽減、自家発電に重点を置いて次のように考えられる。

(1) 新規電源開発

新規電源開発は当面の不足はカバー出来ぬが、将来に於ける需要増大に対応するため必要であり、開発対象としては発電原価の安い水力の開発に重点を置き、水力発電中でも特にダム式の開発に重点を置く。

(2) ロス軽減

二十五年度に於て送配電ロス率は約三一%である。年々約一二%、應KW

H程度の電カがロスになつており、ロス一〇億KWHが圧縮出来れば二〇万KWHの発電所の新設に相当し、工事効果も短期にあらり当面の供給過に昇与するのでロス軽減工事に重点を置く。

(3) 自家発電電気事業にくらべて自己調達能力も大であり、国家資金に対する依存度が少く、工業効果も短期にあらり当面の供給増加に昇与し、且つ企業自体としてもコスト減、増産の基盤となるので、極力自己調達により建設を行ゆめらるが、不足については政府資金の援助が必要である。それについて地域的需給バランスを考慮し、石炭鉄鋼等生産増産を緊要とし、⁽⁴⁾ いるものに重点を置く。

二 海運

(1) 日本経済の早期自立を図るために商船隊を整備補充し、海運を再興することと貿易条件及び国庫收支の改善、貿易物資の輸送確保並びに基幹産業の培養等から見ても根本的の問題である。最近国際情勢の変化に伴い本邦輸入

物資に対する外国船利用は漸次困難の度を加える趨勢にあり、之に加えて中央輸入物資の遠洋最寄の措置により大量の大型航洋船種の確保を更に必要とする事となつた。

然るに我が国の保有する外航貨物船(国庫船級取得船)は昭和二十六年三月三十一日現在見込で千噸が一〇三五五四千噸(約八一六千%)しか保有してゐない状態であり、昭和二十五年度に於ける貿易物資の邦船による積取比率は二〇%にも達してゐない状況である。いま、昭和二十六年度の輸入物資量を一五〇〇千噸と推定し、この中約五〇%を邦船で輸送するものとすれば、約一四〇〇千噸(約ニ〇〇%)の外航貨物船を必要とするのである。

かゝる情勢に対応するためには速かに自國外航船種を増強することが緊要であるが、我が国の海運企業は戦事によつてその保有する船舶をほぼの資産の大部分を喪失したため資本の蓄積は殆どなく、また戦後における船隻増産

のための市中金融機関から融資を受けた額も極大のものとなつてゐるが、河
 要資金の自己調達に困難であり引続き政府資金の援助を必要とする。

(二) 危言に二十六年度における政府資金投下の対象として何次のように考えら
 れる。

(1) 外航船隻取得のための戦艦船改造

(統統工事) A型改造 二隻 約 一二十千鈔

(新規工事) " 一八隻 " 一一三〇

丁型改造 八隻 " 八〇〇

(2) 大型外航船の建造

(統統工事) 六次船及びその追加 約 二二一十千鈔

(新規工事) 七次船前期 " 二二五〇

" 後期 " 二〇〇〇

(3) 沉船の引揚修理

(統統工事) 一隻 約 一九千鈔
 尚、今後の情勢如何によつては、外国船の買備船に對する政府資金の授
 下、或は買備船に對する市中融資の政府資金による肩當りを考慮する必要
 もあろう。

三 石 炭

(一) 二十五年度における国内出炭量は三九三四〇千屯であつたが、需要が供給
 量を上廻つたためかなりの逼迫を見せ、二十五年度未貯炭は一四六二千屯と
 適正經常貯炭(約二五〇〇千屯)を割るに至つた。二十六年度の国内出炭量
 は四四〇〇千屯と見込まれるが、産業活動の活発、輸出(特需を含む)の
 増加のため需要を満たし得ないのでないかと予想され、更に二十八年度に
 付四六〇〇千屯乃至四八〇〇千屯程度の出炭を要すると考へる。

炭 給	前年度繰越		二十五年度	二十六年年度
	国内	出炭	三九三、四〇	四四、〇〇〇
需 要	国内炭需要	計	四六、〇八二	四七、二八二
	輸入炭需要	計	四、〇五六	
欠 け	計	計	六八七	五〇〇
	計	計	五五八	
次年度繰越	計	計	四一、六三〇	一四、六二二

(註) 単位千吨、二十六年年度国内出炭見込四四、〇〇〇千吨では欠斤を差引りて四

三五、〇千吨の国内炭需要を満たし得るに過ぎず。前記の通り炭給不足が予想されるので二十六年年度の需給見込は未だ明かとなつていない。

このように最近年の間は、経済的自立を目標とする産業活動の向上に従つて、従来の出炭量の増加を因からなければならぬが、この出炭の増加は特に必要とされている特殊用炭及び一般高級炭の需要を満たすものであるとともに、品位の向上と価格の低下を伴うものでなければならぬ。

しかしながら我が国の石炭鉱業は、自然的条件に恵まれていながら、坑内外の設備も劣化してあり、現状においてたゞ出炭の増加を望むならば、必然的條件の悪化及び労働能率の低下を招くこととなるので、今後における出炭力の維持増強を因り併せて品位の向上、価格の引下げを行うためには、相当量の資金を継続的に投下する必要がある。

地方石炭企業の経営状況を見ると、戦後の計画的な出炭増加が行われた当時において、炭卸費を以て行うべき起業さえも借入金に依存せざるを得ない状態に

置かれた、ゆえ多額の現金借入金を残してあり、また自売制度への移行、現金採
能停止後の設備資金不足などから短期借入金乃至未払金も多し。

ために現在の石炭企業は、出炭増加乃至合理化のために設備資金を必要とす
ると、もに、過去における之等の借入金乃至未払金の整理にも迫られてあり、
一般的に見て設備資金の自己調達余力は乏しい。所謂大手筋の企業においても
新鉱及び新区域の開発などに多額の設備資金に必要とし、見返資金建設工事に
ついで引続き政府資金の援下を必要とするものが多い。またそれ以下の中小炭
廠においては自己調達余力は更に乏しく、而も之等の中小炭廠は現在の出炭量
の相当部分を占め且つ出炭の弾力性に富んでゐるので、早急な増産を必要とす
現状においては特に考慮を払ふ必要が認められる。

(三) 是当り二十六年度における政府資金援下の対象となる設備は、特殊用炭、一
般高級炭の増産に重点をおいて、次のように考えられる。

(1) 新区域の開発による出炭増加

現在の炭行区域は大体において采部に移行してゐるので、諸条件の悪化
を防ぐため運搬、排水、通風設備の整備、主要坑道の集約など総合的合理
化を必要とするとともに新区域の開発をも併せて行なうなければならない。
このために断層帯の突破、長距離にわたる岩石主要坑道の開鑿、採掘法の
取明、運搬、通風、排水設備の増強などに重点を置く。

(2) 新鉱用発による出炭増加

現在坑口による出炭は採掘切羽の深部移行のため出炭力の漸減、能率の
低下を招く傾向にあるので、経済出炭の維持と増産のための準備工
事として新鉱区における新炭層の開発（主として西彼杵、佐賀、石狩炭田
）に重点を置く。

(3) 機械化による出炭増加

坑内外設備の総合的機械化、特に採炭、掘運、運搬系統の機械化による
出炭能率の増加が必要であるので、採炭、掘運、運搬系統の機械化のため

(4) 選炭強化による品位の向上
 の概減輸入及び坑内鉄化のための鉄柱、鉄梁、カツベの増強に重炭を置く。

特殊用炭 一級高級炭の需給の適合を図るための精選設備（特にパウム水
 洗機）及び浮選設備（特に製鉄用強粘結炭）の増強に重炭を置くが、地理
 的需給の均衡を図るために常盤、宇部地を代表銘柄の品位向上につりても
 併せて重炭的に考慮する。

四 鉄 鋼

(一) 二十五年度に於ける普通鋼々材生産実績は次表の通りで、当初計画二五〇。
 千吨を上廻つたばかりでなく、四半期毎に増えられた生産計画をも突破した
 が、これに対する需要も輸出及び特需の増加、生産水準の上昇、建設投資の
 拡大等により著しい増加の傾向にあり、品種別にみれば特に鉄板、亜鉛鉄板
 ブリキ、高級は上鋼板におりて供給不足が著しかった。

	1/4	2/4	3/4	計	実施計画	実 績	比率%
	七三〇	七八一	九五五	九七六	三、四四三	三、五七七	一〇六七
							九六・八
							一〇六・〇
							一〇五・四
							一〇三・九
							一〇四・一

(単位 千吨)
 (註) 括弧内は当初計画を示す。

二十六年度の生産計画は、原料事情の見直しに期待が持たれるようになつ
 たため、当初計画三六〇〇千吨を上廻り四〇〇〇千吨以上の生産が予想され
 る。その場合の品種別生産見込及び之に対する品種別需要は次の通りであつ
 て、引続き供給不足は避けられないであろう。

鉄板	360		
亜鉛鉄板	525		
珪素鋼板	55		
小計	940	760	180
高級仕上鋼板	53	45	8
鉄刀	115	95	20
一般圧延品	3548	3100	448
計	4656	4000	656
			不足

また我が国の鉄鋼生産設備は、設備能力としては前記生産実績乃至見込を
 遙かに上回るものを持つてゐると云えるのであるが、その建設年次は一戦に
 古く既にその大半が秀朽化並に疎腐化して居り、殊に戦時中の酷使による損

耗度が見し以上その後の補修整備も十分に行われまいので、若外國に
 比して着しく立廻れた状態に在る。従つて鉄鋼業及びこれを基礎とする造船
 その他の産業が、平常の狀態における國際的自由競争に堪えるようにするに
 付、現在において石炭とともに鉄鋼生産設備の合理化を最優先的に進めねば要
 があり、殊に圧延設備の合理化、近代化を必要とする。

現有設備能力 (單位千セ)	設備建設年次 (%)
鉄板能力	昭和三年以前
5592	40.5
亜鉛能力	昭和四一十三年
11604	25.5
珪素能力	昭和十四年以降
8712	34.0

朝鮮動乱後の鉄鋼業の収益状況は極めて良好ではあるが、増産に要する選
 取資金の増加が甚だしく、ために市中借入金が増大の一途を示してゐるばか
 りでなく、その所費設備資金は地産業に比して増大のものであるから、所費

資金の凡てを自己調達することは困難であり政府資金の援助が必要である。

(二) 差当り二十六年度における政府資金投下の対象として何次のように考えられる。

(1) 圧延関係

現在最も不足しているブリキの製造設備、不イラ、チヌープの生産を目的とする電線管用帯鋼の製造設備、ニロ、⁽¹⁾の広巾帯鋼製造設備、ストリップミル関係の設備、異型中小型圧延設備及び分塊圧延設備の近代化を重点的に考慮することとし、特に輸入機械による近代化に重点を置く。

(2) 製鋼関係

屑鉄不足に伴う鉄鉄配合率の上昇、平炉の能率、製品の向上を目的とする炉容量の増加などの傾向に対し、実験成功済みの酸素製鋼方法を平炉製鋼に使用することにより製鋼時間の短縮、コストの引下げを図る必要がある。

行 86

3. この場合特に生産量の多い平炉メーカーの合理化に重点を置く。

(3) 砂鉄を原料とする特殊製鋼関係

鉄鉄原料の不足に対応し、国内資源の活用と低磷、低銅、低炭素鉄及特殊鋼の増産を図るため、砂鉄を原料とする製鉄設備を増設することとし、特にその技術の特殊性に鑑み、経験の長い技術優秀なものに重点をおく。

(17)

五、非鉄金属

I 金属鉱業

(一) 非鉄金属は、昨年朝鮮動乱の前夜より内本の需要が極めて旺盛となり、二十六年度以降、銅、鉛、亜鉛、錫、ニッケル等大部分の非鉄金属は海外から相当程度の原料磁石又は地金の輸入を行わなければ到底需給の均衡を維持し難いのであるが、これらの入手については国際原料割当委員会の規制により相当困難が予想されている。従つて今後は、非鉄金属の国内資源の開発率によりその増産を図らなければならぬ。その状況は次の通りである。

(1) 銅

次表に明らか通り、二五年度までの生産はその半分以上を故類によつていたのであるが、故類は急激に減少しているので今後生産量の維持向上を図るためには急激な国内鉱の増産を行う必要がある。(単位吨)

	昭和五年実績	昭和六年見込
練成	一八七四八	三〇〇〇
国内鉱	四〇、五六一	四三、〇〇〇
外国鉱	〇	二〇、〇〇〇
合計	四九、三三〇	六三、〇〇〇
消費	一〇八、四三九	八八、〇〇〇
繰越	一〇五、四三九	八五、〇〇〇
合計	二一〇、八七八	一七三、〇〇〇
差	一〇八、四三九	八八、〇〇〇

(註) 二五年度消費には輸出を含む。

鉛、亜鉛

鉛、亜鉛はともに最近の需要増加が必要である。(単位 担)

供給、生産、輸入、消費、貯蔵

	二五年度実績	二六年度見込	二五年度実績	二六年度見込
供給	二九、三〇一	七五〇〇	二九、三〇一	七五〇〇
生産	一七、五五九	二一、五〇〇	一七、五五九	二一、五〇〇
輸入	〇	〇	〇	〇
消費	四八、八六〇	二九、〇〇〇	四八、八六〇	二九、〇〇〇
繰越	四一、三八〇	三七、〇〇〇	四一、三八〇	三七、〇〇〇
合計	七、五〇〇	一〇、〇〇〇	七、五〇〇	一〇、〇〇〇
貯蔵	四八、八六〇	六六、九七三	四八、八六〇	六六、九七三

(3) その他

水銀、マンガン、硫黄はついても、二五年度の供給額が水銀四七七、マンガン一八四千九、硫黄九八八〇〇とあり、二六年度は水銀二五〇九、マンガン一五〇九、硫黄一五三九とあり、マンガン三〇三九、水銀一六四九、硫黄一五三九とあり、輸入増加及び国内

鐵増産により供給の増加が見込まれている。而も最近の需要増加により更にも不足を予想され、また輸入も困難な見通しであるから、早急に国内生産の増加を図る必要がある。

ニッケルについては、国内生産は殆どなく而も供給は逼迫しているもので、早急に輸入鉄石の国内精錬設備を峻旧整備することが望まれる。

尚、勤労後非鉄金属鉱業の状況は著しく好転して来れど、之等の増産計画の遂行に要する設備資金は極めて多額に上り、反めれば自己調度だけでは賄いきれないところがあるので、政府資金による援助が必要である。

(4) 差当りニ六年度における政府資金投下の対象としては、銅、鉛、亜鉛、水銀、マンガ、硫黄、硫化鉄の採掘、運搬及び精錬設備、ニッケルの精錬設備に直充を置くが、ニ五年度見込資金申請工事である全増産は要する送電精錬設備についても併せて直充的に考慮する。

II アルミニウム産業

(1) 我が国のアルミニウム産業設備能力は約八千トンであり、そのうちには欧米の同種設備にも劣らぬ近代的重型式圧延設備が二工場あるが、両工場ともは運転不能のため非能率的な設備を稼働している現状である。ニ六年度におけるアルミニウム産業は、石休止設備の稼働を見込んで三九千トン程度と見込まれるが、之は対し需要は四〇〇〇トン以上を予想され、最近の國際情勢推移は益々その供給力の増加を必要としているので運輸圧延設備を稼働することはより増産の要請を充てると共に、原単位、コストの切下げを図る必要がある。

(2) 従つて、非鉄金属工業におけるニ六年度の政府資金投下の対象としては、差当り休止中のアルミニウム運輸圧延機の峻旧整備に直充を置く。

六、化学

Ⅰ 化学肥料

(一) 食糧増産に關連して國內需要を十分確保する必要があり、同時に海外需要も今後増々増大する傾向にあるので、設備の拡充とそれによるコストの低下を因らねばならぬが、二六年度に重兵費を考慮を要するものは主として硫酸及び石灰である。

硫酸の現有設備能力は二六年度三月末現在二二〇〇千屯、その生産実績は約一六二〇千屯であるが、他方硫酸に対する二七年度の最低需要量は二一七〇千屯と想定されるので、差当り約五〇〇千屯の能力を拡充する必要がある。(23)

石灰の二五年度生産実績は約八六〇千屯であるが、二六年度の最低需要は二百万屯と推算されるので、その増産が必要とされる。

(二) 二六年度に於ける政府資金投下の対象としては次の設備計画に重兵を置

(1) 電解用炭等の他に、より電増加が確實に期待される工場がガス法操業に合致した電解法設備を内設することにより、半水性法操業による企業合理化と生産力の拡充を併せて行うもの

(2) 電解法工場が遊休施設をガス法施設に有利に再活用し、半水性法操業による生産増産を図るもの。(24)

(3) ガス法設備の増強により、電解、ガス法の不均衡を是正し、半水性法操業による生産増産を図るもの

(4) 石灰製造業者の設備の近代化により企業の合理化及び増産を図るもの

Ⅱ 化学薬品

(一) 今後の化学繊維、合成繊維などの増産に対応して、之等の基礎化学工業について急速な設備の拡充を行わなければならないと、もく、一般的に基礎

化学工業の合理化近代化が必要である。

(一) 並当り二十六年度における政府資金投下の対象としては次のように考えられる。

(1) 需給逼迫度の高い基礎化学工業の設備拡充については、次の設備計画に重点を置く。

(1) ポパール

合成繊維ビロン原料施設は合成繊維生産計画に對應して拡充を図る必要がある。二十六年度には月産約二百五十屯のポパールの需要があるが、電力供給、資金事情等を考慮し一五〇屯程度の生産設備の増加を要するものと考へる。

(25)

(2) 石炭酸

ポリアミド系合成繊維の増産により需要増が予想されるので新式高圧スルフォン化装置を採用した生産能力の拡充を考慮する必要がある。

(3) 蒸水フタル酸

プラスチック工業の進展に伴ひ、内需の不足のみならず、海外需要に備へるため、優秀設備の拡充を要する。

(4) 合成染料

精製染料品の状況から存スレン系染料の供給が不足しているから、その拡充を図らねばならない。

(26)

(2) 生産設備の近代化合理化については、次の設備計画に重点を置く。

(1) シトダ工業における新型式電解槽に依る電解設備の更新

(2) アズソーグ原料の輸送荷役設備の整備

III その他

(1) パルプ

パルプの不足は今般の海外輸入の見通しから国内増産によつて補われず、増産の必要が、従来の製造のみでは必然的に国内原木資源の消耗を

来たり、増産量に制約を受けざるを得ない。これに対し晒クラフト紙の新技術による従来の特筆衝のみならず、順業樹の活用も可能であり国内資源の合理的活用と積立つだけでなく、製品品質の向上、歩留りの増加などをもち、技術的に世界水準に達することが出来る。

パルプ業界は取分、相当の好収益を挙げてゐるものゝ、新設工場は膨大投資金を要するため、その所要資金を自己調達のみで賄うことは困難であり、政府資金の援助が必要である。

(2) ゴム

ゴムの二十五年度の生産実績六三、五〇〇屯であるが、これに対し二十六年度の生産計画は七二、千屯である。就中、タイヤについては現有生産設備能力一、五七、六屯に對し二十六年度の生産計画は二、一〇〇屯と居り、自動車工業の発展に伴うタイヤの急激な需要増加に伴いタイヤの生産設備の増強並びに合理化が必要である。

(3) 高級潤滑油

二十六年度における高級潤滑油の需要は三、八千坪であるが、現在の生産能力は僅か一、四千坪に過ぎず、且つ、国内消費の方が輸入よりも割安であるので、設備新設を必要とする。政府資金の投下の対象としては比較的に設備費が少なく且つ効果の早い旧燃料廠設備の増設費用を主体とするものに重きを置く。

(4) ガス

二十五年度におけるガスの生産実績は一、八二百万立方メートルであつたが、主要都市地域における需要増加のため二十六年度の生産計画は一、四〇七百万立方メートルと居り、設備の便旧乃至新設を必要とする。従来ガス企業は戦災後旧資金などを自己調達して来たのであるが、最近では今後需要増加に應ずる設備資金調達の余力は無く、またその生産増加は炭酸ガス及び電力の所取にも資するので、政府資金の援助を必要とする。

(5) ストレプトマイシン

ストレプトマイシンの最近の生産量は月産約一〇〇吨程度であり、他方、最近有効需要は年間二十四屯と推定せられる。国民の保健衛生上、差当り新技術の導入によるストレプトマイシン月産五〇〇吨程度の増産が必要である。

七 繊維

(一) 繊維製品は、従来から衣が国輸出の中心を占めており、その生産の増加は輸出の増進、民生の安定上極めて重要である。

綿紡については、六百万錠以上への増設が計画され、二十六年度においては棉糸七億疋の生産が見込まれ、またスフ、人絹についても二十六年度三億九千万疋の生産と、之に伴う設備増設の計画が進行中であるが、之等の所要資金の自己調達は可能であると見られる。

製紙米國で急速に発展して来た合成繊維は、主原料の自給が可能であり、

またその生産から見て材料用、工業用、漁業用としても極めて適当であるが、現在その現貨は小さく日産能力十五トン程度であり、二十五年度(昭和五年)に於て、その生産実績は百万疋に充たず、二十六年度末において約八百万疋の生産が見込まれている。そのうち漁具用繊維を取り上げてみても、その年間使用量は棉糸二六百万疋、マニラ麻四六百万疋、其の他合計、七二百万疋であり、合成繊維類推定使用量はゴロン二八百万疋、ビロニリデン四〇百万疋、アミラン四三六〇千疋であり、耐久力その他の美より換算して、天然繊維に及ばずれば、夫日産十五トン、二十トン及びニトン程度の需要を見込み得るし、また工業用濃布の年間消費は棉糸にして四〇百万疋である。合成繊維は、その耐久性等の美よりして製品価格のコスト引下げに寄与し得るとともに、代替された棉糸を輸出用に消費して外貨獲得に充当し得るので、之が補充は重要である。

醋酸纖維は、現在屋かにパイロット・プラントを脱した程度であり、それ自体はいは他繊維との混紡等により、衣料用として好適であるので、早急に経済單位の確立を促すから存続はならぬ。

強力人絹は主としてタイマコード用に使用されるのであるが、生産が開始されたばかりで、試験的生産の域を脱してはいない現状であり、二十六年度末においては合計日産能力三三・五トンが予想されるが、想定需要は内需二千万疋、輸出需要二千万疋の大量に上るため、三三年後には日産能力六十トン程度の設備が必要となるであろう。

これ等の合成繊維、醋酸纖維及び強力人絹の増産は、綿花、羊毛等の輸入の節約、外貨の獲得、繊維工業及び関連工業の発展、民生の安定に資する処極めて大なるものがあるとも、新規事業であり且つ経済單位の工場建設に多額の資金を要するので、政府資金を以て援助する必要がある。また纖維製品の最終加工段階である染色整理部門は、技術的に非常に立

ちおくれであり、生産のま、輸出され、輸出先で再加工されて、更に輸出されていく状況にあるので、これらの技術、設備の高度化を図り、輸出の増進に資する必要がある。

(一) 二十六年度に於ける、政府資金投下の対象としては次の設備計画に重点をおく。

(1) 合成繊維

米国技術導入による塩化ビニリデン系合成纖維製品及び之に伴う原料設備の新設を図る。

(2) 醋酸纖維

原料及び紡糸一貫による醋酸纖維糸、醋酸纖維製品の設備の増設を図る。

(3) 強力人絹

連続紡糸式強力人絹製造設備の新設を、はかる。

(4) 染色加工工業

機械の輸入等により、綿の原料採取、特殊採取設備、絹、人絹の採取、高級仕上設備、スフの樹脂加工設備の近代化をはかる。

(33)

ハ 機械

(一) 我が國の機械工業は、その設備が著しく老朽、陳腐化しているもので速にその設備を更新し、もつて国内産業の必要とする優良機械の円滑なる供給と、輸出の増加を図る必要がある。

機械工業の収益性には動蕪動乱以後相当の回復がみられるが、この際積極的の府合理化の実施のためには資金の自己調達能力は著しく不足であり、設備更新計画の中心をなす輸入機械は、米國の国防生産法の施行などにより早急に輸入しなければならぬ事情になつてゐるから、政府資金をもつてこれを援助する必要がある。

(二) 造船

目下建造を急いでゐる外航船舶に充分な競争力を与え、併せて輸出船の受注を促進させるためには、長期間天ち遅れ及造船工業に近代的技術を導入し、設備の更新、拡充を図る必要がある。

262

欧米先進国に於ける建造方式は、熔接中心に近代化されているのに対し、我國の熔接使用度は平均四五%であり、これを九〇%程度に拡大し、船度の向上、鋼材の節約及び工数の節減を図るために造船所の熔接関係諸施設を整備することが急務である。

また世界主要海運国の航洋船は、その喫水に殆どディーゼル機関を装備して居るが、我國の大隻ディーゼル船造能力年間二一七千馬力では、目下建造を急いで居る外航船の需要に應ずることさえも出来ない状況である。そこで差し当たつての需要を濟し且つ今後の新造外航船のディーゼル化傾向に対応するための、建造能力を年間最低二八〇千馬力程度まで増強すると共に船度の向上と工数節減を図るための設備の近代化が必要である。

(2) 自動車

現在月産二五〇〇台の生産能力をもつが、特需、千両車等の需要増加を見込むと、月産三〇〇〇台に至る生産能力の増加を必要とする。

一方現有生産設備のうち工原機械の八〇%は取得後の経過年数が一〇年以上であつてこの老朽化による生産能力の低下が甚しいが、主要工原機械の大半は外国製機械が占めて居るので機械輸入を中心とする設備の近代化が必要である。

(3) 通信機

(4) 無線通信機

生産対象が国際的にG.T.管、M.T.管の如き小型真空管、極超短波無線機へ変化して来て居るがその製造設備が現在充分でないので、機械輸入を中心として設備の更新が必要である。

(四) 有線通信機

有線通信機の趨勢は新型電話機への全面的切換、交換機の高性能化、多量搬送通信に違ひつゝあるが、現在の老朽設備ではこれらの生産に支障を来して居るから機械輸入等により設備の近代化をはからねばなら

付い。

(4) 強電機機

電機兩発及びプラント輸出振興のために発電機機種の増産を要するが之等は世界的に大容量機種の移行しつつある。取崩においてはこの生産にかたりの実績をもつて居るが、現在は試験設備能力の不足、生産設備の世能低下から、取崩の水準にすら達せず、欧米諸国と相当の差を生じて居る。

(5) 軸受

軸受は機械の基礎部品であるので、現在世界的に需要が増大して居る。我國においても廿五年度実績四五〇。モに対し廿六年度の需要は産業活動の活性化及び輸出の増加により五二〇。モに達すると見込まれ、又生産的には高積度、高速回転、大負荷のものが必要が増加して居るが、現有設備は老朽化して居るものが多く、之等の要求に應じ得ないので、設

(37)

(二)

需要新による近代化を必要とする。差し当り二十六年度における政府資金投下の対象としては次の設備計画の重要を置く。

(1) 造船

船機作業のための諸施設整備及び現在大型ディーゼル機関を製造して居る造船所及び専門工場能力増強

(2) 自動車

工作機械の輸入を中心とした設備近代化

(3) 通信機

(4) 無線通信機

機械輸入等による小型真空管放送設備拡充並びに短波通信機の最良のための標準的測定器の整備

(四) 有線通信機

(38)

254

機械輸入等による新製電話機の製造設備充実

(4) 強電機

大型発電用機械長尺のための試験設備増強、及大型工用機械の輸入

(5) 軸受

専用工用機械の輸入等による設備近代化

九 港湾施設

(一) 昭和二十六年度における港湾荷役量(九大港)は三六百万屯と推定される

が、之に対する能力は二六百万屯と過ぎない。この荷役力の不足は荷役待ちによる滞船を生ぜしめ、輸送の円滑を妨げコスト高をもたらすものである。

而して港湾荷役は沖荷役(船取)と接岸荷役に大別されるが接岸施設の大幅増収(約七〇%)により沖荷役に着しく負担がかかりその比率は約八〇%を占めている。

(二) 倉庫上屋

港湾荷役対象貨物の約半数は必ず上屋荷捌き及び倉庫保管を必要とするが、この倉庫上屋の不足の状況は次の通りである。(九大港)

現有 坪数	六六三、千坪
内、接收 坪数	一三〇、千坪
日本側採用坪数	五三三、千坪
昭和二十六年度所要坪数	八二五、千坪
要更設 坪数	二九二、千坪

而も日本側採用坪数五三三、千坪のうち約三三〇、千坪は木造倉庫若しくは工場野用倉庫であつて特殊貨物(棉花、羊毛、穀物等)の保管は若んど不可能である。

(2) 船

接岸荷役に対する沖荷役比率の増大は勢ひ船に対する負担となつて現水、將船は次の通り不足している(九大港)。而もこの現有將船のうち約七〇

※付船令十年以上を経過した危険且つ非能率な老朽船である。

現有解老数 五五二千 9%

昭和二十六年度所要枚数 六八五千

差引不足枚数 一三三三

(二) 差留り二十六年度における政府資金投下の対象としては次の設備の重複を置く。

(1) 倉庫上屋

(1) 倉庫及上屋の機能が不充分な大聖船接岸可能な岸壁が充分に活用されていない場合、その施設の整備を図る。

(2) 沖荷役設備の古い港湾においては大聖船接岸が不能であつても、接岸可能で敷設設備が完備している立地条件の良い倉庫上屋の整備を図る。

(2) 港

京浜、阪神、関門及び名古屋等の比較的沖荷役設備の古い港湾については、解老(含更船)の改造及び新造を図る。

十 農林水産

I 農林漁業

(一) 日本経済の自立達成のためには、農林漁業生産力の増強が強く要請されるのであるが、戦時中から正常な資本投下を行わなかつたために、生産基盤の荒廃が著しい。この復旧をはかり、増産の効果をあげるには、相当量の長期資金を必要とするのであるが、戦後一時的に好況であつた農林漁業所得は、インフレの終末農作物価格と生産資材の価格のシエールの拡大等によつて、たちまち下落し、資本蓄積は到底望み得ない状態に任り、また事業の生産上一般金融の対象ともなり得ない。従つて農林漁業生産力の復旧、育成につき、長期且つ総利資金供給するため、特別会計の設置せられた。

(二) 特別会計資金の二十六年度における以下の対象としては次の設備に重点を置く。

農業 灌漑排水、土地改良、畑地灌漑、土壤保全、農土改良、千石

小水力発電施設

林業 造林(植栽、補植、換育)、林道

漁業 漁港、漁田開発

その他 塩田等

I 加工部門等

(一) 自給度の向上、民生の安定のため、今後農林水産物の二次加工部門の伸展を必要とするのであるが、農林漁業 特別会計はこの部門に対する融資は行はれないことになっているので特に重要なものは、旭の政府資金正もつて融資する必要がある。

(二) 差当り二十六年度における政府資金投下の対象としては次の設備計画に

重点を置く。

(1) 精糖

戦前の精糖設備は全国外地にあつたので、戦後の精糖業は全く新しく充足したものである。現在の設備能力は十四工場で日産二二〇。トンであるが、今後粗糖の輸入は相当増加される見込であつて現有能力では処理し得ない。二十六年度の粗糖の輸入は 四五〇千トンと見込まれているので、日産六二五トンの能力不足となる。

(2) 固型肥料

戦後の我が国においては従来のような硫酸厩肥大豆粕等の有機質肥料の入手は困難と存つてきた。これを補ふために考へられたものが固型肥料であり、試験の結果化学肥料の欠点を補ひ効力に持続性があり、また吸収率も硫酸の倍以上であることが明と存つて需要も三二〇千トン以上と見込まれるに至つた。この現有能力は、僅か五一千トンに過ぎないので

相当の設備増強が必要である。

(3) 捕鯨船建造

南氷洋捕鯨における各国の船団は、平均すると一四千トンの母船と、四
二四トンの捕鯨船十二隻で構成されているのに対し、我々の船団は、平均
一七千トンの母船と、三五九トンの捕鯨船九隻により構成されて居り、この
数字からみても、能力に相当差があることは否定出来まい。

二十六年度出漁からは、我が国の母船は、新造及び汎船引上によつて
母船の隻数は平均一八千トンを下り、能力も更に増強されることになつて
いる。従つて、捕鯨船の増強をはからなければ、母船の能力を充分發揮
し得ない。また各国船団の捕鯨船も大型化し、効率もよくなつて居るので、
これらと対抗するためにも、大型優秀捕鯨船の増強は必要である。

(45)

(4) 水産物高度利用施設

水産物の廃棄率は、相当回復したが、国民一人当りの消費量は、約七

三瓦であつて、戦前の二〇〇瓦に未だ及ばないのが現状である。水産
物の増産は右の事情から必要とされるのであるが、水産物の保護とい
ふ観点から、漁獲高を上げることよりも、漁獲物を肥料や飼料にせず、
鮮度を落とさぬ様にして出来るだけ食用に供すること望ましい。そのた
めには製氷、冷凍、冷蔵の施設を、その不足する地域に新設又は増設す
る必要がある。

(5) 生糸

生糸の一時的好況によつて、製糸業者は相当利益を得たので、ある
が、原料絹の価上りにより、その収益は、安定性を持つに至らず、購買資
金の調達に追われているのが現状である。従つて生糸のコスト低下を圖
るため自動採糸機設置による合理化を國から促せば、好む。

(46)

(6) 塩

我が國の塩の消費量は、年間的二〇〇千トであるが、國內産は五〇〇

千石とその他のものを購うにすぎない。今後も減の需要も相当増加してやぐものと思はれるので、国内産の盛について増産をはかる必要がある。是等
リニ六年度においては、美空式炭盛設備を増設し八〇千石程度の増産を
はかる。

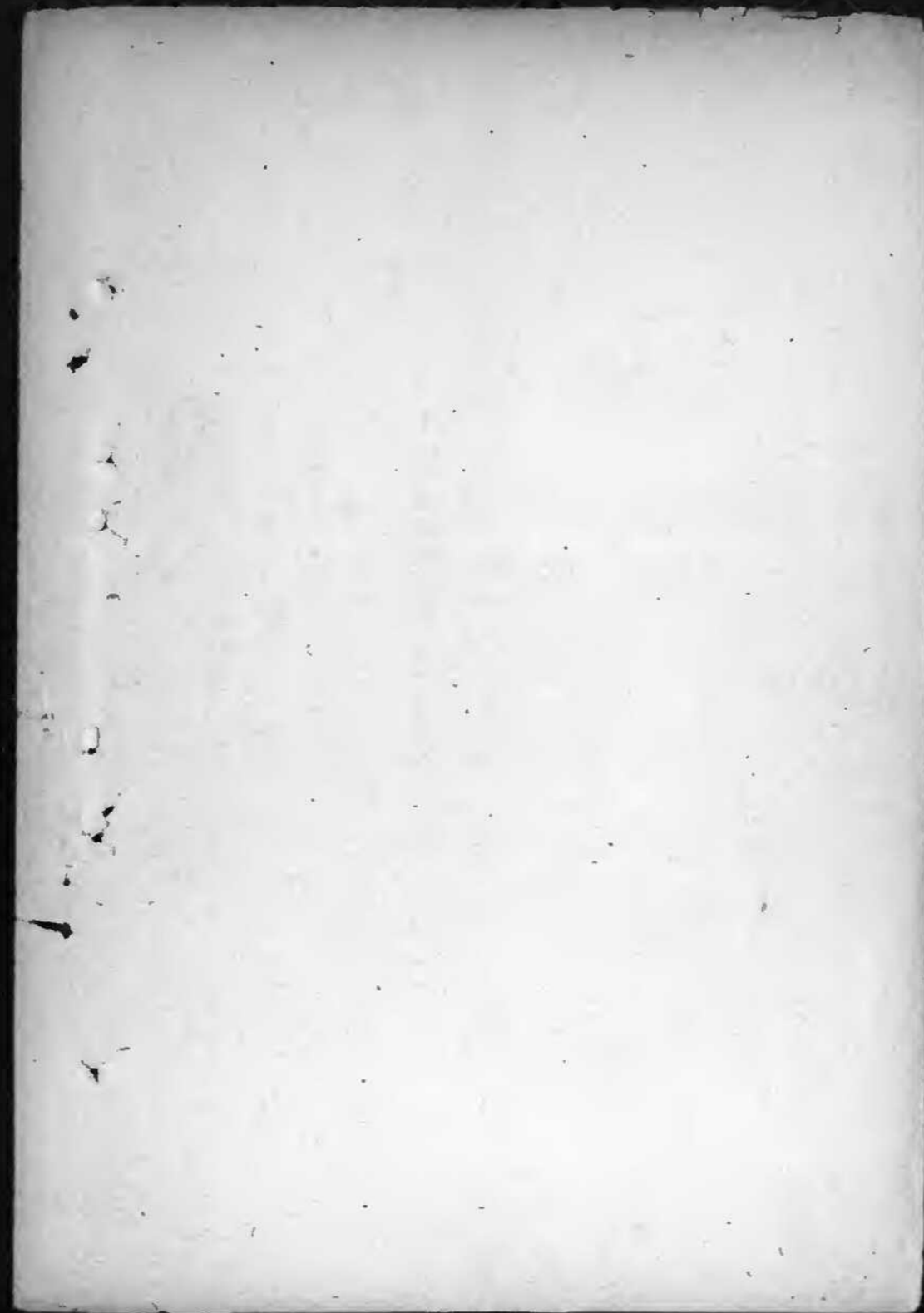
(7) 乳製品

ニ五年度に於ける乳牛頭数は二一〇千頭、牛乳生産量は、二〇〇〇千石
であつて昭和十八、九年頃と略同じであるが、消費量は二〇〇〇千石であ
つて、約二五倍に上昇している。今後消費量は相当伸びるものと予想
されるが、現有設備は、何れも老朽が著しくコストも非常に高い。

我が国の酪農は、將來外國製品の圧迫を受けることは当然予想され
ることであつて、優秀な外國牧畜を輸入して老朽化した設備を更新し、品
質の向上コストの低減をけからなければならぬ。

(8) イースト

イーストの需要は、現在二〇〇千ポンドであり、需給は大抵バラバ
スしている。しかしその原料を焙炭としているため、全て輸入にま
ねばならない。米國では、數種特殊強化に伴いアルコール原料として糖
蜜の買付を積極的に行つてゐるので、ギューバ、ハワイ、フィリッピン
等からの輸入には余り期待し得ないのが現状である。従つて焙炭に代る
ものとして、甘糖製粉製造の際の廃液を利用してイースト生産を行う必
要がある。



金融機関関係種別設備資金貸出額 (単位:百万円)

(昭和24年3月～昭和25年3月)

種別	昭和24年					昭和25年					年間計
	2/28	3/28	4/28	5/28	6/28	2/28	3/28	4/28	5/28	6/28	
① 鉱業	36447	36553	38357	38610	38669	404	1806	251	39	2200	
金属鉱業	1381	1585	1904	2066	2558	104	319	122	490	1175	
石炭	33877	33758	35380	35251	35019	△	1576	△	△	1142	
② 工業	1187	1231	1083	1293	1078	42	148	210	220	116	
化学工業	37338	40515	42694	44941	49323	3177	2179	4247	2382	14985	
金属工業	3532	4142	4440	4986	5379	610	378	544	413	1867	
鉄鋼	2821	3444	3693	4155	4585	123	249	442	410	1744	
非鉄金属	570	598	623	633	650	△	75	10	170	80	
その他	140	149	123	198	183	9	26	75	△	43	
機械器具工業	5837	6057	6433	7191	7417	218	376	758	226	1578	
電気機械器具	100	80	140	104	101	△	60	36	△	1	
電気機械器具	715	691	866	1249	1355	24	155	403	106	640	
電気機械器具	265	286	418	599	268	21	132	181	△	331	
電気機械器具	458	447	443	523	556	△	4	80	33	98	
電気機械器具	73	61	72	77	97	△	11	5	20	24	
電気機械器具	761	828	836	747	800	67	8	87	53	39	
電気機械器具	113	110	72	177	137	△	38	105	△	19	
③ 運輸	372	411	422	348	435	39	11	54	67	63	
自動車	677	741	725	728	785	44	16	53	7	108	
その他	525	612	575	409	474	87	37	146	65	51	
④ 倉庫	584	644	721	949	1169	20	117	228	220	585	
倉庫	1171	1180	1158	1217	1238	△	22	49	31	47	
倉庫	578	930	1209	2029	2243	52	279	820	214	1365	
倉庫	234	252	234	233	255	18	18	1	22	21	
倉庫	215	278	405	654	797	63	207	149	143	562	
倉庫	293	266	344	911	954	△	80	565	43	661	
倉庫	135	133	143	288	235	2	10	85	7	100	
⑤ 電気	12810	13709	15010	17061	17506	899	1301	2051	445	4496	
電気	466	548	557	860	763	82	9	302	97	297	
電気	856	1035	1367	1224	1305	179	322	143	81	447	
電気	674	814	1001	1225	1553	120	187	274	278	857	
電気	2113	2322	2394	2440	2423	209	72	66	37	310	
電気	1730	1931	2011	1768	1491	201	80	245	△	237	
電気	282	312	398	637	634	30	83	242	△	352	
電気	59	93	81	89	119	34	12	2	36	60	
電気	220	182	463	1500	2041	△	221	1097	541	1821	

(1)

6.1
2-7

260

30

品名	期 末 残 高				増 減				累計	
	23 1/2	24 1/2	7/4	3/4	4/4	24 1/2	24 1/2	24 1/2		24 1/2
工業	295	375	478	834	622	80	123	336	212	327
其他	1087	1093	1279	1416	1550	4	206	117	134	461
鐵 工 業	11088	12317	11951	11800	12527	1279	416	151	727	1439
非 鉄 業	319	321	300	275	249	2	21	25	26	70
化学纖維	2097	2872	2380	2583	3236	1795	512	203	653	1139
紡 織 業	3588	4278	4212	3562	4083	710	56	700	479	505
織 物	3348	3008	3184	2493	3887	260	16	309	374	537
1942製造業	430	443	437	478	481	35	24	39	3	51
鐵 道 業	57	69	63	76	88	12	6	13	12	31
其他	1246	1234	1320	1330	1500	12	86	10	170	254
材料及非製品	512	627	705	715	747	97	76	10	34	217
軟 材	377	471	557	540	551	114	66	17	11	174
木製品工業	155	138	147	174	197	17	9	27	23	42
食品工業	2079	2114	2398	2537	2836	35	284	159	229	757
酒類製造業	105	48	87	128	173	57	39	41	45	88
調味料	145	133	172	228	290	12	39	56	12	185
其他	1828	1932	2198	2179	2722	104	206	61	723	504
その他の工業	578	562	544	579	642	16	18	55	43	84
土木建築業	105	104	111	174	240	1	7	69	66	135
農 業	9334	9179	9863	10344	11106	155	624	561	742	1772
林 業	1708	1702	1794	2041	2494	6	92	241	393	726
水産業	458	414	439	424	535	44	25	15	111	77
倉庫業	2168	2162	2549	2798	8135	106	507	329	237	917
倉庫業	40139	41818	42267	44755	48355	1679	449	2488	3100	8216
電気・ガス・水道業	20740	21529	21852	22080	22151	789	323	228	71	1411
電気供給業	20580	21244	21115	21206	20934	184	149	91	272	354
ガス	157	289	730	874	1209	100	471	137	342	1050
水道	1	4	6	6	6	3	2	-	-	5
交通	19376	20162	20136	22356	25834	766	26	2220	3480	6440
陸 運	3805	4174	3742	4503	5213	369	432	761	760	1458
海 運	15519	15749	16357	17822	20527	380	448	1445	2705	4958
その他の交通業	22	39	36	31	45	17	3	5	14	23
通信	1	125	278	318	367	124	153	40	49	316
商 物	984	1289	1250	1567	2423	305	39	317	1056	1639
物品販売業	388	533	457	690	1502	145	76	233	872	1174

	期 末 残 高					期 中 増 減 (△)				
	25. 4/4	24. 1/4	2/4	3/4	4/4	23. 3/4 4/4~1/4	1/4~3/4	3/4	3/4~4/4	年面計
指定配給品配給米	74	222	128	192	305	148	94	64	113	231
百貨店	43	37	61	53	43	6	24	8	10	-
その他の物品販売業	270	274	217	444	1213	4	7	177	709	943
貿易業	8	29	35	34	28	21	6	1	6	20
倉庫業	518	705	704	800	917	137	1	96	117	349
その他の商業	19	21	32	42	115	2	31	10	73	96
不動産業	324	193	279	442	412	131	86	183	50	88
金融	78	20	22	20	32	58	2	2	12	46
金融機関	76	17	18	14	26	59	1	4	12	50
銀行	55	14	12	12	14	41	2	4	2	41
その他の業	21	2	6	1	12	19	4	5	11	9
証券の業	2	1	-	4	4	1	1	4	-	2
その他業	-	1	3	1	1	1	2	2	-	1
① 雑	477	441	572	877	1,168	36	131	305	271	891
娯楽及び大衆業	59	43	213	355	480	16	170	142	125	421
旅館、貸料建業	113	153	188	275	384	40	35	87	109	271
その他	303	244	170	247	302	59	74	77	55	1
② その他の非営利組織	754	550	514	678	728	201	14	114	50	23
③ 地方公共団体	1244	707	647	759	614	497	100	112	145	832
④ 個人事業主個人事業主	149	219	158	162	162	70	61	44	-	13
合 計	127,980	131,134	136,731	145,375	153,416	4254	5,097	8,284	8,041	26,036

(3)

30号

6/16



担当地別 取扱銀行別 援助資金中小企業貸付承認状況

種別 (単位千円)

担当地	前四半期承認額		当初別累計承認額		取扱銀行	前四半期承認額		当初別累計承認額		取扱銀行	前四半期承認額		当初別累計承認額		種別	件数	金額	件数	金額	備考
	件数	金額	件数	金額		件数	金額	件数	金額		件数	金額	件数	金額						
本店	46	54,650	122	150,710	日本郵政銀行	2	2,900	2	2,900	八十二銀行	5	5,250	9	7,750	第19回	25	102	242		
札幌	5	7,350	5	7,350	日本火災銀行	5	5,300	12	14,150	神岡銀行	2	2,200	11	11,250	第18回	25	102	242		
小樽	2	1,750	3	3,250	帝國銀行	6	7,600	12	16,600	駿河銀行	2	3,000	5	7,400	第19回	13	4	9	28	承認 2/5
函館	1	1,500	1	1,500	第一銀行	4	5,500	6	7,350	東海銀行	7	5,750	18	17,300	第20回	14,150	4,250	12,500	30,700	実行 2/8
青森	2	2,750	2	2,750	十代田銀行	8	9,300	9	10,050	十六銀行	3	4,250	11	14,000	第20回	16	7	18	43	承認 2/6
秋田	5	7,350	13	16,950	富士銀行	12	16,400	37	46,740	百五銀行	2	2,600	2	2,600	第20回	17,850	14,150	24,700	50,700	実行 5/4
山形	4	3,900	11	13,900	東京銀行	1	1,500	2	3,000	三重銀行			2	3,000	第21回	6	2	8	16	承認 2/8
福島	3	4,500	6	7,850	協和銀行	4	5,300	7	9,050	丹和銀行	2	2,500	7	7,950	第21回	7,650	2,500	7,450	17,600	実行 5/8
前橋	7	9,400	17	24,400	千葉銀行	1	1,500	3	3,750	滋賀銀行			2	3,000	第22回	11	2	9	22	承認 5/10
新潟	8	9,250	11	11,500	横浜正金銀行	7	6,750	16	17,600	大阪銀行	11	14,250	24	29,250	第22回	15,150	2,500	13,000	30,650	実行 5/17
金沢	6	5,800	15	16,250	帝陽銀行	3	2,900	11	12,050	三和銀行	6	8,000	14	19,250	第23回	6	3	7	16	承認 5/5
甲府	1	1,500	5	6,750	水信託銀行	1	1,500	1	1,500	南都銀行	1	1,500	1	1,500	第23回	8,000	4,250	10,500	22,750	実行 5/22
松本	6	6,150	11	11,350	日本信託銀行			3	3,250	大和銀行	9	10,650	28	36,150	第24回	4	5	11	20	承認 5/8
静岡	5	5,700	17	19,150	中央信託銀行	1	1,500	1	1,500	紀陽銀行			2	3,000	第24回	4,750	5,800	13,400	23,950	実行 5/24
名古屋	14	16,250	33	39,100	朝日信託銀行			1	1,500	富士信託銀行	1	1,500	1	1,500	第25回	7	6	15	30	承認 5/20
京都	5	7,000	13	15,550	新幹線銀行			1	900	神戸銀行	8	10,250	20	27,110	第25回	11,750	6,650	17,950	37,450	実行 5/26
大阪	22	28,700	43	57,340	北野銀行	5	6,100	7	9,100	倉住銀行			3	3,000	第26回	1	1	4	6	承認 2/2
神戸	7	7,250	21	27,750	青森銀行	1	1,250	1	1,250	華備銀行	1	1,500	4	5,500	第26回	12,500	1,000	4,500	6,750	実行 5/26
岡山			2	2,500	青和銀行	1	1,500	1	1,500	山陰合同銀行	2	3,000	6	7,500	合計	161	47	183	421	
広島	3	3,500	4	5,000	秋田銀行	2	2,850	4	5,850	山口銀行	3	3,400	7	8,150	合計	203,740	22,600	224,300	520,550	
松江	2	3,000	6	7,500	荘内銀行	3	4,500	3	4,500	百十四銀行	1	1,000	2	2,000	合計	161	47	183	421	
下関	3	3,400	7	8,150	羽後銀行			5	5,100	阿波合同銀行	1	750	1	750	合計	203,740	22,600	224,300	520,550	
高松	2	1,750	3	2,750	七十七銀行	1	650	3	3,650	伊豫合同銀行	2	1,750	8	7,250	合計	161	47	183	421	
松山	2	1,750	9	8,750	信和銀行	1	850	3	3,350	四國銀行	4	5,000	9	11,200	合計	161	47	183	421	
高知	4	5,000	11	13,100	兩羽銀行	1	1,000	2	2,500	福岡銀行	5	7,000	10	14,500	合計	161	47	183	421	
福岡	7	9,500	11	15,000	東邦銀行	2	3,000	2	3,000	北信中央銀行	1	1,500	1	1,500	合計	161	47	183	421	
大分					群馬大田銀行	5	6,400	7	9,400	北信中央銀行	1	1,500	2	2,500	合計	161	47	183	421	
長崎	2	2,900	7	12,150	足利銀行			5	7,500	十八銀行			2	2,250	合計	161	47	183	421	
熊本			2	1,250	第四銀行	5	6,750	7	8,000	親和銀行	2	2,900	7	9,700	合計	161	47	183	421	
鹿兒島	3	4,000	3	4,000	北陸銀行	2	1,250	3	2,250	肥後銀行			1	750	合計	161	47	183	421	
門司	2	3,000	5	7,500	北陸銀行	3	3,400	4	4,900	鹿児島大田銀行	3	4,000	3	4,000	合計	161	47	183	421	
					光國銀行	5	5,400	13	14,350					合計	161	47	183	421		
計	177	220,550	421	520,550	山梨中央銀行	2	2,500	4	5,500	計	177	220,550	421	520,550						

(昭和25年5月31日現在)

資金局

裏面白紙

25
6.7
2-11

264

肥料配給公団の存廢及び価格差補給金についての意見

二五、六、五 化學肥料部

前 提

- 一、農産振興の基礎として化學肥料の国内消費量(肥料ニ〇〇万吨、(確率換算) 磷肥肥料一五〇万吨と確保すること。
- 二、二十四肥料年度の窒素肥料の消費実績は辛じて二〇〇万吨を維持する見込であるが、この期間を通じて消費者価格は昨年基準の一・二三(一・五、七三六円)である。

(参 考)

二四、八一、十二	二五、一、一、二	二五、三、一、七	加重平均
一、六六二	二一、六	一、二七三	
一〇〇〇%	一、二〇〇%	一、三五%	

- 三、現行消費者価格(昨年基準一・三五一、一七、二七二円)を以て二十五肥料年度ニ〇〇万吨の消費を維持することは、相当の農産所得の増加がなければ困難であろう。
- 四、従つて当分年度の八月以降消費者価格一七〇% (二一、七五〇円)に引上げるとしをらハリテイ計算を考慮に入れても需要が二〇〇万吨を大きく割ることは必要である。よつて八月以降の消費者価格の引上げは一五〇% (一九、九一円)を最高限度とすべきである。

方 針

- 一、肥料公団は二十五年度末日を以て全廢することとし、それまでは公団の現機構を改変しないこと、従つて公団の肥料買上げ現行通り出荷指示買取方式とするが、八月一日のらポイントを測定期に延長し、九月末日までに二ヶ月となるよう措置すること。

(理 由)

- (一) 全廢までのクレイ・ゾーンとして七、八、九月の三ヶ月を充てること。
- (二) 十月は秋肥の山を越え且つ春肥の前送り準備の切替えとまであること。
- (三) 肥料公団全廢後は肥料の特殊性による需給調整に關する制度を設ける外、肥料金融に ついて特別の措置を講ずること。

(備 考)

- (イ) 農産協同組合と通ずる農産金融の確保
- (ロ) 肥料に關する商業手形の日銀再割と買渡する為政府資金の融通
- (ハ) 同座又はメーカ一の倉庫証券による金融の確保

三、二十五年八月に生産者価格を改訂するが消費者価格はこれを昨年基準の一五〇%に止めるものとする。

十月公同廃止後の生産者の最高販売価格の統制を行い補給金を付すること。

四、肥料の輸出については、国内の需給状況を勘案し、予の一定の限度を設けその統制下に於て許可するものとする。

裏面白紙

	電 解 電 力			動 力 電 力			原單位
	原單位	單 價	金 額	原單位	單 價	金 額	
E 法	日 聖 水 保 (5.03)	3,200	0.33	1,056.00	550	0.33	181.50
	旭 葵 園 (1.36)	3,200	1.05	3,360.00	550	1.05	577.50
	昭 電 川 崎 (11.25)	3,250	0.62	2,015.00	550	0.62	341.00
	東 池 四 時 (1.57)	3,250	0.67	2,177.50	550	0.67	368.50
	加 望 平 均						
G 法	東 庄 砂 川 (2.41)				1,050	3.16	3,318.00
	秀 島 (1.83)				1,100	2.14	2,354.00
	大 平 田 (13.28)				1,000	2.50	2,500.00
	小 島 浜 (4.44)				750	3.42	2,565.00
	日 東 原 浜 (2.57)				580	1.68	974.40
E 法	別 衣 別 處 (3.59)				800	2.42	1,936.00
	守 部 子 碑 (11.09)				990	3.76	3,722.40
	三 夏 黑 崎 (5.29)				980	3.62	3,547.60
	百 雀 山 (7.69)	3,250 (1710)	0.75	1,282.50	750	0.75	562.50
	崇 出 越 後 道 (4.58)	3,300 (1660)	0.86	1,427.40	800	0.86	688.00
G 法	日 東 八 平 (3.98)	3,300 (955)	0.96	3,200.00	600	0.96	576.00
	東 北 秋 田 (3.43)	3,300 (745)	0.96	2,752.00	700	0.96	672.00
	日 新 宮 新 宮 式 (11.85)	3,300 (223)	1.67	5,511.00	500	1.67	835.00
	新 宮 式 (100.0)						

裏面白紙

原料炭		燃料炭			原料コークス			合計
單位	金額	單位	金額	單位	金額	單位	金額	
		170	3,460		588.20		1,825	
		170	3,120		536.40		4,467	
		100	3,390		339.50		2,695	
		100	4,540		454.00		3,000 2,617 (16%)	
3,270	2,616	1,000	2,040		2,040.00		2,974	
		500	1,900		950.00	680	4,209.20	
		350	2,370		1,179.50		2,513	
		040	3,480		2,227.20	650	4,433.00	
		370	3,540		1,309.00	570	3,830.40	
		1600	4,370		2,403.50	680	4,426.00	
3,550	3,550	700	2,440		1,680.00		5,952	
3,630	2,286	640	3,120		1,560.00		2,394 6,533 (32.5%)	
4,240	1,484.00	180	4,340		783.00		4,112	
6,250	2,000.00	200	3,890		776.00		4,893	
		400	4,370		1,748.00	530	3,535.00	
		520	4,300		2,277.60	600	4,050.00	
		800	3,350		2,689.00	450	3,960.00	
							2,827 6,350 (32.5%)	

裏面白紙

米國對日援助見込資金現況

(單位千円)

25,6,8. 財金.

	昭和22年3月末	4月	5月	4月5月計
I 資金				
1. 特別會計上繰入	12,932,900	22,224,656	12,219,032	35,043,689
2. 運用利息	12,787,995	6,886,872	12,697,181	19,584,053
3. 運用資金回收	1,461,091	79,522	109,986	189,508
4. 剩余金繰越	0	0	11,864	11,864
II 運用及使用	11,407,024	2,946,500	1,823,042	4,769,542
1. 公企業支出	27,000,000	0	0	0
(1) 通國鉄	22,000,000	0	0	0
(2) 私企業支出	5,000,000	0	0	0
2. 電力	10,093,152	0	0	0
3. 海運	8,342,926	0	131,819	131,819
4. 其他重要産業	5,867,946	* 3,158,000	0	* 3,158,000
A 石炭	3,858,141	* 2,457,000	0	* 2,457,000
B 鉄鋼	1,417,305	0	0	0
C 化学肥料	2,844,500	0	0	0
D 化学藥品	308,000	0	0	0
E 農林水産	0	* 70,100	0	* 70,100
5. 優先株式	0	1,000,000	1,500,000	2,500,000
6. 中小企業	300,000	30,000	189,850	220,550
7. 債権償還	6,246,000	0	0	0
8. 経情再建及安定	0	1,600,000	1,373	1,601,373
9. 連合國住宅公社	0	1,600,000	0	1,600,000
III 余裕金				
1. 接財資金等	15,258,262	19,278,156	10,995,989	34,274,146
2. 耀券保有	21,559	30,880	130,218	161,099
	15,280,703	19,247,276	10,865,771	34,113,047

※印は昭和24年度予算の繰越額を5%出た。

※外債還付利息は3月末9,259,499.5円、10月166,494.5円。

※米國對日援助見込資金は4月5月計1,015,000円、10月1,015,000円。

25
68
2-7
269

昭和25年度産美黄金供給見込 (試案)

25:4.8
E S B

金融機関貸出 (現金及手荷国債償還)	貸出資金	要請資金	計
〃 (金融債及債元債)	27.8	18.6	46.4
現金回収	△ 6.2	△ 0.9	△ 7.1
見込貸付	34.0	0	34.0
社債償還	32.7	14.0	46.7
株	21.0	21.0	42.0
計	118.7	227.4	346.1
社内留保	24.0	24.0	48.0
合計	142.7	251.4	394.1

(単位10億円)

(備考)

本表に於て金融機関資金源として付、一般預金増加額(貯蓄目録額、株預金部) 手荷国債償還予定額及び現金部の金融債引受を計上した。

113

固定の運轉資金試算表

(單位十億円)

生産増加に伴ふ運轉資金(生産部門)	78.2
右に伴ふ商業資金(流通部門)	36.5
輸入手形決済資金	24.3
輸出貿易金融	18.8
公團制度の核能縮小に伴ふ運轉資金	
倉庫配給公団	15.7
肥料配給公団	12.0
油糧配給公団	3.0
飼料配給公団	2.2
食料品配給公団	3.1
郵便貿易公団	17.7
鉱工業貿易公団	3.9
補給金制度(紙煙、ソーダ)	8.0
計	218.8

(註) / 比較には企業自身から見ると長期的な性質をもつ運轉資金と企業自身から見れば比較的短期的なものであるが資金量としては分岐経済的に固定とするものゝ前者を計上した。

又 この計上したのは何れも年間に亘りての平均所要量であり、ピーク時の需要は考慮してはいない。

(説明)

本表はこの年度産産資金需給見込の概略を示さうとしたものであるが、現状に於ては資金供給面に於て是くの前段を設けざるを得ず、また需要面に於ても運轉資金需要の統計的把握は比較的困難であるため、今後検討を加えつゝ、随時修正を加ふべきものである。

ノ 依給 (附表 1)

本表に於ては、金融機関資金源としては一級預金増加額 (除預金部、貯蓄目標額)、手持国債、債権預定額及び預金部の金融取引貸付計上した、

2. 需要 (附表 2)

運轉資金需要は該歳預金の場合と異なり個々の企業の需要を綜合して算出することが出来ずその統計的把握は困難である。本年度の主要な長期運轉資金需要はゴッパの尾田と算出されるが、実際の需要額は次述べる理由により更に大ききと見られる。

(1) こゝに計上した長期運轉資金需要は、

- (A) 生産増加に伴う運轉資金^ニ年の如く、生産^ニも長期運轉資金と見られるもの
- (B) 輸入手形決済資金の如く短期間に決済される生産ではあるが資金重としては今後経常的に必要とするもの

であるが、何れも平均しての資金需要であつて、夫々のピーク時には更に増加するものである。従つて現実の資金需要はこの所期の産産需要の変化及びこゝに計上した所々の短期的資金需要^ニ一生産、在庫、売掛の一时的変動に伴ふもの、納税乃至期末決済資金需要^ニ一が^ニ添^ニして現われるのである。

(2) 昨年度の金融破綻貸出は異く、その一部には不健全な貸付融資があると云われてゐるが、同時にまた健全な貸付金も必ずしも十分に行われてゐない。即ち公団の破産能少に伴ひ左舉が充増してゐるが、之を数前のノーマルな状態と比較すれば異状在庫とは云えない場合も幾いのであるが、この金融は未だ十分ではなく、こゝに昨年度の運轉資金不足の大半の原因が見出される。然し下の現在この種の資金不足がどの程度あるかを統計的に把握することが出来ず、またこゝに計上した生産増加に伴ふ運轉資金需要について前年度融資^ニ高^ニを基礎として算出せざるを得なかつたため、この点を補ふことが出来なかつた。

公団破産の縮小、民間輸入への移行等の経済破産の受化に伴ふ或は生産乃至輸出の伸長に伴つて増加する等の長期運轉資金は、本来なら増資、社債により証券市場を通じて調達される或は社内留保を以て賄われるべき性質のものであるが、法人、個人を問はず、資本

蓄積の少ない我國に於ては、その何れも困難であつて、殆ど金融緩和策は——而も短期策材の困難する形で融資されるもの——に墮らざるを得ない。之は生産者に見られるだけに於ては、尤も、商業資本に於ても概則經濟の影響による機能の縮小、資本蓄積の不足が著しい。

(44)

〔算出基礎〕

資金源		供給見込	
		計	設備 運転
(1) 一投換金増加 (除換金却)	2,880 - 677 → 2,203	1,841	94
手持国債償還	260		1,747
	(手許現金 高増金控除)	2,463 - 622 →	
		1,841	94
(2) 金融債	預金引当 295 金融機関 102 直接投資 15	464	278
優先株式	見込資金 52		186
(3) 復金回収		71	62
(4) 見込資金	私企業投資計画 400 - 金融機関 60	340	340
(5) 社債	金融機関 461 直接投資 6	467	327
(6) 株式	金融機関 59 直接投資 361	420	210
計		3,461	1,187
(7) 社内留保		480	240
合計		3,941	1,427

(註) (2) 手許現金は本年三月末実績により 14,44%、両建積金は昨年九月末全国銀行
実績により 9/1%を控除。設備資金増加は昨年度普通銀行設備資金貸出増の資金増
加に対する割合が 34.3% (國債不べレ-ミヨ-を除外) と 2,899% と推定されるので
資金増 3,140 (2,880 + 260) の 3% を集めて算出、運転資金は資金源より右設備資
金の証券投資を控除して算出。

(2) 金融債 4/2 (除借換) の引換についてば換金却 295 を一應推定し、残 1/7 のうち
直接投資は昨年度実績 (12.6%) により 1/5 と推定、残 102 を金融機関引換とする。
貸出の設備、運転の割合は昨年度実績 (58.4%) により 60% と推定。

(3) 復金回収見込 (除公団) を本年三月末残高の設備運転別割合 (除公団、設備 86.9%) により推分。

(4) 金融機関 60 のうち Reserve は未定のため見込んでない。

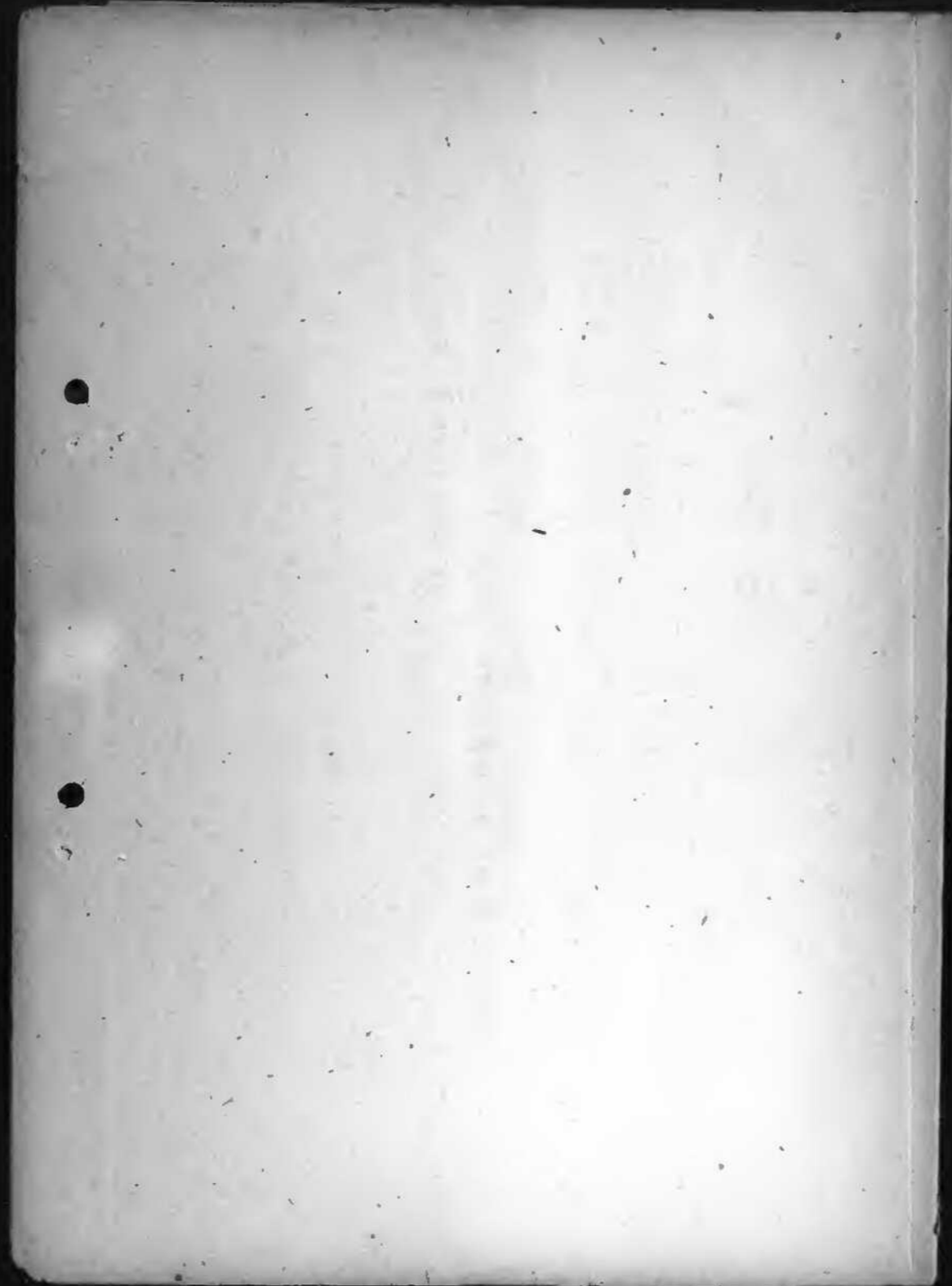
(5) 発行額は月約 39、年間 467 を見込む。引換の内訳は昨年度実績 (直接投資 1.2%)
による、また設備運転の割合も昨年度実績 (設備 67.1%) から設備 70% と推定。

6) 掃込額は月35、年間420を見込む。うち金融機関引渡は昨年度金融機関所有株式
増加額の豫金は借入金増加に対する割合を24%と推定、之を2,463(2,203+260)
に集めて算出、残余を直接投資とする、設備運転の割合は昨年度推定実績(設備
49.5%)に依り設備50%と推定。

7) 法人課税所得856-課税額532(法人税386、再評價税/46)-重役賞与40

272
6) 増込額は月35、年間420と見込む。うち金融機関引当は昨年度金融機関所有株式
増加額の増込は借入金増加に対する割合を2.4%と推定、之を2,463(2,203+260)
に集めて算出、残余を直接投資とする、設備運転の割合は昨年度推定実績(設備
49.5%)に5%と推定。

7) 法人課税所得856-課税額532(法人税386、再評価増146)-重役賞与40
-配当32 + 原価償却228 = 480、設備、運転の割合は50%と推定。



昭和三五年度設備資金供給見込
(第一次推計)

(25, 5, 24, 24, 24)
(経本, 敷政金融高)

(第一表) 設備資金供給源 (単位: 10億円)

	24年度実績見込	25年度見込
金融機関貸出	26.7	31.0
見込返資	24.6	34.0
社債	18.8	32.7
株式	36.4	21.0
(小計)	(106.5)	(118.2)
社内留保	19.0	24.0
計	125.5	142.7

裏面白紙

(第=表) 業種別設備資金需給見込

(単位:10億円)

業種	需要額	調達可能見込額	備考
電力	30.7	30.0	(1) 見込資金18.1の融資を予定1R.
瓦斯	3.0	2.0	
石油	12.0	9.0	
石油	3.4	3.0	
鉱山	7.0	4.2	
鉄鋼	11.0	7.5	
非鉄金属	2.1	0.5	
機械	15.0	8.0	(2) 具体的計画の外一部推定需要額を加算1R.
化学	18.0	13.0	
窯業	3.8	3.0	
繊維	13.3	9.0	
海運	(3) 26.5	(4) 18.0	(3) 見込資金から16.0の融資を期待1R (4) " " 10.4(補修船を含む)の融資を予定1R
陸運	15.0	8.0	
港湾	3.0	1.0	
製林水産	(5) 16.0	10.0	(5) 具体的計画の外一部推定需要額を加算1R.
計	179.8	126.2	

(備考) 本表は我が国が入手し得る個々の企業の設備資金を基礎として算出したものがある。

裏面白紙

〔説明〕

1. 設備資金供給源

本年度の設備資金供給源は、ディスプレイインフレの前提において最高限、420億円で推定され、昨年度推定実績1,255億円に対し1,170億円を増加する見込みであるが、この増加の主因は見返資金からの私企業投資融資の増加と金融機関の債券発行による資力増加に在る。しかしながらこの資力増加は之等金融債の預金部引致と豫定しているのであるから、もし之が許されないとすなれば金融債の一部が発行困難になるともよまば事業債の発行を圧迫する結果となり、設備資金供給源は著しく減少するものと見なければならぬ。

2. 設備資金需給見込

主要産業の設備資金計画中代々が調査し得たものについて当該企業内容及設備内容から見ても過大又は不適当と認められる計画を削除した結果、得られれば本年度設備資金需給額の合計は1,798億円であり、前記供給源と拮抗して之に充てられるものとしても尙371億円の不足を生ずる。

而も、この設備資金需給1,798億円について某種別に具体的な調達見込を豫計すると資金調達可能見込額は1,262億円となり、不足額は536億円となる。

(注) この調達可能見込額1,262億円と前記供給源1,420億円との間には165億円の余裕を生ずるが、この程度の金額は枚々のとらえ得ない企業に調達するものとして当然留保すべきものであつて、供給源に余裕のあることを示すものではない。存否しる中小企業その他枚々のとらえ得ない設備資金需給目ざが削減した潜在的な需給をも加之するならば需給額は恐らく2,000億円を突破し設備資金不足の程度は更に増加すると思われれる。

貿易公団よりの引越後助物資の処理方針

三三六一〇 臨時通商事務局

本年三月三十一日を以て貿易公団から当局が引越いたる在庫援助物資は、原簿を添いてはその大部分が、品質不良、腐要減、その他の理由で既に半年以上も在庫となつていた滞貨である。加えて最近の国内物価の下落、金枯り、民間輸入品との競合等の事情から、その処分はなかなか困難を予想せられるに付し、見返資金の積立は厳格な履行を要せられ、

記

- 一、 松下価格に極力在庫価格を引かないようにするが、在庫価格で松下が困難な物資は現在の市場価格、需給のバランス、在庫品の品質等種々の事情を勘案し、必要に応じて値引処分を断行する。現在の見込では在庫価格約七六億に付し売却可能価格の見込は六〇億で約一六億の赤字となる見込であるが、これについては予め会計検査院、大蔵省の了解を要する。

- 二、 商改良貿易品貸付下の履き物、需要に季節的変動のある物資、民間輸入品と競合する物資は特に処分を急ぐ。又国内の長期需を占める在庫引越物資については新規の輸入を控えるべく措置する。
- 三、 急速に処分を要する物資も統制品を除き原則として一般競争入札によるが、再度競争入札に付て且つ若札のときは場合は最低予定価格の範囲内で随意契約によつて在庫の一杯を回す。この場合の最低予定価格は第一項による。
- 四、 需要者の引取を容易にするため、極力滞貨引取金融を活用する。今年度中の売却見込五八億の中滞貨金融の要する物資は三七億の見込であるが、大蔵省、日銀、その他金融機関の協力により、この資金の確保を図る。
- 五、 以上の方針による物資別売却予定は別表の通りである。

備考 貿易公団より引越のS/M、Q/M物資に付ても別途方針を定めて急速に滞貨を処理する。

24
6.10
2-11
276

引継援助物資売却予定表

(機械、鉱産品関係)

(月別売却見込) 25.6.9 臨時通商事務局

(単位: 千円)

品名	数量	在庫金額	売却可能額	4月~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紙質検査器		1858	1858		1858									
発光探知器		2610	2610			2610								
通信機		4341	4341		4341									
化学用器		367	367		367									
圧延口一ル		7975	7935			7935								
自動車部品	2566	83479	11594		5100	1504								
石油採掘機		71379	35100			25100								
トコト一用シヨクル		3213	3213		3213									
計		175225	66918		14197	52131								66268
ニッケル	409T	132732	15156	260T	100T	40T								
銅	1255T	1055070	145734	26334	37500	18226								
鉛	8469T	754070	567450		940T	500T	940T	940T	940T	940T	940T	940T	940T	940T
鉄	7324T	142831	107996	1860T	3470T	200T								
石油	619T	7468	6780	36270	20000	31720								
グネシリンカー	16967T	475091	350066		4750T	4750T	709T							
石	3318T	38794	38794		10000	10000	18794							
印度鉄	356T	6760	3666		3000	360T	572T	572T						
マンガン	751T	7324	7495		3000	210T	461T							
計		2965707	1777033	49604	351780	372741	333794	135000	135000	135000	135000	135000	136414	178733
合計		3140932	2045751	149604	366559	374780	377794	135000	135000	135000	135000	135000	136414	1805551

18000
19500
21000
22500
24000
25500
27000
28500
30000
31500
33000
34500
36000
37500
39000
40500
42000
43500
45000
46500
48000
49500
51000
52500
54000
55500
57000
58500
60000
61500
63000
64500
66000
67500
69000
70500
72000
73500
75000
76500
78000
79500
81000
82500
84000
85500
87000
88500
90000
91500
93000
94500
96000
97500
99000
100500
102000
103500
105000
106500
108000
109500
111000
112500
114000
115500
117000
118500
120000
121500
123000
124500
126000
127500
129000
130500
132000
133500
135000
136500
138000
139500
141000
142500
144000
145500
147000
148500
150000
151500
153000
154500
156000
157500
159000
160500
162000
163500
165000
166500
168000
169500
171000
172500
174000
175500
177000
178500
180000
181500
183000
184500
186000
187500
189000
190500
192000
193500
195000
196500
198000
199500
201000
202500
204000
205500
207000
208500
210000
211500
213000
214500
216000
217500
219000
220500
222000
223500
225000
226500
228000
229500
231000
232500
234000
235500
237000
238500
240000
241500
243000
244500
246000
247500
249000
250500
252000
253500
255000
256500
258000
259500
261000
262500
264000
265500
267000
268500
270000
271500
273000
274500
276000
277500
279000
280500
282000
283500
285000
286500
288000
289500
291000
292500
294000
295500
297000
298500
300000

裏面白紙

(炭水産. 化学薬工品関係)

品名	数量	在庫金額	売却可能額	4月~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	残
肥料	10,930 ^T	36,574 ^{4M}	5,902 ^{4M}				3,000 ^T 1,620 ^{4M}	2,000 ^T 1,620 ^{4M}	2,000 ^T 1,620 ^{4M}	1,930 ^T 1,042 ^{4M}				
加工食品	114,485 ^{4M}	516	287		287									
台湾糖蜜	110 ^T	723	871		871									
医薬品	内訳													
	トニカ糖末	27,366	11,814	在庫0.5%										
	B. H. C	18,001	42,580	20.142										94% 141,271
	D. D. T	96,577	96,576											
	硫酸ニコチン	56,165	50,429											11,934
	その他	11,934	11,934	売却可能額										
計	245,109	270,577				5,000	15,620	15,620	15,620	17,244				
化学品	内訳													
	苛性ソーダ	44,456	44,456	(70%含有10T)						10 ^T				42 ^T
	硫酸ソーダ	692	692	70%含有10T						8,500				35,956
	ナトリウム	58,580	57,558									740 ^T		692
	その他	435,154	431,96				8,000	8,000	8,000	8,000	9,986	51,558		
計	528,882	509,572												
特産品		44,892	175,402			2,000	20,000	20,000	20,000	20,000	10,000	16,000	15,400	
原皮	131,094 ^{4M}	228,540	171,030	130,000										41,030
計		128,4756	111,983	150,142		2,610	116,620	116,620	116,620	131,472	10,000	41,558	15,402	21,345

裏面白紙

岩盤関係)

名	数量	在庫金額	売却可能額	4月~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
Oilbaca	7912.441	517.702	507.02	3500.000 79	1500.000 79	1500.000 79	412.001 79							
Coir	5078027	72.027	73527	2730.000 120	82.300 120	11527 120	13.427 120							
Jute	732.447	74.141	74.141	24.200	10.142									
Sisal	21133374	125.4777	90730.1 579.753 11074.434	600000 346.500	700000 173250	1000000 121300	3000000 121200	3000000 121200	2000000 121200	732000 121200				
Rope	741.240	70.156	77156	300.000	700.000	300.000	300.000							
Rag	3674376	72.756	11.321	300.000	700.000	700.000	700.000	700.000	700.000	700.000	700.000	700.000	700.000	700.000
Cotton	30.076	1136.775	1136.775	20076 8 1/2	1136.775									
Loose Cotton	8 1/2	444	444	444										
Domestic Cotton	1142245	48.631	24.315	6142245	24.315									
Total		3252.159	2856.617	1844515	277721	220.600	205.356	122.100	122.100	26.785	900	900	900	274104

計	767753	6011.547	2144.261	662.880	720.140	656.670	373.720	373.720	277.257	148.700	177.458	152.716	5.318.822	274104
---	--------	----------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------	--------

(3)

裏面白紙

279